２０２２ 年 度

自己点検・評価報告書

札幌保健医療大学

ー　目　　次　ー

Ⅰ．大学運営
・危機管理委員会 …… 1
・大学評価委員会 …… 3

Ⅱ．常置委員会
・入学試験・広報委員会（入試） …… 5
・入学試験・広報委員会（広報） …… 7
・自己点検・評価委員会 …… 9
・人権擁護委員会 …… 11
・研究倫理委員会 …… 36
・教務委員会 …… 37
・学生委員会 …… 44
・ＦＤ委員会 …… 48
・キャリア開発委員会 …… 71
・図書・紀要委員会 …… 77
・国際交流委員会 …… 87
・情報ネットワーク委員会 …… 90
・地域連携委員会 …… 94
・教職課程委員会 …… 98

Ⅲ．その他
・看護学科実習運営部会 …… 100
・栄養学科実習運営部会 …… 106
・看護学科カリキュラム専門部会 …… 108
・栄養学科カリキュラム専門部会 …… 111
・看護学科 …… 113
・栄養学科 …… 115
・看護学科学年担任（１年次） …… 117
・看護学科学年担任（２年次） …… 121
・看護学科学年担任（３年次） …… 124
・栄養学科学年担任（１年次） …… 126
・栄養学科学年担任（２年次） …… 127
・栄養学科学年担任（３年次） …… 129
・栄養学科学年担任（４年次） …… 131
・事務局 …… 133
・連携協定推進プロジェクト …… 137
・カリキュラム検討委員会 …… 140
・公的研究費等不正防止委員会 …… 142

2022 年度　委員会等活動報告書

委員会等	危機管理委員会
作 成 者	小林　清一

項　　目	内　　容
【前年度】 次年度への 課題・改善方策 (Problem)	1）新型コロナウイルス感染症への対応を迅速かつ効率的に行うために、感染状況に応じた機動性のある委員会開催を実施する。 2）危機管理委員会からの危機管理レポートによる情報発信と教授会における委員会報告も継続して実施する。学内での感染やクラスター発生の防止対策を徹底化するための方策を検討する。 3）全学的な緊急課題については各組織との緊密な連携強化を図り、各組織の活動については危機管理委員会での審議と確認を経て情報共有と対応の統一化を徹底する。 4）インフルエンザ予防接種の完全実施、除排雪による冬期間での通学路の安全確保、備蓄物の補充と新規整備については継続的に実施する。また、新型コロナワクチンの職域接種を全学体制で積極的に推進する。 5）大地震や感染症対策を含めた危機管理マニュアルの見直しを実施すると共に、「新型コロナウイルス感染防止ハンドブック」の改訂も必要に応じて実施する。

項　　目	内　　容
今年度の活動計画 （目標・課題） (Plan)	1）新型コロナウイルス感染症への対応を迅速かつ効率的に行うために、感染状況に応じた機動性のある委員会開催を実施する。 2）危機管理委員会からの危機管理レポートによる情報発信と教授会における委員会報告も継続して実施する。学内での感染やクラスター発生の防止対策を徹底化するための方策を検討する。 3）全学的な緊急課題については各組織との緊密な連携強化を図り、各組織の活動については危機管理委員会での審議と確認を経て情報共有と対応の統一化を徹底する。 4）インフルエンザ予防接種の完全実施、除排雪による冬期間での通学路の安全確保、備蓄物の補充と新規整備については継続的に実施する。 また、新型コロナワクチンの大学拠点接種（職域接種）を全学体制で積極的に推進する。 5）大地震や感染症対策を含めた危機管理マニュアルの見直しを実施すると共に、「新型コロナウイルス感染防止ハンドブック」の改訂も必要に応じて実施する。
活　動　内　容 (Do)	1）新型コロナウイルス感染症（以下「感染症」）への対応として、委員会を必要に応じて開催（11 回）した。ハンドブック Ver4 の改正及び Ver5 の作成を行った。また、危機管理委員会から新入生ガイダンス及び後期ガイダンスにて感染症対策の説明を実施した。 2）全国並びに北海道（札幌市）の感染状況、危機管理委員会での審議状況や決定事項について、危機管理レポートとして全教職員へ迅速に情報提供を行った（8 回）。また、危機管理レポートと併行して審議内容を定例教授会にて委員会報告を行った。また、必要に応じて学生への注意喚起（4 回）と緊急連絡（8 回）、感染者の発生状況（19 回）を委員会よりメール配信またはホームページ上にて公表した。 3）審議案件に「各委員会等からの確認事項について」を設け、学生委員会、図書・紀要委員会、学科、事務課などから感染症に関連する危機管理事項を委員会にて審議・確認した。

	4）インフルエンザ予防接種は学内接種 520 人、個別接種 8 人で接種率は 84.3%であった（昨年度 87.5%）。冬期間における通学路の除排雪については、今年度も通学路の安全確保のために東地区除雪センターへ除排雪の依頼をシーズン初めに行い、3 回の除排雪が実施された。大学が実施した大学周囲の除排雪は 23 回行った。備蓄物の補充については 10 年保存水、緊急用トイレ、レスキューシート、カセットボンベ、屋外用防止電工ドラムを購入して年度整備計画を実行した。 5）大地震及び感染症対策を含む危機管理マニュアルの改訂は今年度も実施できなかったが、危機管理マニュアルとは別に、「感染症」に特化した「新型コロナウイルス感染防止ハンドブック」Ver.4 の改訂、Ver.5 の作成を行って、学生及び教職員へ配付・周知すると共に、ホームページにて公表した。次年度に向けた「感染症」対策についても検討した。
活動内容の評価 （Check）	1）2022 年度は感染拡大にも関わらず、緊急事態宣言等の発出がなかったため、危機管理委員会を定例開催から必要時開催として、感染状況に対応した「感染症」対策を実施した。2022 年度だけで 209 人（2021 年度までの累積は 41 人）の教職員が感染したにも関わらず、学内でのクラスター発生を阻止できたことは大いに評価できる。 2）危機管理レポートという形式で全国及び北海道（札幌市）の最新感染状況について情報発信し、また、委員会での審議状況や決定事項を迅速に全教職員に周知できたことは評価できる。一方、必要に応じて感染防止について学生への注意喚起や緊急連絡を発信したが、座席登録など新規ルールへの徹底方法については検討の余地があった。 3）各組織での「感染症」に関連する危機管理事項を危機管理委員会にて審議・確認し、各組織活動を全学的な共通認識と統一的な対応の下で実施できたことは評価できる。 4）コロナ禍においてもインフルエンザ予防接種を大学内で実施できたことは評価できるが、インフルエンザ流行が予知されていたにも関わらず、接種率が昨年度よりも低下したのは残念である。この理由として、学年別接種率が 60%台の学年が 2 学年もあったことが影響したと考えられる。 札幌市による除排雪は昨年よりも早期に開始され、回数も 3 回に増加したこと、大学周囲の除排雪回数も大幅に増やしたため、通学路の安全確保を昨年よりも改善できたことは評価できる。 年次計画に沿った備蓄物の補充を実施できたことは評価できる。 5）感染拡大の非常に大きな波が 3 回も発生して「感染症」対策が常に優先されたため、地震対策その他の危機管理マニュアル改訂に対する活動は今年度も実施できなかったのはマイナス評価である。 「新型コロナウイルス感染防止ハンドブック」Ver.4 の 2 回の改訂と Ver.5 の作成、更に次年度に向けた「感染症」対策のロードマップを示すことができたことは評価できる。
次年度への課題・改善方策 （Action）	1）新型コロナウイルス感染症への対応を迅速かつ効率的に行うために、感染状況に応じた機動性のある委員会開催を実施する。 2）危機管理委員会から必要に応じた情報発信(注意喚起及び緊急連絡等)や教授会における委員会報告も継続して実施する。 3）全学的な危機管理課題については各組織との緊密な連携強化を図り、各組織の活動については危機管理委員会での審議と確認を経て情報共有と対応の統一化を徹底する。 4）インフルエンザ予防接種について接種率が低かった学年への重点的対応、除排雪による冬期間での通学路の安全確保、備蓄物の補充と新規整備については継続的に実施する。新型コロナワクチンの接種については国の方針に沿った対応を行う。 5）大地震や感染症対策を含めた危機管理マニュアルの見直しを実施する。

2022 年度　委員会等活動報告書

委員会等	大学評価委員会
作 成 者	小林　清一

項　　目	内　　容
【前年度】 次年度への 課題・改善方策 (Problem)	1）次期機関別認証評価並びに看護分野別認証評価の受審年度を確定し、受審スケジュールと担当責任者を決定する。 2）自己点検・評価報告（委員会等活動報告書）の実施と併行して、認証評価基準項目に基づく自己点検評価の実施について検討する。 3）改善報告書等の審査結果を真摯に受け止め、更なる改善の必要性を指摘された項目について改善を図る。 4）アセスメント・ポリシーに基づき、教学アセスメントを実施する。

項　　目	内　　容
今年度の活動計画 （目標・課題） (Plan)	1）次期機関別認証評価並びに看護分野別認証評価の受審年度を確定し、受審スケジュールと担当責任者を決定する。 2）自己点検・評価報告（委員会等活動報告書）の実施と併行して、認証評価基準項目に基づく自己点検評価の実施について検討する。 3）改善報告書等の審査結果を真摯に受け止め、更なる改善の必要性を指摘された項目について改善を図る。 4）アセスメント・ポリシーに基づき、教学アセスメントを実施する。
活　動　内　容 (Do)	大学評価委員会を 6 回（4/27、6/10、8/24、9/8、11/16、3/10）開催し、大学評価に関わる事項を審議した。 1）次期の機関別認証評価について、受審機関を大学基準協会とし、受審時期は 2025 年とすること、また翌年の 2026 年に看護学分野別評価を受けることを決定した。これに伴い、2022 年度に大学基準協会賛助会員への手続きを行った（会員番号 JUAA2204)。受審スケジュールと担当責任者の決定は次年度に行うこととした。 2）本学独自に実施している PPDCA 方式の自己点検・評価報告（委員会等活動報告書）及びデータ集の 2021 年度分について自己点検・評価委員会より報告を受け、承認した。2022 年度も継続するかどうかについて検討したものの従前どおり実施することとした。2023 年度以降は、大学基準協会の評価基準改訂版に対応した自己点検評価を実施することとし、本学独自の自己点検・評価報告の継続については次年度の検討課題とした。 3）改善報告書等の審査結果（2021 年 12 月 15 日付）では、更なる改善の必要性がある項目として、①栄養学科入学定員充足率、②内部質保証の機能性（財務基盤や収支状況に関する検証など）が指摘されたが、これらについては、2022 年度大学運営方針の総括と評価（中間）への意見に基づき、2023 年度予算編成における基本的事項（学生収容定員≧90%）に反映させた。 4）機関レベル、教育課程レベル、授業科目レベルの 3 つのレベルにおいて、学生の入学時、在学時、卒業時の各段階を点検・評価するというアセスメント・ポリシーについての不足部分を追加した。 5）計画以外の活動内容 （1）カリキュラム検討委員会より、看護学科新旧カリキュラム科目読替表が提案され、審議の結果承認した。 （2）学校法人運営調査（2022 年 10 月 28 日実施）における教学関連の

	質疑内容と指摘事項が報告され、次期機関別認証評価にも繋がる課題として認識した。 （３）大学評価委員会規程の一部改正（組織に大学院関係の追加と改廃手続き）（案）を検討した。
活動内容の評価 （Check）	１）次期機関別認証評価の受審機関を大学基準協会へ変更し、新たな視点からの評価受審に向けて方向性を明確にしたことは評価できる。受審スケジュール及び担当責任の決定は次年度以降となったが、本学の 2023 年度実施計画は大学基準協会が定める評価基準に対応した基本計画へと変更されており、次期機関別認証評価への取り組みが次年度より直ぐ開始できる体制となっていることは大いに評価できる。 ２）2023 年度は大学基準協会の評価基準に沿った自己点検・評価を実施することを確認したことは評価できる。しかし、本学独自の PPDCA 方式による組織単位での自己点検・評価の継続については、その評価と共に更なる審議の必要性が考えられた。 ３）改善報告書の審査結果にて更なる改善の必要性が認められた財務基盤項目については、2023 年度予算編成に反映させたが、本委員会での議案事項として検討し、議事録として残すべきであった。 ４）アセスメント・ポリシーの策定については、不足分の評価項目が最終決定されたが、アセスメント・ポリシーに基づく教学アセスメントの実施には至らなかったのはマイナス評価である。 ５）学校法人運営調査において、教学関連についての指摘事項を本委員会にて共有できたことは評価できる。
次年度への 課題・改善方策 （Action）	１）大学基準協会による機関別認証評価及び日本看護学教育評価機構による看護学分野別評価への受審スケジュール及び担当責任者を決定して受審準備を開始する。 ２）大学基準協会の評価基準に沿った自己点検・評価を実施する。本学独自の PPDCA 方式による自己点検・評価の取扱いを決定する。 ３）私立大学等経常費補助金の積極的な獲得など財務基盤整備について検討する。 ４）従来の内部質保証体制を検証し、一層の機能化・実質化を図るための体制を整備し、以下の 2 点について重点的に取り組む。 （１）アセスメント・ポリシーの実施に向けた取組を検討する。 （２）大学評価委員会の IR 機能の実施について検討する。

2022 年度　委員会等活動報告書

委員会等	入学試験・広報委員会 （入試）
作 成 者	荒川 義人

項　　目	内　　容
【前年度】 次年度への 課題・改善方策 (Problem)	1）入試全体の円滑な実施に努める。 2）入学者の確保のための方策を探る。 3）看護学科で新たに導入した総合型選抜試験の効果的な運用、実施をする。 4）指定校や入試区分の見直しなどを継続的に行う。

項　　目	内　　容
今年度の活動計画 （目標・課題） (Plan)	1）入試全体の円滑な実施に努める。 2）入学者確保のための方策を様々な視点から探る。 3）看護学科で新たに導入した総合型選抜試験の効果的な運用、実施に努める。 4）指定校や入試区分等の見直しを継続的に行う。
活　動　内　容 (Do)	1）入試の円滑な実施について Web 出願システムを安定かつ有効に運用するとともに、入試資料等を複数人でチェックし、遺漏のないよう努めた。 2）入学者を予定どおりに確保するための検討 合否判定のための受験生 5 年分のデータを集積し、入試区分ごとの合格者数の推定に活用し、さらに入学者の学籍移動の変遷、入学者の出身校偏差値推移を分析し、傾向把握に基づき入学者確保に努めた。 入試日程、選抜方法等に問題はないか、あるいは社会人入試の必要性について検討したが、結論は今後に委ねることとした。 3）看護学科で新たに導入した総合型選抜試験について 導入初年度の反省を踏まえ、細かな修正を加えたうえで、実施した。 4）継続的な指定校や入試区分の見直しについて 過去 5 年の出願状況を踏まえ、指定校や入試区分等の検討を行った。2024 年度入試に向けては、とくに一般入学試験の項目として集団面接を実施、するか否か、同時に志望理由書の提出を求めるか否かについて検討し、委員会としては次年度以降の継続審議とした。
活動内容の評価 (Check)	1）入試の実施について 全ての入試において、出願、資料作成の業務、当日の運営等で、特段のトラブルがなかったことは評価できる。 2）入学者を適切に確保するための検討 受験生 5 年分の集積したデータを、入試区分ごとの合格者数の推定、合否判定に用いることで合格者の入学歩留率の予測が極めて正確に行えた点は評価できる。 安定した受験者数と入学者数を確保につながる入試日程と選抜方法の検討について、アドミッションポリシーを踏まえた議論の必要性があり次年度時間をかけて検討することとした点は評価し難い。 3）看護学科で総合型選抜試験の導入について 総合型選抜導入により、入学者数は昨年比 2 名増であり、円滑な運営によって年内に、本学を第一志望とする 64 名の入学者が確保できたことは評価できる。

	4）継続的な指定校や入試区分の見直しについて 一昨年度見直した看護学科において、指定校の志願者が見直し前から18名増加につながった点は評価できる。
次年度への課題・改善方策（Action）	1）入試全体の円滑な実施に努める。 2）受験者、入学者の安定的な確保に向けて、日程、項目、区分等様々な視点から検討する。 3）過去の実績に基づき、指定校、入試区分、内容、定員等について、今後は改めてアドミッションポリシーを踏まえて見直しを継続する。

2022 年度　委員会等活動報告書

委員会等	入学試験・広報委員会 （広報）
作 成 者	荒川 義人

項　　目	内　　容
【前年度】 次年度への 課題・改善方策 (Problem)	1）進路講話、出張講義、進学相談会等の対面機会を得るための活動に注力する。 2）オープンキャンパスに参加してくれた高校生を出願に導くため内容の工夫をする。 3）広報としての交通広告、新聞広告、進学雑誌掲載などの実施し、本学の魅力を十分伝えるための制作物等の内容の充実を図る。

項　　目	内　　容
今年度の活動計画 （目標・課題） (Plan)	1）進路講話、出張講義、進学相談会等の対面機会を得るための活動に注力する。 2）オープンキャンパスに参加してくれた高校生を出願に導くため内容の工夫をする。 3）広報としての交通広告、新聞広告、進学雑誌掲載などの実施し、本学の魅力を十分伝えるための制作物等の内容の充実を図る。
活　動　内　容 (Do)	1）以下の活動を行った。 高校訪問・進学相談会は、6 月～8 月に 90 校を訪問し、出願のお礼や、進路動向の情報を収集した。また、進路講話や出張講義の依頼を受けられるように活動内容を紹介した。また、進学相談会 52 会場、校内ガイダンス 46 校に参加した。出張講義・進路講話は、27 校（内訳：看護 21 校、栄養 6 校）から依頼があった。 2）以下の活動を行った。 計 6 回実施した。時短開催を減らし、在学生スタッフの活用機会を増やした。栄養学科のワークショップを開催した。 3）以下の活動を行った。 本学の教育内容、活動状況等を広報するため広報誌「WILL」9 号を作成した。大学案内については、昨年度のコンセプトを継承し 5 月の完成を目指して いる。 Web 等の一層の充実を図る中、インスタグラムを通して、在学生、 卒業生、保護者、高校生と話題の共有を図った。進学雑誌、進学 Web への掲載。また、本学の地方での認知度を高めるため、試験会場である函館、帯広等の地方において高校スクールバスにステッカー広告を掲載した。
活動内容の評価 (Check)	1）に関わる活動内容の評価は以下のとおりである。 ・進学相談会　　昨年比－24 会場 ・校内ガイダンス　　昨年比＋26 校 ・出張講義・進路講話　昨年比＋13 校（内訳：看護 21 校、栄養 6 校） 出張講義、進路講話が増加したことは本学にとって有効なことで大いに評価できる。 2）に関わる活動内容の評価は以下のとおりである。 在学生と高校生との交流機会を増やすことができ、また、栄養学科のワークショップを開催できたことは新たな層の獲得を期待でき評価できる。

	3）に関わる活動内容の評価は以下のとおりである。 　両学科志望の高校生に対し、高校の偏差値帯を絞った DM の送付を行ったことは新しい取り組みであり、明確な効果測定には時期尚早ではあるが、看護学科において出願者の高校偏差値帯が向上している点は評価できる。
次年度への課題・改善方策（Action）	1）進路講話、出張講義、進学相談会等の対面機会を得るための活動に注力する。 2）オープンキャンパスに参加してくれた高校生を出願に導くため内容の工夫をする。 3）広報としての交通広告、新聞広告、進学雑誌掲載などの実施し、本学の魅力を十分伝えるための制作物等の内容の充実を図る。

2022 年度　委員会等活動報告書

委員会等	自己点検・評価委員会
作 成 者	荒川　義人

項　　目	内　　容
【前年度】 次年度への 課題・改善方策 (Problem)	1）教員教育研究等業績評価票の検討を行いつつ、評価の実施について、引き続き退職者のフォローを十分に行い、実施率 100%を目指す。 2）教員教育研究等業績調査の結果について、引き続きデータ集約及び管理（ホームページ公開用）を行う。 3）自己点検・評価報告書の作成について、引き続き大学認証評価につながるようデータに基づいた内容となるよう努める。

項　　目	内　　容
今年度の活動計画 （目標・課題） (Plan)	1）教員教育研究等業績評価票のデータ収集、管理及び評価項目・配点表の見直しを行う。 2）自己点検・評価報告書（委員会等活動報告書）及びデータ集の作成、公開を行う。 3）2022 年 4 月 1 日現在の教員の教育研究業績調書データ集約及び管理（ホームページ公開用）を行う。
活　動　内　容 (Do)	1）教員教育研究等業績評価の公開と調査の実施 2022 年度当初に公開する「教員教育研究等業績評価」は、2021 年度在籍教員（54 名）のうち、依頼日（2022 年 2 月 1 日）以前の退職者 3 名及び休職者 1 名を除く 50 名を対象に依頼、3 月 22 日提出締切りとして実施し、50 名全員から回収、まとめることができた。 2022 年度在職の教員の「教員教育研究等業績評価」は、調査実施前に委員会で昨年の内容を検討して評価項目・配点表案を作成し、これを全教員に提示、意見聴取したうえで「2022 年度 教員教育研究等業績評価項目配点表」を確定し、3 月 22 日を提出締め切りとして調査を実施した。（まとめ作業は次年度自己点検委員会の作業） 2）自己点検・評価報告書（委員会等活動報告書）の作成 2021 年度自己点検・評価報告書の作成について、各委員会等から提出された委員会等活動報告書の内容に対しコメント担当者（自己点検・評価委員）が評価コメントを付した。評価コメントが付された各委員会等においては、コメントにもとづき報告書の修正を行い再提出し、その再提出された報告書について自己点検・評価委員会では修正内容の確認を行った。このような行程を経て報告書の策定を進め、同時に事務局の各部署に依頼したデータ集の取りまとめを行い「2021 年度 自己点検・評価報告書」を完成させた。報告書は、大学評価委員会、運営会議及び教授会に提出後、例年どおり 2022 年 6 月末に本学ホームページ上で公開するとともに、冊子体を図書館に配架した。 2022 年度自己点検・評価報告書の作成については、作成スケジュールを策定、依頼先及びコメント担当者の決定、依頼文書、入力フォーム、評価の視点（コメント担当者用）の確認を行った。作成要領については昨年度までの内容を踏襲し、各委員会等によって作成される報告書の書式や視点が統一されるように留意事項を強調し、締め切りを 3 月 15 日として、2023 年 2 月 1 日、依頼先となる各委員会等の長に作成依頼、あわせて事務局の各部署にデータ集作成のため基礎データ（教職員数、学生数、入学者数等）の提出を依頼した。

	３）2022 年 4 月 1 日現在の教員業績調書のデータ集約については、全員のデータが提出され、大学ホームページで公開できた。
活動内容の評価 （Check）	１）教員教育研究等業績評価については、2021 年度分のまとめ作業を完遂できたこと、また、2022 年度分の調査も円滑に実施できたことも合わせて評価できる ２）自己点検・評価報告書（委員会等活動報告書）の作成について、2021 年度分はスケジュールどおりに作成し、公開できたことは評価できる。また、2022 年度分の作成作業を円滑に進めていることも評価できる。 ３）2022 年 4 月 1 日現在の教員業績調書のデータ集約について、実施率 100%を達成し、大学ホームページで公開できたことは評価できる。
次年度への 課題・改善方策 （Action）	１）教員教育研究等業績評価票の項目等を引き続き精査し、データの収取、管理を行い、全教員の評価実施率 100%を目指す。 ２）各教員の教育研究等業績調査を引き続き実施し、データ集約及び管理（ホームページにおける公開）を行う。 ３）自己点検・評価報告書の作成について、大学認証評価、教職課程自己点検評価との関係性を検討しながら作業を進める。

2022 年度　委員会等活動報告書

委員会等	人権擁護委員会
作 成 者	坂本　恵

項　　目	内　　容
【前年度】 次年度への 課題・改善方策 (Problem)	1）ハラスメント事案への対応 （1）ハラスメント申立てが発生した場合は、規程規則に従った対応を適切にする。 （2）ハラスメント調査により実態を把握するとともに改善策を検討する。 （3）個々のハラスメント相談員の能力向上に向けて研修会への参加を検討する。 2）ハラスメントを防止するための活動 （1）学生に対するハラスメント防止啓発活動を検討し実施する。 （2）教職員に対するハラスメント防止啓発活動を検討し実施する。 （3）ハラスメント防止キャンペーンを継続する。 （4）ハラスメント相談員へ安心して相談できる体制を検討する。 （5）目安箱の活用とハラスメント相談の勧めなどにより、ハラスメントの早期把握と解決の活動に繋げる。 （6）人権擁護委員会の活動について周知する。相談があれば、相談者の立場になって解決に向けて動くことをしっかりと示していく。

項　　目	内　　容
今年度の活動計画 （目標・課題） (Plan)	1）ハラスメント事案への対応 （1）ハラスメント申立てに基づく案件に適切に対応する。 （2）ハラスメント調査により実態を把握するとともに改善策を検討する。 （3）個々の担当者の能力向上に向けて研修会への参加を促す。 2）ハラスメントを防止するための活動 （1）学生に対する啓発活動 ① ハラスメントガイドラインを新入生、編入生に配布する。 ② 新入生･編入生に対するハラスメント防止の教育活動として外部講師などによる講演会を実施する。 ③ ガイダンスを通じてハラスメント防止に向けての啓発活動を行う。 （2）教職員に対する啓発活動 ① ハラスメントガイドラインを新任教職員、非常勤講師及び非常勤指導員に配布する。 ② 教職員への外部講師などによる研修会を実施する。 （3）ハラスメント防止キャンペーンを継続して行う。 （4）ハラスメント相談員へ安心して相談できる体制を検討する。 （5）目安箱の活用とハラスメント相談の勧めなどを行い、ハラスメントの早期把握と解決に向けた活動に繋げる。 （6）人権擁護委員会の活動について周知し、相談者の立場になって解決に向けて動くことをしっかりと示していく。
活　動　内　容 (Do)	1）ハラスメント事案への対応 （1）2023 年 3 月 7 日時点でハラスメントの相談は 6 件あり、うち 2 件にハラスメントの申立てがあった。目安箱への投書はなかった。ハラスメント申立てに対しては、人権擁護委員会での調査と関係する部署の協力を得て対応した。

	（2）学生間でのモラルハラスメントと思われる相談があり､実態を調査し把握することを目的に学生を対象としたモラルハラスメントに関する調査を 2022 年 6 月 3 日（金）～6 月 30 日（木）に実施した。回答率は 70.0%であった｡調査結果を委員会に諮り各学年ガイダンスで注意喚起を行った。 例年実施している学生及び教職員を対象としたハラスメントに関する調査を 2022 年 9 月 30 日（金）～11 月 18 日（金）に実施した。回答率向上のため、各学年ガイダンスで委員がアンケートについて説明し、メール・チャットなどでも繰り返し周知を行い、回答率は昨年と比べ学生が 53.0%から 78.3%、教職員が 77.6%から 88.0%に上昇した。調査結果を委員会に諮り、2 つの調査内容については、調査結果報告書を作成し、学生・教職員が自由に閲覧できるよう図書館で公開した。 （3）コロナ禍でもあり研修会への参加はできなかったため､昨年度に引き続きハラスメント相談員は自己研鑽に努めることとした。 2）ハラスメントを防止するための活動 （1）学生に対する啓発活動 ① 4 月に行われた新入生、編入生対象のガイダンス時にハラスメントガイドラインを配布し説明を行った。 ② 2022 年 4 月 14 日（木）にハラスメント防止の教育活動として「充実した学生生活を送るためには」をテーマに、屋嘉比瑞穂先生を講師として新入生・編入生に対する講演会を実施した。学生の 80.8%が参加し、参加者の 60.7%がアンケートに回答した。 ③ 在学生に対するガイダンスとして､前期は目安箱の利用を勧めると共に相談員についての資料を作成し全学年に配布した。後期はハラスメントアンケートについての説明と協力を全学年に依頼した。また、モラルハラスメント調査の集計が終わったことを報告し意識づけを行った。ハラスメントの調査結果報告書については Teams とメールにて図書館で閲覧できることを周知した。認知度の低かった目安箱、ハラスメント相談員についてはメールで周知し利用と相談を促した。 （2）教職員に対する啓発活動 ① ハラスメントガイドラインを新任教職員に対してレターボックスを利用して配布し、非常勤講師及び非常勤指導員に対しては非常勤講師室及び非常勤指導員控室に置くことを継続して行った。 ② 2023 年 2 月 8 日（水）に、ハラスメント防止の啓発活動として「尊重しあえる人間関係を築くために」をテーマに、菅原彩先生を講師として教職員に対する研修会を対面で実施した｡教職員の 67.1%が参加し、参加者の 91.8%がアンケートに回答した。当日視聴できない教職員に対し 2 月 22 日（水）まで Stream で配信した。 （3）ハラスメント防止キャンペーンとして､ハラスメント相談やハラスメント防止を呼びかけるステッカーを作成している。ステッカーは目につきやすいトイレや演習室のドアに今年度も継続して掲示した。 （4）学生・教職員に対し「ハラスメント相談員」はプライバシーと人権に配慮して相談に応じ問題解決や必要な助言、情報を相談者に提供するため安心して相談することを掲示、メール等により周知した。 （5）ハラスメントの早期把握と解決に向けて活動するため､ガイダンスやメールなどで、目安箱の設置場所、ハラスメント相談員のメンバーについて学生・教職員に周知した。 （6）学生､教職員を対象としたハラスメント防止講演会などで人権擁護委員会の活動内容や相談員、目安箱について説明を行った。
活動内容の評価 （Check）	1）ハラスメント事案への対応 （1）ハラスメントの相談は 6 件あり、うち 2 件にハラスメントの申立てがあった。ハラスメントの申立てに対しては、人権擁護委員会での

	調査と関係する部署の協力を得て解決することができた。ハラスメントの相談について、相談員は迅速に対応できた。目安箱への投書はなかったが、ハラスメントの早期把握と解決に向けた活動に繋げるため、引き続き周知していく必要がある。 （2）学生間のモラルハラスメントに関する調査は今年度初めて実施した。調査結果から、大学に入学してからモラルハラスメントに該当することが「あった」と回答した者は、13 名であり、「仲間外れや無視をされた」8 名、「からかわれたり悪口を言われたりした」5 名、「メールや SNS で悪口を書かれたり仲間外れにされた」2 名、その他として「課題を無理やりやらされた」1 名であった。相談を行っている人は「友人・家族」4 名、「教員」1 名と回答していた。アンケートを実施することでハラスメントの現状を把握できたことは評価できる。しかし、ハラスメントを受けていると回答した学生が大学のなかで孤立することなく、安心して学修や生活ができる環境を整備することが必要である。身近な教員やハラスメント相談員に安心して相談できる体制づくりを検討していく必要がある。 学生・教職員を対象とした、ハラスメントに関する調査は、調査の周知を繰り返し行ったことによって、回答率が上昇した。調査の集計結果から、ハラスメントが「自分自身にあった」と回答した者は、各ハラスメント内容 25 項目で 0～38 名となっており昨年の 0～23 名より 16 項目で増加していた。特に「挨拶や話しかけを無視された」は昨年 23 名から 38 名に増加した。また、「学業・教育・研究・業務において一方的で理不尽な指示や課題を与えられた」は昨年 9 名から 21 名に増加した。昨年度から初めて確認したメール・SNS でのハラスメントついては、「自身にある」と回答した者は各項目 1～4 名で大きな変化は認められなかったが、今後も調査項目とし実態把握を行っていきたい。ハラスメント防止対策に対する意見として、すぐに相談できる場所・人など相談しやすい環境づくり、委員会の取り組みの強化、ポスター掲示を増やす、ハラスメントアンケートの定期的な実施、研修会の実施などが挙げられていた。委員会としては、調査結果報告書の公開と共に、目安箱、ハラスメント相談員について改めて周知するとともに、教職員に対してはハラスメントに関する公的なサイトの紹介を行った。今後は定期的にハラスメント対応ルートやハラスメント相談員の周知、相談することが相談者への不利益にはならないことなどを周知徹底していく必要がある。さらに本調査は大学におけるハラスメントの現状を把握するための重要な調査となっているため、今年度初めて行った学生間のモラルハラスメント調査とともに継続し、調査結果を公表するとともに、結果をふまえた改善策を検討する必要がある。 （3）コロナ禍もあり研修会への参加はできなかったが、相談員の能力向上のため来年度は研修会への参加を促したい。 2）ハラスメントを防止するための活動 （1）学生に対する啓発活動 ① 4 月に行われた新入生、編入生対象のガイダンス時にハラスメントガイドラインの配布と説明を行うことができた。来年度以降も継続して行う必要がある。 ② 新入生・編入生に対する講演会には 80.8%の学生が参加したが昨年の 98.2%より減少した。当初は新入生ガイダンスが行われた 4 月 8 日（金）に予定していたが講師の都合により講義開始後の両学科が空いている 4 月 14 日（木）1 限目に変更になったため欠席者が多くなったと考えられる。欠席した学生には後日、講演資料の配布を行った。講演会で実施したアンケートは参加者の 60.7%から回収され、自由記述には「ハラスメントの定義や種類を知ることができた」「困った時には相談することの大切さや大学に相談する場所があ

	ることを知ることができた」「ハラスメントのない大学にするためには相手の立場に立ち相手の事を思いやることが大切」などの記載があったことから、来年度も講演会などの開催を検討したい。 ③ 在学生に対するガイダンスとして、前期は目安箱の利用とハラスメント相談員について配布資料を作成し説明した。後期はハラスメントアンケートの協力について委員が直接説明し調査依頼を行い実施した。また、モラルハラスメントの調査報告書が図書館で閲覧できることを周知した。今後も様々な機会を捉え啓発活動を行っていく必要がある。 （2）教職員に対する啓発活動 ① ハラスメントガイドラインを新任教職員に対してはレターボックスを利用して配布し、非常勤講師及び非常勤指導員に対しては非常勤講師室に置くこととし、次年度も継続することが重要である。 ② 教職員に対する研修会は対面で行い 67.1%の教職員が出席した。当日視聴できなかった教職員に対してはストリームでの配信によりフォローアップすることができた。研修会で実施したアンケートは参加者の 91.8%から回収され、研修会を通して何らかの気づきがあったとの回答は 95.6%であった。気づきの内容としては「あらためて自分自身の言動を見直そうと思いました」、「ハラスメント発生に伴うダメージやハラスメントは相談しにくいということを研修会で全員が共有できたことが有意義だと感じました」、「相談を受けたときにどのように対応すればよいか、具体的に教えていただいたのが良かった」などの記載があったことから、来年度も研修会の開催を継続したい。また、研修会の欠席者に対するストリームでの配信は継続していきたい。 （3）ハラスメント防止キャンペーンとして、これまでハラスメント相談の周知やハラスメント防止の意識づけを目的にステッカーを作成している。ステッカーは目につきやすいトイレや演習室のドアに貼っており今年度も継続して行なった。ステッカーは人権擁護委員会について周知する手段の一つになっているため次年度はステッカーの内容やポスターの掲示などについても検討していきたい。 （4）ハラスメントアンケートによると相談員についての認知度は低かったため、相談員はプライバシーと人権に配慮して相談に応じ問題解決や必要な助言、情報を相談者に提供するため、安心して相談することを掲示、メール等により定期的に配信し相談を促していきたい。 （5）目安箱の活用を促すために設置場所と利用について配布資料を作成し学生・教職員に周知した。今年度利用はなかったが、次年度も目安箱の活用を促していく必要がある。 （6）学生、教職員を対象としたハラスメント防止講演会やガイダンスなどで人権擁護委員会の活動内容や、相談員、目安箱について説明を行った。しかし、ハラスメントアンケートによる相談員の認知度は昨年の 60.7%から 48.0%に減少していたためハラスメント相談員について周知していくことが今後の課題である。
次年度への課題・改善方策（Action）	1）ハラスメント事案への対応 （1）ハラスメント申立てが発生した場合、申立者の対応希望に沿うよう規程規則に従いながら迅速に解決する。 （2）個々のハラスメント相談員の能力向上に向けて研修会への参加を促す。 2）ハラスメントを防止するための活動 （1）学生に対するハラスメント防止啓発活動を検討し実施する。 （2）教職員に対するハラスメント防止啓発活動を検討し実施する。 （3）学生間のモラルハラスメント調査と学生・教職員を対象としたハラスメント調査を継続し実態を把握するとともに改善策を検討する （4）ハラスメント防止キャンペーンの内容を検討し実施する。

	（５）ハラスメント相談員へ安心して相談できる体制を検討する。 （６）目安箱の活用とハラスメント相談の勧めなどにより､ハラスメントの早期把握と解決の活動に繋げる。 （７）人権擁護委員会の活動について周知する。相談があれば､相談者の立場になって解決に向けて動くことをしっかりと示していく。

2022年度　ハラスメント・アンケート集計結果

1.所属別回答数・回答率

	対象者数	回答数	回答率
看護学科学生	434	338	77.9%
栄養学科学生	189	150	79.4%
事務職員	24	21	87.5%
教員	51	45	88.2%

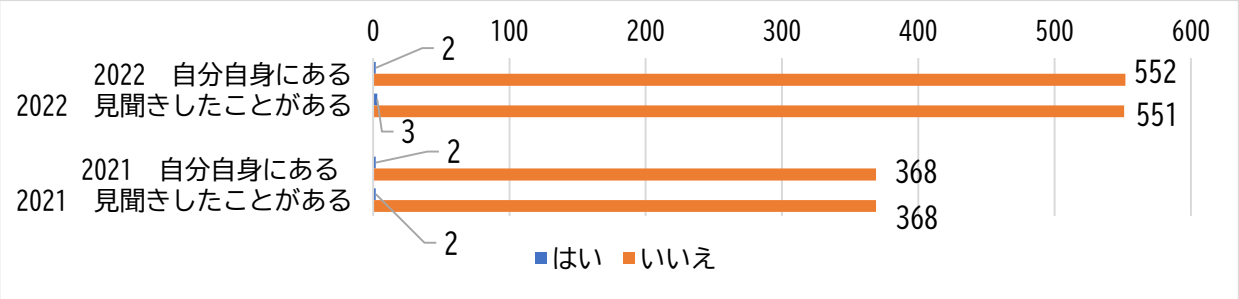
（参考）

2021年度回答率

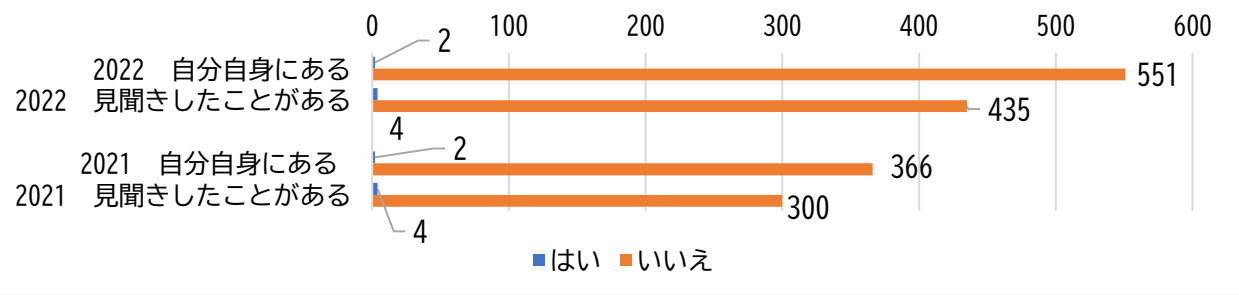
	対象者数	回答数	回答率
学生（学科不明）	587	311	53.0%
事務職員	24	19	79.2%
教員	52	40	77.0%

＜アンケート項目回答状況（人数）＞

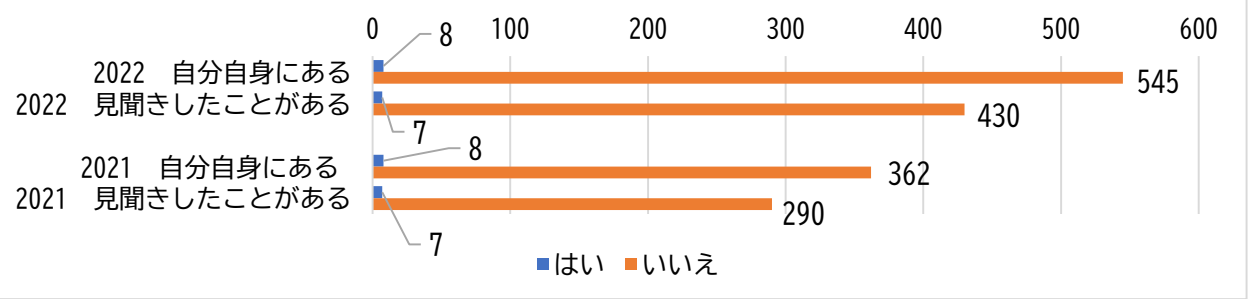
2.身体を小突かれたり、ものを投げられたりした



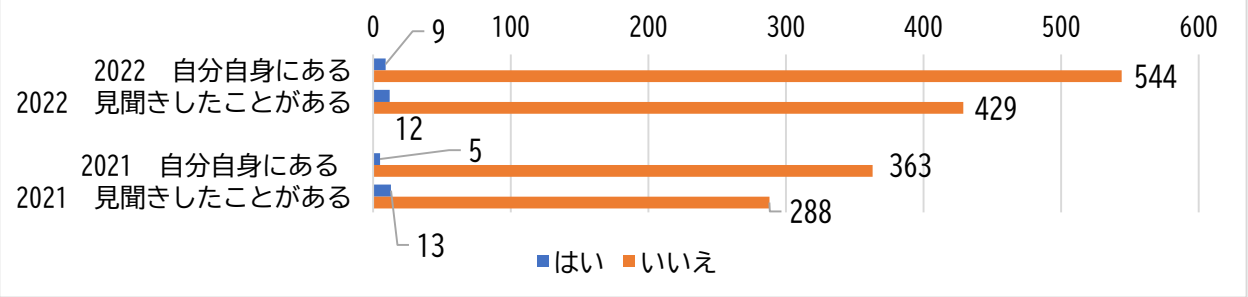
3.学業・教育・研究・業務とは関係ないと思われる私的な用件で呼び出された



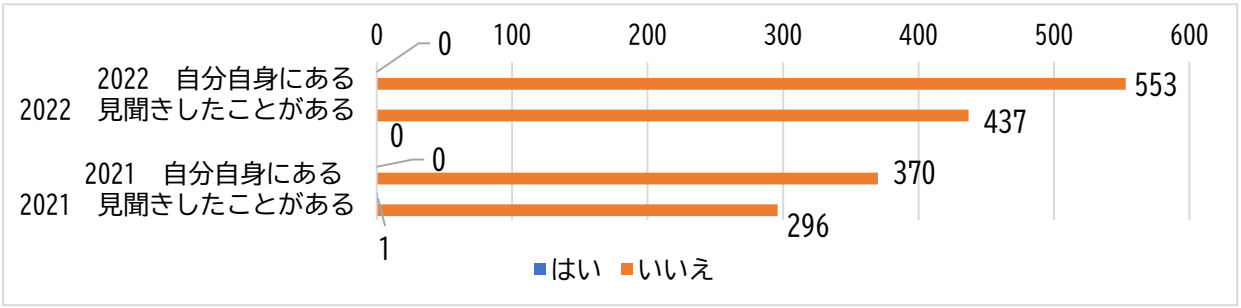
4.容姿・年齢・交友関係・私生活等に関して、執拗に聞かれたり話題にされたりした



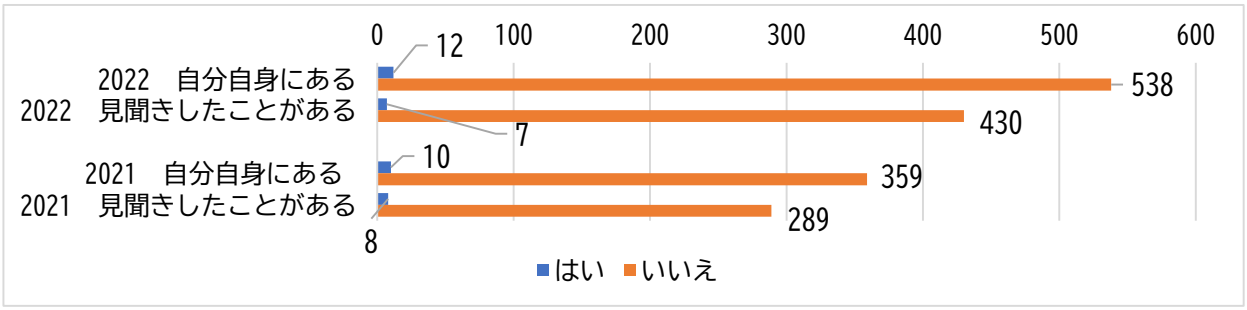
5.非常識な時間に業務や課題を命じられたり呼び出されたりした



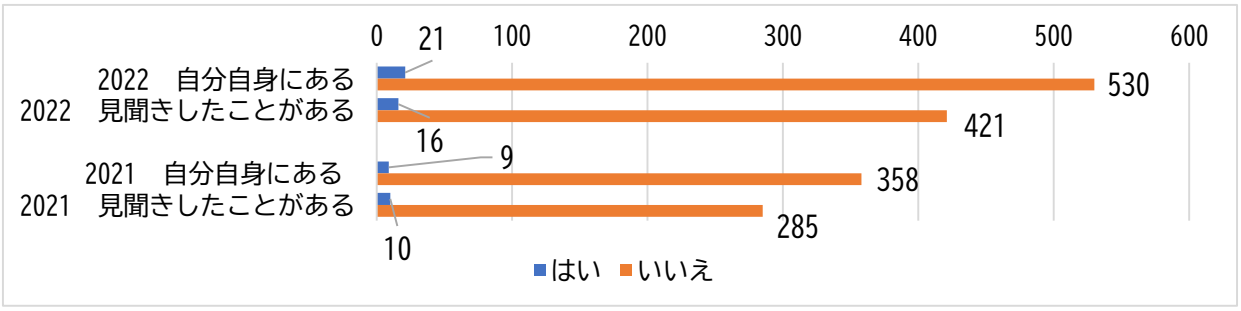
6.飲み会などへの参加を強いられた



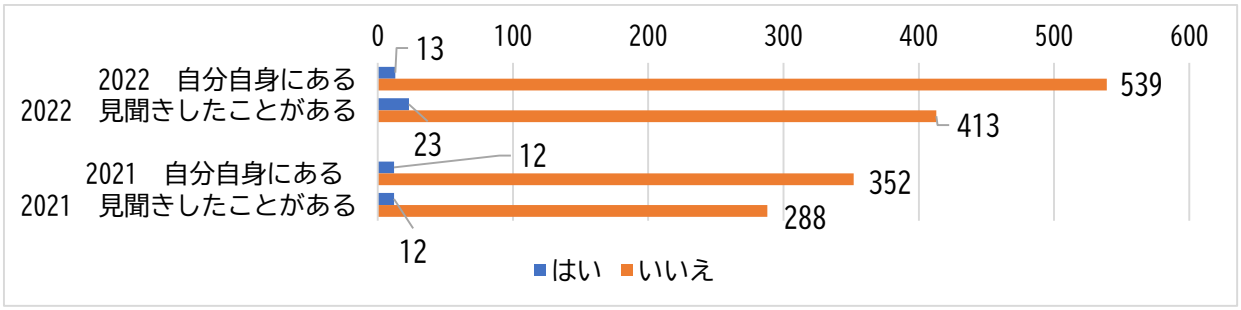
7.学業・教育・研究・業務において重要なことを意図的に知らされないことがあった



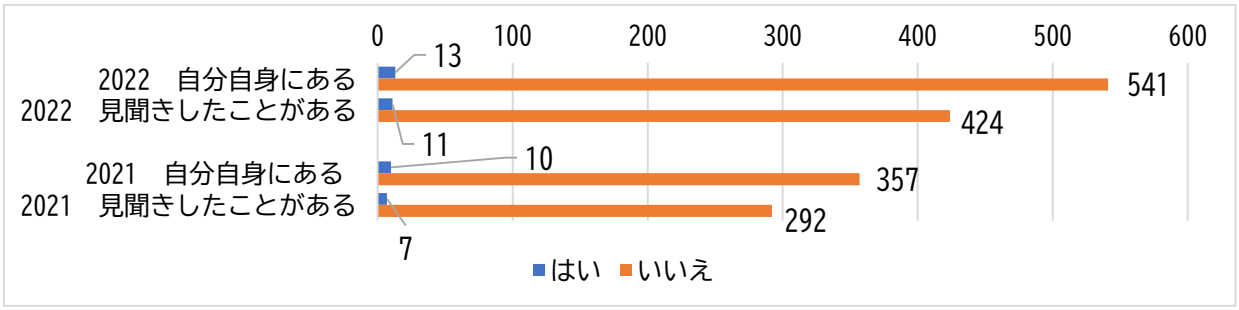
8.学業・教育・研究・業務において、一方的に理不尽な指示や課題を与えられた



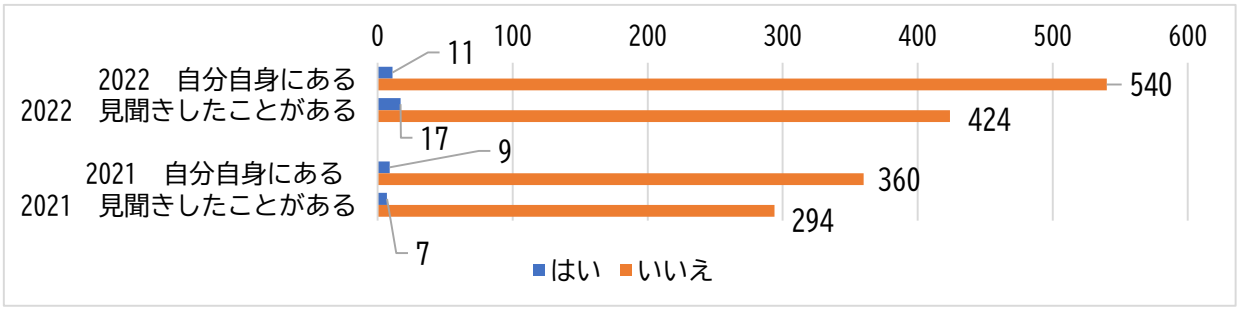
9.学業・教育・研究・業務において、客観的で公平な評価をされなかった



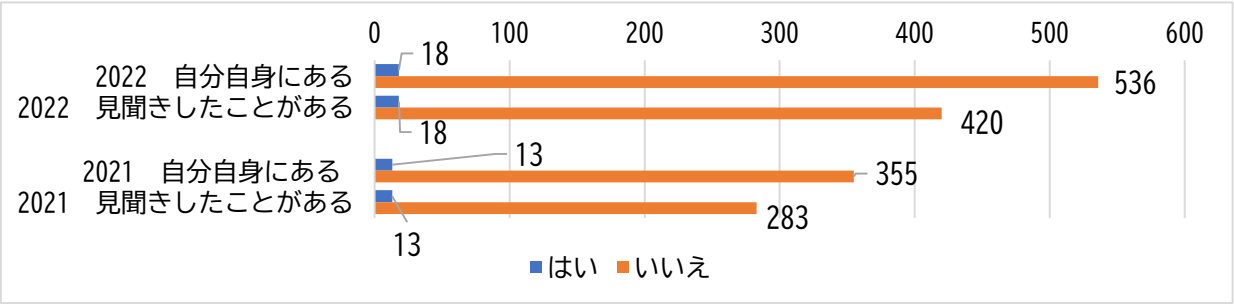
10.学業・教育・研究・業務を妨害するような言動を受けた



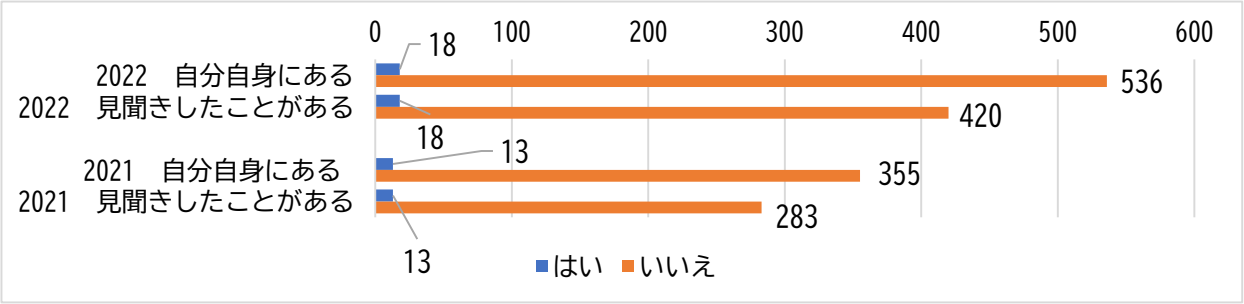
11.自分の今後のキャリアの方向性を妨害されるような言動を受けた



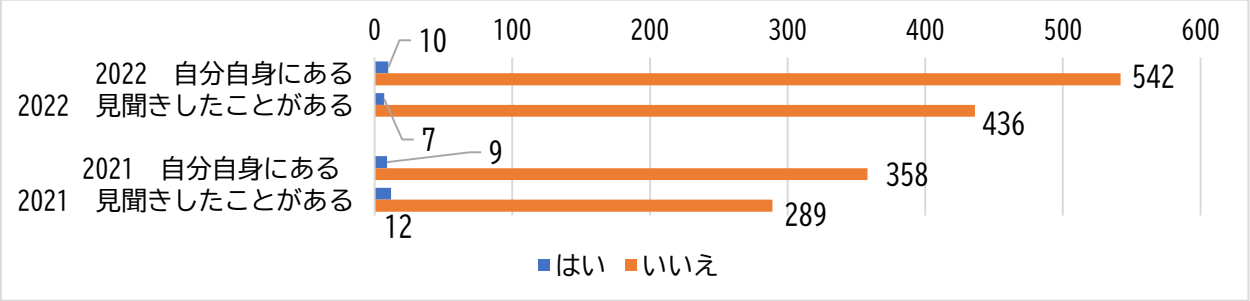
12.他の学生や同僚に比べて、十分な指導をしてもらえなかった



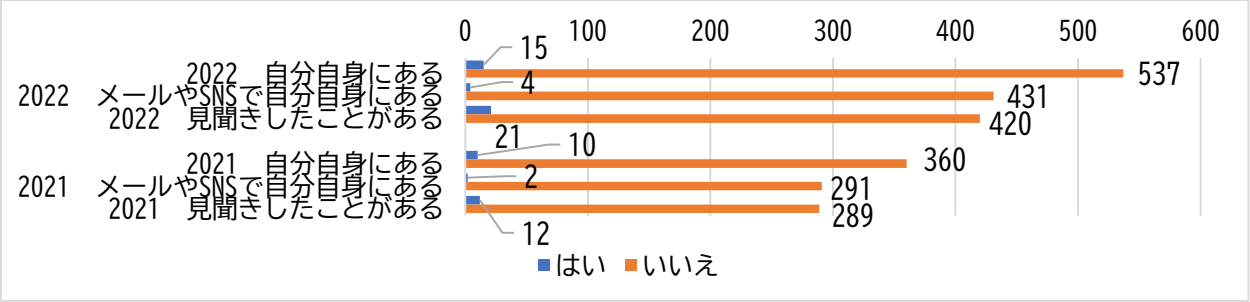
13.進学や就職、転職に関して、不当な扱いを受けた



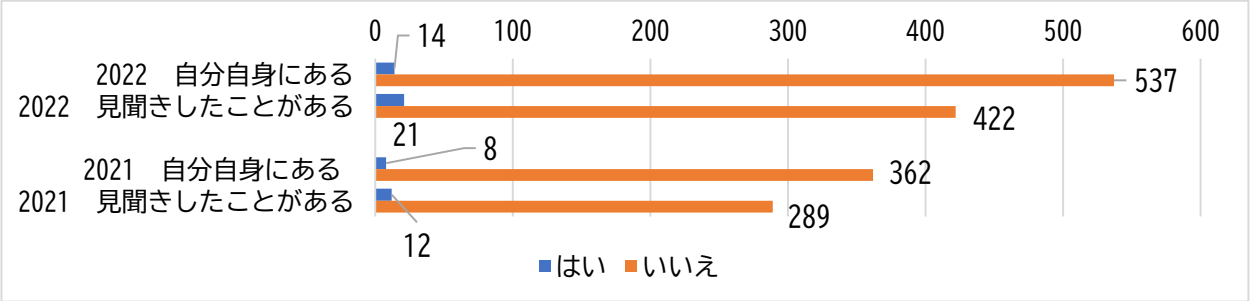
14.要望や提案に対して理由も言わずに却下された



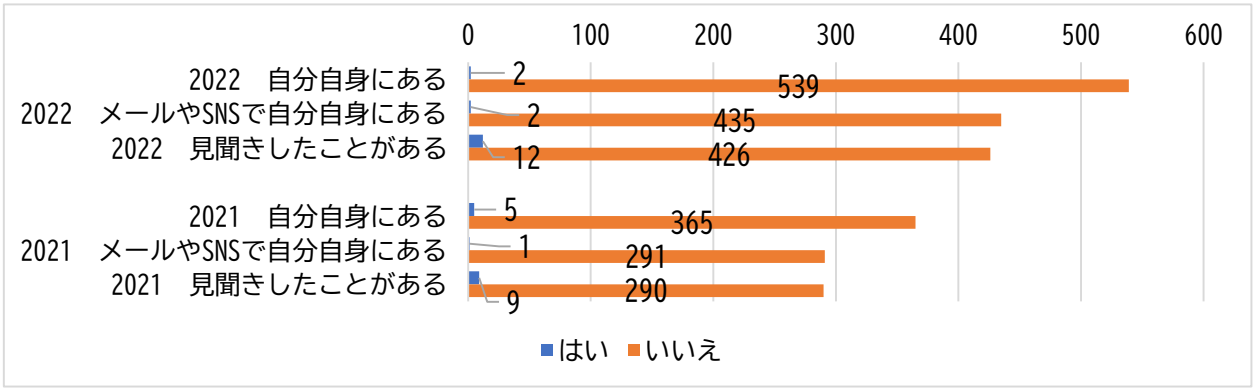
15.人格否定や差別的な言動を受けた



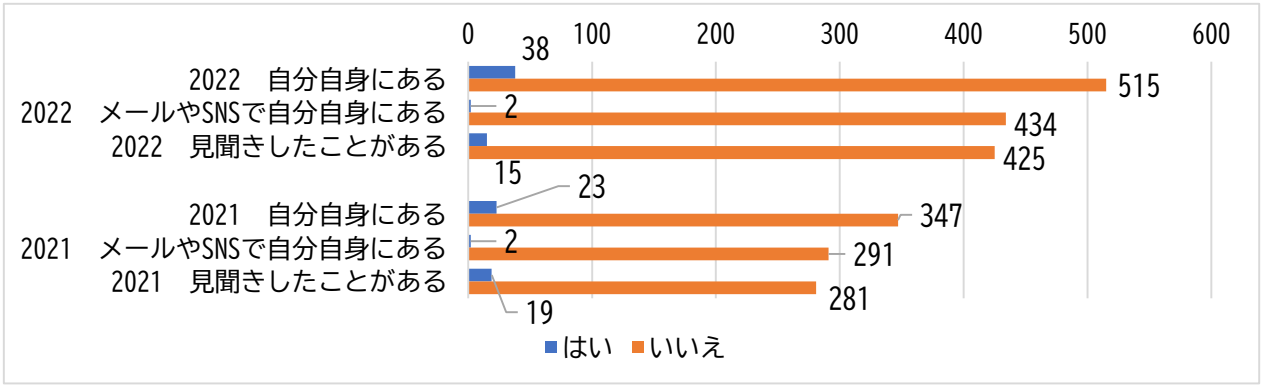
16.人前で激しく叱責された



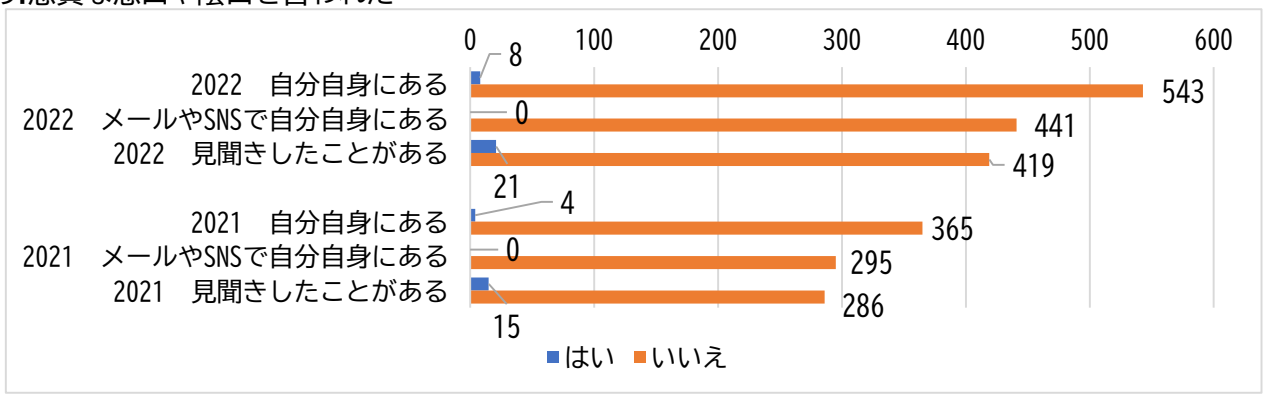
17.性格や容貌などをからかわれたり非難された



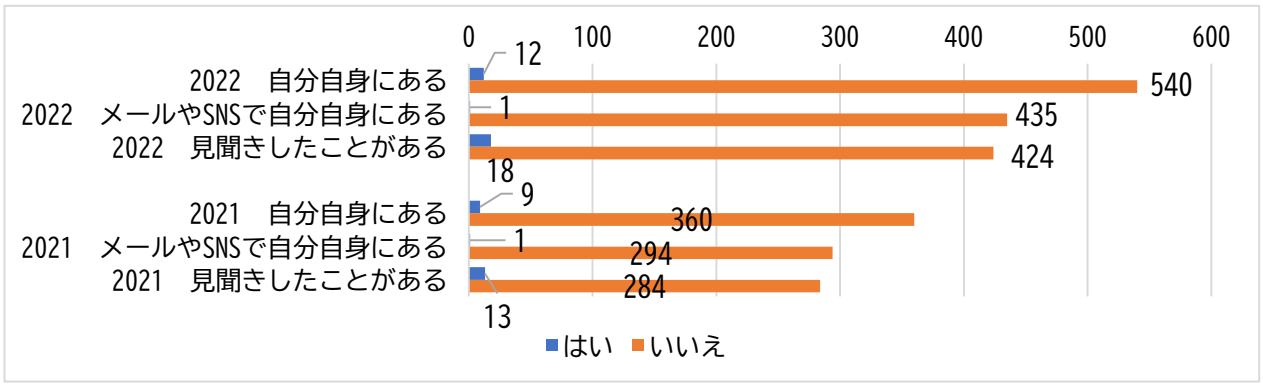
18.挨拶や話しかけを無視された



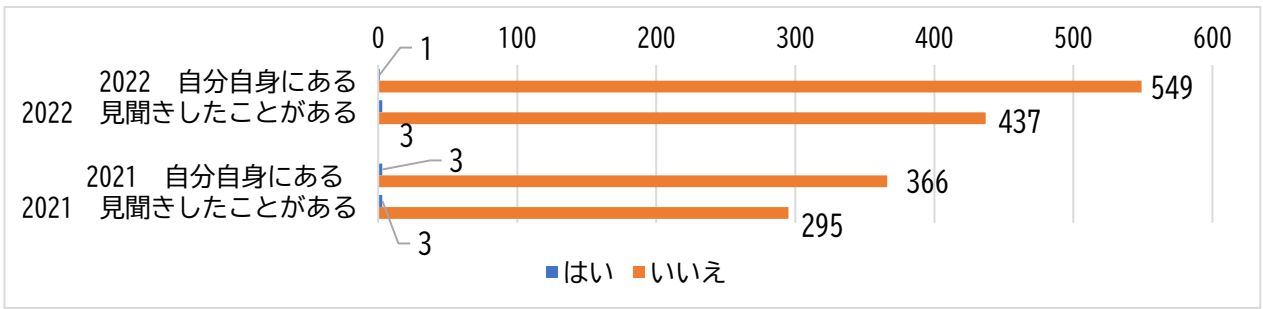
19.悪質な悪口や陰口を言われた



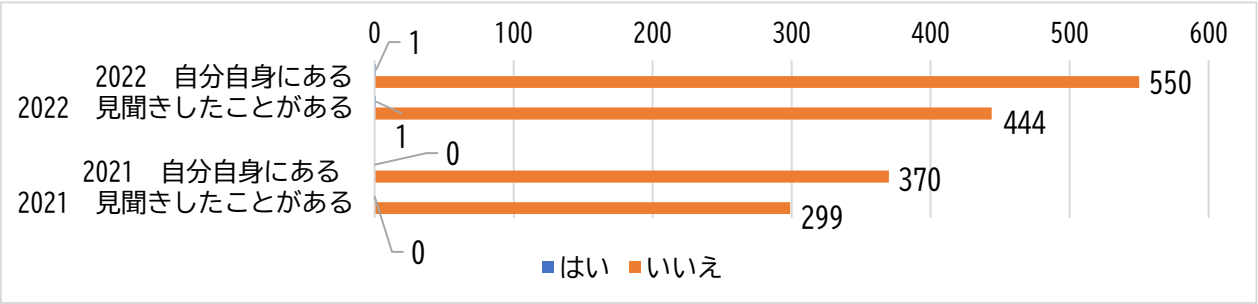
20.事実無根の噂を流された



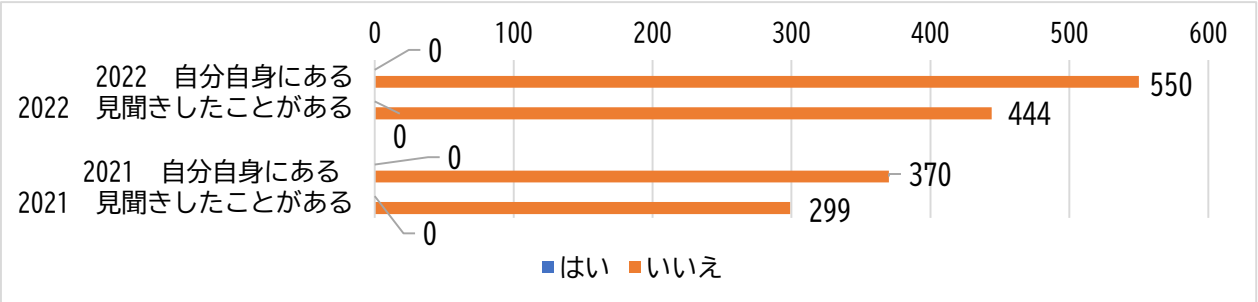
21.性的な会話を聞かされたり、性的な絵や写真を目に入るような場所に置かれたりした



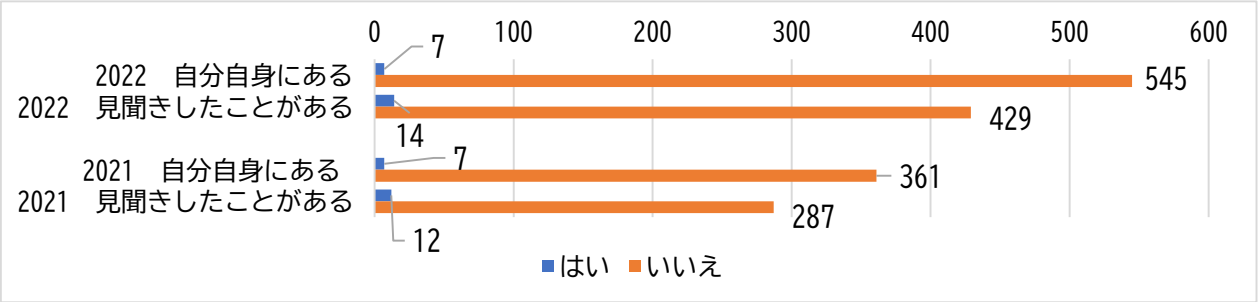
22.執拗に身体を触られた（髪や身体を触られ不快に感じた）



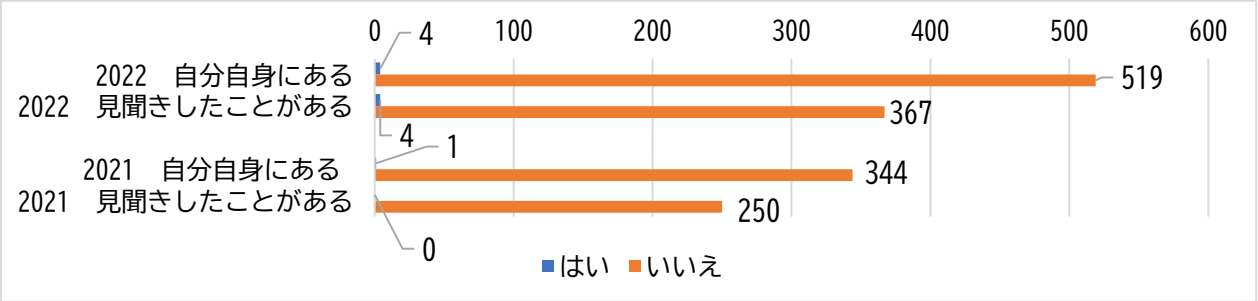
23.地位・立場を利用して、交際や性的関係を求められた



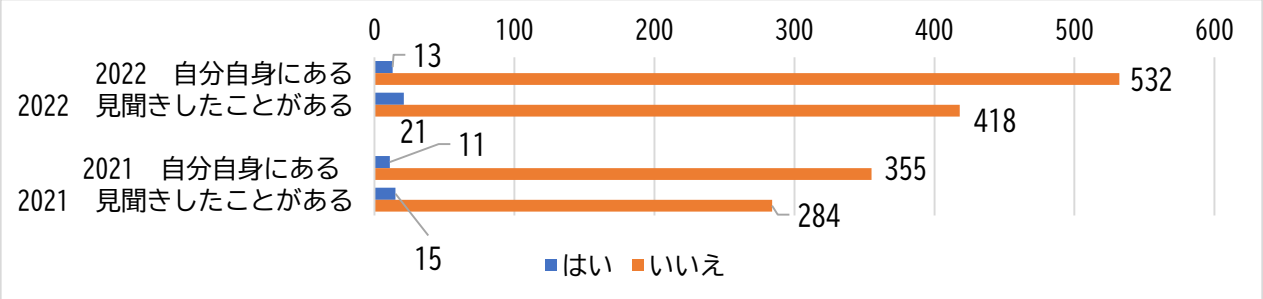
24.教職員同士の個人的な確執に巻き込まれた



25.休暇取得を拒否されたり、残業・休日出勤を強制された（教職員のみ回答）



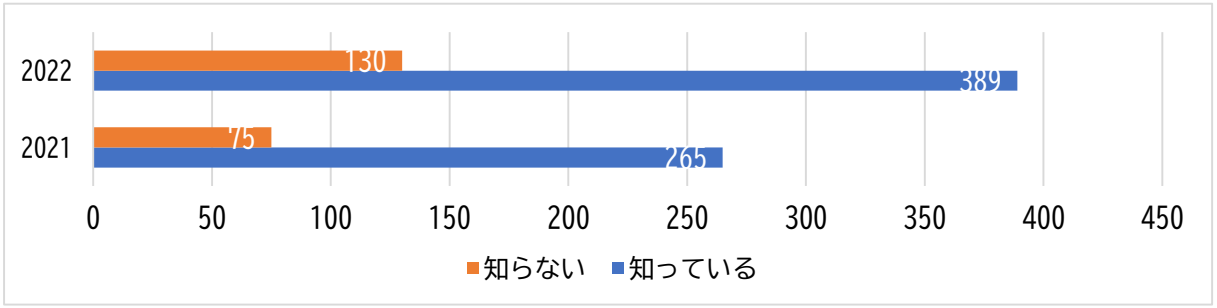
26.その他、ハラスメントと思われる行為を受けた



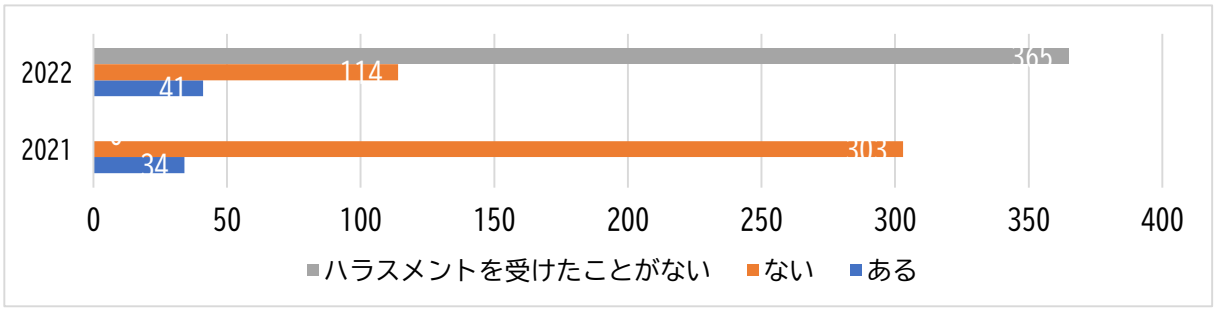
27.2～26の項目で「はい」と答えた方は、差支えのない範囲で具体的な内容を入力してください。（自由記述）

【省略】

28.ハラスメントを受けた時、どこに相談したらよいか知っていますか。

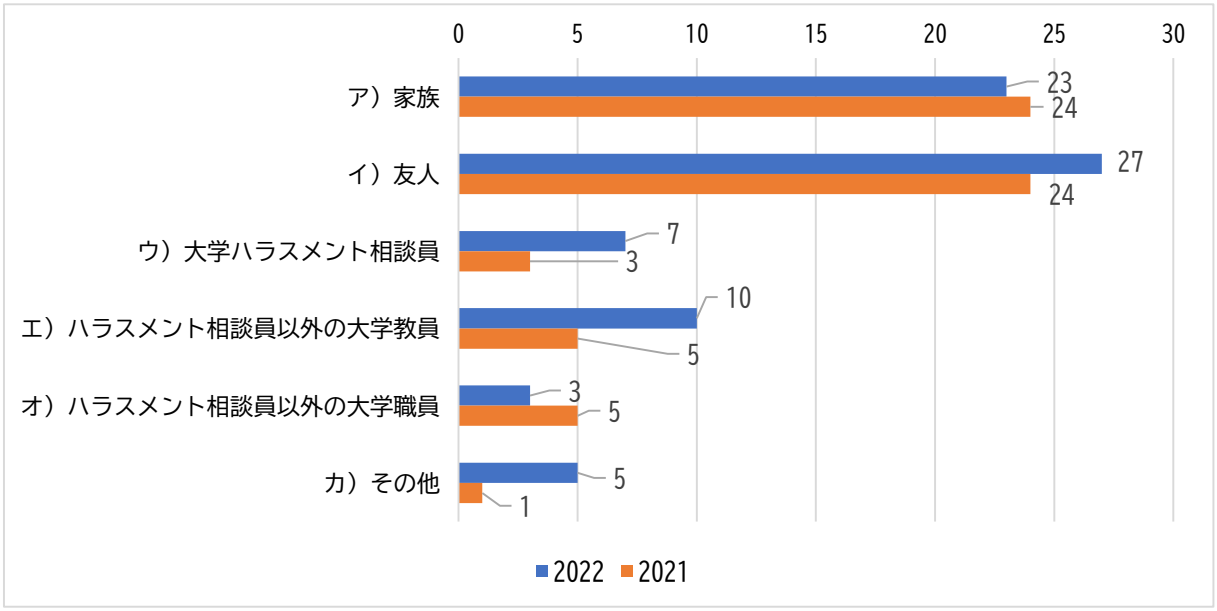


29.ハラスメントを受けた時、誰かに相談したことがありますか。



※今年度から「ハラスメントを受けたことがない」の項目を追加した。

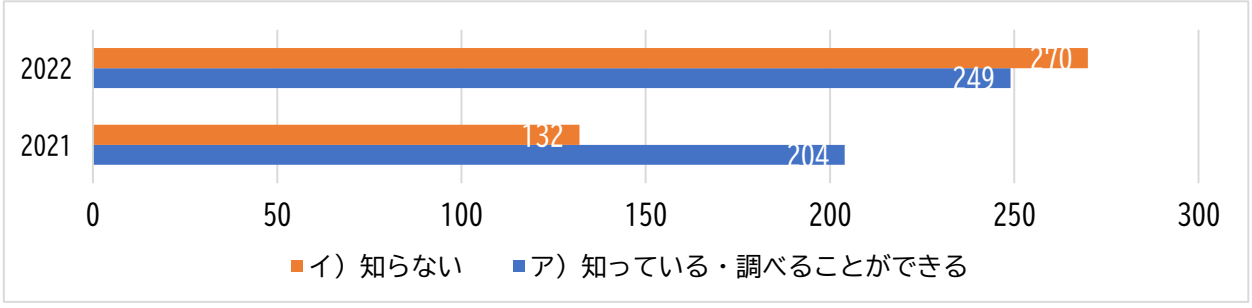
30.上記質問で「ある」と答えた方にお聞きします。相談した方について該当する項目を選択してください。また、該当する項目がない場合は、その他の項目を選択し、どのような方だったか入力してください(複数項目の選択可)。



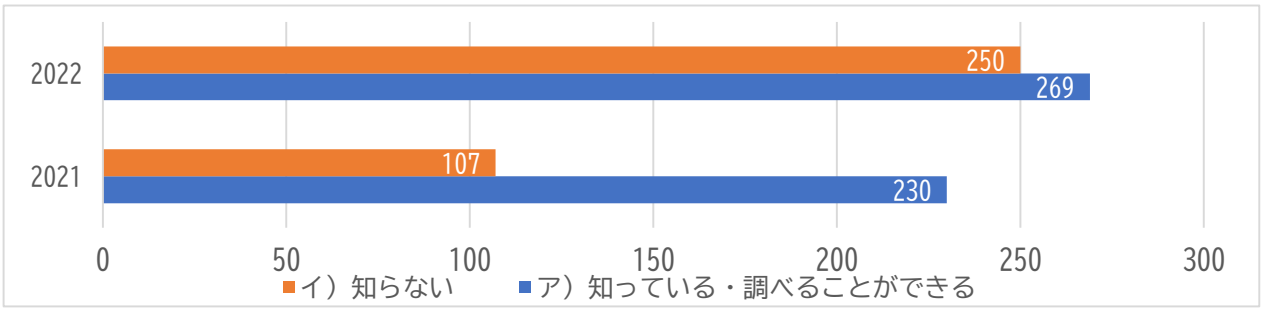
31.上記質問でカ)その他を選択した方にお聞きします。相談した方を教えてください。(自由記述)

【省略】

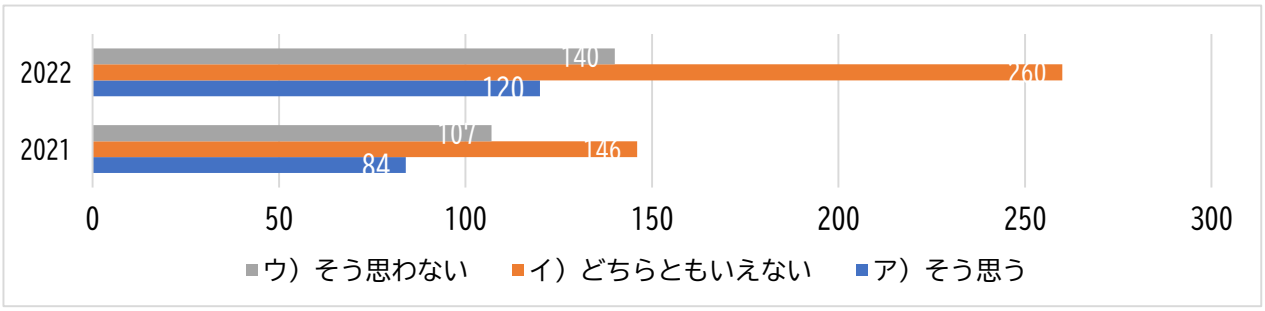
32.誰がハラスメント相談員か知っていますか。



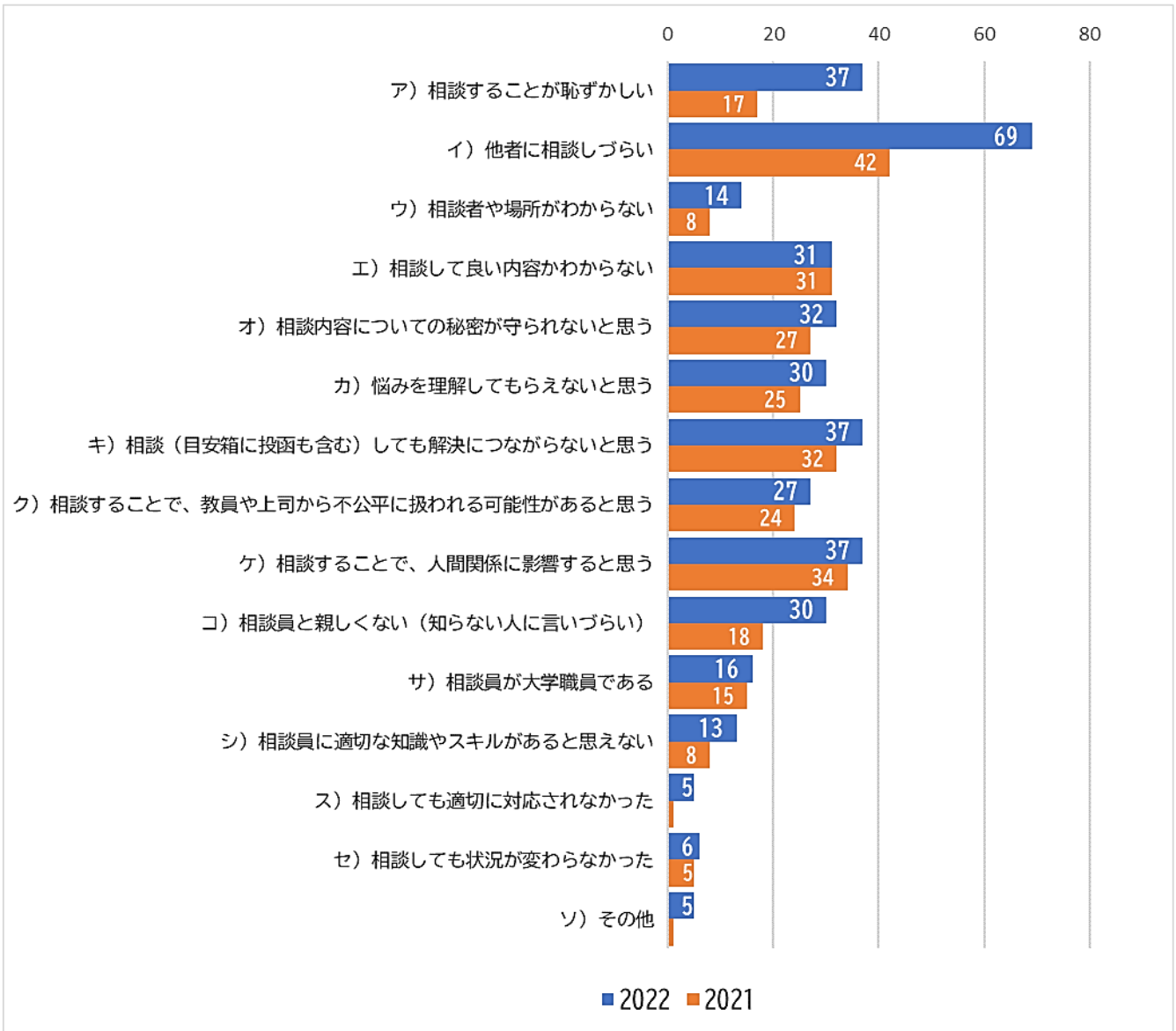
33.ハラスメント目安箱があることを知っていますか。



34.ハラスメントの相談を躊躇することがありますか、相談しにくいですか。



35.上記質問で「そう思う」と答えた方はその理由の該当する項目をチェックしてください。また、該当する項目が無い場合はその他の項目を選択し、理由を入力してください。（複数項目の選択可）



36.上記質問でソ)その他を選択した方はその理由を入力してください。(自由記述)

【省略】

37.ハラスメントを防止していくためにどのようなことをしていくのがよいと思いますか。ご意見をお聞かせください。(自由記述)

【省略】

＜考察＞

・全体の回答率が昨年度の55.8%から79.3%と大幅に増加しており、ハラスメント対策への関心が高まっていることが推測される。ハラスメントの防止対策として、アンケートの定期的実施を希望する声があり、今後も実施を継続し、アンケート結果は公開の上、検討改善を行う。
・ほとんどのハラスメント内容項目で「自分自身にある」「見聞きしたことがある」と回答した人数が増加している。今年度は回答数が増加していることが要因の一つであると考えられる。しかし、「8.学業・教育・研究・業務において、一方的に理不尽な指示や課題を与えられた」「9.学業・教育・研究・業務において、客観的で公平な評価をされなかった」「11.自分の今後のキャリアの方向性を妨害されるような言動を受けた」「12.他の学生や同僚に比べて、十分な指導をしてもらえなかった」「13.進学や就職、転職に関して、不当な扱いを受けた」「15.人格否定や差別的な言動を受けた」「16.人前で激しく叱責された」「25.休暇取得を拒否されたり、残業・休日出勤を強制された(教職員のみ回答)」は大幅な増加がみられた。自由記載からも教職員の学生に対する指導や評価、職員間の業務上の指示内容・方法に関する課題が明らかになっている。また管理職・上司に対して改善を求める声がある。ハラスメントにつながる指導・評価・業務の指示に関する知識及び意識の向上と管理職としての行動改善が必要な状況である。また、「18.挨拶や話しかけを無視された」は「自分自身にある」と回答した人数が最も多く、学生・教職員全体への働きかけが必要である。今後はハラスメントに関する研修以外でも、ハラスメントの知識を得ることのできるインターネットサイトの紹介や定期的な注意喚起など対策を強化する。さらに、いじめの対応に関する研修希望が昨年度に引き続き挙げられており、検討が必要である。
・昨年度からSNSでのハラスメント状況を確認しているが、複数人がハラスメントがあったと回答しているものの、増加は見られていない。
・アンケート項目28の「ハラスメントを受けた時、どこに相談したらよいか知っていますか」については7割の学生が知っていると回答したものの、アンケート項目32・33のハラスメントの相談先や相談員、目安箱は知らない者が5割となっており、昨年度から大幅に増加した。現在、学年ガイダンスでの周知及び掲示を行っているが、定期的な情報の発信を行うなど周知を強化する必要がある。
・昨年度同様アンケート項目33・34から、実際に相談を行っている人は家族や友人が多かった。また今年度は大学ハラスメント相談員、大学教職員への相談件数が増加し、「その他」を選択した人数は大幅に増加した。解決に至ったかは不明であるが、今後も相談体制を整える必要がある。一方、ハラスメント相談がしにくい、どちらともいえないと回答した人数が大幅に増加した。理由としては「相談することが恥ずかしい」「他者に相談しづらい」と回答した人数が多かった。相談体制の整備と共に相談することの重要性を周知する必要がある。
・ハラスメントの防止対策に対する意見については、学内での相談しやすい環境づくり、学外で相談できる体制づくりを望む声や、委員会の取り組みの強化、ポスター掲示の増加などの意見があった。どういったことがハラスメントなのかを具体的に学ぶ機会づくりや教職員同士の話し合いの場の必要性なども挙げられており今後取り組みを検討する必要がある。

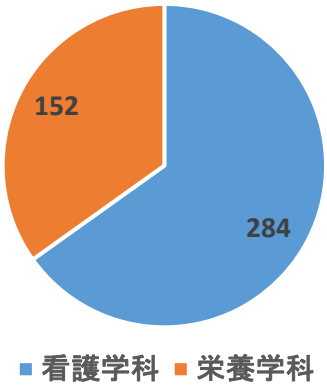
2022 年度　モラル・ハラスメントに関するアンケート結果

調査対象者:　本学学生　632 人（看護 438 人　栄養 194 人）
調査期間:　　2022 年 6 月 3 日（金）～6 月 30 日（木）
回答数（率）:　436（70%）

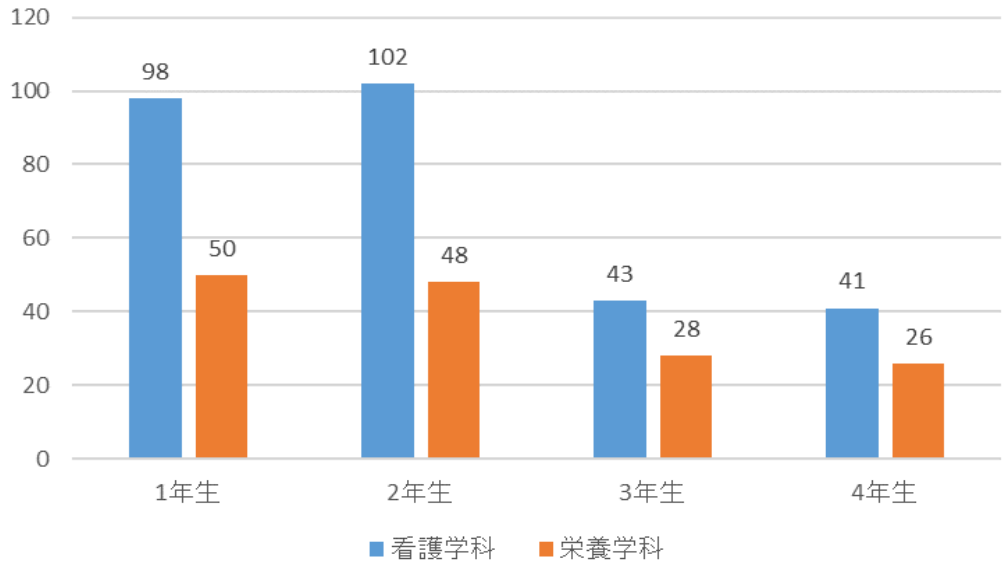
1.　あなたの所属学科を教えてください

看護学科　284（65%）

栄養学科　152（35%）



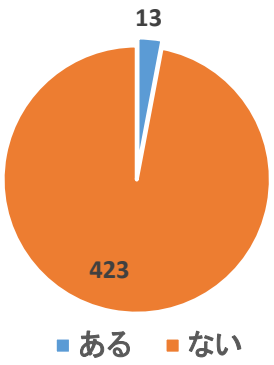
2.　あなたの学年を教えてください



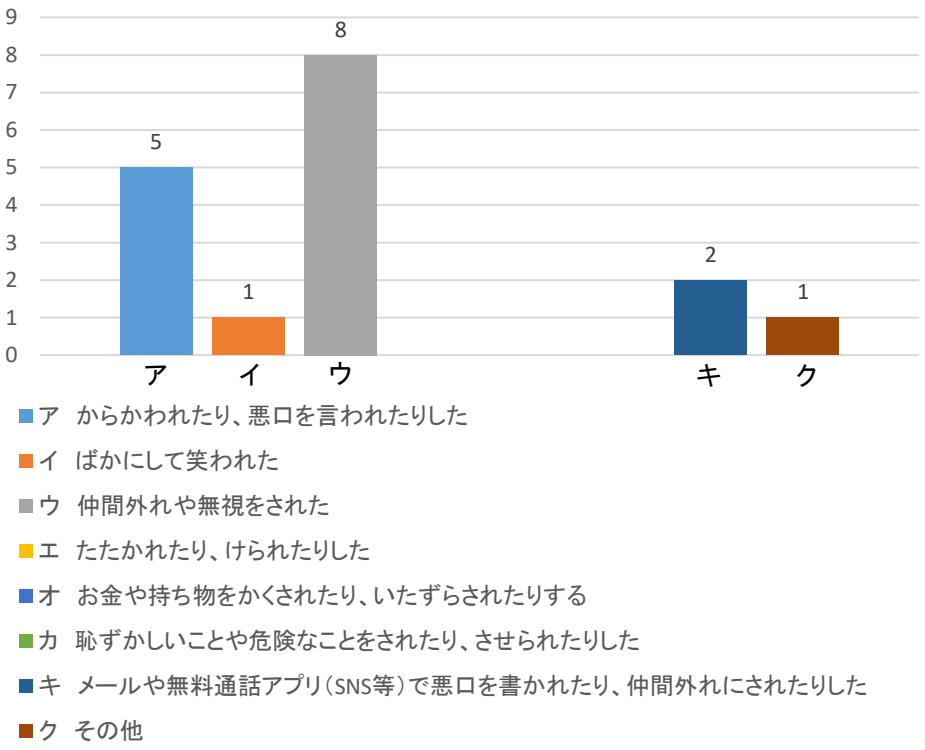
3. あなたは、大学に入学してから今日まで、以下の（　　）内のようなことを本学の学生からされて、嫌な思いをしたことがありますか。
（からかわれたり・悪口を言われたりした・ばかにして笑われた・仲間外れや無視をされた・たたかれたり、けられたりした・お金や持ち物をかくされたり、いたずらされた・恥ずかしいことや危険なことをされたり、させられたりした・メールや無料通話アプリ【SNS 等】で悪口を書かれたり、仲間外れにされたりした・その他モラル・ハラスメント該当することがあった）

ある　13（3%）

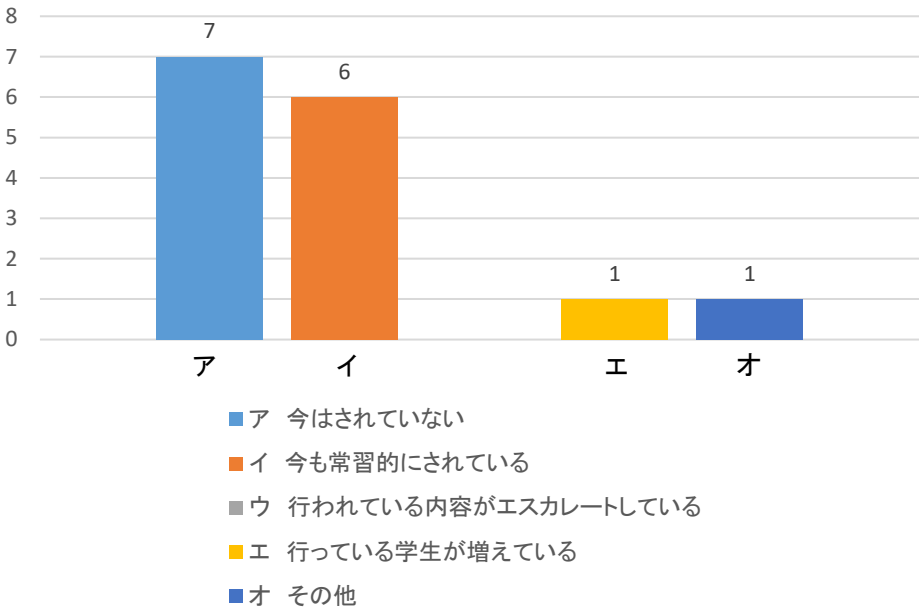
ない　423（97%）



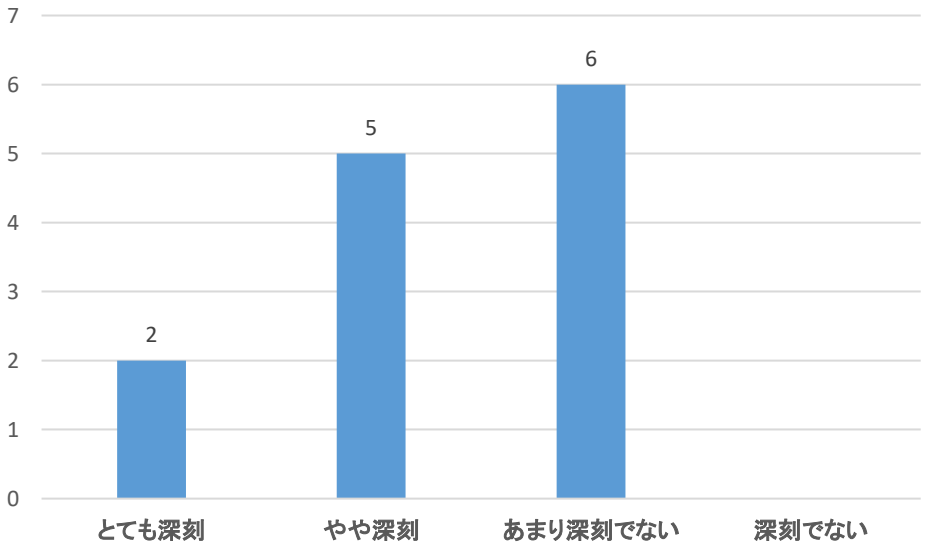
4. 質問3で「①ある」と答えた方にお聞きします。どのようなことをされましたか。
以下のア～ク中から該当する項目を全て選択してください。



5. 質問3で「①ある」と答えた方にお聞きします。質問4の項目の状況について、以下のア～オの中から該当する項目を全て選択してください。



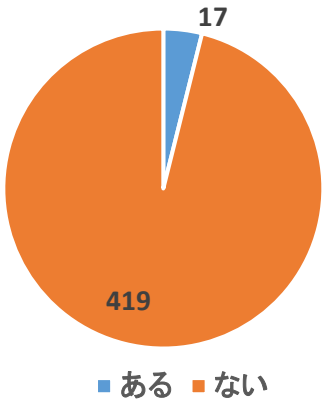
6. 質問3で「①ある」と答えた方にお聞きします。実施されていることの深刻度を 4 段階（4. とても深刻である、3.やや深刻である、2.あまり深刻ではない、1 深刻ではない）で表現するとしたらどこにあてはまりますか。



7. 質問3で「②ない」と答えた方にお聞きします。あなたは、大学に入学してから今日まで、本学の学生が嫌な思いをしているのを見たり、聞いたりしたことがありますか。

ある　17（3.9%）

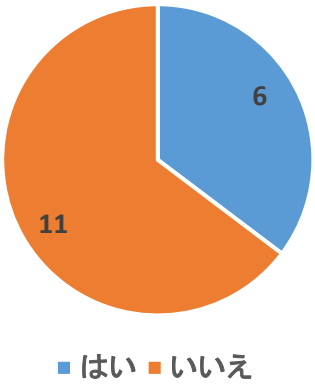
ない　419（96.1%）



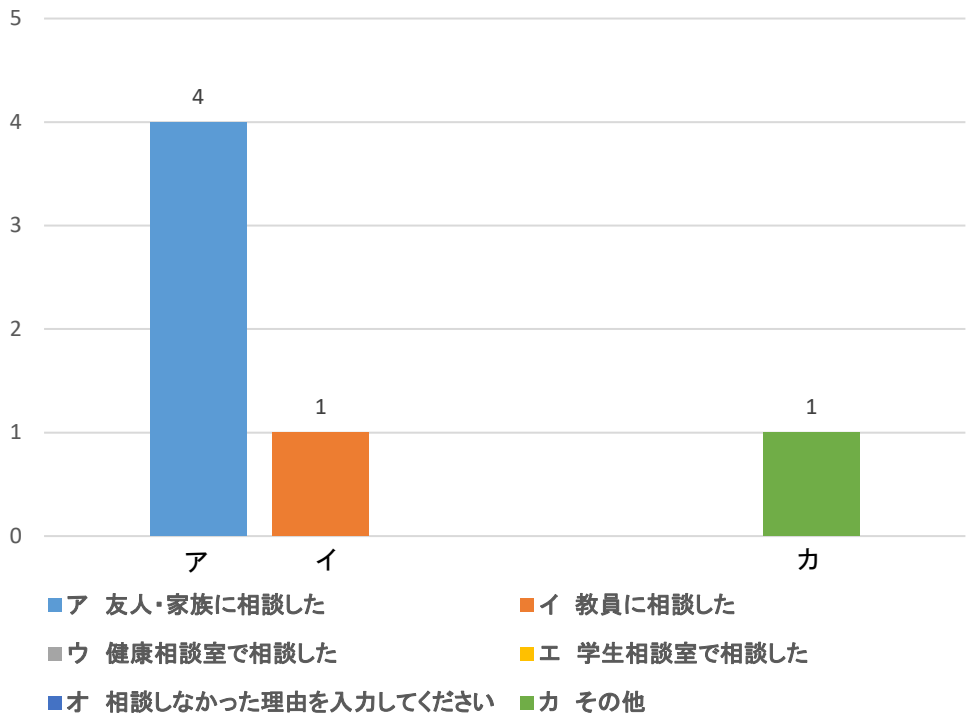
8. 上記質問で「①ある」と答えた方にお聞きします。見たり聞いたりしたことを誰かに相談しようと思いましたか。

はい　　6（35.3%）

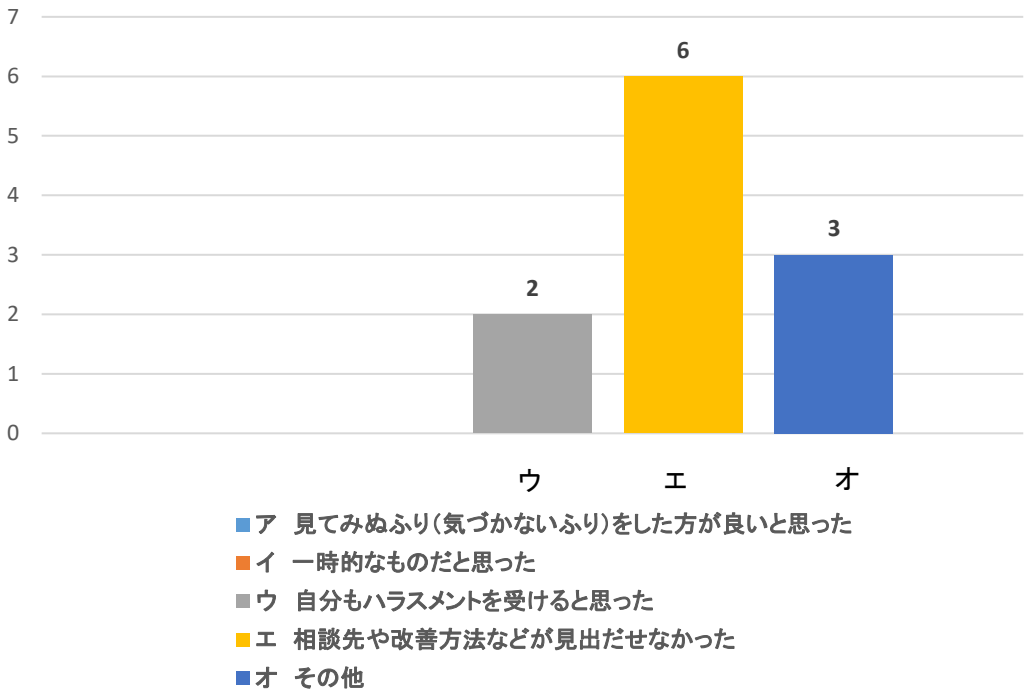
いいえ　11（64.7%）



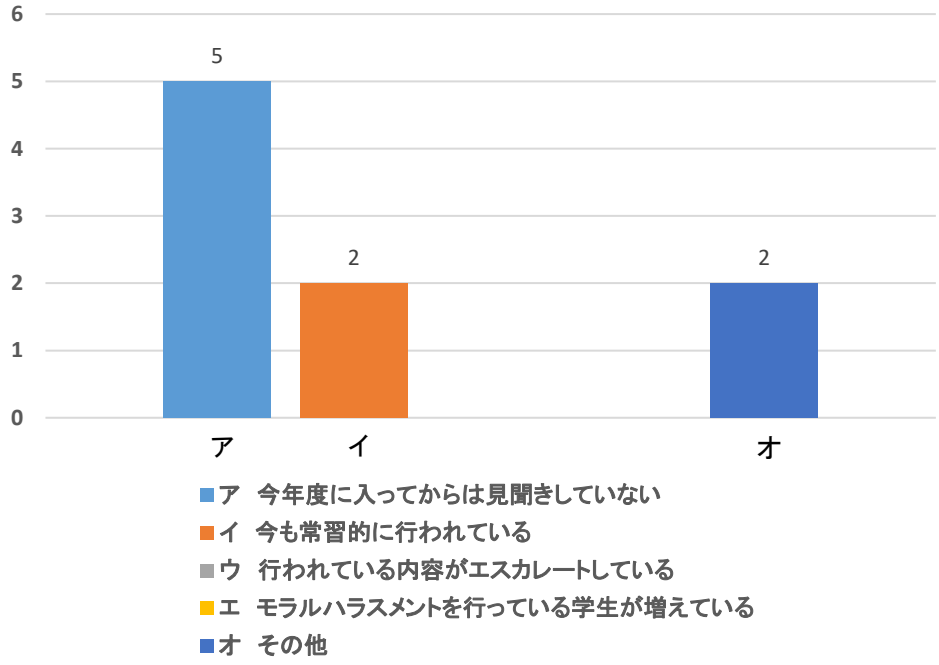
9. 上記質問で「①はい」と答えた方にお聞きします。相談しようと思った後の行動について以下のア～カの中から該当する項目を全て選択してください。



10. 上記質問で「②いいえ」と答えた方にお聞きします。その理由について以下のア～オの中から該当する項目を全て選択してください。



11. 上記質問で「②いいえ」と答えた方にお聞きします。本学の学生が嫌な思いをしている状況のその後についてお聞きします。以下のア～オの中から該当する項目を全て選択してください。

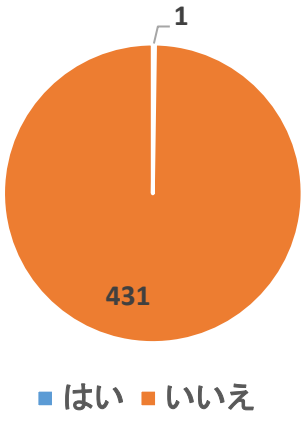


12. あなたは大学に入学してから今日まで、以下の（　）内のようなことを特定の学生に行ったことがありますか

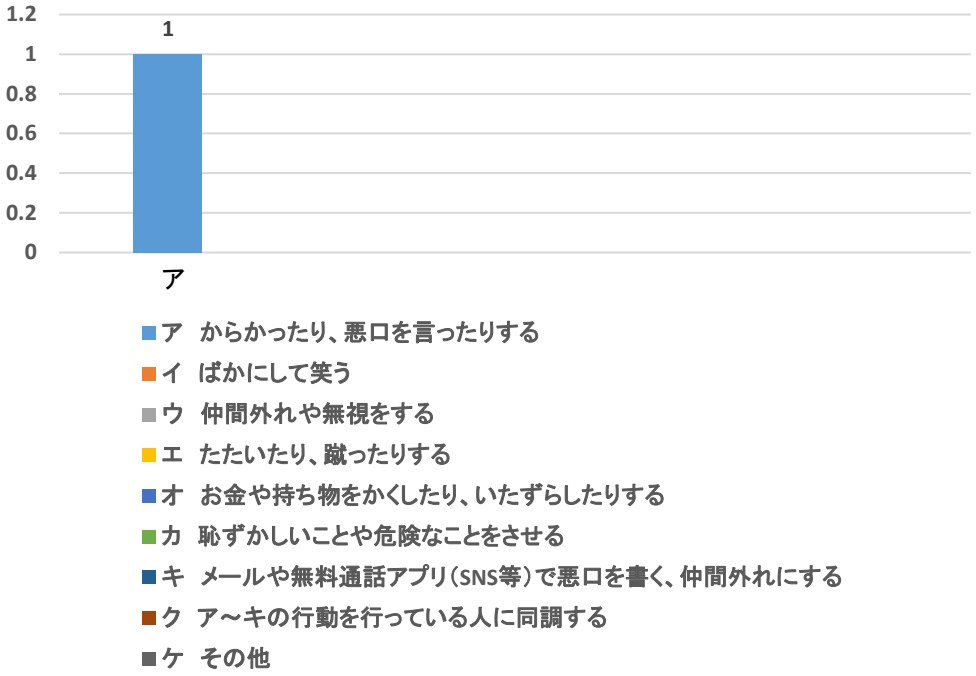
（からかったり、悪口を言ったりする・ばかにして笑う・仲間外れや無視をする・たたいたり、蹴ったりする・お金や持ち物をかくしたり、いたずらしたりする・恥ずかしいことや危険なことをさせる・メールや無料通話アプリ（SNS 等）で悪口を書く、仲間外れにする・モラル・ハラスメントを行っている人に同調する・その他のモラル・ハラスメント）

はい　1（0.2%）

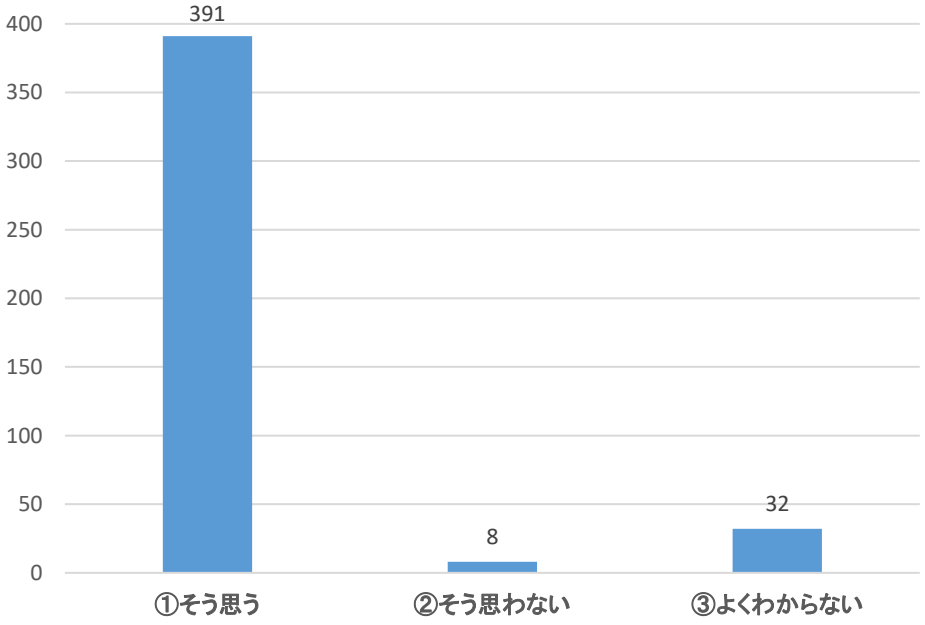
いいえ　431（99.8%）



13. 上記質問で「①はい」と答えた方にお聞きします。どのようなことをしましたか。以下のア～ケの中から該当する項目を全て選択してください。



14. あなたはモラル・ハラスメントで苦しんだり、悩んだりして心が傷つくことはどのような理由があっても許されないことだと思いますか



15. 他に何か相談したいことがあれば、自由に入力してください。（自由記述）

【省略】

【考察】

本学の学生間における、モラル・ハラスメント（以下、ハラスメント）の現状を把握することを目的として調査を実施し現状を把握することができた。

回答率は 70%であり、特に回答数が少なかったのは、看護学科 3 年生、4 年生だった。両学年とも学外実習中であったことが影響したと考える。

設問項目 4～7 は、ハラスメントを受けたことが「ある」と回答した 13 名に対する設問である。どのようなことをされたかについては、「仲間外れや無視をされた」、「からかわれたり、悪口を言われたりした」と回答した学生が多かった。現在の状況については「今はされていない」と 7 名が回答していたが、8 名は「今も常習的にされている」、「行われている内容がエスカレートしている」、「行っている学生が増えている」と回答していた。深刻度については、「とても深刻」、「やや深刻」と 7 名が回答していた。設問項目 8～11 は、嫌な思いをしているのを見たり、聞いたりしたことが「ある」と回答した 17 名に対する設問である。誰かに相談しようと思ったかについては、「はい」と回答したのは 6 名だった。相談した相手は「友人・家族」が 4 名、「教員」「その他」が各 1 名だった。相談しようと思わなかった 11 名の理由は、「相談先や改善方法などが見いだせなかった」が 6 名で一番多く、「自分もハラスメントを受けると思った」が 1 名であった。また、嫌な思いをしている学生の状況について聞いたところ、「今年度に入ってからは見聞きしていない」が 5 名、「今も常習的に行われている」が 2 名で、「その他」2 名は「1 度聞いたきり聞いていない。わからない」と回答していた。設問項目 13 は、特定の学生に対してハラスメントを行ったことが「ある」と回答した 1 名に対する設問である。どのようなことをしたかについては「からかったり、悪口を言ったりする」と回答していた。設問項目 14 ハラスメントはどのような理由があっても許されない事だと思うかについて、約 90%の学生は「そう思う」と回答していたが、「そう思わない」8 名、「よくわからない」と 32 名が回答していた。

入学時に、ハラスメント防止のための講演会を実施し、各学期のガイダンス時には、ハラスメントガイドラインの配布、ハラスメントの相談先や相談員、目安箱の周知、学内に掲示を行ってきたが、相談に結びついていない学生の存在も明らかになった。今回の結果を学生、教職員に周知することで注意喚起し、今後も普及啓発を継続していくが、啓発方法などについてさらに検討していく必要がある。

2022 年度人権擁護委員会ハラスメント防止セミナー
~充実した学生生活を送るためには~　アンケート結果

・開　催　日 時：　2022 年 4 月 14 日（木）9：30～10：40
・場　　所：　4 号館 4308 多目的室（看護学科）・4 号館 4304 講義室（栄養学科）
・講　　師：　学生相談室　臨床心理士　屋嘉比　瑞穂氏
・出　席　率：　80.8%（167 名中 135 名）
・調査対象者　：　看護・栄養学科新入生　135 名
・アンケート回収率：　60.7%（135 名中　82 名）

1.　学科

2．今回の講演で一番学びになったことはなんでしょう？（自由記述）

【省略】

3．これまで、ハラスメントと感じるようなことを受けたことがありますか？

4．あると答えた方はその内容を差し支えのない範囲で書いてください。（自由記述）

【省略】

5．これまで知らずにハラスメントをしていたのではないかと思うことはありますか？

ある　6 名　（7.3%）

ない　76 名　（92.7%）

6．あると答えた方、その内容を差し支えのない範囲で書いてください。（自由記述）

【省略】

7．ハラスメントのない大学のためにあなたが出来る事は何があるでしょう？（自由記述）

【省略】

8．その他　感想等を自由にお書きください。（自由記述）

【省略】

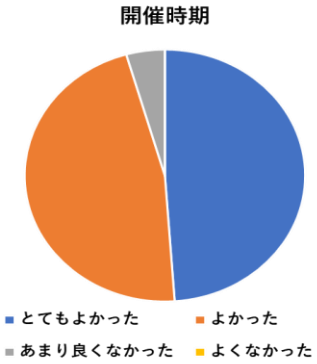
2022 年度　人権擁護委員会　ハラスメント防止研修会
～尊重しあえる人間関係を築くために～　アンケート結果

・開 催 日 時：2023 年 2 月 8 日（水）13：30～14：30
・場　　所：5 号館 3 階　5314 講義室（対面）
・講　　師：学生相談室　公認心理師　菅原　彩　氏
・出　席　率：67.1%（73 名中 49 名）
・調査対象者：本学教職員　49 名
・アンケート回収率：91.8%（49 名中 45 名）

1. 本日の研修をどのようにお感じになったのかお尋ねします

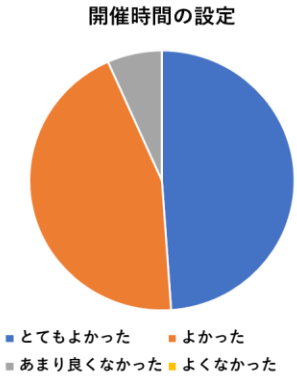
① 開催時期について

とてもよかった	：22 名（48.9%）
よかった	：21 名（46.7%）
あまり良くなかった	： 2 名（ 4.4%）
よくなかった	： 0 名



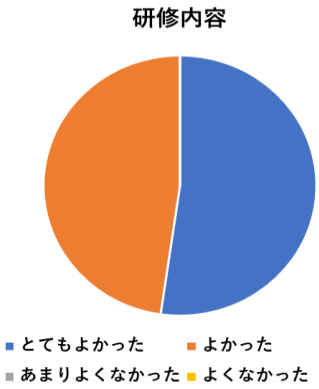
②時間の設定について

とてもよかった	：22 名（48.9%）
よかった	：20 名（44.4%）
あまりよくなかった	： 3 名（ 6.7%）
よくなかった	： 0 名



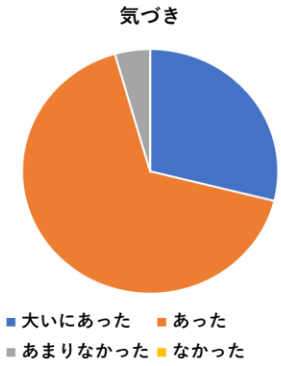
③研修内容について

とてもよかった	：23 名（51.1%）
よかった	：21 名（46.7%）
あまりよくなかった	： 0 名
よくなかった	： 0 名



2. 研修を通してご自身について何らかの気づきがありましたか？

大いにあった	：13 名（28.9%）
あった	：30 名（66.7%）
あまりなかった	： 2 名（ 4.4%）
なかった	： 0 名



3. 気づきがあった方、その内容をお聞かせください。（自由記述）

【省略】

2022 年度　委員会等活動報告書

委員会等	研究倫理委員会
作 成 者	千葉　仁志

項　　目	内　　容
【前年度】 次年度への 課題・改善方策 (Problem)	1）委員会は、審査日程に遅れが生じない管理システムを構築・稼働させて、迅速な審査の維持に努める。 2）コロナ禍が続くため、講演会・説明会等が開催されない場合を想定して、Web 開催情報を確認し、情報の共有を図っていく。 3）3 年に一度の研修の計画を、遠隔も想定して立てる。倫理審査の基準が変更となる場合には、速やかに新情報の発信を行うこととする。

項　　目	内　　容
今年度の活動計画 （目標・課題） (Plan)	1）提出された申請書について、研究倫理要項などに基づいて適切に審査を行う。 2）外部団体などが主催する研究倫理に関する講演・説明会などに参加をして情報収集を行う。 3）学部全体の研究倫理向上を目的に学内の講習会などを開催する。
活　動　内　容 (Do)	1）提出された申請は合計 10 件で、うち 1 件は迅速審査とした。提出から最初の審査結果通知までに要した期間は、通常審査で 10～28 日、迅速審査で 2 日であった。その他に、1 件は「倫理審査の必要ない研究」と判断した。審査した 10 件は最終的に全て承認された。 2）研究倫理 e ラーニングコース [eL CoRE]の団体申込を行い、全教員と関連する業務担当の職員の受講が可能になった。年度内に受講と修了証書の提出を教職員に通知した（10 月、1 月）。その他の講習会は、新型コロナ感染拡大の影響で実施しなかった。 3）今年度の新任教員に対して、昨年度の研修会ビデオを見て、研究倫理研修会質問票を提出することで研究倫理番号の発行がされ、審査の申請書を提出できるようになった。
活動内容の評価 (Check)	1）審査は迅速に行われた。審査を行う必要がないと委員長が判断した申請については、委員長からその旨を申請者に通知して迅速化に役だった。 2）研究倫理 e ラーニングコースの受講者は 2022 年 3 月 16 日現在で 59 名登録中 40 名受講（68%）である。 3）対象となった今年度の新任者すべてが、研修のビデオを見て研究協力者の人権の保護、インフォームド・コンセントなどの手法を習得できた。
次 年 度 へ の 課題・改善方策 (Action)	1）審査を行う必要の判断を委員長が行うことで、審査の無駄を省くことができたと考える。 2）審査の必要がないと判断する条件をまとめ、本学の研究倫理規定に反映させ、研究者自身が判断できるようにする。 3）栄養学科の卒業研究の研究倫理審査の手順をまとめ、本学の研究倫理規定に反映させる。

2022 年度　委員会等活動報告書

委員会等	教務委員会
作 成 者	木津　由美子

項　　目	内　　容
【前年度】 次年度への 課題・改善方策 (Problem)	1）教育課程編成及び実施の方針に基づき、教育課程を円滑に運用し、学生の成長を促す。 （1）各種ガイダンスの日程・内容の検討と確実な実施（①新入生ガイダンス、②在学生ガイダンス、③試験ガイダンス、④公衆衛生看護学履修希望者ガイダンスに関するガイダンス） （2）履修支援 ① 学生の履修登録、出欠席、試験に関する指導 ② 新型コロナウイルス感染症対策時におけるスムーズな時間割の変更・調整の実施 ③ 本学の教育理念、カリキュラム等の情報を提供し、常勤・非常勤講師が情報交換・交流を図る。 2）退学、休学、留年等の学生の実態分析を行い、改善対策の検討 3）学生が快適な環境で学修できるための環境づくり 4）教務委員・教員としての能力向上及び教務に関する情報収集を行う。 5）看護学科の 2022 年度新カリキュラムの適切な運用の実施。 6）対面授業・遠隔授業時の確実な出席管理の実施と履修申請手続きに関するシステム化についての情報収集及び必要時、意見を伝える。 7）教務上必要な規程等の整備を行う（科目等履修生に関する規程、試験監督要領、合理的配慮が必要な学生への対応など）。

項　　目	内　　容
今年度の活動計画 （目標・課題） (Plan)	1）教育課程編成及び実施の方針に基づき、教育課程を円滑に運用し、学生の成長を促す。 （1）各種ガイダンスの日程・内容の検討と確実な実施（①新入生ガイダンス、②在学生ガイダンス、③試験ガイダンス、④公衆衛生看護学履修希望者ガイダンス） （2）履修支援 ① 学生の履修登録、出欠席、試験に関する指導 ② 新型コロナウイルス感染症対策時におけるスムーズな時間割の変更・調整の実施 ③ 本学の教育理念、カリキュラム等の情報を提供し、常勤・非常勤講師が情報交換・交流を図る。 2）退学、休学、留年等の学生の実態分析を行い、改善対策を検討 3）学生が快適な環境で学修するための環境づくり 4）教務委員・教員としての能力向上及び教務に関する情報収集を行う。 5）2022 年度に開始となる看護学科新カリキュラムを適切に運用する。 6）対面授業・遠隔授業時の確実な出席管理の実施と履修申請手続きに関するシステム化についての情報収集及び必要時、意見を伝える。 7）教学に係る必要な規程等の整備を行う（科目等履修生に関する規程、試験監督要領、合理的配慮が必要な学生への対応など）。
活　動　内　容 (Do)	1）以下の活動を行った。 （1）ガイダンスの実施 ① 新入生ガイダンスは、新入生及び栄養学科編入 3 年生を対象として 5 日間のスケジュールで実施した。昨年度同様、新型コロナウイ

	ルス感染拡大防止の観点から、新入生歓迎行事は中止し、学友会による説明を短縮したプログラムとした。教務ガイダンスにおいては、学事暦、時間割の見方、教育課程の概要、履修方法、定期試験と成績評価、単位取得、取得可能な資格等、1 年生に必要な事項を説明した。またシラバスの記載内容を確認し、シラバスの活用及び SharePoint や Teams により必要な情報を得ることの重要性を強調した。 ② 全学年において前後期で在学生ガイダンスを行った。進級に伴い、説明内容を精査し、学年によっては授業と並行して実施した。 ③ 試験ガイダンスは、1 年生は前後期、2 年生は前期のみ実施した。必修科目の授業終了後に実施し、新型コロナウイルス関連の欠席者にはオンデマンドで確認するよう指示した。受験心得と追再試験手続きに関する資料を配布し変更点を中心に説明を行った。 ④ 公衆衛生看護学履修に関しては、新入生ガイダンス時に実施した他、2 年生には、在学生ガイダンスと後期定期試験終了時の学年担任ガイダンスにおいて説明を行った。3 年生に対しては前期ガイダンス時に、保健師国家試験受験資格取得希望学生に対し申請に必要な書類を配付した。公衆衛生看護学履修生審査会は内規に基づき、教務委員長、公衆衛生看護学担当教員、学年担任を構成員として設置。1 次審査（4 月 14 日）、2 次審査（5 月 23 日）後に公衆衛生看護学履修生審査会を開催し、2022 年度の履修生を選抜し教務委員会で審議決定した。 （２）履修支援 ① 学生は履修登録期間に 1 年間の履修登録を行い、その後、確認期間を設けた。例年どおり後期には、学修状況を踏まえて履修変更できる期間を設けた。 教務ガイダンスの翌日から看護学科は 1 年生、栄養学科は 1～3 年生及び編入生を対象に履修相談を設け、教務委員、学年担任が相談に応じた。履修に関しては、学修全体を捉えることが重要であることから、4 年間の履修スケジュール表を配布し、個別の指導は学年担任の協力を得て実施した。 出欠席については感染拡大に伴い、新型コロナウイルス感染症に関連する理由で欠席する学生が増加し、教員は補講対応に追われた。新型コロナウイルス感染症による欠席を免罪符のように利用する学生も見受けられたため、欠席の扱いを 11 月より厳しく変更。「大学が認める特段の理由による欠席」は、新型コロナウイルス陽性者や濃厚接触者、受診や検査を実施した学生に限定することとした。 試験に関する指導については 2 点の変更を行った。1 点目は、昨年度の問題解答用紙持出し事案を踏まえ、解答用紙の持出しを不正行為として試験監督要領を改正。ガイダンスや試験時に周知徹底した。2 点目は、試験中の退出時間を試験開始 30 分経過後から終了 5 分前までとし、試験終了時の解答用紙回収と退出学生の対応が重複することによる混乱を回避する変更を行った。前期試験において問題は生じなかったが、後期試験において過失による「解答用紙持出し事案」が 2 件発生した。 ② 時間割については日割時間割を運用したが、教員の日々の予定に合わせて編成する日割時間割において、前期 46 件、後期 43 件という非常に多くの授業変更が生じる結果となった（新型コロナウイルス感染症関連の変更を除く）。なお、コロナ禍ではあったが、原則、すべて対面授業とした。 ③ 例年 3 月に非常勤講師会を開催し、本学の教育理念・カリキュラム等の情報提供し、専任教員及び非常勤講師が情報交換・交流を図っていたが、コロナ禍であることに加え、ここ数年の参加者が限られ

	ている状況から、非常勤講師会を中止し、代わりに非常勤講師を対象に授業に関するアンケート調査を実施した。早急に対応が必要なものについては対応策を検討し改善を図る予定である。また、2023年度からは、日常的に専任教員と非常勤講師が学生や授業等について情報共有を図る体制を整備することを目的に、「非常勤講師連絡担当教員」を配置することとし、申し合わせを策定した。 ２）開学時からの学生の休学、留年、退学、除籍のデータをまとめた。 ３）新型コロナウイルス感染拡大防止策として、授業の使用教室を学科学年ごとに固定し前期は座席指定とした。後期は学生の要望に応じ自由席とした。(座席に貼ったQRコードシールを学生がスマホで読取ることで座席を登録。必要に応じ、濃厚接触者を明確にできる方式) ４）コロナ禍のため教務関連の研修参加はなかったが、試験規程や試験監督要領の変更、授業欠席等について、継続して他大学から情報収集を行った。 ５）看護学科新カリキュラムが運用開始となり、復学者及び不合格者に備え、カリキュラム専門部会において新旧カリキュラム読替表を作成し、教務委員会において決定。履修指導の際に活用を開始した。 ６）出席管理においては、感染症による欠席(新型コロナウイルス感染症・インフルエンザ)は、学務課へ連絡の義務化を徹底した。また学務課では、感染症関連の欠席を教員と共有するために共有フォルダ等を整備した。 ７）試験規程（途中退出時間の変更）及び試験監督要領（途中退出時間の変更と「解答用紙持ち出し」を不正行為として規定）の改正、新型コロナウイルス感染症に係る授業欠席の取扱いに係る変更を行った。
活動内容の評価 (Check)	１）に関わる活動内容の評価は以下のとおりである。 （１）ガイダンスの実施 ① 新入生ガイダンスは学修支援だけでなく、学生生活支援事項を広く伝え、在学生と交流する機会を設定する目的で2021年度より1日増やした5日間で実施していたが、新入生には授業も始まっていない中ではイメージしにくい内容があり、5日間の説明すべてを理解・把握することは難しい。そのため、新入生ガイダンスの内容を精査し、各学科と連携を図り効果的に実施する必要がある。そのため内容を入学時に必要な項目とし2023年度は3日間に変更する。 ② 前後期の在学生ガイダンスは、履修計画の見直し等、学修の取組姿勢を新たにする学生にとっては大切な機会である。今年度は、説明内容を精査して実施し、欠席者対応として学生への事前掲示をし、欠席時は学担教員へ報告するようにした結果、新型コロナウイルス感染症関連での欠席者はいたが、証明が必要なため自己都合の欠席と区別することができた。次年度以降もガイダンスは全員参加であることを学生周知し欠席する場合の報告を継続する。 ③ 試験ガイダンスは、前期は1･2年生に、後期は1年生のみに必修科目の授業終了後に実施し、多くの学生を対象に実施できた。次年度も必修科目の授業終了後の実施を継続する。 ④ 看護学科 3 年生への公衆衛生看護学履修生の審査及び決定は、例年どおりに実施することができた。GPA概ね2.5以上の応募条件に、25名の応募があり、20名を基準にそって適切に選抜することができた。しかし、今年度も3年生の1名の履修取りやめがあった。今後途中での履修取りやめがないように、選考時点で学修量の多さ等、学生が負担と感じる事項について丁寧に説明を行い、学修状況を具体的にイメージさせる工夫など課題が明確になった。 （２）履修支援 ① 例年発生している履修登録漏れについて、今年度は見られなかった。学生が主体的に自身の履修を管理できるよう、学年担任と連携を図りながら支援を継続する。また、現在実施している履修相談(看

	護1年生、栄養全学年）を継続して実施する。 欠席扱いを 11 月より厳しく変更した結果、自己都合で欠席する学生と新型コロナウイルス感染症関連で欠席する学生の振り分けが明確となり、教員の補講対象学生を把握しやすくなった。新型コロナウイルス感染症関連に関する理由による欠席を免罪符として利用することを防ぐことにもつながった。試験に関する指導を実施したが、後期試験時に解答用紙持ち出し事案が 2 件発生したことは、試験関連の規程や要領の変更を改正したが、本学の学生の実情に合っていないなどの意見もあり、議論が不十分な部分がある。次年度早急に検討を進める必要がある。 ② 今年度まで運用してきた日割時間割での授業変更状況(新型コロナウイルス感染症や爆破予告・悪天候などの事情は除く）は、前期が46 回以上、後期が 43 回以上あり、変更内容は教員側での変更が多かったことが明らかになった。この状況では、授業の実施・変更が煩雑で学生の計画的な学修活動の実現が難しい。そのため学科と連携して検討を重ね、2023 年度以降は、年度当初に学生が年間の学修計画を立案できるよう週割時間割を運用し、学生の大学生活環境を整えていく。 ③ 今年度はコロナ禍を理由に非常勤講師会を取りやめ､非常勤講師対象のアンケート調査を実施した結果、次年度に向けての意見を集約でき効果的であった。早急に対応が必要なものについては対応策を検討し改善を図る予定であり、次年度もアンケート調査を継続し非常勤講師からの本学の授業に対する意見集約を継続していく。なお、2023 年度からは、専任教員と非常勤講師が日常的に学生及び授業方法等について情報共有を図る体制を整備する目的で、個々の非常勤講師に連絡担当教員を配置することとした。次年度 3 月に評価する予定である。 ２）開学時からの学生の休学、留年、退学、除籍のデータをまとめ分析した結果、学修についていけず退学や休学する学生が増えている実態が明確になった（別紙資料参照)。今後学業成績不振を理由に休退学をする学生に対応するため、学修について相談できるサポートサロンについて、2023 年度から検討を行うこととした。 ３）新型コロナウイルス感染拡大防止策として、教室及び座席（十分なスペースを確保）の対応をしたことは、学内クラスター発生もなく感染拡大防止策として有効であった。後期の自由席に登録をする方法に変更した当初は、学生の読取り（登録）状況が悪かったが、授業開始前に教員から登録の注意喚起をすることで登録状況は改善された。今後、新型コロナウイルス感染症は、2 類相当から 5 類へ変更となることから危機管理委員会の感染対策を踏まえて教室や座席の対応を引き続き行う。また、学修環境に関する学生からの意見・要望等について、適宜、改善を図っていく。 ４）コロナ禍のため教務関連の研修参加の機会はなかったが、次年度は新型コロナウイルス感染状況に応じ必要な教務関連の参加を行う。また教務関連の事項について、積極的に他大学から情報収集を行うことは必要かつ有効であったことから、今後も継続していく。 ５）両学科において新カリキュラムが運用開始となり、不合格者（再履修者）及び復学者への履修指導は、作成した新旧カリキュラム読替表に基づき、学年担任及び科目担当教員と連携し、学生個別に実施できた。今後も読替表を用いた学生個別の履修指導を継続し、学生の円滑な履修に向けた指導に努める。 ６）出欠席については、学務課への義務化を徹底したことで、新型コロナウイルス感染症関連の欠席であるか、自己都合の欠席なのか整理され、教員と学生の欠席状況を共有することができた。 また、学園法人本部が 2023 年度後期に向け、新たに教務事務システ

	ムの導入を決定したことにより今後、学生及び教員へ説明するとともにトライアルを実施する予定である。新システムの導入により、学生は自分の出席状況をスマートフォンで確認できるようになることから、出欠席の自己管理の徹底についても引き続き指導していく。 7）出欠席は新型コロナウイルス感染症関連で欠席をする場合の連絡方法を明確にし、学生に周知徹底を図ったことは、新型コロナウイルス感染症関連の欠席を免罪符のように学生が利用することはなくなり効果的であった。さらに 2023 年度からは、履修規程に定めるとおり運用することを決定し改善を図る。在学生にとっては、「大学が認める特段の理由による欠席」であっても「欠席扱い」となる変更となるため、ガイダンスで周知徹底する予定である。 試験の途中退室時間の変更や「解答用紙持出し」を不正行為と規定し、試験関連の規程や要領の変更を改正したが、本学の学生の実情に合っていないなどの意見もあり、議論が不十分な部分がある。次年度さらに学生の実態を踏まえて検討を重ね、試験関連の規程等の見直しを図る必要がある。今後教務に関わる規程等（進級要件・合理的配慮が必要な学生の対応他）で検討を行い改正が必要なものについては適宜、改正に向けた検討を進める。
次年度への課題・改善方策（Action）	1）教育課程編成及び実施の方針に基づき、適切に教育課程を運用するとともに、教務事項について円滑な遂行と改善を図る。 （1）各種ガイダンスの日程・内容の検討と確実な実施 （2）履修支援 ① 学生の履修登録、出欠席、試験に関する指導 ② 本学の教育理念、カリキュラム等の情報を提供し、常勤・非常勤講師が情報交換・交流を図る。 2）退学、休学、留年等の学生の実態分析を行い、改善対策の検討 3）学生が快適な環境で学修できるための環境づくり 4）教務委員として円滑に役割を遂行するため、能力向上を図るとともに教学事項に関する情報収集を行う。 5）カリキュラム移行期における円滑な履修指導 6）新たな教務事務システムの円滑な運用準備と運用 7）教務上必要な規程等の整備を行う（進級要件、試験監督要領、合理的配慮が必要な学生への対応等）。

入学年度別　休退学者等の状況

看護学科　休退学者等の状況

	入学者	標準修業年限卒業者	5年以上要し卒業	退学者	除籍者	在籍中（うち休学者）
2013年度入学	106	97	3	6	0	
2014年度入学	105	83	11	9	2	
2015年度入学	103	93	5	5	0	
2016年度入学	109	92	8	5	1	
2017年度入学	106	89	7	8	1	1 （1）
2018年度入学	123	101	9	11	0	2 （0）
2019年度入学	104	91	—	5	—	8 （1）
2020年度入学	108	—	—	4	—	104 （2）
2021年度入学	106	—	—	1	—	105 （1）
2022年度入学	111	—	—	2	—	109 （1）

	退学率	休学率
2013年度入学	5.7%	1.9%
2014年度入学	8.6%	3.8%
2015年度入学	4.9%	1.0%
2016年度入学	4.6%	2.8%
2017年度入学	7.5%	4.7%
2018年度入学	8.9%	8.1%
2019年度入学	4.8%	3.8%
2020年度入学	3.7%	5.6%
2021年度入学	0.9%	0.9%
2022年度入学	1.8%	0.9%

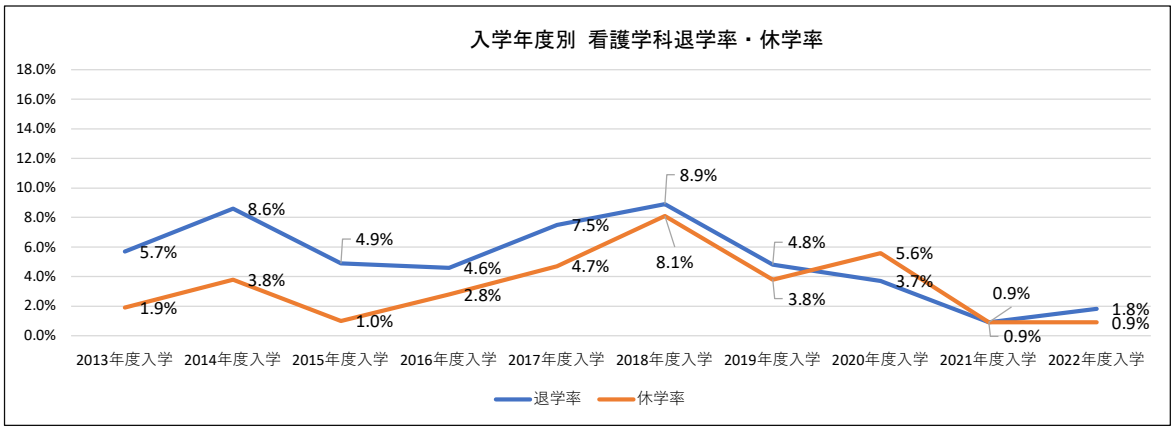
栄養学科　休退学者等の状況

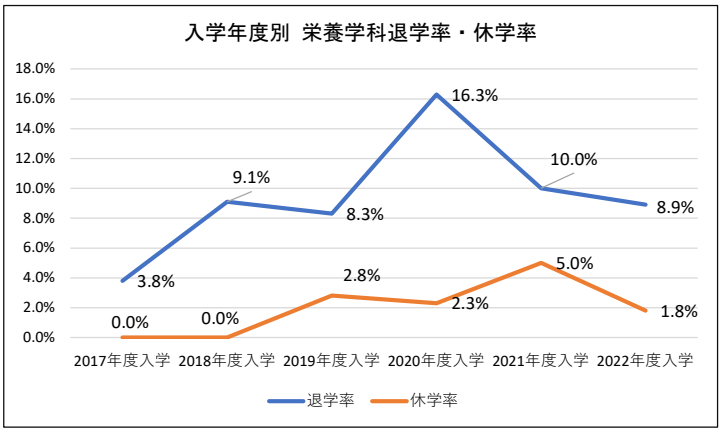
	入学者	標準修業年限卒業者	5年以上要し卒業	退学者	除籍者	在籍中（うち休学者）
2017年度入学	26	24	0	1	1	
2018年度入学	22	19	1	2	0	
2019年度入学	36	31	—	3	—	2 （0）
2020年度入学	43	—	—	7	—	37 （0）
2021年度入学	60	—	—	6	—	54 （2）
2022年度入学	56	—	—	5	—	51 （1）

	退学率	休学率
2017年度入学	3.8%	0.0%
2018年度入学	9.1%	0.0%
2019年度入学	8.3%	2.8%
2020年度入学	16.3%	2.3%
2021年度入学	10.0%	5.0%
2022年度入学	8.9%	1.8%

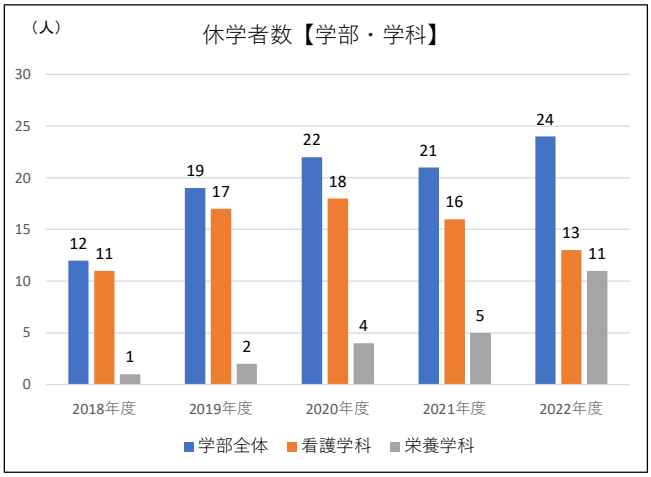
栄養学科（編入生）休退学者等の状況

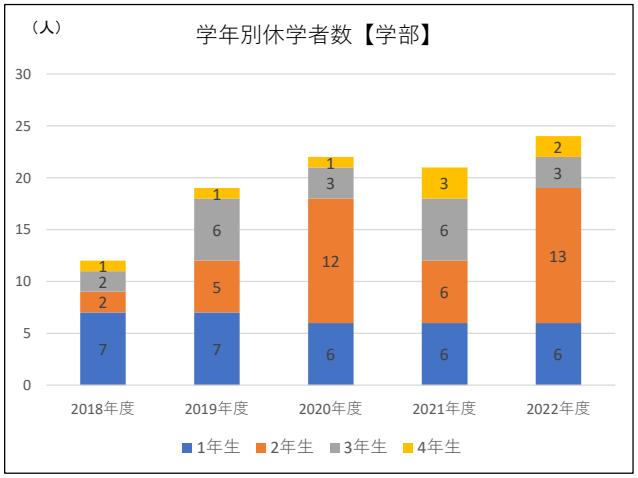
	入学者	2年での卒業者	2年以上要し卒業	退学者	除籍者	在籍中（うち休学者）
2019年度入学	4	4	0	0	0	
2020年度入学	2	2	0	0	0	
2021年度入学	5	4	—	—	—	1 （1）
2022年度入学	4	—	—	—	—	4

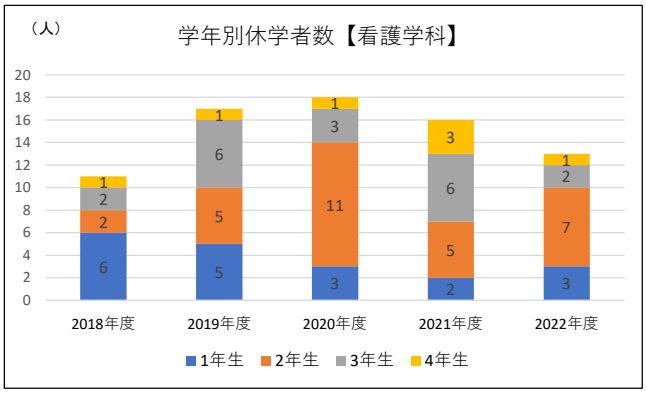


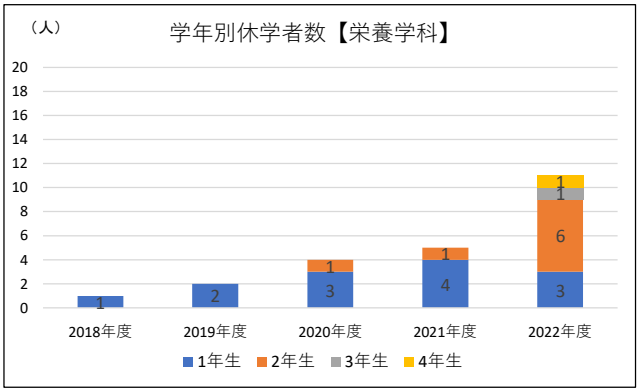


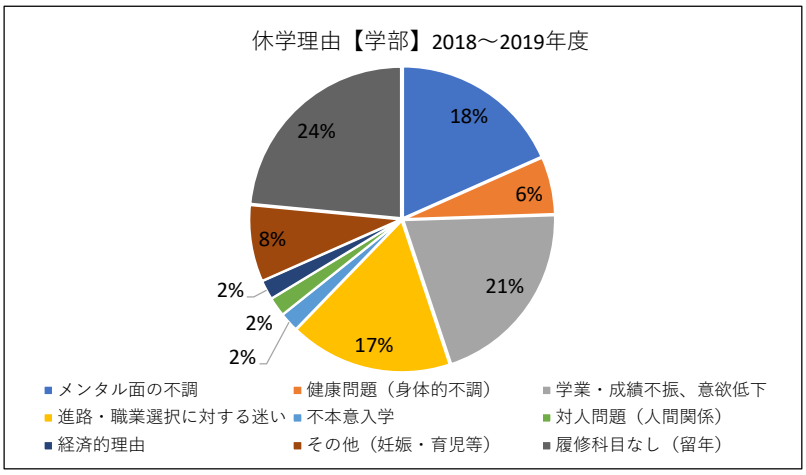
休学者について

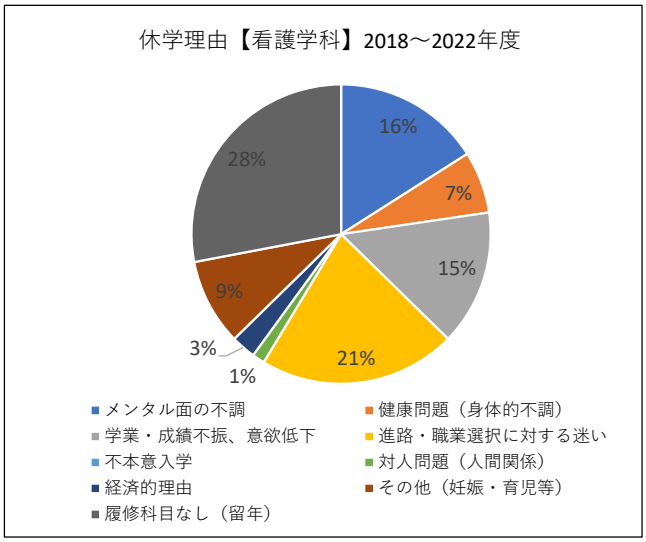

（人）
休学者数【学部・学科】
30
25
20
15
10
5
0
12
11
1
19
17
2
22
18
4
21
16
5
24
13
11
2018年度
2019年度
2020年度
2021年度
2022年度
学部全体
看護学科
栄養学科

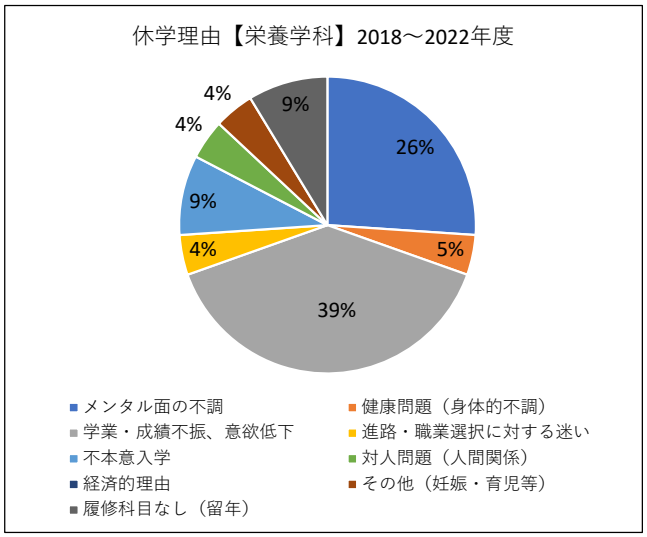

（人）
学年別休学者数【学部】
30
25
20
15
10
5
0
7
2
2
1
7
5
6
1
6
12
3
1
6
6
3
6
13
3
2018年度
2019年度
2020年度
2021年度
2022年度
1年生
2年生
3年生
4年生


（人）
学年別休学者数【看護学科】
20
18
16
14
12
10
8
6
4
2
0
6
2
2
1
5
5
6
1
3
11
3
1
2
5
6
3
3
7
2
1
2018年度
2019年度
2020年度
2021年度
2022年度
1年生
2年生
3年生
4年生


（人）
学年別休学者数【栄養学科】
20
18
16
14
12
10
8
6
4
2
0
1
2
3
1
4
1
3
1
1
6
3
2018年度
2019年度
2020年度
2021年度
2022年度
1年生
2年生
3年生
4年生


休学理由【学部】2018～2019年度
18%
6%
21%
17%
2%
2%
2%
8%
24%
メンタル面の不調
健康問題（身体的不調）
学業・成績不振、意欲低下
進路・職業選択に対する迷い
不本意入学
対人問題（人間関係）
経済的理由
その他（妊娠・育児等）
履修科目なし（留年）


休学理由【看護学科】2018～2022年度
16%
7%
15%
21%
1%
3%
9%
28%
メンタル面の不調
健康問題（身体的不調）
学業・成績不振、意欲低下
進路・職業選択に対する迷い
不本意入学
対人問題（人間関係）
経済的理由
その他（妊娠・育児等）
履修科目なし（留年）


休学理由【栄養学科】2018～2022年度
26%
5%
39%
4%
9%
4%
4%
9%
メンタル面の不調
健康問題（身体的不調）
学業・成績不振、意欲低下
進路・職業選択に対する迷い
不本意入学
対人問題（人間関係）
経済的理由
その他（妊娠・育児等）
履修科目なし（留年）

2022 年度　委員会等活動報告書

委員会等	学生委員会
作 成 者	千葉　昌樹

項　　目	内　　容
【前年度】 次年度への 課題・改善方策 (Problem)	1）学友会の活動・課外活動実施の支援 2021 年度は新型コロナウイルス感染拡大が続く影響下で、活動がほぼ止まっている状況である。2022 年度はこれらの活動の再スタートに向けて準備が出来るように支援する。特に執行部については、新入生の入会を増やして、上学年の学生が下学年の学生に向けて、次世代へと引き継ぐ形の基礎を築く。サークル活動に関しては、ほとんどのサークルが仕切り直しでゼロからスタートになることから、サークルとしての形が整うようにする。体育大会は、例年と時期をずらして感染予防対策を講じたうえで実施を考えるが、実施の際は、人数を分散するなどの工夫を行い、感染拡大の状況に応じて柔軟に対応する。また、大学祭については、対面とオンラインのハイブリッド開催を考える。 学生相談室については、遠隔相談も併せた形で行い、実施状況等を分析して、問題点があればそのつど改善する。 2）スキルアップのための研修会参加 新型コロナウイルス感染症の状況が落ち着かない中、研修会の開催がどのような形になるか不明だが、スケジュールの許す範囲で研修会に参加できるようにする。

項　　目	内　　容
今年度の活動計画 （目標・課題） (Plan)	1）学友会活動等の各種学生支援 （1）学友会活動支援 学生主体の大学行事の企画・運営及びサークル活動等が実現できるよう指導・助言等の支援を行う。 （2）各種奨学金制度の運用 各種奨学金の周知・案内、手続き支援及び選考 （3）「学生相談室」相談体制の充実 学校医及び健康管理室、学担等との連携並びに保護者との情報共有及び連携強化に向けた方策を検討し実行する。 （4）外部講師によるセミナー（学生ガイダンス）の実施 学生の厚生補導の一環として1 年次生対象の「金融セミナー」と「防犯安全講話」を実施する。 （5）新入生オリエンテーションの実施 入学時に学生支援体制及び各種相談窓口について紹介する学生生活オリエンテーションを行う。 （6）卒業記念祝賀会の開催 学生の意向及び新型コロナウイルス感染状況を踏まえ、開催に向けた支援を行う。 （7）学生満足度調査の実施 学生生活に対する学生の満足度を把握し、その改善・解決に向けた基礎資料とすることを目的として、4 年に一度の調査を実施する。 2）学生支援担当者資質向上のための研修会参加 学生委員会委員が学生支援や学生厚生補導に関する研修会に参加し、資質向上や、他大学の優れた取組の情報収集等に努める。

活　動　内　容 （Do）	1）学友会活動等の各種学生支援 （1）学友会活動支援 ① 新入生歓迎会（4 月） 新型コロナウイルス感染予防のため中止としたが、学科毎に講義室において学友会執行部やサークル活動紹介を行った。学友会執行部として、新入生 7 名の立候補があった。 ② 学友会総会（6 月） 昨年度同様 Teams を用いた web 開催とし、昨年度の決算及び今年度の予算（案）の審議を行った。 ③ 体育大会（10 月） 新型コロナウイルス感染状況を踏まえ、5 月から 10 月に延期した上で本学体育館において３年ぶりに開催した。昨年度計画したものの中止となり実施できなかったプログラムを活用した。 ④ 大学祭（10 月） 学生の意向調査に基づき、３年ぶりのキャンパス開催とした。模擬店・展示・芸能人によるオンラインイベント等を開催し、地域住民等 300 人以上が訪れた。 ⑤ 学友会新役員（会長・副会長）選挙（12 月） 昨年同様、Teams を用いた Web 選挙とした。選挙公示・立候補者の抱負発表は Teams で発信し、投票は Teams の Forms で行った。(投票者数確保を目的に投票日を 1 日から 5 日間に拡大した。) ⑥ 卒業記念品 学友会からの記念品として、昨年度同様、ネームペンを選定した。 ⑦ サークル活動 新型コロナウイルス感染予防のため中止としていたサークル活動を 3 年ぶりに再開した。今年度は新たに、LOVE バト（ﾊﾞﾄﾐﾝﾄﾝ）及びフィギアスケート同好会が結成され、2 年目以降の団体（サークル）昇格に向け定期的に活動を行った。 ⑧ その他:後援会からの学友会への助成金 大学祭助成金（50 万円)、サークル活動助成金（15 万円）を受けた。 （2）各種奨学金制度の運用 ①「札幌保健医療大学学業成績優秀者給付奨学金」受給候補者を選考（5 月）し、看護学科 18 名、栄養学科 7 名に給付を決定した。 ②「札幌保健医療大学兄弟姉妹同時在学時授業料減免」受給候補者を選考（5 月）し、申請のあった 3 名を減免対象者として決定した。 ③「札幌保健医療大学給付奨学金」受給候補者を選考（7 月）し、9 名に給付を決定した。 ④「公益財団法人北海道信用金庫奨学財団 給付型奨学生」受給者を選考（9 月）し、推薦した 3 名が給付奨学生として採用された。 ⑤ 日本学生支援機構の奨学金手続き 今年度は、全て対面で手続きを進めたことから学生の理解も諮れ、昨年度より円滑にサポートすることができた。 （給付奨学金・貸与奨学金生の割合 看護学科は 57.8%、栄養学科は 63.8%）

日本学生支援機構　奨学生数

		在籍数（休学含む）	奨学生数（実人数）	給付奨学金	第一種貸与奨学金	第二種貸与奨学金
看護学科	1年	110	66	19	28	42
	2年	118	77	20	44	48
	3年	103	63	16	28	45
	4年	103	45	9	23	27
計		434	251	64	123	162
栄養学科	1年	55	41	9	21	23
	2年	57	34	16	16	23
	3年	39	24	10	13	16
	4年	37	21	5	11	12
計		188	120	40	61	74

（３）「学生相談室」相談体制の充実

① 相談室利用者の増加

昨年度は感染防止症の観点から遠隔相談が主であったが、今年度は対面相談が主となった。相談件数は、年度当初より昨年度比の約 2 倍増で推移したため、来年度は開室日を平日 4 日から 5 日体制とすることを決定し予算要求を行った。

② 「学生の健康管理スタッフ会議」の開催

学生相談室利用者増加を踏まえ、7 月からは、学校医、健康管理室及び学生相談室職員、学務課職員による定例の「学生の健康管理スタッフ会議」を開催。学校医の指導の下、要支援学生に関する情報共有及び連携強化を図る体制を整備した。

③ 「学生相談室」利用促進に向けた情報発信

相談員作成による学生向けの「学生相談室通信」と教職員向けの「学生相談室レター」をそれぞれ 3 号分発行した。

④ 他大学「学生相談室」の視察

他大学「学生相談室」の取組について、実際に視察を行い（10 月 19 日天使大学、10 月 31 日北翔大学）、来年度以降のイベントの企画・実施や情報発信の内容・方法の参考とした。

（４）外部講師によるセミナー（学生ガイダンス）の実施

新型コロナウイルス感染拡大の影響で 2 年間開催を見送った「金融セミナー」及び「防犯安全講話」について「後期ガイダンス」において 2 年生及び 3 年生を対象に実施した。

（５）新入生オリエンテーションの実施

新入生オリエンテーションにおいて、学生部長及び学務課担当者、健康管理室及び学生相談室のスタッフにより支援体制及び相談窓口について紹介した。

（６）卒業記念祝賀会の開催

3 年ぶりに卒業記念祝賀会を両学科合同で開催することとし、3 年生を中心とした実行委員会において準備を行い、開催した。

（７）「学生満足度調査」の実施

11～12 月に実施し、回答率は 78.5%であった。学生の声に対し、関係部署において改善策等をまとめ、3 月には学生に大学の対応として公表した。

２）学生支援担当者資質向上のための研修会参加

日本私大協協会「北海道支部学生生活指導研究協議会」（12 月 16 日、オンライン）に参加し、他大学の担当者と学生生活指導の課題及び解決

	のための方策について、情報交換を行った。
活動内容の評価 （Check）	1）学友会活動等の各種学生支援 （1）学友会活動 3年ぶりに大学祭及び体育大会をキャンパス開催できたことは､学友会執行部にとって大きな成果であり、来年度以降の学生の自主活動につながるものと評価している。 （2）各種奨学金制度の運用 今年度は、手続きすべてを対面支援することができ、円滑に適切にサポート対応ができた。 （3）「学生相談室」相談体制の充実 ①「学生の健康管理スタッフ会議」の開催 学校医、健康管理室看護師及び学生相談室の臨床心理士2名、学務課職員により、学校医の指導・助言の下で要支援学生に関する情報共有を行い、学生支援の連携強化及び充実が図られた。また、現場のスタッフの負担軽減につながった。 ②「学生相談室」利用促進に向けた情報発信 課題としている「学生相談室は利用しにくい。敷居が高い」という学生の声に対して、保健医療系学科を有する他大学を視察したことは非常に有意義であった。来年度以降の「学生相談室からの情報発信」につながる取組となった。 （4）外部講師によるセミナー（学生ガイダンス）の実施 新型コロナウイルス感染予防の影響で受講できていなかった 2 年～3年生を対象にセミナーを実施。受講後アンケートから 9 割以上の学生から「参考になった」との結果を得た。 （5）新入生オリエンテーションの実施 予定どおり学生支援体制について紹介した。11 月に実施した「学生満足度調査」における日々の学生生活支援（各種手続き方法、メンタルヘルス支援体制、健康面の支援体制、奨学金等の支援体制）に対する満足度は、いずれも 90%以上の高い結果となった。 （6）卒業記念祝賀会 両学科 4 年生の意向を踏まえ、看護学科 50 名、栄養学科 32 名の学生が出席。新たに、学生委員会支援の下、3 年生が祝賀会を準備するスタイルを導入できたことは､4 年生の国家試験受験環境を整える点からも持続可能な現実的な手法であると評価している。 （7）「学生満足度調査」 回答率は 78.5%（前回 平成 30 年度 45.2%）であり、特に学生の不満の声に対し、具体的な改善策・回答等をまとめ、学生に示したことで、本調査の目的を果すことができたと考える。不満足の声の中には、学修活動に関すること等、継続して対応策を検討するとしたものもあり、今後、引き続き関係部署で対応する。 2）学生支援担当者資質向上のための研修会参加 新型コロナウイルス感染予防の観点から参加は一研修会（オンライン）に留まった。次年度以降は機会を見つけて積極的に参加したい。
次年度への 課題・改善方策 （Action）	1）各種学生支援 （1）「学生相談室」相談体制の充実・強化 （2）各種奨学金制度の運用 （3）外部講師によるセミナー（学生ガイダンス）の実施 （4）新入生ガイダンスにおける学生生活ガイダンスの実施 2）学友会活動支援 （1）体育大会の企画・運営 （2）大学祭の企画・運営 （3）サークル活動の活発化 3）学生支援担当者資質向上のための研修会参加

2022 年度　委員会等活動報告書

委員会等	FD 委員会
作 成 者	濱岡　直裕

項　　目	内　　容
【前年度】 次年度への 課題・改善方策 (Problem)	1）本年度実施した FD・SD 研修会・学術セミナーは一定の成果が得られたと評価している。引き続き、様々な知見を深く学ぶ機会を作る必要性はあり、また新しい教育方法に対応することも必要である。次年度テーマは「次世代の教育を考える」として、これまでの期間で得られた経験と明らかになった課題を解決するため、FD・SD の活動を通じて新しい情報や考え方を各教職員が共有し、次の教育研究に生かすことを主眼とする。 FD・SD 研修会では、これまでの新型コロナウイルス感染症対策で得られた教育方法を踏まえて、新しい次の世代の教育方法や、それにまつわる教育活動に関する知見を、学外の様々な専門家を招いて開催するよう務める。 学術セミナーについては、これまで実施している形式を踏襲し、学内教職員間の意識の共有化を促すため、今後も看護、栄養、事務の三部門から講師を選ぶ形を維持する。互いによく知ることから学内連携につながることを目指す。 2）研修会等の参加率向上については、リアルタイム集合形式と画像配信を組み合わせる方式を活用し、オンデマンド開催より高い参加率を目指す。 3）授業評価アンケートは、教員の教育方法向上に有用であり、継続する。教育向上に向けて授業自体に対する質問事項に集約することを引き続き検討する。 4）授業評価アンケート回収率向上のために、学生への呼びかけ方、アンケート項目や、回答を得る方法について検討を重ねる。あわせて、結果の開示方法と時期について、よりよいアンケートとなるよう検討する。 5）授業見学については、依然として感染症問題が残っているため、各科目における授業の進め方を知る別の方法も検討し、改めて実施の是非を検討する。

項　　目	内　　容
今年度の活動計画 （目標・課題） (Plan)	1）今年度テーマを 「次世代の教育を考える」として、教育そのものを多方向から考え、教職員の研鑽につながる知見や手法を知ることを目標に各事業を実施する。研修会は看護・栄養の専門でない先生を講師に迎えて実施する。FD・SD 研修会は 5 回、学術セミナーは 3 回開催する。 2）研修会・学術セミナーの開催にあたっては、教職員の出席率向上を考慮して開催日時を検討する。 3）授業評価アンケートについては、今年度も継続し、各教員の積極的な取り組みや授業の質を向上する方策を検討する。 4）授業評価アンケート回収率向上のため、学生に対して授業アンケートの意味を説明し回答を促す。授業評価アンケートの集計及びフィードバック方法について、効率的な方法を検討する。 5）授業見学については、新型コロナウイルス感染症対策を考慮しながら実施の是非を検討する。

活　動　内　容 （Do）	1）委員会は通算 8 回開催した。昨年度同様、新型コロナウイルス感染症対応による教員の業務負担増のため同一時間に集合することが難しいことから、集合形式とメール形式を併用実施した。 今年度の FD・SD 研修会は、授業が原則対面方式となっていることから、集合形式で開催することを原則とし、Teams を利用して同時収録を行い欠席者に対応した。 「次世代の教育を考える」テーマに沿って、高大連携、大学での教育、教育研究活動や語学教育について、学内外の先生に講師を計 5 回お願いした。 学術セミナーは栄養、看護から講師を推薦し計 3 回開催した。例年実施している科研費セミナーは、科研費採択実績教員の講演が 2 月になったことから学術セミナーと別に実施した。 FD・SD 研修会、及び学術セミナー・科研費セミナーの概要は以下のとおりである。 （1）FD・SD 研修会 第 1 回 FD・SD 研修会 講師：飯田直弘先生（北海道大学高等教育推進機構・准教授） 講演名：「高大接続と多面的・総合的評価に基づく大学入学者選抜の課題－比較教育学の見地から」 2022 年 7 月 12 日　参加者数：66 名 第 2 回 FD・SD 研修会 講師：江本理恵先生（北海道大学高等教育推進機構・准教授） 講演名：「教育活動を振り返る －ティーチング・ポートフォリオ作成のススメ－」 2022 年 8 月 12 日　参加者数：49 名 第 3 回 FD・SD 研修会 講師：小池武嗣先生（聖隷クリストファー大学看護学部・助教） 講演名：「医療系教育のデジタルトランスフォーメーション」 2022 年 8 月 26 日　参加者数：68 名 第 4 回 FD・SD 研修会 講師：所伸一先生（本学栄養学科・元教授） 講演名：「学生の教育について―古典の教えと私の教員経験から―」 2022 年 9 月 22 日　参加者数：49 名 第 5 回 FD・SD 研修会 講師：松尾文子先生（本学看護学科・教授） 講演名：「リベラルアーツ（一般教養）としての英語 ―本学学生の英語力にふれつつ―」 2022 年 10 月 27 日　参加者数：57 名 （2）学術セミナー 第 1 回学術セミナー 講師：氏家志乃先生（本学栄養学科・准教授） 講演名：「2 型糖尿病及び耐糖能異常患者における概日リズムと疾患コントロールとの関連」 2022 年 5 月 17 日　参加者数：53 名 第 2 回学術セミナー 講師：首藤英里香先生　（本学看護学科・准教授） 講演名：「床上移動に関する援助技術の検討と技術教育への活用」 2022 年 9 月 13 日　参加者数：36 名 第 3 回学術セミナー 講師：原田由香先生（本学看護学科・准教授） 講演名：「うつ病を有する医療系大学生の修学支援について」 （科研費採択実績者の研究活動として） 2023 年 2 月 21 日　参加者数：46 名

	（３）科研費セミナー 講師：駒澤尚忠氏（本学事務局総務課課長代理） 2022 年 9 月 1 日～9 月 30 日　参加者数：53 名 ２）FD・SD 研修会と学術セミナーは、すべての回を集合形式で実施した。日程は 5 月から 10 月の間で教員ができる限り学内で勤務している日を選択して実施した。当日やむを得ずに欠席した教職員は、当日同時収録の動画視聴をもって参加とした。参加後にはアンケートを Teams 上で回答する方式とした。 ３）授業評価アンケートは、昨年度までの方法と同様に QR コードを利用したウェブ経由で収集する形式とした。また昨年度に引き続き、アンケートの質問項目や実施方法について、学修にまつわる環境に関する事項を整理し、授業そのものに対する質問事項に集約することを検討した。 授業評価アンケートの結果は、科目別・項目別平均点、経年変化グラフ、自由記載意見を集約して、科目担当教員に配布するとともに、改善点・工夫点・その他の意見を回収して、「学生の授業評価アンケート結果及び学生の授業評価に対する科目担当教員の改善点」として発行した。冊子印刷物は図書館で閲覧可能にすることとし、作業を前年度より可能な限り日程を前倒しした。 ４）授業評価アンケートの回答率を向上させるため、学期当初のガイダンスなどを通じて学生に対しアンケートの目的と意義を伝え、回答を促し、Teams を通じて授業最終回のほか、全科目終了時や定期試験前などに未回答者に回答を促すこととした。また、教員に対しては、授業の最終回の最後に学生がアンケート回答する時間を確保して戴くことをお願いした。 授業評価アンケートの集約方法は、ほぼ従前どおりとし、学生の自由記載意見の中に個人名は伏せ字に修正する方針とした。また、受講学生が 5 名以下の場合は、意見者が想像できるため、集計対象から除外することとした。 ５）授業見学は新型コロナウイルス感染症対策を考慮して、実施を見送り、あり方の是非を改めて検討した。
活動内容の評価 （Check）	１）今年度は 8 回の委員会を開催し、年度当初、中盤、年度末の 3 回を集合形式で、そのほかの回をメール議論で実施した。 FD・SD 研修会、学術セミナーについては、一昨年度以降、各教職員は新型コロナウイルス感染症の対応で業務が膨大となっている状況であったが、例年と同様に研修会や学術セミナーを開催でき、学内外からの多くの知見を知る機会を得られたことは大きな意義があったと評価できる。 ２）今年度の各研修の実施方式は、4 月より講義が対面方式となっていることを受け、原則を対面形式とした。一方で、新型コロナウイルス感染症の罹患または疑いのため欠席する教職員などに配慮するため、Teams を用いて同時配信し、さらに録画対応した。事務局の負担は煩雑になったが、できるだけ多くの教職員が参加できる対応ができたことは評価できるものと考える。参加率はおおむね 60～90%であり、ほぼ良好であったと考えられた。 開催日程については、臨地実習で多くの教員が学外で勤務する期間を考慮しつつ、多くの教職員が参加できることと年末以降の繁忙期にしないことを前提に設定した。この結果、昨年と同じ回数の研修事業を行うには、春から秋口にかけて毎月 1 回に加え、前期授業終了後から後期授業開始前の 8 月と 9 月には 2 回ずつ開催することとなった。このことについては、教職員から改善提案があり、今後の開催時期設定については開催回数の議論とともに検討が必要である。 このほか、教職員の中には出席任意の講演会と混同しているケースが見られたことから、今後、この研修事業の意図や意義と、全員の出席を前提としている職場研修会として開催していることについて、啓蒙する

	必要があると考えられた。 　参加率の向上と、開催時期・開催回数については、互いにリンクしていることが想定されることから、今後の開催については事業の選択と集中を念頭に再構築することが必要である。 ３）授業評価アンケートは、各講義の最終回に回答案内を配布し、Teams の各科目ページにリンクを貼り、定期試験日程の発表などの学務課が学生に向けに発信する際にも回答を促した。集計については、編集の負担を軽減するため、紙面構成を一部変更し作業量を減らした結果、最終版の完成までスムーズに進むことができたと評価した。 ４）授業評価アンケートは、事務局の作業は煩雑になったものの、学生に対して幾度と呼びかけすることで回答率の向上をめざした結果、例年並みの回答率は維持できた。しかし、こういった取り組みを行っても後期の回答率は前期に比べて低く、今後の改善課題と考えられた。この授業評価アンケートは形骸化しがちであり、学生の慣れや飽きも感じられる一方、学生が教員を誹謗中傷する場となる傾向がみられ、授業を向上する本来の目的から離れているように見受けられる。回収率の低迷や誹謗中傷問題は、無記名式で出欠と連動させない方式の限界とも考えられ、今後は内容や方式のほか、あり方についての検討が必要であると考えられた。授業評価アンケートのフィードバック方法で検討課題であったウェブ上での公表は、十分に検討することができず、次年度に継続検討する課題となった。 ５）授業見学は、本年度は実施しなかったが、研修会の実施回数の調整によって再び実施することも良い方策として今後の検討課題とした。
次年度への課題・改善方策（Action）	１）研修会や学術セミナーを通じて種々の方向から知見を深く学ぶ機会を作る必要性はあり、また学科内の課題や教員の専門分野を知る機会に対応することも必要である。次年度のテーマは「さまざまな課題への相互理解を高める」として、FD・SD の活動を通じて各学科や職位ごとに抱える課題について情報や考え方を各教職員が共有し、相互に理解し次の教育研究に生かすことを主眼とする。 　FD・SD 研修会では、教育や評価などに関する全体研修のほか、学科ごとに分科会としてそれぞれの課題に対応し、また職位別や経験別にセミナー開催するなど、各教職員の負担量が過度にならないよう制御し効率的に開催するよう務める。 　学術セミナーについては、これまで実施している形式を踏襲し、研究に尽力されている教員を選任し、学内教職員間の意識の共有化を促す講師を選ぶ形を維持する。 ２）研修会等の参加率向上については、引き続き検討課題であるが、研修会に参加する意義を啓蒙する一方で、他の委員会が開催する研修事業との連携や共催を積極的に行い、効率的な開催を目指す。 ３）授業評価アンケートは、教員の教育方法向上に有用であり、継続する。その一方で、本来の目的である教員の授業運営向上にこれまで以上に役立てられるものとするために、アンケートの方法やあり方を検討する。 ４）授業評価アンケート回収率向上は、年度当初に学生に意義を周知すること、回答を呼びかけるタイミングと、その回数などを引き続き検討し、実施する。あわせて、結果の公表方法と時期についても検討する。 ５）授業見学については、FD・SD 研修会の整理と合わせて、各教員が自ら研修する１つの手法として運用可能かどうか、改めて実施の是非を検討する。

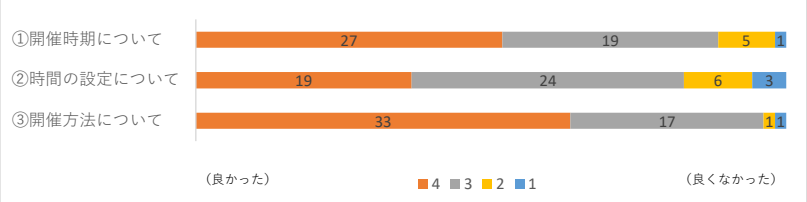
2022年度　第1回　FD・SD研修会　アンケート結果

開催日時	2022年7月12日(火)　16:50～	開催形式	対面　4308多目的室			
演題	「高大接続と多面的・総合的評価に基づく 大学入学者選抜の課題ー比較教育学の見地から」		看護学科	栄養学科	事務局	計
		対象者	30	21	23	74
		出席者	17	11	13	41
		後日視聴数	13	7	5	25
講師	北海道大学高等教育推進機構　高等教育研究部 准教授　飯田 直弘 先生	出席率（教員のみ）		94%	（51名中　48名）	
		出席率（教職員）		89%	（74名中　66名）	

	教員	職員	計	回答率
アンケート回答者数	40	12	52	79%

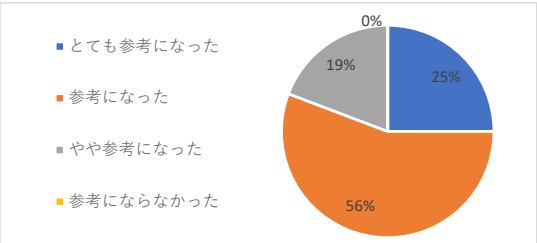
後日視聴	
月日	人数
7/12(火)	2
7/13(水)	10
7/14(木)	2
7/15(金)	2
7/19(火)	5
7/20(水)	3
8/9(火)	1
計	25

項目	4 （良かった）	3	2	1 （良くなかった）
①開催時期について	27	19	5	1
②時間の設定について	19	24	6	3
③開催方法について	33	17	1	1



今後の教育・業務の参考になりましたか

①とても参考になった	13
②参考になった	29
③やや参考になった	10
④参考にならなかった	0



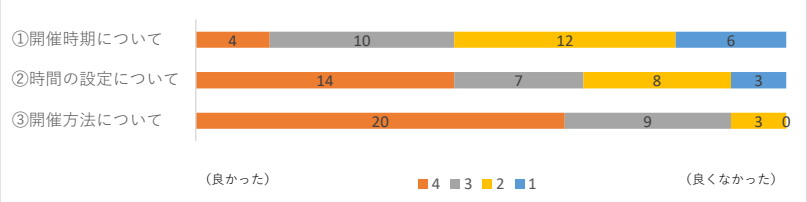
2022年度　第2回　FD・SD研修会　アンケート結果

開催日時	2022年8月12日(金)　16:50～	開催形式	対面　3301講義室		
演題	「教育活動を振り返る －ティーチング・ポートフォリオ作成のススメ－」		看護学科	栄養学科	事務局	計
		対象者	30	21	23	74
		出席者	16	7	3	26
		後日視聴数	8	6	9	23
講師	北海道大学高等教育推進機構　高等教育研究部 准教授　江本 理恵 先生	出席率（教員のみ）		73%	（51名中　37名）	
		出席率（教職員）		66%	（74名中　49名）	

	教員	職員	計	回答率
アンケート回答者数	26	6	32	65%

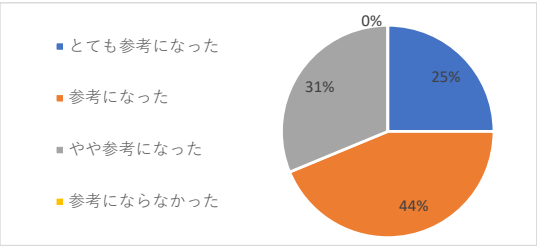
後日視聴	
月日	人数
8/12(金)	1
8/13(土)	1
8/15(月)	2
8/16(火)	4
8/17(水)	4
8/18(木)	2
8/22(月)	2
8/23(火)	3
8/24(水)	1
8/26(金)	2
9/7(水)	1
計	23

項目	4 (良かった)	3	2	1 (良くなかった)
①開催時期について	4	10	12	6
②時間の設定について	14	7	8	3
③開催方法について	20	9	3	0



今後の教育・業務の参考になりましたか

①とても参考になった	8
②参考になった	14
③やや参考になった	10
④参考にならなかった	0



2022年度　第3回　FD・SD研修会　アンケート結果

開催日時	2022年8月26日(金)　16:50～	開催形式	対面　4304講義室
演題	「医療系教育のデジタルトランスフォーメーション」		
講師	聖隷クリストファー大学　看護学部　看護学科 助教　小池 武嗣 先生		

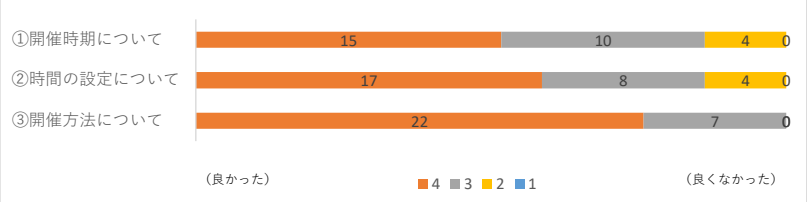
	看護学科	栄養学科	事務局	計
対象者	30	21	23	74
出席者	22	8	18	48
後日視聴数	8	9	3	20

出席率（教員のみ）	92%	（51名中　47名）
出席率（教職員）	92%	（74名中　68名）

	教員	職員	計	回答率
アンケート回答者数	23	6	29	43%

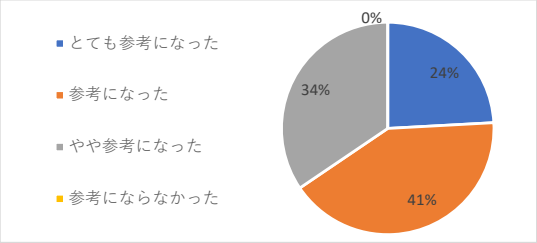
後日視聴	
月日	人数
8/26(金)	3
8/27(土)	1
8/28(日)	1
8/29(月)	3
8/30(火)	2
8/31(木)	1
9/1(金)	1
9/6(火)	2
9/7(水)	1
9/8(金)	1
9/9(土)	2
9/22(木)	1
10/19(水)	1
計	20

項目	4 （良かった）	3	2	1 （良くなかった）
①開催時期について	15	10	4	0
②時間の設定について	17	8	4	0
③開催方法について	22	7	0	0



今後の教育・業務の参考になりましたか

①とても参考になった	7
②参考になった	12
③やや参考になった	10
④参考にならなかった	0



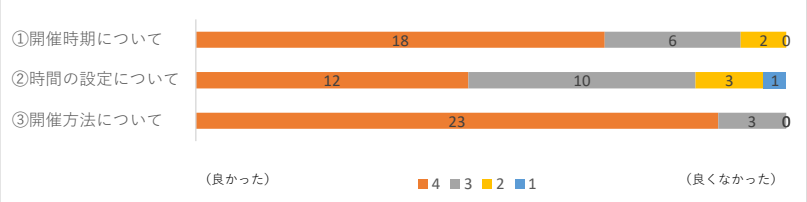
2022年度　第4回　FD・SD研修会　アンケート結果

開催日時	2022年9月22日(木)　16:50～	開催形式	対面　4308多目的室			
演題	「学生の教育について ー古典の教えと私の教員経験からー」		看護学科	栄養学科	事務局	計
		対象者	30	21	22	73
		出席者	16	11	14	41
		後日視聴数	4	2	2	8
講師	元本学栄養学科教授　所　伸一 先生	出席率（教員のみ）		65%	（51名中　33名）	
		出席率（教職員）		67%	（73名中　49名）	

	教員	職員	計	回答率
アンケート回答者数	17	9	26	53%

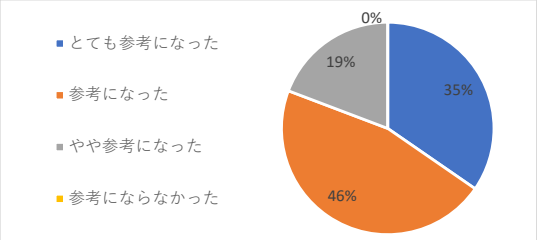
後日視聴	
月日	人数
9/23(金)	1
9/24(土)	1
9/26(月)	2
9/27(火)	1
9/28(水)	1
9/29(木)	1
10/7(金)	1
計	8

項目	4 （良かった）	3	2	1 （良くなかった）
①開催時期について	18	6	2	0
②時間の設定について	12	10	3	1
③開催方法について	23	3	0	0



今後の教育・業務の参考になりましたか

①とても参考になった	9
②参考になった	12
③やや参考になった	5
④参考にならなかった	0



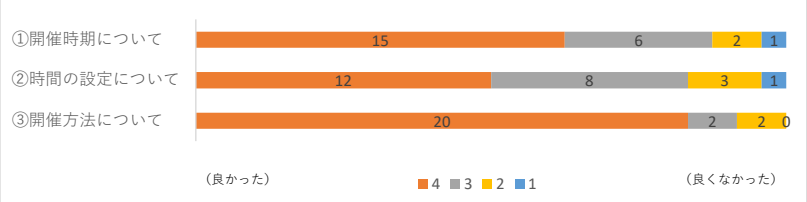
2022年度　第5回　FD・SD研修会　アンケート結果

開催日時	2022年10月27日(木)　16:50～	開催形式	対面　4308多目的室			
演題	「リベラルアーツ（一般教養）としての英語 ー本学学生の英語力にふれつつー」		看護学科	栄養学科	事務局	計
		対象者	30	21	22	73
		出席者	22	6	9	37
		後日視聴数	5	7	8	20
講師	本学　看護学科　教授　松尾 文子 先生	出席率（教員のみ）		78%	（51名中　40名）	
		出席率（教職員）		78%	（73名中　57名）	

	教員	職員	計	回答率
アンケート回答者数	18	6	24	42%

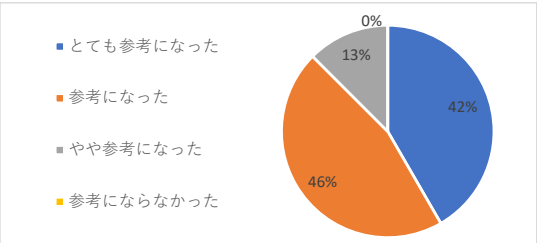
後日視聴	
月日	人数
10/28(金)	4
10/30(日)	1
10/31(月)	2
11/1(火)	1
11/2(水)	2
11/6(日)	1
11/8(火)	1
11/10(木)	1
11/12(土)	1
11/17(木)	1
視聴日不明	5
計	20

項目	4 （良かった）	3	2	1 （良くなかった）
①開催時期について	15	6	2	1
②時間の設定について	12	8	3	1
③開催方法について	20	2	2	0



今後の教育・業務の参考になりましたか

①とても参考になった	10
②参考になった	11
③やや参考になった	3
④参考にならなかった	0



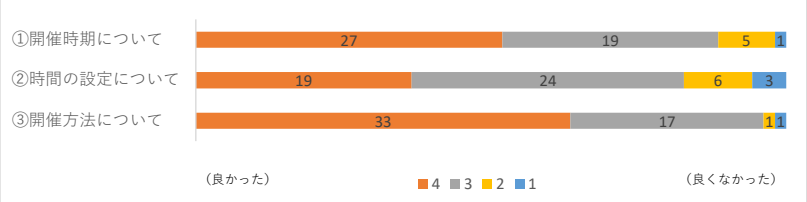
2022年度　第1回　FD・SD研修会　アンケート結果

開催日時	2022年7月12日(火)　16:50～	開催形式	対面　4308多目的室			
演題	「高大接続と多面的・総合的評価に基づく 大学入学者選抜の課題ー比較教育学の見地から」		看護学科	栄養学科	事務局	計
		対象者	30	21	23	74
		出席者	17	11	13	41
		後日視聴数	13	7	5	25
講師	北海道大学高等教育推進機構　高等教育研究部 准教授　飯田 直弘 先生	出席率（教員のみ）		94%	（51名中　48名）	
		出席率（教職員）		89%	（74名中　66名）	

	教員	職員	計	回答率
アンケート回答者数	40	12	52	79%

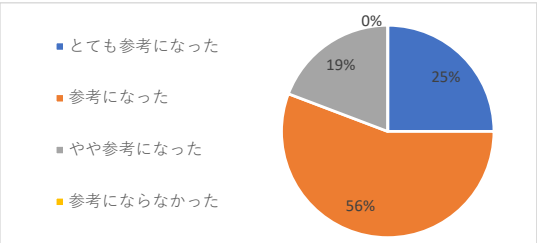
後日視聴	
月日	人数
7/12(火)	2
7/13(水)	10
7/14(木)	2
7/15(金)	2
7/19(火)	5
7/20(水)	3
8/9(火)	1
計	25

項目	4 （良かった）	3	2	1 （良くなかった）
①開催時期について	27	19	5	1
②時間の設定について	19	24	6	3
③開催方法について	33	17	1	1



今後の教育・業務の参考になりましたか

①とても参考になった	13
②参考になった	29
③やや参考になった	10
④参考にならなかった	0



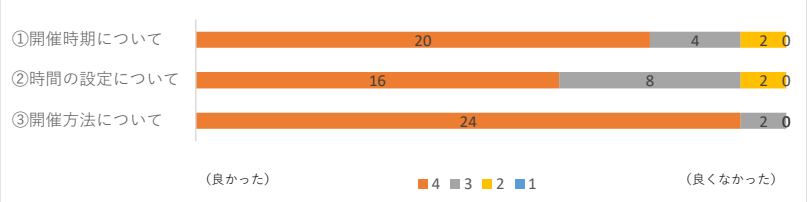
2022年度　第2回　学術セミナー　アンケート結果

開催日時	2022年9月13日(火)　16:50～	開催形式	対面　4308多目的室			
演題	「床上移動に関する援助技術の検討と技術教育への活用」		看護学科	栄養学科	事務局	計
		対象者	30	22	23	75
		出席者	18	6	3	27
		後日視聴数	4	4	1	9
講師	本学　看護学科　准教授　首藤 英里香 先生	出席率（教員のみ）		62%	（52名中　32名）	
		出席率（教職員）		48%	（75名中　36名）	

	教員	職員	計	回答率
アンケート回答者数	25	1	26	72%

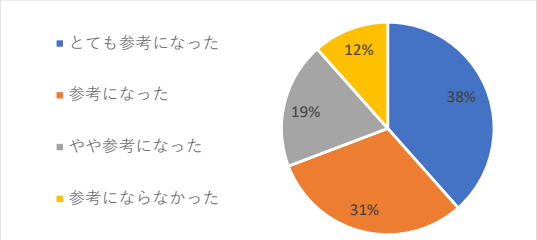
後日視聴	
月日	人数
5/17(火)	1
5/18(水)	5
5/19(木)	2
5/20(金)	1
5/23(月)	1
5/24(火)	1
5/25(水)	2
計	13

項目	4（良かった）	3	2	1（良くなかった）
①開催時期について	20	4	2	0
②時間の設定について	16	8	2	0
③開催方法について	24	2	0	0



今後の研究や業務の参考になりましたか

①とても参考になった	10
②参考になった	8
③やや参考になった	5
④参考にならなかった	3



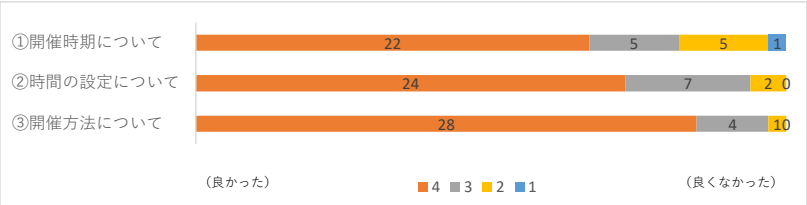
2022年度　第3回　学術セミナー　アンケート結果（2023年2月27日時点）

開催日時	2023年2月21日(火)　16:00～	開催形式	対面　5314講義室			
演題	「うつ病を有する医療系大学生の修学支援について」		看護学科	栄養学科	事務局	計
		対象者	30	21	24	75
		当日出席者	23	9	7	39
		後日視聴数	1	6	0	7
講師	本学　看護学科　准教授　原田 由香 先生	出席率（教員のみ）		76%	（51名中　39名）	
		出席率（教職員）		61%	（75名中　46名）	

	教員	職員	計	回答率
アンケート回答者数	26	7	33	72%

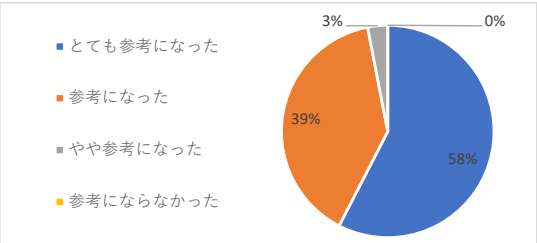
後日視聴	
月日	人数
2/21(火)	1
2/22(水)	3
2/24(金)	1
2/27(月)	2
計	7

項目	4（良かった）	3	2	1（良くなかった）
①開催時期について	22	5	5	1
②時間の設定について	24	7	2	0
③開催方法について	28	4	1	0



今後の研究や業務の参考になりましたか

①とても参考になった	19
②参考になった	13
③やや参考になった	1
④参考にならなかった	0



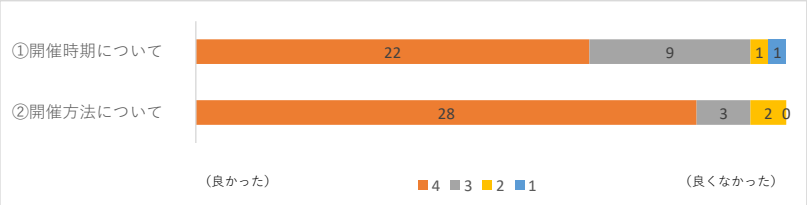
2022年度　科研費セミナー　アンケート結果

開催期間	2022年9月1日（木）～9月30日（金）	開催形式	オンデマンド			
演題	「2022年度科研費の事務手続き等について」		看護学科	栄養学科	事務局	計
		対象者	30	22	23	75
		出席者	30	22	1	53
講師	本学事務局総務課　課長代理　駒澤 尚忠 氏	出席率（教員のみ）		100%	（52名中　52名）	
		出席率（教職員）		71%	（75名中　53名）	

	教員	職員	計	回答率
アンケート回答者数	33	0	33	62%

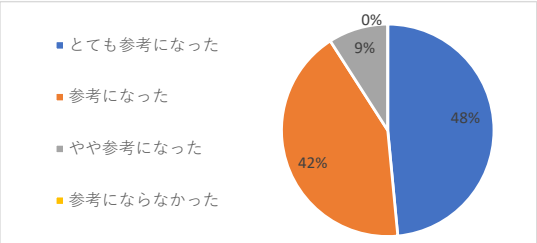
視聴日			
月日	人数	月日	人数
9/1(木)	4	10/17(月)	8
9/2(金)	1	10/18(火)	1
9/5(月)	4	10/19(水)	1
9/6(火)	1	10/20(木)	1
9/7(水)	2	10/24(月)	1
9/9(金)	1	10/26(水)	1
9/12(月)	1	10/27(木)	2
9/14(水)	1	10/28(金)	1
9/17(土)	1	10/31(月)	2
9/20(火)	2	視聴日不明	12
9/28(水)	1		
9/30(金)	4		
		計	53

項目	4（良かった）	3	2	1（良くなかった）
①開催時期について	22	9	1	1
②開催方法について	28	3	2	0



今後の研究や業務の参考になりましたか

①とても参考になった	16
②参考になった	14
③やや参考になった	3
④参考にならなかった	0



2022年度前期　授業評価アンケート科目・項目別平均点　【１年次】（実習科目を除く）

看護学科　授業科目（前期）

No.	アンケート項目 ＼ 授業科目	学びの理解★	生物学A★	生物学B★	化学	論理的思考	情報処理	英語Ⅰ（基礎）A	英語Ⅰ（基礎）B・C	英語Ⅰ（基礎）D	表現技法Ⅰ（読解・分析）A・C	表現技法Ⅰ（読解・分析）B・D	心理学	倫理学	現代社会論（栄養2年と合同）☆	生態学★	スポーツ科学と運動	形態機能学Ⅰ	生涯発達論	看護学概論	看護技術総論	援助関係論	1年次科目平均	全学年科目平均
1	この授業に意欲的に取り組みましたか	3.5	3.6	3.8	3.7	3.4	3.5	4.0	3.7	3.5	3.7	3.9	2.7	3.6	3.5	3.4	3.9	3.5	3.0	3.6	3.8	3.3	3.55	3.58
2	この授業の予習・復習を行いましたか（授業時間以外の自学自習を行いましたか※課題を含む）	2.5	3.3	3.3	2.5	2.5	2.8	3.7	3.6	3.0	3.4	3.3	2.2	2.5	2.5	2.6	3.4	3.0	2.7	2.8	3.7	2.5	2.95	2.96
3	自分の学習態度は良かったと思いますか（私語をしない、遅刻しないなど）	3.6	3.6	3.2	3.6	3.4	3.3	3.9	3.7	3.3	3.7	3.7	3.0	3.6	3.5	3.4	3.9	3.5	3.3	3.6	3.8	3.3	3.53	3.57
4	この授業は授業計画変更により新たに示されたシラバスまたは学習要項に基づいて行われましたか	3.6	3.9	4.0	3.7	3.5	3.6	4.0	3.6	3.8	3.7	3.8	2.8	3.7	3.6	3.5	3.9	3.7	3.0	3.7	3.7	3.6	3.64	3.71
5	教員の声、話し方は聞き取りやすかったですか	3.4	3.6	4.0	3.7	3.4	3.4	4.0	3.3	3.7	3.8	3.8	1.5	3.7	3.4	2.8	3.9	3.5	2.1	3.7	3.6	3.2	3.40	3.55
6	板書やスクリーン、パワーポイント、ＤＶＤなどは見やすかったですか	3.5	3.6	4.0	3.7	3.4	3.5	3.7	3.3	3.7	3.8	4.0	2.7	3.8	3.5	3.3	3.8	3.4	2.8	3.6	3.6	3.3	3.52	3.59
7	教員は学生の質問、発言に適切に対応していたと思いますか（メールでの質問も含む）	3.4	3.6	4.0	3.8	3.5	3.4	4.0	3.5	3.8	3.7	3.9	3.0	3.5	3.7	3.5	3.9	3.6	3.1	3.7	3.5	2.9	3.57	3.66
8	授業の内容や要点はよく理解できましたか	3.2	3.7	4.0	3.5	3.4	3.6	4.0	3.5	3.7	3.6	3.9	2.4	3.6	3.5	3.3	3.9	3.4	2.6	3.6	3.7	3.3	3.49	3.57
9	教科書や補助教材は授業内容の理解に役立ちましたか	3.1	3.6	4.0	3.6	3.1	3.4	3.9	3.7	3.8	3.6	3.7	2.9	3.2	3.3	3.1	3.8	3.4	2.6	3.5	3.6	3.1	3.43	3.54
10	事前に授業のイメージができましたか（初回に提示された授業内容・配付された資料はわかりやすかったですか）	2.7	3.6	3.2	3.4	2.7	3.4	4.0	3.6	3.7	3.4	3.7	2.3	2.8	3.0	3.0	3.9	3.4	2.5	3.2	3.5	2.9	3.23	3.39
11	この授業によって、知識が得られ自分の考えを深めることができましたか	3.3	3.6	3.8	3.7	3.3	3.4	4.0	3.5	3.8	3.7	3.9	2.7	3.6	3.5	3.4	3.8	3.5	2.9	3.7	3.8	3.4	3.55	3.65
12	この授業によって、刺激を受けさらに学びを広げたいと思いましたか	3.1	3.5	3.7	3.6	3.1	3.3	3.8	3.3	3.7	3.5	3.7	2.5	3.3	3.4	3.4	3.8	3.6	2.7	3.7	3.8	3.2	3.41	3.52
13	この授業によって、刺激を受けさらに学びを広げたいと思いましたか	3.3	3.7	4.0	3.7	3.4	3.5	4.0	3.4	3.3	3.8	3.8	2.8	3.5	3.6	3.5	3.6	3.5	3.0	3.6	3.5	3.1	3.52	3.61
14	この授業の人的環境は学習する上で適切だったと思いますか（人的環境とは私語・周囲の騒音など）	3.5	3.8	4.0	2.9	3.0	3.5	4.0	3.7	3.8	3.8	3.8	3.3	3.7	3.0	2.5	3.9	3.6	3.0	3.7	3.7	3.7	3.52	3.66
15	総合的に判断して、この授業は満足できるものでしたか	3.2	3.7	3.8	3.6	3.3	3.5	4.0	3.6	3.7	3.5	3.8	2.4	3.5	3.5	3.5	3.9	3.5	2.7	3.6	3.5	3.1	3.48	3.60
	平均	3.3	3.6	3.8	3.5	3.2	3.4	3.9	3.5	3.6	3.6	3.8	2.6	3.4	3.4	3.2	3.8	3.5	2.8	3.6	3.7	3.2	3.45	3.54
	回収率	92.8%	37.0%	54.5%	83.8%	69.4%	50.5%	95.2%	43.9%	75.0%	51.8%	41.8%	90.1%	90.1%	75.7%	89.9%	80.4%	69.4%	46.8%	87.4%	47.7%	91.9%	69.8%	61.2%

栄養学科　授業科目（前期）

No.	アンケート項目 ＼ 授業科目	学びの理解★	論理的思考	情報処理	生物学A★	生物学B★	基礎化学	英語Ⅰ（基礎）A	英語Ⅰ（基礎）B	表現技法Ⅰ（読解・分析）A	表現技法Ⅰ（読解・分析）B	心理学	倫理学	生態学★	人間関係論	形態機能学Ⅰ	有機化学	食品科学Ⅰ	調理学	調理学実習Ⅰ	管理栄養士論	教職概論	1年次科目平均	全学年科目平均	看護・栄養学科　全学年科目平均
1	この授業に意欲的に取り組みましたか	3.3	3.2	3.5	3.5	3.3	3.3	3.6	3.6	3.8	3.3	2.7	3.3	3.3	2.7	3.3	3.0	3.5	3.5	3.8	3.5	3.6	3.37	3.46	3.52
2	この授業の予習・復習を行いましたか（授業時間以外の自学自習を行いましたか※課題を含む）	2.4	2.2	2.5	3.2	3.0	3.1	3.5	3.4	3.3	2.8	2.2	2.4	2.6	2.1	2.7	3.0	2.8	3.2	3.5	2.4	2.5	2.80	2.84	2.89
3	自分の学習態度は良かったと思いますか（私語をしない、遅刻しないなど）	3.4	3.4	3.4	3.5	3.5	3.3	3.7	3.6	3.7	3.5	3.0	3.3	3.4	3.0	3.3	3.2	3.3	3.5	3.7	3.4	3.6	3.42	3.44	3.50
4	この授業は授業計画変更により新たに示されたシラバスまたは学習要項に基づいて行われましたか	3.7	3.6	3.6	3.8	4.0	3.7	3.8	3.3	3.9	3.4	2.8	3.5	3.4	2.9	3.5	3.7	3.6	3.5	3.8	3.6	3.4	3.54	3.62	3.66
5	教員の声、話し方は聞き取りやすかったですか	3.5	3.4	3.4	3.6	4.0	3.6	3.9	3.3	3.8	3.6	1.5	3.0	2.9	1.7	3.6	3.4	3.6	3.7	3.7	3.6	3.6	3.35	3.50	3.52
6	板書やスクリーン、パワーポイント、ＤＶＤなどは見やすかったですか	3.3	3.6	3.6	3.5	4.0	3.6	3.7	3.0	3.9	3.7	2.7	3.7	2.8	2.5	3.4	3.6	3.7	3.7	3.7	3.7	3.3	3.47	3.51	3.55
7	教員は学生の質問、発言に適切に対応していたと思いますか（メールでの質問も含む）	3.5	3.7	3.4	3.8	4.0	3.7	3.9	3.4	3.8	3.7	3.0	3.2	3.6	2.8	3.8	3.6	3.8	3.8	3.8	3.6	3.5	3.59	3.62	3.64
8	授業の内容や要点はよく理解できましたか	3.4	2.9	3.5	3.3	3.8	3.2	3.7	3.3	3.7	3.6	2.4	3.2	3.1	2.2	3.4	3.2	3.3	3.6	3.9	3.6	3.4	3.32	3.43	3.50
9	教科書や補助教材は授業内容の理解に役立ちましたか	3.2	3.1	3.6	3.6	3.5	3.3	3.9	3.4	3.7	3.5	2.9	2.9	3.0	2.6	3.6	3.3	3.6	3.7	3.8	3.7	3.2	3.38	3.48	3.51
10	事前に授業のイメージができましたか（初回に提示された授業内容・配付された資料はわかりやすかったですか）	2.8	2.6	3.4	3.5	3.7	3.3	3.7	3.5	3.5	3.5	2.3	2.6	2.8	2.3	3.4	3.0	3.3	3.4	3.8	3.4	2.9	3.17	3.31	3.35
11	この授業によって、知識が得られ自分の考えを深めることができましたか	3.5	2.9	3.5	3.5	3.7	3.3	3.5	3.3	3.8	3.5	2.7	3.2	3.4	2.5	3.4	3.3	3.4	3.6	3.7	3.8	3.6	3.37	3.52	3.58
12	この授業によって、刺激を受けさらに学びを広げたいと思いましたか	3.4	2.4	3.0	3.4	3.8	2.9	3.1	3.2	3.5	3.3	2.5	3.0	3.2	2.1	3.3	2.9	3.3	3.5	3.8	3.8	3.5	3.17	3.36	3.44
13	この授業によって、刺激を受けさらに学びを広げたいと思いましたか	3.4	3.6	3.3	3.5	4.0	3.6	3.3	3.4	3.6	3.9	2.8	3.4	3.4	3.0	3.6	3.3	3.6	3.8	3.7	3.7	3.6	3.50	3.58	3.59
14	この授業の人的環境は学習する上で適切だったと思いますか（人的環境とは私語・周囲の騒音など）	3.4	3.7	3.4	3.6	3.5	3.7	3.9	3.4	3.9	3.9	3.3	3.7	2.5	3.5	3.7	3.7	3.8	3.7	3.8	3.8	3.5	3.59	3.64	3.65
15	総合的に判断して、この授業は満足できるものでしたか	3.4	3.3	3.3	3.5	4.0	3.4	3.8	3.5	3.7	3.4	2.4	3.1	3.3	2.4	3.5	3.4	3.5	3.6	3.7	3.7	3.4	3.40	3.52	3.56
	平均	3.3	3.2	3.4	3.5	3.7	3.4	3.7	3.4	3.7	3.5	2.6	3.2	3.1	2.6	3.4	3.3	3.5	3.6	3.8	3.6	3.4	3.36	3.45	3.50
	回収率	91.7%	80.3%	82.8%	61.1%	28.6%	86.2%	95.0%	44.7%	79.4%	78.3%	60.3%	81.7%	69.4%	41.7%	72.4%	81.0%	81.7%	66.7%	55.4%	83.1%	89.5%	71.9%	69.6%	65.6%

※　点数は、4点を満点とした科目。項目別の平均点は、小数点第2位以下四捨五入。学年科目平均点は、小数点第3位以下四捨五入。回収率は、小数点第2以下四捨五入。
★☆　合同科目、学科別に集計。

2022年度前期　授業評価アンケート科目・項目別平均点　【２年次】（実習科目を除く）

No.	アンケート項目＼授業科目	看護学科　授業科目（前期）															栄養学科　授業科目（前期）																									看護・栄養学科　全学年科目平均
		英語Ⅲ（読解）	社会貢献と活動 ★	生活環境論 ★	薬理学	栄養代謝学	臨床心理学	疾病治療論一	生命倫理 ★	看護技術論三	地域保健医療看護論	高齢者看護学概論	小児看護学概論	母性看護学概論	2年次科目平均	全学年科目平均	英語Ⅲ（読解）	社会貢献と活動 ★	生活環境論 ★	現代社会論（看護1年と合同） ☆	生命倫理 ★	医療概論	公衆衛生学	形態機能学実習一	病理学	生化学二	生化学実験	食品衛生学	食品衛生学実験	基礎栄養学実験	応用栄養学一	栄養教育論一	給食経営管理論一	地域連携ケア論三	教育課程論	教育方法論	道徳教育論	2年次科目平均	全学年科目平均	
1	この授業に意欲的に取り組みましたか	4.0	3.3	3.5	3.8	3.5	3.8	3.2	3.8	3.7	3.5	3.6	3.6	3.6	3.60	3.58	3.7	3.6	3.4	2.9	4.0	3.3	3.5	3.7	3.1	3.4	3.6	3.2	3.7	3.6	3.4	3.1	3.3	3.1	3.2	3.3	4.0	3.43	3.46	3.52
2	この授業の予習・復習を行いましたか（授業時間以外の自学自習を行いましたか※課題を含む）	3.3	1.0	2.7	3.2	2.8	2.6	2.6	2.4	3.6	3.2	2.9	3.2	3.0	2.82	2.96	3.6	2.0	2.6	1.9	3.0	2.6	2.9	3.1	3.0	3.1	3.1	2.5	3.1	3.0	2.8	2.5	2.8	2.2	2.6	1.6	2.9	2.71	2.84	2.89
3	自分の学習態度は良かったと思いますか（私語をしない、遅刻しないなど）	3.8	3.8	3.4	3.8	3.6	3.7	3.4	3.7	3.5	3.4	3.6	3.6	3.6	3.61	3.57	3.7	3.4	3.4	3.2	4.0	3.3	3.4	3.7	3.3	3.3	3.5	3.0	3.6	3.5	3.4	3.3	3.4	3.2	3.4	3.2	3.9	3.43	3.44	3.50
4	この授業は授業計画変更により新たに示されたシラバスまたは学習要項に基づいて行われましたか	4.0	3.5	3.8	3.8	3.6	3.9	3.7	3.9	3.8	3.8	3.8	3.8	3.7	3.76	3.71	3.8	3.9	3.8	3.6	4.0	3.6	3.8	3.9	3.7	3.7	3.8	3.6	3.7	3.8	3.5	3.6	2.8	3.4	2.6	3.4	3.8	3.61	3.62	3.66
5	教員の声、話し方は聞き取りやすかったですか	4.0	3.8	3.8	3.9	3.3	3.9	3.3	3.9	3.8	3.2	3.8	3.7	3.3	3.67	3.55	3.8	3.7	3.9	3.1	4.0	3.6	3.8	3.8	3.3	3.7	3.8	3.7	3.3	3.7	3.7	3.7	3.2	3.2	3.3	2.9	3.9	3.58	3.50	3.52
6	板書やスクリーン、パワーポイント、ＤＶＤなどは見やすかったですか	3.8	3.0	3.6	3.8	3.5	3.9	3.4	3.8	3.3	3.2	3.8	3.6	3.5	3.54	3.59	3.8	3.4	3.6	3.0	4.0	3.4	3.6	3.8	3.4	3.7	3.7	3.4	3.3	3.6	3.4	3.7	3.4	3.1	3.2	3.1	3.8	3.49	3.51	3.55
7	教員は学生の質問、発言に適切に対応していたと思いますか（メールでの質問も含む）	4.0	3.8	3.7	3.8	3.6	3.9	3.1	3.8	3.7	3.3	3.8	3.8	3.6	3.69	3.66	3.8	3.9	3.7	3.7	3.0	3.5	3.7	3.9	3.6	3.6	3.8	3.6	3.7	3.6	3.8	3.6	2.4	3.2	3.3	3.5	3.9	3.55	3.62	3.64
8	授業の内容や要点はよく理解できましたか	4.0	3.3	3.7	3.8	3.6	3.8	3.2	3.7	3.6	3.3	3.6	3.7	3.6	3.60	3.57	3.8	3.7	3.6	3.3	4.0	3.3	3.6	3.7	3.2	3.2	3.3	3.4	3.5	3.5	3.4	3.3	3.0	2.8	3.3	3.4	3.7	3.44	3.43	3.50
9	教科書や補助教材は授業内容の理解に役立ちましたか	4.0	3.5	3.7	3.9	3.6	3.7	3.2	3.7	3.6	3.3	3.5	3.7	3.6	3.61	3.54	3.8	3.7	3.7	3.3	4.0	3.3	3.6	3.7	3.2	3.6	3.6	3.6	3.6	3.7	3.5	3.5	3.1	2.9	3.1	3.5	3.6	3.50	3.48	3.51
10	事前に授業のイメージができましたか（初回に提示された授業内容・配付された資料はわかりやすかったですか）	4.0	3.3	3.6	3.8	3.5	3.5	3.3	3.2	3.5	3.3	3.6	3.6	3.6	3.51	3.39	3.7	3.4	3.4	2.7	4.0	3.3	3.4	3.6	3.3	3.4	3.4	3.4	3.4	3.5	3.2	3.2	3.2	2.9	2.6	2.5	3.3	3.28	3.31	3.35
11	この授業によって、知識が得られ自分の考えを深めることができましたか	4.0	3.8	3.7	3.8	3.7	3.8	3.3	3.8	3.8	3.6	3.6	3.7	3.7	3.72	3.65	3.8	3.9	3.5	3.3	4.0	3.5	3.6	3.7	3.4	3.4	3.5	3.5	3.7	3.6	3.6	3.5	3.2	2.9	3.5	3.5	3.8	3.54	3.52	3.58
12	この授業によって、刺激を受けさらに学びを広げたいと思いましたか	3.7	3.0	3.6	3.8	3.6	3.7	3.2	3.6	3.7	3.4	3.7	3.7	3.7	3.56	3.52	3.7	3.3	3.4	2.9	4.0	3.4	3.6	3.5	3.4	3.2	3.4	3.3	3.5	3.6	3.6	3.3	2.8	2.8	3.2	3.5	3.8	3.39	3.36	3.44
13	この授業によって、刺激を受けさらに学びを広げたいと思いましたか	3.9	3.8	3.6	3.7	3.5	3.9	3.0	3.8	3.4	3.5	3.7	3.1	3.5	3.59	3.61	3.8	4.0	3.6	3.2	4.0	3.2	3.6	3.8	3.6	3.6	3.8	3.3	3.4	3.7	3.6	3.4	3.3	3.0	3.3	3.4	3.9	3.54	3.58	3.59
14	この授業の人的環境は学習する上で適切だったと思いますか（人的環境とは私語・周囲の騒音など）	4.0	3.8	3.7	3.8	3.6	3.9	3.6	3.9	3.7	3.6	3.8	3.7	3.7	3.75	3.66	3.8	4.0	3.5	2.7	4.0	3.7	3.8	3.8	3.5	3.3	3.7	3.6	3.6	3.7	3.7	3.6	3.4	3.3	3.5	3.5	4.0	3.60	3.64	3.65
15	総合的に判断して、この授業は満足できるものでしたか	3.9	3.8	3.7	3.9	3.6	3.9	3.2	3.8	3.7	3.4	3.7	3.7	3.6	3.68	3.60	3.8	4.0	3.5	3.3	4.0	3.7	3.6	3.7	3.5	3.5	3.6	3.5	3.5	3.6	3.6	3.6	2.9	2.7	3.4	3.5	3.9	3.53	3.52	3.56
平均		3.9	3.3	3.6	3.8	3.5	3.7	3.3	3.6	3.6	3.4	3.6	3.6	3.6	3.58	3.54	3.7	3.6	3.5	3.1	3.9	3.4	3.6	3.7	3.4	3.5	3.6	3.4	3.5	3.6	3.5	3.4	3.1	3.0	3.2	3.2	3.8	3.44	3.45	3.50
回収率		100.0%	40.0%	81.1%	82.1%	71.0%	80.2%	46.2%	59.2%	98.1%	76.6%	57.9%	76.6%	73.8%	72.5%	61.2%	90.0%	77.8%	73.5%	63.8%	100.0%	85.7%	51.9%	70.9%	50.0%	72.6%	89.1%	88.9%	63.0%	72.4%	38.9%	89.7%	57.4%	85.2%	100.0%	100.0%	100.0%	77.2%	69.6%	65.6%

※　点数は、4点を満点とした科目。項目別の平均点は、小数点第2位以下四捨五入。学年科目平均点は、小数点第3位以下四捨五入。回収率は、小数点第2以下四捨五入。

★☆　合同科目、学科別に集計。

2022年度前期　授業評価アンケート科目・項目別平均点　【３年次】（実習科目を除く）

No.	授業科目／アンケート項目	看護学科　授業科目（前期）										栄養学科　授業科目（前期）												看護・栄養学科　全学年科目平均
		疫学	成人看護活動論三	高齢者看護活動論二	小児看護活動論二	母性看護活動論二	精神看護学概論	医療安全論	公衆衛生看護学概論	３年次科目平均	全学年科目平均	病態診療学二	食品科学実験二	応用栄養学二	栄養教育論二	栄養カウンセリング演習	食生活論	臨床栄養学二	臨床栄養学実習一	公衆栄養学一	教育心理学	３年次科目平均	全学年科目平均	
1	この授業に意欲的に取り組みましたか	3.5	3.8	3.7	3.8	3.5	3.4	3.4	3.5	3.57	3.58	3.6	3.8	3.4	3.7	3.9	3.3	3.4	3.7	3.6	3.2	3.55	3.46	3.52
2	この授業の予習・復習を行いましたか（授業時間以外の自学自習を行いましたか※課題を含む）	2.9	3.6	3.3	3.3	3.5	2.5	2.6	2.8	3.06	2.96	2.9	3.3	2.6	2.7	3.3	2.0	2.8	2.8	3.3	3.4	2.92	2.84	2.89
3	自分の学習態度は良かったと思いますか（私語をしない、遅刻しないなど）	3.4	3.9	3.6	3.7	3.6	3.5	3.8	3.5	3.64	3.57	3.5	3.8	3.2	3.5	3.8	3.3	3.7	3.7	3.6	2.8	3.47	3.44	3.50
4	この授業は授業計画変更により新たに示されたシラバスまたは学習要項に基づいて行われましたか	3.9	3.8	3.9	3.7	3.7	3.6	3.7	3.8	3.76	3.71	3.9	3.9	3.7	3.9	3.9	3.6	3.8	3.8	3.6	4.0	3.80	3.62	3.66
5	教員の声、話し方は聞き取りやすかったですか	3.9	3.6	3.9	3.7	3.3	3.4	3.8	3.7	3.65	3.55	3.3	3.9	3.7	3.9	3.8	3.3	3.5	3.5	3.7	2.4	3.50	3.50	3.52
6	板書やスクリーン、パワーポイント、ＤＶＤなどは見やすかったですか	3.8	3.7	3.9	3.7	3.5	3.4	3.8	3.8	3.69	3.59	3.6	3.8	3.5	3.9	3.7	3.0	3.6	3.5	3.3	3.0	3.49	3.51	3.55
7	教員は学生の質問、発言に適切に対応していたと思いますか（メールでの質問も含む）	3.9	3.8	3.8	3.8	3.3	3.7	3.7	3.9	3.73	3.66	3.7	3.9	3.6	3.9	3.8	3.6	3.8	3.8	3.7	3.8	3.74	3.62	3.64
8	授業の内容や要点はよく理解できましたか	3.4	3.6	3.8	3.7	3.6	3.5	3.8	3.6	3.63	3.57	3.4	3.8	3.5	3.8	3.9	3.1	3.7	3.3	3.6	3.2	3.52	3.43	3.50
9	教科書や補助教材は授業内容の理解に役立ちましたか	3.6	3.6	3.9	3.7	3.7	3.5	3.8	3.8	3.67	3.54	3.1	3.9	3.6	3.8	3.9	2.6	3.7	3.8	3.7	3.8	3.58	3.48	3.51
10	事前に授業のイメージができましたか（初回に提示された授業内容・配付された資料はわかりやすかったですか）	3.4	3.4	3.8	3.7	3.3	3.5	3.6	3.5	3.52	3.39	3.2	3.8	3.2	3.6	3.6	3.1	3.5	3.4	3.4	3.8	3.47	3.31	3.35
11	この授業によって、知識が得られ自分の考えを深めることができましたか	3.6	3.8	3.9	3.8	3.7	3.7	3.6	3.7	3.72	3.65	3.6	3.9	3.6	3.9	3.9	3.3	3.8	3.5	3.6	3.2	3.61	3.52	3.58
12	この授業によって、刺激を受けさらに学びを広げたいと思いましたか	3.5	3.8	3.8	3.8	3.7	3.7	3.6	3.7	3.71	3.52	3.6	3.8	3.6	3.8	3.8	3.3	3.4	3.4	3.4	3.2	3.53	3.36	3.44
13	この授業によって、刺激を受けさらに学びを広げたいと思いましたか	3.8	3.8	3.9	3.8	3.7	3.7	3.8	3.8	3.79	3.61	3.7	3.9	3.6	3.8	3.8	3.5	3.8	3.7	3.6	4.0	3.74	3.58	3.59
14	この授業の人的環境は学習する上で適切だったと思いますか（人的環境とは私語・周囲の騒音など）	3.8	3.6	3.9	3.8	3.6	3.7	3.9	3.8	3.77	3.66	3.6	3.9	3.7	3.8	3.8	3.6	3.8	3.7	3.6	3.8	3.73	3.64	3.65
15	総合的に判断して、この授業は満足できるものでしたか	3.8	3.6	3.9	3.7	3.4	3.7	3.6	3.8	3.69	3.60	3.5	3.9	3.6	3.9	3.9	3.3	3.8	3.6	3.6	3.2	3.62	3.52	3.56
平均		3.6	3.7	3.8	3.7	3.5	3.5	3.6	3.7	3.64	3.54	3.5	3.8	3.5	3.7	3.8	3.2	3.6	3.5	3.5	3.4	3.55	3.45	3.50
回収率		45.5%	18.8%	33.7%	23.8%	25.7%	25.7%	25.7%	25.0%	28.0%	61.2%	36.8%	78.9%	51.3%	73.5%	52.8%	44.4%	31.6%	31.6%	52.9%	50.0%	50.4%	69.6%	65.6%

※　点数は、4点を満点とした科目。項目別の平均点は、小数点第2位以下四捨五入。学年科目平均点は、小数点第3位以下四捨五入。回収率は、小数点第2以下四捨五入。

2022年度前期　授業評価アンケート科目・項目別平均点　【４年次】（実習科目を除く）

No.	アンケート項目 ＼ 授業科目	看護学科　授業科目（前期）											栄養学科　授業科目（前期）								看護・栄養学科　全学年科目平均
		保健医療福祉行政論Ⅱ★	保健統計学Ⅱ	精神看護活動論Ⅱ	リハビリテーション看護論	がん看護論	クリティカル看護論	慢性看護論	終末期看護論	公衆衛生看護活動論Ⅲ	４年次科目平均	全学年科目平均	保健医療福祉行政論Ⅱ（履修者なし）★	食品機能学	臨床栄養学Ⅳ	臨床栄養学実習Ⅲ	地域栄養活動演習	総合演習Ⅱ	４年次科目平均	全学年科目平均	
1	この授業に意欲的に取り組みましたか	3.3	3.4	3.6	3.6	3.6	3.6	3.8	3.8	3.8	3.60	3.58		4.0	3.8	3.7	3.7	3.7	3.78	3.46	3.52
2	この授業の予習・復習を行いましたか（授業時間以外の自学自習を行いましたか※課題を含む）	2.8	2.5	3.3	3.3	2.7	3.4	3.5	3.0	3.3	3.07	2.96		3.7	3.5	3.3	3.1	3.3	3.36	2.84	2.89
3	自分の学習態度は良かったと思いますか（私語をしない、遅刻しないなど）	3.2	3.3	3.7	3.8	3.5	3.5	3.8	3.6	3.8	3.57	3.57		2.7	3.8	3.7	3.5	3.7	3.46	3.44	3.50
4	この授業は授業計画変更により新たに示されたシラバスまたは学習要項に基づいて行われましたか	3.6	3.5	3.8	3.8	3.9	3.8	3.8	3.8	3.8	3.74	3.71		4.0	3.8	3.4	3.7	3.7	3.70	3.62	3.66
5	教員の声、話し方は聞き取りやすかったですか	3.5	3.4	3.8	3.5	3.8	3.4	4.0	3.7	3.8	3.64	3.55		4.0	3.7	3.8	3.7	3.8	3.80	3.50	3.52
6	板書やスクリーン、パワーポイント、ＤＶＤなどは見やすかったですか	3.5	3.5	3.8	3.8	3.7	3.6	4.0	3.8	3.8	3.72	3.59		4.0	3.9	3.6	3.7	3.7	3.78	3.51	3.55
7	教員は学生の質問、発言に適切に対応していたと思いますか（メールでの質問も含む）	3.6	3.5	3.8	3.9	3.8	3.8	3.8	3.8	3.8	3.75	3.66		4.0	3.8	3.6	3.6	3.7	3.75	3.62	3.64
8	授業の内容や要点はよく理解できましたか	3.4	3.5	3.7	3.8	3.8	3.8	3.8	3.6	3.8	3.67	3.57		4.0	3.7	3.6	3.5	3.7	3.70	3.43	3.50
9	教科書や補助教材は授業内容の理解に役立ちましたか	3.2	3.5	3.6	3.5	3.5	3.8	3.8	3.4	3.8	3.56	3.54		4.0	3.7	3.6	3.4	3.5	3.65	3.48	3.51
10	事前に授業のイメージができましたか（初回に提示された授業内容・配付された資料はわかりやすかったですか）	3.3	3.2	3.5	3.8	3.5	3.6	3.5	3.4	3.5	3.49	3.39		4.0	3.8	3.5	3.5	3.4	3.65	3.31	3.35
11	この授業によって、知識が得られ自分の考えを深めることができましたか	3.5	3.5	3.8	3.9	3.8	3.8	3.8	3.7	3.8	3.71	3.65		4.0	3.9	3.8	3.8	3.7	3.84	3.52	3.58
12	この授業によって、刺激を受けさらに学びを広げたいと思いましたか	3.3	3.2	3.7	3.8	3.7	3.7	3.5	3.6	3.8	3.58	3.52		4.0	3.9	3.6	3.3	3.6	3.69	3.36	3.44
13	この授業によって、刺激を受けさらに学びを広げたいと思いましたか	3.5	3.6	3.8	3.8	3.7	3.8	3.8	3.8	3.5	3.69	3.61		4.0	3.7	3.6	3.8	3.8	3.78	3.58	3.59
14	この授業の人的環境は学習する上で適切だったと思いますか（人的環境とは私語・周囲の騒音など）	3.7	3.7	3.8	3.9	3.8	3.7	4.0	3.8	3.8	3.78	3.66		4.0	3.8	3.7	3.9	3.6	3.79	3.64	3.65
15	総合的に判断して、この授業は満足できるものでしたか	3.6	3.5	3.8	3.9	3.8	3.6	3.8	3.7	3.8	3.70	3.60		4.0	3.8	3.8	3.8	3.6	3.79	3.52	3.56
平均		3.4	3.4	3.7	3.7	3.6	3.7	3.8	3.6	3.7	3.62	3.54		3.9	3.8	3.6	3.6	3.6	3.70	3.45	3.50
回収率		74.2%	41.8%	35.9%	88.9%	75.3%	22.0%	50.0%	41.5%	57.1%	54.1%	61.2%		75.0%	43.2%	74%	71%	68.4%	66.4%	69.6%	65.6%

※　点数は、4点を満点とした科目。項目別の平均点は、小数点第2位以下四捨五入。学年科目平均点は、小数点第3位以下四捨五入。回収率は、小数点第2以下四捨五入。

★　合同科目、学科別に集計。

2022年度前期　実習評価アンケート科目・項目別平均点
【看護学科　前期　実習科目】

No.	授業科目 / アンケート項目	1年次	4年次				前期実習科目平均
		看護基礎実習Ⅰ	精神看護実習	在宅看護実習	看護総合実習	4年次実習科目平均	
1	この実習に意欲的に取り組みましたか	3.96	3.92	3.81	3.83	3.85	3.88
2	実習期間中、この実習のための予習・復習をしましたか	3.84	3.67	3.50	3.00	3.39	3.50
3	自分の実習態度はよかったと思いますか（あいさつ、身だしなみ・言葉づかい・実習の取り組み）	3.88	3.88	3.81	3.65	3.78	3.80
4	この実習では実習要項を活用しましたか	3.89	3.92	3.88	3.00	3.60	3.67
5	実習オリエンテーションはわかりやすく事前に実習のイメージができましたか	3.43	3.71	2.69	2.74	3.04	3.14
6	教員の指導、助言は適切でわかりやすかったですか	3.83	3.83	3.44	3.04	3.44	3.54
7	教員に質問や相談、援助を求めやすかったですか	3.70	3.96	3.44	3.04	3.48	3.53
8	この実習により看護への興味や関心を深めることができましたか	3.93	3.88	3.69	3.04	3.54	3.63
9	この実習により実習目標に到達できましたか	3.71	3.63	3.50	3.57	3.56	3.60
10	総合的に判断して、この実習は満足できるものでしたか	3.80	3.83	3.50	3.22	3.52	3.59
平　　均		3.80	3.82	3.53	3.21	3.52	3.59
回　収　率		90.1%	23.3%	15.5%	22.3%	20.4%	37.8%

※　点数は、4点を満点とし小数点第3位以下四捨五入。回収率は小数点第2位以下四捨五入。

2022年度後期　授業評価アンケート科目・項目別平均点　【１年次】（実習科目を除く）

№.	授業科目 / アンケート項目	看護学科　授業科目（後期・通年）																								栄養学科　授業科目（後期・通年）																											看護・栄養学科　全学年科目平均
		統計分析法	情報リテラシー	英語Ⅲ（会話）A・C	英語Ⅲ（会話）B・D	表現技法Ⅲ（討議・発表）A・C	表現技法Ⅲ（討議・発表）B・D	スポーツ理論 ★	法と人権 ★	地域社会文化論 ★	形態機能学Ⅱ	感染免疫学	病態学	栄養代謝学	環境保健論	関係法規	特別総合科目	看護技術論Ⅰ	地域看護学概論	成人看護学概論	高齢者看護学概論Ⅰ	地域連携ケア論Ⅰ ★	1年次科目平均	全学年科目平均	統計分析法	情報リテラシー	英語Ⅲ（会話）A 習熟度別クラス	英語Ⅲ（会話）B 習熟度別クラス	表現技法Ⅲ（討議・発表）A・C	表現技法Ⅲ（討議・発表）B	スポーツ科学と運動	スポーツ理論 ★	地域社会文化論 ★	法と人権 ★	生涯発達論	特別総合科目 △	形態機能学Ⅱ	微生物学	微生物学実験	生化学Ⅰ	食品科学Ⅱ	食品科学実験Ⅰ	調理学実習Ⅱ	基礎栄養学	食育農場演習	地域連携系ケア論Ⅰ ★	教育原理	教育制度論	1年次科目平均	全学年科目平均	
1	この授業に意欲的に取り組みましたか	3.4	3.6	3.5	2.8	3.7	3.9	3.9	3.8	3.4	3.5	3.6	3.3	3.4	3.6	3.5	3.4	3.8	3.4	3.5	3.5	3.1	3.51	3.54	3.3	3.3	3.7	3.0	3.5	3.9	3.9	3.8	3.0	3.0	2.6		3.7	3.5	3.6	3.4	3.4	3.8	3.9	3.5	3.7	3.4	3.5	3.4	3.48	3.56	3.55
2	この授業の予習・復習を行いましたか（授業時間以外の自学自習を行いましたか※課題を含む）	3.2	2.8	3.2	3.4	3.0	3.1	2.5	2.9	2.7	3.0	3.1	2.7	2.8	2.8	2.8	2.6	3.7	2.8	3.2	2.9	1.8	2.90	2.96	3.2	2.6	3.4	2.8	3.7	3.1	3.2	2.9	2.6	3.0	2.0		3.3	3.2	3.2	2.8	3.2	3.5	3.7	3.0	2.4	2.5	2.9	2.4	2.99	3.00	2.98
3	自分の学習態度は良かったと思いますか（私語をしない、遅刻しないなど）	3.5	3.5	3.4	3.3	3.7	3.8	3.8	3.6	3.5	3.6	3.5	3.3	3.6	3.5	3.6	3.6	3.6	3.5	3.6	3.5	3.6	3.55	3.55	3.3	3.4	3.6	3.3	3.5	3.8	3.8	3.8	3.6	3.1	2.8		3.7	3.5	3.7	3.6	3.5	3.7	3.9	3.2	3.8	3.4	3.7	3.4	3.51	3.56	3.56
4	この授業は授業計画変更により新たに示されたシラバスまたは学習要項に基づいて行われましたか	3.5	3.7	3.7	2.1	3.7	3.8	3.9	3.9	3.6	3.7	3.7	3.7	3.5	3.8	3.6	2.6	3.8	3.4	3.7	3.6	3.2	3.53	3.59	3.6	2.9	3.7	2.3	3.8	3.8	4.0	3.8	3.7	3.6	3.5		3.8	3.7	3.8	3.6	3.7	3.8	3.9	3.9	3.6	3.6	3.2	3.1	3.59	3.63	3.61
5	教員の声、話し方は聞き取りやすかったですか	3.2	3.5	3.7	1.4	3.7	3.9	4.0	3.8	3.6	3.5	3.6	3.7	3.4	3.6	3.4	2.3	3.7	3.3	3.7	3.6	2.7	3.40	3.47	3.4	3.1	3.8	2.2	3.8	3.9	4.0	3.8	3.6	3.4	2.6		3.8	3.6	3.8	2.4	3.5	3.9	3.3	3.8	3.9	3.5	3.3	3.0	3.45	3.59	3.54
6	板書やスクリーン、パワーポイント、ＤＶＤなどは見やすかったですか	3.2	3.5	3.6	1.8	3.8	4.0	4.0	3.3	3.6	3.6	3.7	3.5	3.3	3.4	3.3	2.4	3.7	3.2	3.5	3.6	2.8	3.37	3.45	3.4	3.1	3.6	2.1	3.9	4.0	4.0	3.8	3.6	3.3	2.8		3.8	3.6	3.7	3.1	3.6	3.8	3.4	3.7	3.8	3.5	3.3	2.3	3.44	3.49	3.47
7	教員は学生の質問、発言に適切に対応していたと思いますか（メールでの質問も含む）	3.4	3.6	3.7	1.4	3.8	3.9	3.9	4.0	3.6	3.6	3.7	3.6	3.4	3.6	3.4	2.3	3.6	3.3	3.7	3.6	3.0	3.44	3.49	3.3	3.3	3.6	2.3	3.8	3.9	4.0	3.8	3.2	3.7	3.4		3.8	3.6	3.8	3.2	3.6	3.7	3.7	3.9	3.9	3.6	3.5	3.6	3.58	3.67	3.59
8	授業の内容や要点はよく理解できましたか	3.5	3.7	3.7	2.1	3.7	3.8	3.9	3.9	3.6	3.7	3.7	3.7	3.5	3.8	3.6	2.6	3.8	3.4	3.7	3.6	3.2	3.53	3.59	3.6	2.9	3.7	2.3	3.8	3.8	4.0	3.8	3.7	3.6	3.5		3.8	3.7	3.8	3.6	3.7	3.8	3.9	3.9	3.6	3.6	3.2	3.1	3.59	3.63	3.61
9	教科書や補助教材は授業内容の理解に役立ちましたか	2.9	3.5	3.7	2.4	3.7	3.7	3.9	3.4	3.5	3.5	3.5	2.8	3.3	3.3	3.8	2.4	3.7	3.3	3.6	3.5	2.7	3.34	3.44	3.1	2.9	3.8	2.3	3.8	3.7	3.8	3.7	3.6	3.3	3.3		3.8	3.7	3.7	3.3	3.7	3.8	3.9	3.7	3.7	3.5	3.3	2.4	3.47	3.56	3.51
10	事前に授業のイメージができましたか（初回に提示された授業内容・配付された資料はわかりやすかったですか）	2.9	3.3	3.8	2.0	3.8	3.7	3.8	3.1	3.3	3.6	3.5	3.3	3.5	3.0	3.2	2.2	3.7	3.1	3.3	3.4	2.5	3.23	3.31	3.2	2.4	3.7	2.5	3.6	3.7	3.7	3.7	3.3	3.3	3.0		3.8	3.5	3.4	3.3	3.6	3.8	3.8	3.5	3.7	3.3	3.0	3.2	3.39	3.43	3.38
11	この授業によって、知識が得られ自分の考えを深めることができましたか	2.9	3.4	3.7	1.7	3.7	3.9	3.9	3.8	3.6	3.7	3.6	3.4	3.5	3.4	3.6	3.3	3.8	3.4	3.6	3.5	2.8	3.44	3.52	3.1	2.8	3.7	2.1	3.8	3.9	3.9	3.7	3.5	3.4	3.3		3.8	3.5	3.6	3.2	3.7	3.8	3.9	3.6	3.8	3.6	3.1	3.4	3.49	3.57	3.55
12	この授業によって、刺激を受けさらに学びを広げたいと思いましたか	2.7	3.2	3.6	1.7	3.7	3.8	3.9	3.6	3.5	3.6	3.5	3.3	3.3	3.3	3.5	3.3	3.8	3.3	3.5	3.5	2.8	3.35	3.45	2.7	2.5	3.3	2.2	3.5	3.8	3.9	3.6	3.4	3.1	2.5		3.6	3.3	3.5	3.1	3.7	3.6	3.9	3.5	3.8	3.3	3.0	3.0	3.29	3.46	3.45
13	この授業によって、刺激を受けさらに学びを広げたいと思いましたか	3.4	3.5	3.7	2.7	3.8	3.9	3.9	3.9	3.7	3.6	3.7	3.3	3.4	3.4	3.4	2.8	3.5	3.4	3.6	3.4	2.7	3.45	3.55	3.5	3.4	3.8	3.1	3.8	3.9	3.9	3.7	3.7	3.6	3.4		3.9	3.7	3.7	3.4	3.8	3.7	3.6	3.8	3.7	3.6	3.3	3.0	3.61	3.66	3.61
14	この授業の人的環境は学習する上で適切だったと思いますか（人的環境とは私語・周囲の騒音など）	3.4	3.5	3.6	3.0	3.8	3.9	3.9	4.0	3.6	3.6	3.5	3.5	3.4	3.5	3.6	2.8	3.8	3.4	3.6	3.5	3.2	3.52	3.61	3.4	2.6	3.7	3.3	3.9	3.9	4.0	3.9	3.5	3.5	4.0		3.8	3.7	3.7	3.5	3.7	3.9	3.6	3.8	3.7	3.5	3.3	3.3	3.61	3.66	3.64
15	総合的に判断して、この授業は満足できるものでしたか	2.9	3.3	3.7	1.3	3.7	3.9	3.9	3.8	3.6	3.5	3.6	3.5	3.4	3.5	3.5	2.0	3.7	3.2	3.6	3.5	2.2	3.31	3.42	3.2	2.7	3.6	1.8	3.8	3.9	3.9	3.7	3.6	3.4	3.0		3.8	3.5	3.6	3.0	3.7	3.8	3.8	3.7	3.9	3.4	3.0	3.3	3.44	3.57	3.50
	平　　均	3.2	3.4	3.6	2.2	3.7	3.8	3.8	3.6	3.5	3.5	3.6	3.4	3.4	3.4	3.5	2.7	3.7	3.3	3.6	3.5	2.8	3.39	3.46	3.3	2.9	3.7	2.5	3.7	3.8	3.8	3.7	3.4	3.3	3.0		3.7	3.6	3.6	3.2	3.6	3.8	3.8	3.6	3.7	3.4	3.2	3.1	3.46	3.54	3.50
	回　収　率	30.5%	44.4%	48.2%	30.8%	46.4%	76.9%	25.5%	32.0%	30.9%	23.1%	21.3%	66.7%	23.9%	46.3%	33.3%	19.6%	59.3%	38.9%	48.1%	24.1%	12.0%	37.2%	38.8%	67.7%	29.1%	92.6%	92.9%	94.3%	91.3%	91.5%	37.8%	43.5%	60.5%	27.6%		71.7%	61.4%	78.9%	47.2%	55.6%	67.9%	35.8%	77.8%	95.0%	50.9%	70.6%	58.8%	65.2%	60.7%	51.1%

※　点数は、４点を満点とした科目。項目別の平均点は、小数点第2位以下四捨五入。学年科目平均点は、小数点第3位以下四捨五入。回収率は、小数点第2以下四捨五入。
★　合同科目、学科別に集計。
△　履修人数５名以下の科目。集計に含めない。

2022年度後期　授業評価アンケート科目・項目別平均点　【２年次】（実習科目を除く）

No.	授業科目 / アンケート項目	看護学科　授業科目（後期・通年）																栄養学科　授業科目（前期）																						看護・栄養学科　全学年科目平均
		教育学 ★	疾病治療論Ⅱ	社会福祉論	看護技術論Ⅲ	健康教育論	看護倫理	看護理論	成人看護活動論Ⅰ	成人看護活動論Ⅱ	高齢者看護活動論Ⅰ	小児看護活動論Ⅰ	母性看護活動論Ⅰ	家族看護論	2年次科目平均	全学年科目平均		英語Ⅳ（総合） △	国際社会論 ☆	教育学 ★	文学と人間 ☆	健康管理概論	公衆衛生学実習	形態機能学実習Ⅱ	病態診療学Ⅰ	食品科学Ⅲ	応用栄養学Ⅱ	スポーツ栄養学総論	栄養教育論Ⅱ	食育実践演習	臨床栄養学Ⅰ	給食経営管理論Ⅱ	給食経営管理論実習Ⅰ	特別活動・総合的学習指導論	生徒指導論	2年次科目平均	全学年科目平均	
1	この授業に意欲的に取り組みましたか	3.6	3.5	3.7	3.8	3.6	3.8	3.6	3.5	3.7	3.7	3.7	3.6	3.4	3.63	3.54		3.6	3.3	3.4	3.3	3.4	3.7	3.3	3.7	3.6	3.5	3.6	3.8	3.6	3.8	3.8	3.6	3.6	3.56	3.56	3.55
2	この授業の予習・復習を行いましたか（授業時間以外の自学自習を行いましたか※課題を含む）	2.4	2.3	2.8	3.6	3.1	3.1	3.4	3.3	3.4	3.0	3.3	3.5	2.5	3.05	2.96		2.8	2.1	2.0	2.7	2.8	3.2	3.0	3.2	3.0	3.2	3.1	3.0	3.2	3.2	3.4	2.0	2.9	2.87	3.00	2.98
3	自分の学習態度は良かったと思いますか（私語をしない、遅刻しないなど）	3.4	3.4	3.7	3.7	3.5	3.8	3.6	3.4	3.6	3.5	3.7	3.5	3.6	3.55	3.55		3.4	3.5	3.4	3.3	3.4	3.6	3.5	3.6	3.5	3.4	3.7	3.8	3.6	3.6	3.7	3.8	3.4	3.53	3.56	3.56
4	この授業は授業計画変更により新たに示されたシラバスまたは学習要項に基づいて行われましたか	3.8	3.7	3.8	3.8	3.6	3.8	3.7	3.6	3.6	3.8	3.7	3.7	3.7	3.71	3.59		3.6	3.4	3.4	3.7	3.4	3.8	3.6	3.8	3.6	3.3	3.6	3.3	3.8	3.8	3.7	2.8	3.4	3.51	3.63	3.61
5	教員の声、話し方は聞き取りやすかったですか	3.9	3.5	3.9	3.8	3.5	3.8	3.6	3.5	3.4	3.8	3.7	2.8	3.5	3.60	3.47		3.3	3.7	4.0	3.3	3.6	3.8	3.4	3.9	3.4	3.5	3.6	3.8	3.9	3.8	3.8	3.6	3.9	3.66	3.59	3.54
6	板書やスクリーン、パワーポイント、ＤＶＤなどは見やすかったですか	3.7	3.6	3.7	3.7	3.3	3.6	3.5	3.6	3.4	3.8	3.7	3.4	3.5	3.58	3.45		3.2	3.7	3.2	3.5	3.4	3.6	3.5	3.8	3.6	3.3	3.5	3.1	3.7	3.7	3.6	2.8	3.4	3.45	3.49	3.47
7	教員は学生の質問、発言に適切に対応していたと思いますか（メールでの質問も含む）	3.7	3.6	3.8	3.8	3.4	3.9	3.4	3.5	3.6	3.8	3.8	3.2	3.5	3.61	3.49		3.7	3.7	3.8	3.5	3.4	3.9	3.6	3.9	3.8	3.4	3.7	3.5	3.8	3.8	3.8	3.3	3.7	3.66	3.67	3.59
8	授業の内容や要点はよく理解できましたか	3.8	3.7	3.8	3.8	3.6	3.8	3.7	3.6	3.6	3.8	3.7	3.7	3.7	3.71	3.59		3.6	3.4	3.4	3.7	3.4	3.8	3.6	3.8	3.6	3.3	3.6	3.3	3.8	3.8	3.7	2.8	3.4	3.51	3.63	3.61
9	教科書や補助教材は授業内容の理解に役立ちましたか	3.6	3.6	3.8	3.8	3.3	3.8	3.4	3.5	3.6	3.8	3.8	3.5	3.4	3.59	3.44		3.6	3.5	3.8	3.3	3.4	3.5	3.5	3.8	3.7	3.4	3.6	3.1	3.7	3.8	3.8	3.3	3.4	3.53	3.56	3.51
10	事前に授業のイメージができましたか（初回に提示された授業内容・配付された資料はわかりやすかったですか）	3.7	3.3	3.7	3.8	3.4	3.4	3.3	3.4	3.6	3.7	3.7	3.5	3.2	3.52	3.31		3.5	3.3	3.0	3.2	3.2	3.7	3.4	3.7	3.5	3.2	3.6	3.3	3.3	3.7	3.7	2.6	3.1	3.35	3.43	3.38
11	この授業によって、知識が得られ自分の考えを深めることができましたか	4.0	3.7	3.8	3.8	3.5	3.8	3.6	3.5	3.6	3.8	3.8	3.6	3.5	3.70	3.52		3.7	3.7	3.4	3.5	3.4	3.7	3.5	3.7	3.7	3.7	3.4	3.6	3.6	3.8	3.7	3.5	3.4	3.59	3.57	3.55
12	この授業によって、刺激を受けさらに学びを広げたいと思いましたか	3.9	3.7	3.7	3.8	3.5	3.7	3.5	3.4	3.6	3.7	3.8	3.6	3.4	3.63	3.45		3.6	3.5	3.4	3.3	3.3	3.7	3.5	3.7	3.6	3.6	3.5	3.6	3.6	3.8	3.8	3.6	3.3	3.55	3.46	3.45
13	この授業によって、刺激を受けさらに学びを広げたいと思いましたか	4.0	3.7	3.8	3.8	3.5	3.7	3.7	3.6	3.7	3.8	3.8	3.7	3.6	3.71	3.55		3.6	3.5	3.8	3.5	3.5	3.8	3.5	3.8	3.7	3.5	3.6	3.8	3.8	3.7	3.7	3.5	3.6	3.64	3.66	3.61
14	この授業の人的環境は学習する上で適切だったと思いますか（人的環境とは私語・周囲の騒音など）	3.9	3.5	3.8	3.8	3.5	3.8	3.7	3.7	3.6	3.8	3.7	3.7	3.6	3.70	3.61		3.6	3.7	3.6	3.6	3.6	3.7	3.5	3.8	3.7	3.6	3.5	3.5	3.8	3.7	3.6	3.5	3.9	3.63	3.66	3.64
15	総合的に判断して、この授業は満足できるものでしたか	4.0	3.7	3.9	3.8	3.6	3.8	3.5	3.5	3.4	3.9	3.8	3.0	3.5	3.64	3.42		3.7	3.6	3.8	3.4	3.4	3.8	3.6	3.8	3.7	3.6	3.6	3.6	3.8	3.8	3.8	3.6	3.3	3.64	3.57	3.50
	平　　均	3.7	3.5	3.7	3.8	3.5	3.7	3.5	3.5	3.5	3.7	3.7	3.5	3.4	3.60	3.46		3.5	3.4	3.4	3.4	3.4	3.7	3.5	3.7	3.6	3.4	3.5	3.5	3.7	3.7	3.7	3.2	3.4	3.51	3.54	3.50
	回　収　率	63.6%	21.5%	30.2%	89.6%	40.0%	72.5%	55.1%	35.5%	16.7%	22.6%	28.7%	27.3%	30.1%	41.0%	38.8%		74.1%	53.6%	62.5%	63.0%	50.9%	50.9%	43.6%	56.9%	71.4%	30.4%	60.4%	55.2%	32.1%	58.2%	55.8%	72.7%	63.6%	56.2%	60.7%	51.1%

※　点数は、4点を満点とした科目。項目別の平均点は、小数点第2位以下四捨五入。学年科目平均点は、小数点第3位以下四捨五入。回収率は、小数点第2以下四捨五入。

★☆　合同科目、学科別に集計。

△　履修人数５名以下の科目。集計に含めない。

2022年度後期　授業評価アンケート科目・項目別平均点　【３年次】（実習科目を除く）

No.	授業科目 / アンケート項目	看護学科　授業科目（後期・通年）												栄養学科　授業科目（後期・通年）																	看護・栄養学科　全学年科目平均
		保健医療福祉行政論Ⅰ	保健統計学Ⅰ	精神看護活動論Ⅰ	在宅看護論Ⅰ	在宅看護論Ⅲ	看護学研究法	看護管理論	公衆衛生看護活動論Ⅰ	公衆衛生看護活動論Ⅱ	公衆衛生看護管理論	３年次科目平均	全学年科目平均	保健医療福祉行政論Ⅱ	応用栄養学実習	免疫と栄養	スポーツ栄養学	栄養教育論実習	食育指導論	総合演習Ⅰ	臨床栄養学Ⅲ	臨床栄養学実習Ⅱ	公衆栄養学Ⅱ	公衆栄養学実習Ⅰ	英語文献購読演習	教育相談論	特別支援教育概論	３年次科目平均	全学年科目平均	
1	この授業に意欲的に取り組みましたか	3.6	3.9	3.8	2.9	3.2	3.4	3.4	3.6	3.4	3.5	3.48	3.54	3.1	3.8	3.7	3.6	3.9	3.4	3.8	3.6	3.8	3.9	3.7	3.0	3.7	3.5	3.60	3.56	3.55
2	この授業の予習・復習を行いましたか（授業時間以外の自学自習を行いましたか※課題を含む）	2.7	2.6	3.1	2.6	2.9	3.0	2.2	3.2	3.1	2.6	2.80	2.96	2.0	2.8	2.7	2.1	3.2	2.6	2.9	3.2	3.4	3.6	3.2	3.5	3.3	2.8	2.95	3.00	2.98
3	自分の学習態度は良かったと思いますか（私語をしない、遅刻しないなど）	3.5	3.7	3.7	3.2	3.6	3.6	3.5	3.6	3.6	3.3	3.52	3.55	3.5	3.7	3.6	3.5	3.8	3.7	3.8	3.4	3.6	3.7	3.8	3.7	3.6	3.8	3.64	3.56	3.56
4	この授業は授業計画変更により新たに示されたシラバスまたは学習要項に基づいて行われましたか	3.7	3.8	3.8	2.9	3.2	3.8	3.7	3.7	3.9	3.9	3.64	3.59	3.7	3.8	3.8	3.3	3.7	3.5	3.9	3.7	3.8	3.9	3.8	4.0	3.9	4.0	3.77	3.63	3.61
5	教員の声、話し方は聞き取りやすかったですか	3.6	4.0	3.8	2.0	2.8	3.7	3.6	3.8	3.4	3.8	3.46	3.47	3.5	3.5	3.5	3.7	3.9	3.4	3.7	3.5	3.7	3.8	3.9	3.3	3.9	3.8	3.65	3.59	3.54
6	板書やスクリーン、パワーポイント、ＤＶＤなどは見やすかったですか	3.6	3.9	3.8	2.5	2.7	3.4	3.6	3.8	3.3	3.7	3.42	3.45	3.6	3.5	3.9	3.2	3.9	3.2	3.7	3.2	3.7	3.6	3.7	3.8	3.9	3.8	3.61	3.49	3.47
7	教員は学生の質問、発言に適切に対応していたと思いますか（メールでの質問も含む）	3.7	3.8	3.8	2.8	2.5	3.5	3.7	3.9	3.7	3.8	3.53	3.49	3.5	3.8	3.8	3.8	3.9	3.6	3.8	3.5	3.8	3.9	3.9	3.8	3.9	4.0	3.80	3.67	3.59
8	授業の内容や要点はよく理解できましたか	3.7	3.8	3.8	2.9	3.2	3.8	3.7	3.7	3.9	3.9	3.64	3.59	3.7	3.8	3.8	3.3	3.7	3.5	3.9	3.7	3.8	3.9	3.8	4.0	3.9	4.0	3.77	3.63	3.61
9	教科書や補助教材は授業内容の理解に役立ちましたか	3.8	3.8	3.7	3.1	2.6	3.5	3.5	3.7	3.4	3.7	3.49	3.44	3.5	3.5	3.8	3.1	3.8	3.4	3.7	3.4	3.8	3.8	3.8	3.5	3.9	3.8	3.62	3.56	3.51
10	事前に授業のイメージができましたか（初回に提示された授業内容・配付された資料はわかりやすかったですか）	3.7	3.7	3.6	2.8	2.6	3.1	3.2	3.4	3.4	3.6	3.30	3.31	3.3	3.3	3.6	2.8	3.7	3.5	3.4	3.3	3.7	3.7	3.5	3.8	3.9	3.8	3.51	3.43	3.38
11	この授業によって、知識が得られ自分の考えを深めることができましたか	3.7	3.8	3.7	2.9	3.0	3.5	3.5	3.7	3.4	3.6	3.48	3.52	3.3	3.3	3.8	3.3	3.8	3.5	3.7	3.5	3.8	3.8	3.7	3.7	3.7	3.5	3.61	3.57	3.55
12	この授業によって、刺激を受けさらに学びを広げたいと思いましたか	3.6	3.8	3.8	3.0	2.9	3.4	3.4	3.6	3.4	3.5	3.45	3.45	3.2	3.4	3.8	3.5	3.9	3.1	3.8	3.4	3.8	3.7	3.5	3.2	3.7	3.3	3.50	3.46	3.45
13	この授業によって、刺激を受けさらに学びを広げたいと思いましたか	3.6	3.8	3.8	3.0	3.2	3.7	3.6	3.5	3.3	3.7	3.54	3.55	3.8	3.8	3.9	3.6	3.9	3.4	3.8	3.5	3.8	3.7	3.8	4.0	3.9	4.0	3.77	3.66	3.61
14	この授業の人的環境は学習する上で適切だったと思いますか（人的環境とは私語・周囲の騒音など）	3.6	3.8	3.7	3.3	3.5	3.6	3.6	3.8	3.9	4.0	3.68	3.61	3.7	3.9	3.8	3.8	3.8	3.4	3.8	3.5	3.8	3.8	3.5	4.0	3.7	4.0	3.76	3.66	3.64
15	総合的に判断して、この授業は満足できるものでしたか	3.7	3.9	3.7	2.8	2.6	3.3	3.7	3.6	3.3	3.7	3.43	3.42	3.6	3.5	3.8	3.5	3.9	3.5	3.7	3.5	3.8	3.7	3.7	3.5	3.9	3.8	3.66	3.57	3.50
	平　　均	3.6	3.7	3.7	2.9	3.0	3.5	3.5	3.6	3.5	3.6	3.46	3.46	3.4	3.6	3.7	3.3	3.8	3.4	3.7	3.5	3.7	3.8	3.7	3.7	3.8	3.7	3.61	3.54	3.50
	回　収　率	13.9%	46.5%	17.8%	18.8%	20.8%	25.7%	32.0%	80.0%	35.0%	90.0%	38.1%	38.8%	31.4%	34.3%	35.3%	51.5%	73.5%	37.1%	76.3%	82.5%	64.1%	68.4%	51.3%	85.7%	70.0%	40.0%	57.3%	60.7%	51.1%

※　点数は、4点を満点とした科目。項目別の平均点は、小数点第2位以下四捨五入。学年科目平均点は、小数点第3位以下四捨五入。回収率は、小数点第2以下四捨五入。

△　履修人数５名以下の科目。集計に含めない。

2022年度後期　授業評価アンケート科目・項目別平均点　【４年次】（実習科目を除く）

No.	授業科目 / アンケート項目	看護学科　授業科目（後期・通年）									栄養学科　授業科目（後期・通年）										看護・栄養学科　全学年科目平均
		英語Ⅴ（総合）★△	文学と人間△★	国際社会論△★	看護課題研究	国際看護論	看護教育論△	実践総合演習	4年次科目平均	全学年科目平均	英語Ⅴ（総合）★△	国際社会論★	文学と人間★	管理栄養士総合演習	国際栄養学△	卒業研究	栄養教育実習事前・事後指導	教職実践演習	4年次科目平均	全学年科目平均	
1	この授業に意欲的に取り組みましたか				3.5	3.8		3.5	3.60	3.54		3.8	4.0	3.7		3.8	3.6	3.7	3.75	3.56	3.55
2	この授業の予習・復習を行いましたか（授業時間以外の自学自習を行いましたか※課題を含む）				3.2	3.5		3.7	3.47	2.96		3.4	3.6	3.2		3.7	3.8	3.3	3.49	3.00	2.98
3	自分の学習態度は良かったと思いますか（私語をしない、遅刻しないなど）				3.6	3.8		3.7	3.66	3.55		3.8	4.0	3.8		3.7	3.3	3.3	3.64	3.56	3.56
4	この授業は授業計画変更により新たに示されたシラバスまたは学習要項に基づいて行われましたか				3.5	3.5		3.1	3.36	3.59		4.0	4.0	3.6		3.7	3.7	3.7	3.76	3.63	3.61
5	教員の声、話し方は聞き取りやすかったですか				3.5	3.5		3.2	3.41	3.47		3.8	4.0	3.7		3.8	3.7	3.9	3.82	3.59	3.54
6	板書やスクリーン、パワーポイント、ＤＶＤなどは見やすかったですか				3.4	3.8		3.3	3.49	3.45		3.4	3.2	3.7		3.8	3.4	3.7	3.55	3.49	3.47
7	教員は学生の質問、発言に適切に対応していたと思いますか（メールでの質問も含む）				3.3	3.8		2.7	3.23	3.49		3.9	4.0	3.3		3.8	3.9	3.9	3.79	3.67	3.59
8	授業の内容や要点はよく理解できましたか				3.5	3.5		3.1	3.36	3.59		4.0	4.0	3.6		3.7	3.7	3.7	3.76	3.63	3.61
9	教科書や補助教材は授業内容の理解に役立ちましたか				3.3	3.5		3.2	3.32	3.44		4.0	4.0	3.7		3.8	3.8	3.8	3.85	3.56	3.51
10	事前に授業のイメージができましたか（初回に提示された授業内容・配付された資料はわかりやすかったですか）				2.9	3.8		2.5	3.05	3.31		3.5	3.8	3.5		3.8	3.4	3.7	3.64	3.43	3.38
11	この授業によって、知識が得られ自分の考えを深めることができましたか				3.6	3.5		3.2	3.44	3.52		3.7	4.0	3.7		3.8	3.6	3.8	3.76	3.57	3.55
12	この授業によって、刺激を受けさらに学びを広げたいと思いましたか				3.3	3.5		3.2	3.34	3.45		3.7	4.0	3.5		3.8	3.6	3.8	3.73	3.46	3.45
13	この授業によって、刺激を受けさらに学びを広げたいと思いましたか				3.5	3.8		3.6	3.62	3.55		3.8	3.6	3.6		3.8	3.2	3.8	3.64	3.66	3.61
14	この授業の人的環境は学習する上で適切だったと思いますか（人的環境とは私語・周囲の騒音など）				3.5	3.8		3.6	3.59	3.61		3.7	4.0	3.7		3.8	3.2	3.8	3.70	3.66	3.64
15	総合的に判断して、この授業は満足できるものでしたか				3.4	3.5		2.9	3.26	3.42		3.8	4.0	3.3		3.8	3.3	3.8	3.67	3.57	3.50
	平　　均				3.4	3.6		3.2	3.41	3.46		3.8	3.9	3.5		3.8	3.5	3.7	3.70	3.54	3.50
	回　収　率				59.8%	36.4%		32.4%	42.8%	38.8%		71.4%	35.7%	33%		86%	60%	100.0%	64.4%	60.7%	51.1%

※　点数は、4点を満点とした科目。項目別の平均点は、小数点第2位以下四捨五入。学年科目平均点は、小数点第3位以下四捨五入。回収率は、小数点第2以下四捨五入。

★　合同科目、学科別に集計。

△　履修人数５名以下の科目。集計に含めない。

2022年度後期　実習評価アンケート科目・項目別平均点

【看護学科　後期・通年　実習科目】

No.	授業科目 / アンケート項目	2年次	3年次						4年次				全学年実習科目平均
		看護基礎実習Ⅱ	成人看護実習Ⅰ	成人看護実習Ⅱ	高齢者看護実習	小児看護実習	母性看護実習	3年次実習科目平均	公衆衛生看護実習Ⅰ	公衆衛生看護実習Ⅱ	公衆衛生看護実習Ⅲ	4年次実習科目平均	
1	この実習に意欲的に取り組みましたか	3.89	3.90	3.88	3.84	3.71	3.88	3.84	4.00	4.00	4.00	4.00	3.90
2	実習期間中、この実習のための予習・復習をしましたか	3.77	3.70	3.69	3.64	3.48	3.70	3.64	4.00	4.00	4.00	4.00	3.77
3	自分の実習態度はよかったと思いますか（あいさつ、身だしなみ・言葉づかい・実習の取り組み）	3.84	3.83	3.78	3.73	3.60	3.76	3.74	4.00	4.00	4.00	4.00	3.84
4	この実習では実習要項を活用しましたか	3.84	3.73	3.59	3.70	3.77	3.58	3.67	4.00	4.00	4.00	4.00	3.80
5	実習オリエンテーションはわかりやすく事前に実習のイメージができましたか	3.51	3.50	3.41	3.41	3.60	3.54	3.49	4.00	4.00	4.00	4.00	3.66
6	教員の指導、助言は適切でわかりやすかったですか	3.69	3.65	3.72	3.82	3.52	3.74	3.69	4.00	4.00	4.00	4.00	3.79
7	教員に質問や相談、援助を求めやすかったですか	3.66	3.68	3.75	3.75	3.27	3.66	3.62	4.00	4.00	4.00	4.00	3.75
8	この実習により看護への興味や関心を深めることができましたか	3.77	3.78	3.78	3.82	3.67	3.80	3.77	4.00	4.00	4.00	4.00	3.85
9	この実習により実習目標に到達できましたか	3.54	3.45	3.53	3.59	3.29	3.64	3.50	4.00	4.00	4.00	4.00	3.67
10	総合的に判断して、この実習は満足できるものでしたか	3.64	3.70	3.66	3.80	3.44	3.78	3.67	4.00	4.00	4.00	4.00	3.78
平　　均		3.72	3.69	3.68	3.71	3.53	3.71	3.66	4.00	4.00	4.00	4.00	3.78
回　収　率		97.1%	40.0%	32.0%	45.0%	51.5%	49.5%	43.6%	14.3%	14.3%	14.3%	14.3%	39.8%

※　点数は、４点を満点とし小数点第3位以下四捨五入。回収率は小数点第2位以下四捨五入。

2022 年度　委員会等活動報告書

委員会等	キャリア開発委員会
作 成 者	河崎　和子

項　　目	内　　容
【前年度】 次年度への 課題・改善方策 (Problem)	2022 年度に重点的に取り組む課題は以下のとおりである。 1）国家試験に向けた学修支援（看）（栄） （1）看護学科 各学年の国家試験対策委員とも協力し低学年のうちから自分にあった学修方法を考え計画的に学修を進めていくことができるように、今年度から着手した国家試験対策を従来よりも前倒しして実施する。これによって、4 年次の 8 月までにほぼ全員が必修問題の合格基準に到達し、9 月から一般状況問題対策に着手できることをめざす。 保健師国家試験は、新出題基準に対応するために、模擬試験結果を考慮しながら補講を行うことで、ひきつづき全員合格をめざす。 （2）栄養学科 4 年次生に対しては、今年度同様に月 1 回の模擬試験と、対策講座を実施する。 3 年次と 2 年次として「学習のめやす」を作成してガイダンスで説明する。当該年度初めに既習分野模擬試験を実施し成績が 6 割に満たない学生をフォローアップする体制を構築する。これによって当該学年で修得すべき分野を確実に学びにつなげられることをめざす。 2）適切な就職・進学先を見つけるための支援活動（看）（栄） （1）看護学科 年次の進行にあわせて系統立てたキャリア形成と就職支援を検討する。学科としてポートフォリオを活用することが予定されていることから、学年担任やキャリア開発委員の役割を考慮しながら立案していく。これにあわせて、業者による就職ガイダンスの時期や内容を再考する。 保健師学内就職説明会について検討する。市町村及び北海道立保健所は当該年度に就職予定がある学生の参加を希望している。しかし、大学側としては保健師学内就職説明会に参加することで保健師としてのキャリア形成の機会づくりという意図もあることから、対象学年や開催方法、開催時期について再考していく。 （2）栄養学科 年次の進行にあわせて系統立てたキャリア形成と就職支援を検討する。1・2 年次から管理栄養士の活動の場をイメージすることで主体的な就職活動につながることをめざす。そのために、年次にあわせた効果的な就職ガイダンスを検討してく。 また、4 年次での就職活動を円滑に進めるために、最新の求人情報を SharePoint 等でわかりやすく提供していく方法をさらに工夫する。 （3）進路支援課 管理栄養士の多様な就職先を開拓する。主体的な就職活動につながるような意識づけや意欲が乏しい学生に対して働きかけていく。 大学に届く求人やキャリア関連情報を SharePoint 等でわかりやすく周知する。

項　　目	内　　容
今年度の活動計画 （目標・課題）	1）国家試験に向けた学修支援（別紙 1 参照） （1）キャリア支援室の活用の促進（看）（栄）

(Plan)	（２）計画的な自己学修のためのガイダンスと課題配付（看）（栄） （３）学年進行にあわせた模擬試験や補講の実施（看）（栄） （４）視聴覚教材や WEB サービスの活用による学修支援（看） （５）保護者と連携した学修支援（看）（栄） （６）国家試験対策教員セミナーへの参加（看） （７）国家試験が不合格となった既卒生への対応（看）（栄） ２）適切な就職・進学先を見つけるための支援活動（別紙参照） （１）キャリア支援室の活用の促進（看）（栄） （２）ガイダンスによる支援（看）（栄） （３）職業観や専門職意識の育成を図る（看）（栄） （４）業者による就職活動ガイダンスの実施（看）（栄） （５）学内就職説明会の実施（看） （６）進路希望調査の実施と進路決定状況の把握（看）（栄） （７）進学及び就職に関する学校推薦選考基準の運用（看）（栄） （８）4 年次就職・進学支援と状況把握報告（看）（栄） （９）保護者との連携・支援（看）（栄） （１０）求職求人の来客対応（看）（栄）
活　動　内　容 (Do)	１）国家試験に向けた学修支援（別紙 1 参照） （１）キャリア支援室の活用の促進（看）（栄） ガイダンスで周知をし、運用時間を平日 10～17 時にして DVD の貸出しや国試対策書籍の閲覧を可能にした。 （２）計画的な自己学修のためのガイダンスと課題配付（看）（栄） ① 看護学科 低学年から学生が主体的に学修できるよう､4 か年計画を提示し、学年に応じた学修方法のガイダンスを実施、キホンの黄本等の課題を配付した。また､成績不振者への対策として｢必修対策第 1～4 弾｣を実施した。 ② 栄養学科 早期に受験対策に取り組む意識づけをするために、学年の学修状況に応じた課題を配布した。 （３）学年進行にあわせた模擬試験や補講の実施（看）（栄） ① 看護学科（資料 1 参照） 4 年次模擬試験は全 5 回、希望者に 1 回追加実施した。実施後は自己採点と評価等の入力により（Forms）教員側の指導に役立てた。補講（業者）は、4 年次生にオンデマンド講座を 8～10 月にアップし、国家試験前日まで視聴可能な状況を整備した。11 月に対面補講（8 コマ）を実施した。また、2・3 年次生向けの模擬試験を後援会補助のもと実施した。保健師国家試験対策は、過去模擬試験・業者模擬試験を計 4 回、専門基礎・専門科目の補講 18 コマを学内教員が担当した。 ② 栄養学科 4年次の業者模擬試験の実施、また国家試験対策講座を実施し成績が基準に達していない学生に対しては再試等で支援し、チューター制（各1～2名担当）により個別面談を実施した。 （４）視聴覚教材や WEB サービスの活用による学修支援（看） 2～4 年次は学年ごとに国家試験対策用の Teams の活用及び 4 年次に対して模擬試験業者の看護師・保健師国家試験アプリの情報を提供した。3 年次は DVD 学習会 7 回実施（国家試験対策委員）。 （５）保護者と連携した学修支援（看）（栄） 両学科ともに、保護者懇談会での国家試験対策の概要説明をしていたが、今年度も新型コロナウイルス感染症対策のため中止となった。 栄養学科では、4年次生の保護者に対して郵送にて国家試験模擬試験結果報告、国家試験に関するスケジュール、学生への保護者の支

	援等について依頼した。 （6）国家試験対策教員セミナーへの参加（看） 業者が遠隔で開催した教員対象の看護師国家試験対策セミナーに参加し、適宜学科教員へ情報発信した。 （7）国家試験が不合格となった既卒生への対応（看）（栄） 卒業後1年間、学生の希望に応じ、サポートを実施した。 2）適切な就職・進学先を見つけるための支援活動 （1）キャリア支援室の活用（看）（栄） 両学科ともキャリア支援室の活用の仕方､SharePoint での求人情報や合同就職説明会、就職セミナーの情報発信について、前期ガイダンスで周知した。 （2）ガイダンスによる支援（看）（栄） 「就職活動のてびき」を前期ガイダンスで配付し SharePoint 上で閲覧可能にした。講座の紹介もおこなった。 （3）職業観や専門職意識の育成を図る（看）（栄） 看護学科は、11月に1年次生を対象に専門職業人としての意識を涵養するために三職種講演会を実施した。 栄養学科は、2年次（集合型）と編入生を含む3・4年次を対象に管理栄養士として活躍する卒業生の講話を実施した。 （4）業者による就職活動ガイダンスの実施（看）（栄） ① 看護学科（別紙1参照） ② 栄養学科（別紙1参照） （5）学内就職説明会の実施（看） 3 年次 11 月に今年度から保健師求人を合同とした学内就職説明会を実施した。移行期のため、4 年次 6 月に保健師学内就職説明会も実施した。 （6）進路希望調査の実施と進路決定状況の把握（看）（栄） 両学科とも4年次4月に進路希望調査を実施した。また、就職試験後の受験報告書と進路決定届の提出を継続し、進路の把握に努め定例のキャリア開発委員会で進路決定状況を共有した。 （7）進学及び就職に関する学校推薦選考基準の運用（看）（栄） 今年度は適用事例がなかった。 （8）4年次就職・進学支援と状況把握報告（看）（栄） 学担やチューターと連携して進学・就職状況について把握した。 （9）保護者との連携・支援（看）（栄） 特に保護者と連携しなければいけない事例はなかった。 （10）求職求人の来客対応（看）（栄） 道内外併せて看護学科 21 件、栄養学科 28 件の来学者があり委員長または委員及び事務局で対応した。
活動内容の評価 （Check）	1）国家試験に向けた学修支援 2022 年度の看護師国家試験の結果は、新卒者合格率が 95.5%のところ本学は 96%（101 名中 97 名合格）、保健師は新卒者合格率が 96.8%のところ本学は 100%（7 名全員合格）、管理栄養士は新卒者合格率が 87.2%のところ本学は 34.3%（35 名中 12 名合格）だった。 （1）キャリア支援室の活用の促進（看）（栄） キャリア支援室にあるDVD や国試対策の書籍は活用されていた。DVD 視聴や資料閲覧、国試対策学修についての対応は165回だった。 （2）計画的な自己学修のためのガイダンスと課題配付（看）（栄） 看護学科の国家試験ガイダンス（3 年次 11 月）は、出席者 101 名であった。92%の学生が「参考になった」「国試対策の具体的な方法が分かった」との意見が多くあり、ガイダンス時期を早めた成果は得られたものと考える。両学科とも今年度から国家試験対策を前倒して成果については次年度に評価する。

（３）学年進行にあわせた模擬試験や補講の実施（看）（栄）

① 看護学科

成績不振者への対策として模試後の結果をうけ、「必修対策第 1～4 弾」（別紙 2 参照）のうち、第 4 弾では対象者がいない状況であった。業者補講については、73%が役に立ったと回答していた。学生個々の学修進度は異なるため、オンデマンド補講は継続していく。保健師国家試験対策は、12 月の模擬試験で全員が合格圏内であったため、追加補講は実施せず、成績が伸び悩む学生にはゼミ担当教員とタイムリーに学生の情報を共有し、個別支援を実施した。2・3 年次の模擬試験は、欠席者に呼びかけたが、最終的に受験しなかった学生がいた（2 年次 12 名、3 年次 4～8 名）。全員の受験が今後の課題である。

② 栄養学科

業者模擬試験及び国家試験対策講座を実施した（別紙資料 1 参照）。4 年次生は毎日 3～5 名程度の学生が自己学修教室を利用し学修していた。チューター制については月 1～2 回程度の面談を行っていたが年度後半は自身で取り組むべきことが明確になっているため面談の間隔は減ってきていた。1・2・3 年次は、ガイダンスに合わせて模擬試験を実施し学修の成果を確認した。

（４）「Sessa Takuma」は、低学年の活用傾向があった。DVD学習会は各回10～30人程度の任意参加があった。また、国試対策委員と相談しながら学生主体で進めていく。「系統別看護師（保健師）国試WEB 法人サービス 看護師国家試験WEB（教員用プラン）」の活用状況は、延べ60時間（4月～2月）、139回のアクセスがあった。保健師国家試験対策WEB サービス教員用は、延べ3.3時間（4月～3月）、18回のアクセスがあった。特に実習後、明確になった弱点科目の克服に活用し基礎学力の定着につながったと考えられる。

（５）保護者と連携した学修支援（看）（栄）

両学科ともに、今年度も新型コロナ感染症対策のために中止となったが、今後、保護者懇談会を通じて連携していく。

（６）国家試験対策教員セミナーへの参加（看）

学生の到達度や時期に合わせた対策方法についての情報を得ることができた。

（７）国家試験が不合格となった既卒生への対応（看）（栄）

昨年度不合格者に対して、模擬試験受験のサポートや再受験の意思確認等、国家試験対策進捗状況の確認のため、定期的に連絡を取った。連絡を取ることが困難な学生がおり、進路支援課にて対応する。

２）適切な就職・進学先を見つけるための支援活動

（１）キャリア支援室の活用（看）（栄）

対面式及びWebやメールを活用して面接練習や添削を実施した。栄養学科では、SharePointによる就職情報は高評価が得られた。

（２）ガイダンスによる支援（看）（栄）

就職関連行事を時間割に組み込むことでスケジュール調整や心構えができた。また、欠席の際の連絡も身についてきたと思われる。「就職活動のてびき」は、次年度から電子ファイルに変更し、必要時印刷配付することに変更する。

（３）職業観や専門職意識の育成（看）（栄）

各アンケート結果として、両学科とも「とても参考になった」「参考になった」と回答しており、本学卒業生の在学中の学びと現在の仕事の活動を聞くことで、将来像を描くことができ現在の学修の重要性を認識していた。

	（４）業者による就職活動ガイダンスの実施（看）（栄） 各アンケート結果として、多くの学生は「参考になった」と就職活動のイメージがつき必要な準備を理解できた。「公務員試験ガイダンス」は、20 名が参加し好評であった。もう少し早い時期かつ札幌市以外に関する情報提供の希望があり、今後は検討が必要である。栄養学科では、管理栄養士として活躍する卒業生の講話などを実施し、（別紙資料１参照）。とても参考になったとの意見が多かった。 （５）学内就職説明会の実施（看）（栄） 学生の熱心に参加施設ブースを回る姿が見られた。施設からは開催時期・方法に関する満足度は高かった。4 年次保健師就職説明会は 7 名が参加し、積極的な態度で、参加町村からも好評であった。3 年次（栄養）に行った食品メーカー等による学内企業説明会では、少数精鋭の開催方法であったが、参加者は熱心に説明を伺い、質疑などを行う姿も見られた。 （６）進路希望調査の実施と進路決定状況の把握（看）（栄） 4月には進路を決定できずにいる学生も多かったため、委員と担当教員が連携してサポートした。2022年度卒業生の進路状況として、内定率推移、決定した就職先に対する満足度調査、進路決定届を回収した。 （７）進学及び就職に関する学校推薦選考基準の運用（看）（栄） 今年度の適用事例はなかった。 （８）保護者との連携・支援（看）（栄） 両学科ともに、今年度も新型コロナウイルス感染症対策のために中止となった。今後、保護者懇談会を通じて就職支援の概要を伝えていく。 （９）求職求人の来客対応（看）（栄） 来学者数は昨年よりも増加したが委員長及び委員、事務局で協力しながら対応した。
次年度への課題・改善方策（Action）	2023 年度に重点的に取り組む課題と対策は以下のとおりである。 １）国家試験に向けた学修支援（看）（栄） （１）看護学科 ① 学修効果があがりにくい学生が少数いるため､引き続きゼミ担当教員と委員会で継続的に支援をしていく。また、学生全体に国家試験に関する学修開始時期が遅い傾向がある。そのため、各学年の国家試験対策委員と協力し低学年から計画的に学修を進められるように計画に準じて支援していく（別紙２参照）。補講を継続し、模擬試験結果を考慮しての集団サポートを適宜実施しながら、個別サポートを行うゼミ担任と連携して支援を行い、全員合格をめざす。 ② 不合格者対応はゼミ担当教員が窓口となり､委員と連携をして模擬試験の推奨等をしているが連絡がなかなか来ない現状もあり、今後は対応方法について検討していく必要がある。 ③ 全員を対象とした模擬試験を受験しない学生が少数いた｡自己の学修状況の把握もかね模擬試験の必要性を伝えていく。体調不良等以外については極力当日受験するように働きかけ、模擬試験の予定を早めに周知していく。 （２）栄養学科（別紙１参照） 4 年次生は模擬試験と対策講座を実施し､チューター制を強化する。2･3 年次として「学習のめやす」をガイダンスで説明する。当該年度初めに既習分野模擬試験を実施し成績が6割に満たない学生をフォローアップする体制を構築する。これによって当該学年で修得すべき分野を確実に学びにつなげられることをめざす。 ２）適切な就職・進学先を見つけるための支援活動（看）（栄） （１）看護学科 学生の要望によりガイダンスの時期を早めていく。また、ゼミ担当

	教員と協力しながら採用試験に向けた支援を継続する。今後、自治体を対象とする保健師学内就職説明会は、看護師就職説明会と合同開催とする。参加自治体について今後検討する。 （２）栄養学科 年次の進行にあわせて系統立てたキャリア形成と就職支援を検討する。1・2年次から管理栄養士の活動の場をイメージすることで主体的な就職活動につながることをめざす。また、4年次での就職活動を円滑に進めるために、最新の求人情報をSharePoint等でわかりやすく提供していく方法をさらに工夫する。 （３）進路支援課 引き続き、新たな管理栄養士求人の開拓を進めるとともに、栄養学科の学びを活かす求人（食品メーカーやドラッグストアーなど）情報の収集に努める。また、学生からの聞き取り調査等を実施し、より良い就職支援の提供を行う。

2022 年度　委員会等活動報告書

委員会等	図書・紀要委員会
作 成 者	松尾　文子

項　　目	内　　容
【前年度】 次年度への 課題・改善方策 (Problem)	1）各学科、学年にあわせた情報リテラシー教育を行う等、図書館の利用を促進する活動を継続する。 2）蔵書構成及び利用率等を勘案し適切な選書を行う。また、蔵書の収容能力に限界があるため電子資料の収集及び書庫の整備を継続して行う。また、書架の狭隘化対策として計画的に除籍処理を行う。 3）蔵書を充実させるため外部資金獲得に向けて情報収集に努める。 4）後援会の学修助成費を活用して実施するブックハンティング等を継続して実施し、学生の読書環境の充実及び読書推進のための活動を行う。 5）図書館利用のマナーや著作権法遵守の啓発活動を継続的に実施する。 6）紀要の安定した刊行を継続する。また、既刊掲載論文を電子化公開する。

項　　目	内　　容
今年度の活動計画 （目標・課題） (Plan)	1）各学科、学年にあわせた情報リテラシー教育支援を実施する。 2）看護学及び栄養学分野資料の充実はもとより幅広い分野の資料を収集するため蔵書構成及び利用率等を勘案し適切な選書を行う。また、新型コロナウイルス感染症拡大による登校禁止等の措置に備え非来館型の利用環境整備を継続する。この他、書架の狭隘化対策として紛失図書及び複本の除籍処理を計画的に実施する。 3）図書購入費の補充を図るため外部資金獲得に向けて情報収集に努める。 4）後援会の学修助成費を活用し「ブックハンティング」及び「ブックハンティング on the Web」の実施、「Digital Library 後援会文庫」のコンテンツを充実させて利用促進を図る。教職員からのおすすめ本展示等、企画展示の充実を図り学生の読書環境の充実及び読書推進のための活動を行う。 5）図書館を利用する上でのマナーや著作権遵守の啓発活動を継続的に実施する。 6）本学における教育の向上と研究の推進並びにそれらの成果を発表する場を提供することを目的として、札幌保健医療大学紀要第 9 巻を刊行する。また、紀要掲載論文の電子化公開を開始する。
活　動　内　容 (Do)	1）各学科、学年にあわせた内容でガイダンス及び講義、講習会を実施した。 （1）看護学科・栄養学科 1 年次 ① 図書館の利用方法（2022/4/6,7 実施） 感染拡大防止のため看護学科 2 グループ、栄養学科、編入 3 年次に分けて、図書館の利用方法、図書館の資料及び図書の並び方（分類と請求記号）についての説明（60 分）、図書館見学の内容でガイダンスを実施した。 ② 資料の探し方（2022/4/20 実施） 講義「学びの理解」において、資料の探し方について 45 分程度の講義を実施した。講義では、目的の資料を探せるようになることを目標として、図書館資料の種類、自館の資料の探し方（図書の分

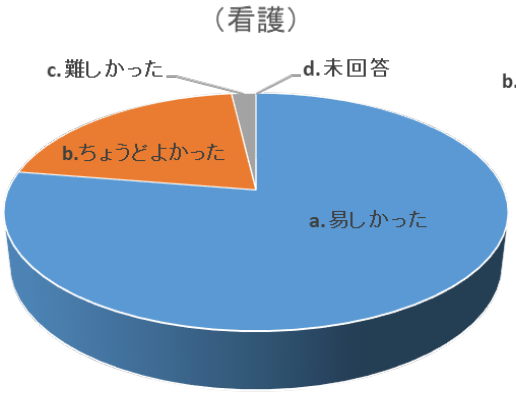
	類と請求記号、OPAC の使い方と検索結果の見方)、他館資料の探し方及び利用方法（CiNii Books、ILL 等)、電子書籍（Maruzen eBook Library）の利用方法について説明した。また、図書館で実際に図書を探す演習を行った。講義終了後、受講アンケートを実施した。 （２）看護学科 3 年次（2022/11/10 実施） 必修科目「看護学研究法」で文献検索について演習形式の講義を実施した（2 グループ、各 1 コマ)。講義では、医中誌 Web を使った文献検索について理解し、実際に文献入手できるようになることを目標として、資料の種類と調べ方、各種文献検索データベースの概要、医中誌 Web を使った文献検索及び文献の入手方法について説明した。講義終了後、受講アンケートを実施した。 （３）栄養学科 3 年次（2022/10/6 実施） 選択科目「英語文献講読演習」の受講者 7 名に対し、文献検索について演習形式の講義（1 コマ）を実施した。講義では、文献検索データベースを使った文献検索について理解し、実際に文献を入手できるようになることを目標として、資料の種類と調べ方、各種文献検索データベースの概要、医中誌 Web、EBSCOhost（MEDLINEComplete 及び CINAHL with Full Text）を使った文献検索及び文献の入手方法について説明した。講義終了後、受講者アンケートを実施した。 ２）教員による図書（視聴覚資料、電子書籍含む）選定を 2 回実施した他、継続購入図書（主に参考図書)、シラバス掲載の教科書・参考図書を受入した。教員による図書選定では、電子コンテンツの充実を図るため、Maruzen eBook Library で購入可能なタイトルは電子書籍を優先的に購入した。 また、冊子体購入費用とは別に電子書籍購入費用を予算計上し和書（Maruzen eBook Library）183 タイトル、2023 年 4 月に開設する大学院の設置経費で洋書（Gale eBooks）51 タイトルの電子書籍を受入した。 書架狭隘化対策として、館内に視聴覚資料用の木製書架（4 段 7 連）を設置した。 ３）令和 6（2024）年度私立大学等研究設備整備費等補助金申請に、電子書籍コレクション事業で応募するためコーディネーター（図書・紀要委員）を中心に事業計画を立案することとし、各学科の教員に協力を依頼した。 ４）後援会の活動助成費を利用して、以下の活動を行った。 （１）ブックハンティング及びブックハンティング on the Web の実施 ① ブックハンティング 2022 年 7 月 6 日（水）18 時から、紀伊国屋書店札幌本店において実施した。 ② ブックハンティング on the Web 2022 年 11 月 30 日（水）～12 月 14 日（水）にかけて、丸善雄松堂が提供するオンライン選書ツール「Knowledge Worker」を利用して実施した。 （２）「Digital Library 後援会文庫」コンテンツの充実 「Digital Library 後援会文庫」（商品名：電子図書館システム「LibrariE」）の周知と利用促進を図るため、コンテンツ QR コードを入れたポスター及びリーフレットを作成、キャリア支援室に掲示、設置した。また、新たに就職試験対策関連やコミックエッセイ等のコンテンツを増やした。 （３）健康管理室及び学生相談室との連携 図書館以外の場所に蔵書を設置することで学生が本に触れる機会が増え、読書に親しむ契機となる。特にメンタル面での問題を抱える学生の助けとなる本を置くことで精神的な健康回復の一助となることから、昨年度より健康管理室及び学生相談室との連携事業として準備を進めてきた「ほっと文庫」を 4 月に開設した。

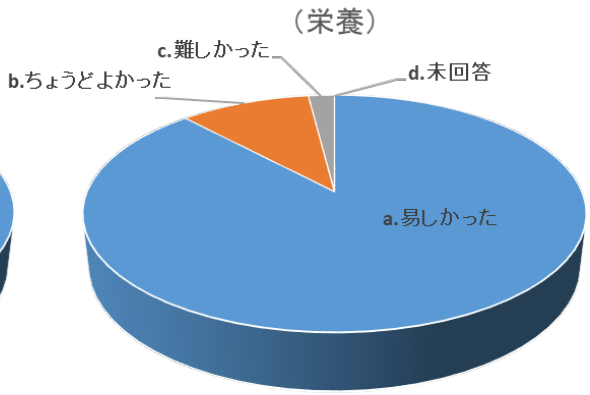
	（４）そのほか 学生の読書への興味関心を喚起するため、以下の活動を行った。 ①「教職員のおすすめ本」展示 読書する学生を少しでも増やすことを目的として、年2回、テーマを決めて教職員から「おすすめ本」を募集し、おすすめする理由とともに展示する企画を実施した。推薦された図書を所蔵していない場合は、後援会の学修助成費で購入した。今年度のテーマは、以下のとおり。 6月：大人になってもう一度読みたい本 11月：秋の夜長に読書三昧～スマホを本に持ち替えて～ ② 企画展示 4月：大学生活に役立つ本 本屋大賞2022受賞作 6月：話題の映像化作品原作本（上半期） 7月：ブックハンティング選定図書 11月：手話の本 話題の映像化作品原作本（下半期） 1月：ブックハンティングon the Web選定図書 ５）学生便覧及び図書館利用案内に利用上の注意事項、著作権について掲載しガイダンスで周知した。 ６）紀要第9巻は、以下のスケジュールで刊行にかかわる作業を進めた。 投稿予定エントリーシートの締切り　2022年10月7日（金） 投稿原稿締切り　11月11日（金） 第9巻刊行（予定）　2023年3月末 投稿予定エントリーの周知を徹底するため教授会での委員会報告や学科会議、メールでの全体通知を行った。その結果、7編のエントリーがあった。一部、提出が遅れたものの5編が投稿され、2編が取り下げとなった。査読は、執筆者からの推薦を考慮しつつ1論文に2名の査読者を委員長が選定し依頼した。現在、2023年3月末の刊行に向けて作業を進めている。 また、2022年7月6日、既刊（第1巻から第8巻まで）掲載論文を図書館ホームページで全文公開した。
活動内容の評価 （Check）	１）各学科、学年にあわせた内容でガイダンス及び講義を実施したことは評価できる（別添資料参照）。 ２）順調に蔵書を増やしたことは評価できる。2023年3月31日現在の蔵書数は以下のとおり。 【図　　書】　36,882冊（和35,883冊、洋999冊） 【製本雑誌】　2,395冊（和　2,324冊、洋　71冊） 【電子書籍】　1,154冊（和　1,103冊、洋　51冊） 【学術雑誌】　242種（和　222種、洋　20種） 【電子ジャーナル】66種（和　1種、洋　65種） 【視聴覚資料】　1,195点（和洋区分なし） また、視聴覚資料収容ため書架を設置し、図書の収容スペースを拡張できたことは評価できる。しかし、今年度は大学院設置に伴う受入業務が発生する等、多忙であったことから、汚損図書8冊しか除籍処理できなかった。次年度以降、引き続き除籍可能資料の選別を行い、計画的に除籍処理を行っていきたい。 ３）電子書籍コンテンツ充実化のため外部資金獲得に向け組織的に取り組んだことは評価できるが、これまでに両学科の委員から事業計画の提案はなかったため引き続き活動する必要がある。 ４）後援会からの学修助成費を有効に活用し、読書環境の充実、読書活動の推進を図ったことは評価できる。 （1）ブックハンティング及びブックハンティングon the Webの実施 ブックハンティングでは、危機管理委員会から参加条件（新型コロナ

	ワクチン3回接種済み）が付されたため、問い合わせは複数件あったものの、結果として1名の参加となった。 実施結果は以下のとおり。 【ブックハンティング】 参加者：1名（看護学科1年次） 選書冊数：21冊（33,770円） 【ブックハンティングon the Web】 参加者：7名（看護学科1年次 1名、2年次 2名、3年次 1名、 4年次 2名・栄養学科2年次 1名） 選書冊数：38冊（60,323円） （2）「Digital Library後援会文庫」コンテンツの充実 就職試験対策関連のコンテンツを中心に48タイトル（261,043円）を購入した（ライセンス有効開始日：2023年3月31日）。 【利用状況】 利用可能コンテンツ：110冊 閲覧回数：50回（26冊） 貸出回数：31回（27冊） （3）健康管理室及び学生相談室との連携 開設後、健康管理室担当者から学生対応の中で基本的なレポートの書き方について相談されることがあるため、関連図書を紹介し図書館で借りられることを案内したいとの要望があり図書3冊を追加した。また、学生相談室担当者から摂食障害に関する図書1冊、教員からメンタルケアに関する図書3冊（いずれも絵本）の設置希望があり、これを追加した。正確な利用状況は把握できていないが、設置図書追加の要望があることから有効に活用されていることが伺える点で評価できる。（2023年2月22日現在 35冊設置） ５）規則に則りガイダンスや館内掲示、口頭での注意喚起等を適宜実施し出来ている点で評価できるが、故意に無断持ち出しをするケース（1件）が発生しているため引き続き注意喚起を行っていく必要がある。 ６）第9巻の刊行について、予定したスケジュールで概ね進行できた。また、既刊掲載の全論文を図書館ホームページで公開できたことは評価できる。
次年度への課題・改善方策（Action）	１）各学科、学年にあわせた情報リテラシー教育を行う等、図書館の利用を促進する活動を継続する。 ２）蔵書構成及び利用率を勘案し適切な選書を行うとともに、蔵書の収容能力に限界があることから電子資料の収集及び書庫の整備を継続して行う。また、書架の狭隘化対策として計画的に除籍処理を行う。 ３）蔵書を充実させるため外部資金獲得に向けて情報収集に努める。また、図書・紀要委員を中心に両学科の協力を仰ぎ私立大学等研究設備整備費等補助金申請の事業計画を立案する。 ４）後援会の学修助成費を活用して実施するブックハンティング等を継続して実施し、学生の読書環境の充実及び読書推進のための活動を行う。 ５）図書館利用のマナーや著作権遵守の啓発活動を継続的に実施する。 ６）紀要の安定した刊行を継続する。また、機関リポジトリの構築に向けて情報収集を行う。

「学びの理解」受講者アンケート集計結果

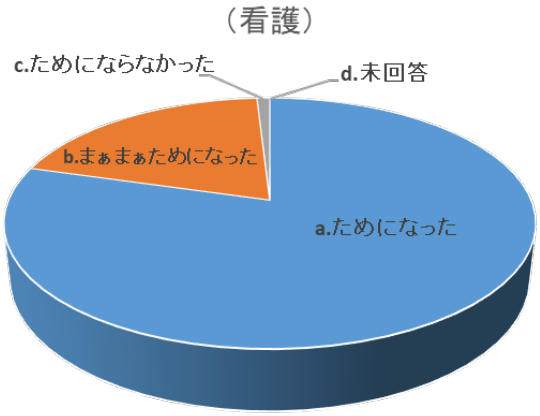
1. 全体的なレベルについて

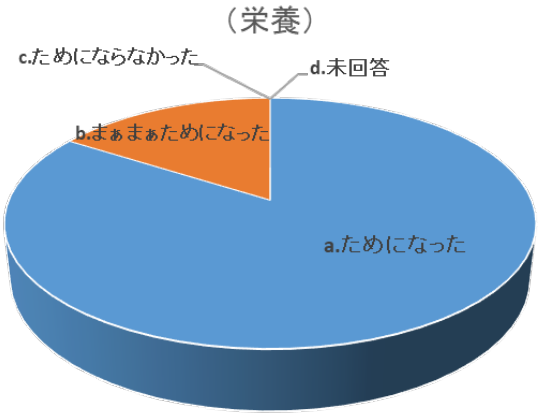




	看護	栄養
易しかった	８３	４４
ちょうどよかった	２２	５
難しかった	２	１
未回答	０	０

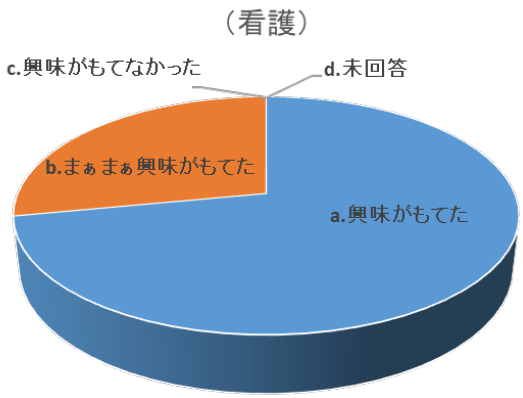
2. 内容について

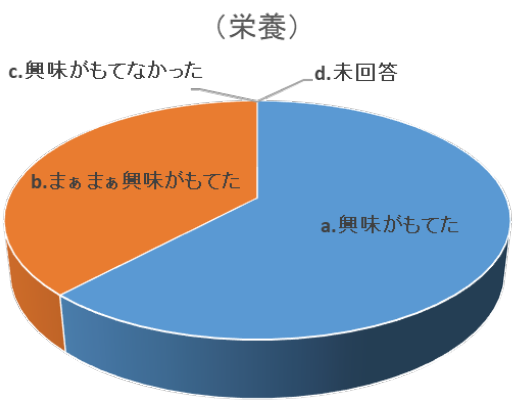




	看護	栄養
ためになった	８５	４２
まぁまぁためになった	２１	８
ためにならなかった	１	０
未回答	０	０

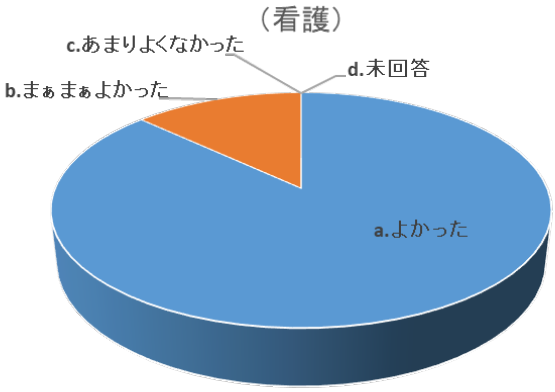
3. 図書館について

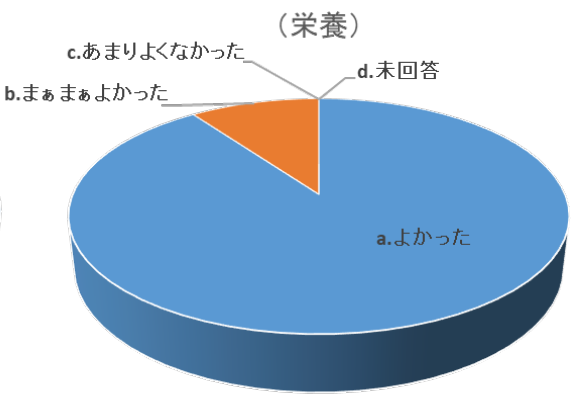




	看護	栄養
興味がもてた	７７	３１
まぁまぁ興味がもてた	３０	１９
興味がもてなかった	0	0
未回答	0	0

4. 図書館職員の説明

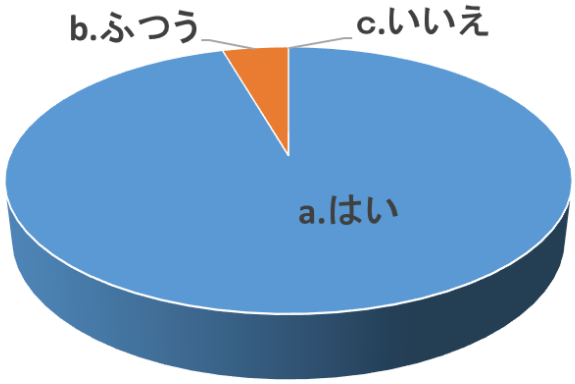




	看護	栄養
よかった	９３	４５
まぁまぁよかった	１４	5
あまりよくなかった	0	0
未回答	0	0

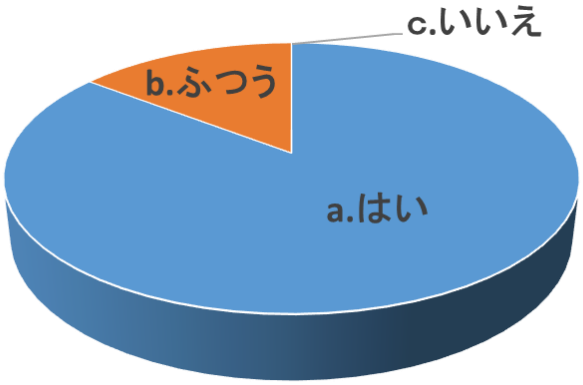
「看護学研究法」受講者アンケート集計結果

1.　資料（パワーポイント）はわかりやすかったですか



	回答数
はい	８５
いいえ	４
ふつう	０

2.　説明はわかりやすかったですか

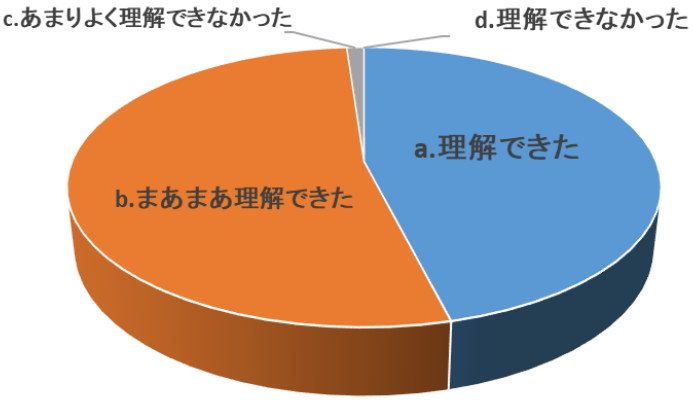


	回答数
はい	７６
いいえ	１３
ふつう	０

※「いいえ」と回答した方は、どのような点を改善すればよいと思われますか。
具体的にお聞かせください

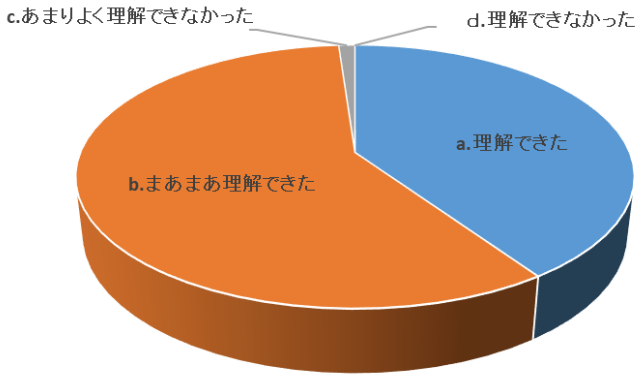
	回答数
スピードが早い	２
声が小さい	０
説明がわかりにくい	０

3. 医中誌 Web を使った文献検索について理解できましたか。



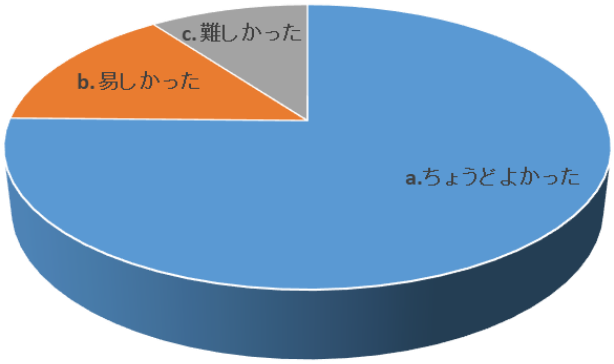
	回答数
理解できた	４１
まあまあ理解できた	４７
あまりよく 理解できなかった	１
理解できなかった	０

4. 文献の入手方法について理解できましたか。



	回答数
理解できた	３６
まあまあ理解できた	５２
あまりよく 理解できなかった	１
理解できなかった	０

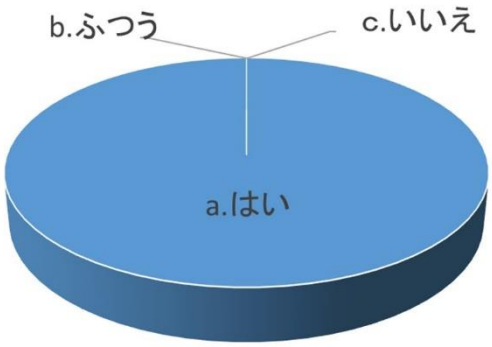
5. 全体的な内容について



	回答数
易しかった	６７
ちょうどよかった	１３
難しかった	９

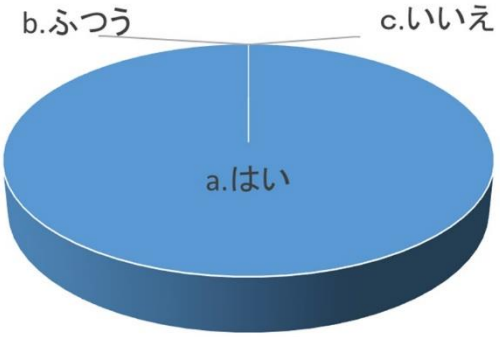
「英語文献講読演習」受講者アンケート集計結果

1. 資料（パワーポイント）はわかりやすかったですか。



	回答数
a. はい	6
b. いいえ	0
c. ふつう	0

2. 説明はわかりやすかったですか。

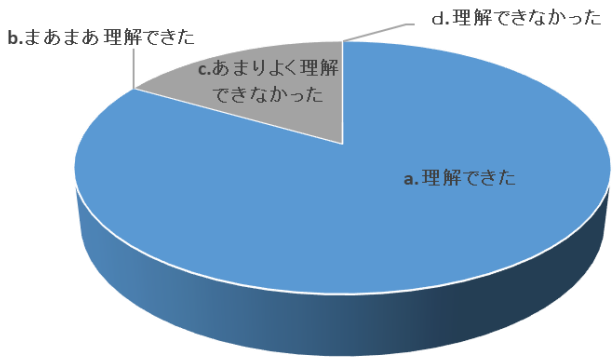


	回答数
a. はい	6
b. いいえ	0
c. ふつう	0

※「いいえ」と回答した方は、どのような点を改善すればよいと思われますか。
具体的にお聞かせください。

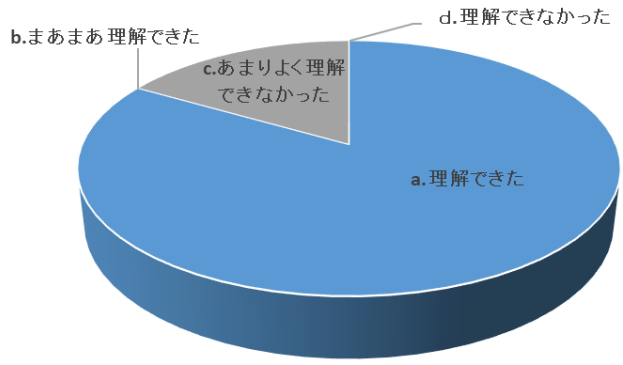
	回答数
スピードが早い	0
声が小さい	0
説明がわかりにくい	0

3. 医中誌 Web を使った文献検索について理解できましたか。



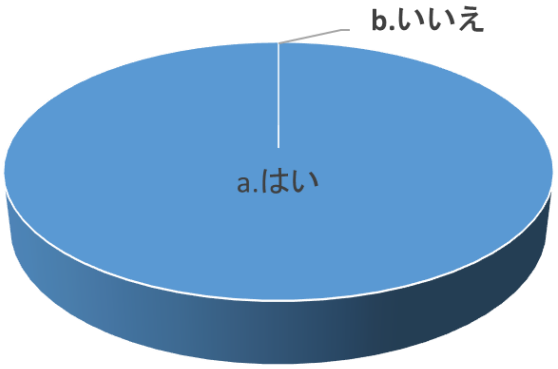
	回答数
a. 理解できた	5
b. まあまあ理解できた	0
c. あまりよく理解できなかった	1
d. 理解できなかった	0

4. EBSCOhost を使った文献検索について理解できましたか。



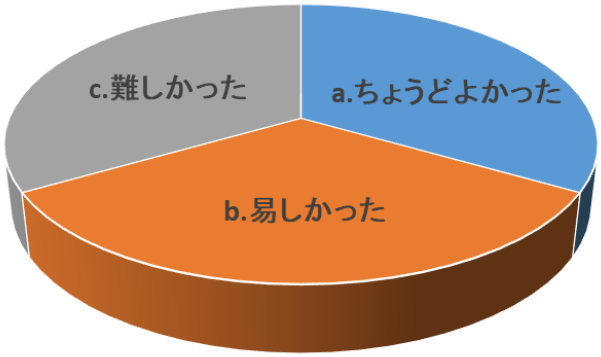
	回答数
a. 理解できた	5
b. まあまあ理解できた	0
c. あまりよく理解できなかった	1
d. 理解できなかった	0

5. 今後、文献データベースを使って必要な文献を探したり、入手したりできそうですか。



	回答数
a. はい	6
b. いいえ	0

6. 全体的な内容について



	回答数
a. ちょうどよかった	2
b. 易しかった	2
c. 難しかった	2

2022 年度　委員会等活動報告書

委員会等	国際交流委員会
作 成 者	小島　悦子

項　　目	内　　容
【前年度】 次年度への 課題・改善方策 (Problem)	1）講演会の開催について 学生のニーズ調査を行い、ニーズに合った国際交流講演会の内容、及び講演会の参加者を増やせるような企画を考え、講演会を開催する。 2）短期海外研修について 学生のニーズ調査を行うと同時に、マレーシアへの関心を高めるための企画を考え、実施する。 3）国際交流等の開催情報の提供について 担当者を決め、定期的に情報を Teams にアップしていく。感染状況をみながら JICA 北海道の見学会を企画・実施する。 4）外国大学との交流や海外留学等について情報収集を継続する。

項　　目	内　　容
今年度の活動計画 （目標・課題） (Plan)	1）講演会の開催について （1）国際交流講演会に関する学生のニーズを把握する。 （2）学生のニーズに合った講演会を企画・開催する。 2）短期海外研修について （1）マレーシア研修に関するニーズ調査を実施する。 （2）マレーシアへの関心を高める企画を考え、実施する。 3）国際交流等の開催情報の提供 担当者を決め、定期的に札幌国際プラザ、JICA 北海道等のイベント情報等を提供する 4）外国大学との交流、海外留学等についての情報収集
活　動　内　容 (Do)	1）講演会の開催について （1）2022 年 6 月 22 日 4 講目と 7 月 6 日 4 講目に、マラウイについて理解を深める資料の配布と説明の後、2020 年度と 2021 年度に開催したマラウイの講演会の録画をそれぞれ視聴してもらった。 （2）録画視聴後、アンケート調査を実施し、学生のニーズを把握した。 2）短期海外研修に関する情報収集 （1）北海道総合政策部航空港湾局航空課主催の「令和 4 年度海外教育旅行セミナー」に委員 1 名がオンラインで参加し、情報収集をした。 （2）マレーシアへの関心を高める企画第 1 弾として、マレーシアの文化の概要の紹介とミーゴレンと Bandung ドリンクを作り、試食会を実施した。第 2 弾として、大学祭において看護学科と栄養学科の学生がそれぞれマレーシアに関する健康や食文化に関して調べポスターを作成・掲示し、併せてマレーシア風とりそぼろ丼と Bandung ドリンクの販売を実施した。 3）国際交流等の開催情報の提供について Teams を活用して適宜、情報を提供した。 JICA 北海道の見学会を 2 月 13 日に実施した。JICA の活動紹介の後、ザンビアで看護師として医療活動をした方の講話があった。その後、地球ひろばの展示見学をしながら SDGs について考える機会が設けられた。 4）外国大学との交流、海外留学等について web で適宜、情報収集した。

活動内容の評価 （Check）	１）講演会の開催について （１）及び（２）に関わる活動内容の評価は以下のとおりである。 1 回目は 33 名の出席があり、30 名がアンケートに回答した。講演内容、開催時期については全員が「大変良かった」または「良かった」と回答し、開催方法については 3 名が「あまり良くなかった」と回答した。 2 回目は 22 名の出席があり、21 名がアンケートに回答した。開催内容、開催方法、開催時期について、全員が「大変良かった」または「良かった」と回答した。 2 回とも録画の視聴ではあったが、「他国の食文化や医療事情、管理栄養士の海外における活動について知ることができ、ためになった」、「何か自分にできることはないか考えるきっかけになった」等の感想があり、アフリカやマラウイの国や文化等について理解が深まったと考える。先進国で働いている看護師の話も聞いてみたいという意見もあったことから、今後は発展途上国だけでなく先進国も含め、海外で活動している看護師や管理栄養士の講演会も企画する必要がある。 ２）短期海外研修について （１）及び（２）に関わる活動内容の評価は以下のとおりである。 マレーシアへの関心を高める企画第 1 弾には看護学科 1 年生 3 名、栄養学科 1・2 年生 4 名が参加した。参加理由は、「マレーシアに興味がある」が 3 名、「海外の食文化に興味がある」が 2 名、「科目の出席になる」が 1 名、その他、「美味しい物が食べられる」、「料理が楽しそう」が各 1 名であった。開催時期、開催時間、企画内容について全員が「大変良かった」または「良かった」と回答し、マレーシアについて、「大変興味がわいた」が 3 名、「興味がわいた」が 4 名だった。学生達はマレーシアの味付けにやや戸惑いながらも、マレーシアの文化を堪能していた様子であった。夏休み中であったため参加できない学生もいたことから、今後は学生が参加しやすい時期を検討する必要がある。 マレーシア企画第 1 弾に参加した学生 7 名が、マレーシアの健康や食文化に関する文献を読み学祭に向けてポスターを作成した。文献を読みまとめるプロセスを通して、学生達の他文化理解につながったと考える。しかし、文献を読み、ポスターにまとめる作業が初めてであったことから、学生達の関心や理解をより高めるために、今後は早い時期から参加募集を行い、教員が介入しながら文献を読み、ポスターにまとめていく必要がある。大学祭でポスター掲示の横でマレーシア風とりそぼろ丼と Bandung ドリンクの販売を行うことで、地域の参加者と交流をできたことは良い経験になったと考える。 北海道総合政策部航空港湾局航空課主催の「令和 4 年度海外教育旅行セミナー」において、海外教育旅行は現地での体験を通して新たな価値観を醸成できること、学生個々の海外教育旅行の意味を把握・明確にした上で幅を持たせたコンテンツを作る必要性について説明があり、今後の海外研修を考えていく上での示唆を得ることができた。今後も機会があれば参加する。 ３）国際交流等の開催情報の提供について コロナ禍で開催情報も少なく、定期的な情報提供にならなかった。今後は役割を決め、タイムリーに情報を提供していく必要がある。 JICA 北海道の見学会には学生 8 名の参加希望があったが、当日体調を崩して 1 名が欠席となり 7 名が参加した。学生達は JICA の活動紹介やザンビアで看護師として医療活動をした方の講話を真剣に聞いていた。その後、地球ひろばの展示見学では展示品に関する職員の方のクイズに答え、SDGs に関するポスターやしかけを見たり、触ったりしながら、SDGs について考えていたようだった。実施後のアンケートで、ザンビアの暮らしと医療、地球ひろばの展示見学は全員が「とてもよかった」

	と回答し、自由記載から JICA の活動やアフリカの理解が深まり、海外への興味・関心が高まったと考えられた。次年度も JICA 北海道の見学会を企画・実施する。 ４）外国大学との交流、海外留学等について 本学における外国大学との交流、海外留学等について引き続き情報収集を続け、交流の機会について検討する必要がある。
次年度への課題・改善方策（Action）	１）講演会の開催について 看護学科と栄養学科の学生のニーズに合う講演会を企画・運営する。 ２）短期海外研修について 短期海外研修へつながる他文化を理解するための取組を継続する。 短期海外研修の実施について検討する。 ３）国際交流等の開催情報の提供について 国際交流に関する情報提供の役割を決め、タイムリーに行う。 JICA 北海道の見学会を継続する。 ４）外国大学との交流や海外留学等について情報収集を継続する。

2022 年度　委員会等活動報告書

委員会等	情報ネットワーク委員会
作 成 者	末光　厚夫

項　　目	内　　容
【前年度】 次年度への 課題・改善方策 (Problem)	1）学生がソーシャルメディアの特徴を自覚し、正しく利用できるよう啓発活動を継続的に行う。 （1）作成したソーシャルメディア教育のための入学前配布パンフレットについて、いつ読んでいるか、内容を理解できているか等を引き続き調査し、調査結果に応じて内容や配布方法の検討を行っていく。 （2）新入生ガイダンスでは､説明内容により最近のテーマを盛り込んでいく。また、後期の情報倫理教育については、大学の教室に学生を集めて実施できるように、早めにスケジュールを抑えて、学生へ配布する時間割に記載できるようにする。 （3）本年度もガイダンスの出席率は良かったので､次年度も授業と授業の間の空きコマに（可能であれば、定例ガイダンス内の時間に）ガイダンスを設定する。また、後期の情報倫理教育については、大学の教室に学生を集めて実施できるように、早めにスケジュールを抑えて、学生へ配布する時間割に記載できるようにする。 2）学生の ICT 利用・情報管理・セキュリティに関する実態調査を行い、本学学生の状況と課題を明らかにして、委員会の施策に反映していく。なるべく高い回収率を維持するために、次年度も対面の新年度ガイダンス内で実態調査を行う。なお、次年度は紙の調査票の回収と集計にかかる負担を軽減するために、在学生には Forms を利用した Web アンケート方式を用いる。これまでの学内の Web アンケートの実績から、催促を行うことで紙の調査票と同等の回収率を達成できるとのことなので、本調査についても回収率が低い場合は催促を行う。新入生については、Forms の利用にまだ慣れていないので、これまでと同様に紙の調査票を使用する。 3）「2022 年度大学運営に関する基本方針」に沿って、ICT 関連項目への協力を行う。特に、次年度より授業で利用が開始される ActLearn2 に関して利用状況を調査し、必要に応じて支援する。 4）新しく登場してくる教育向けの技術や機器、サービスを本委員会がフォローできるように、教育向け ICT の情報収集や普及啓発を行う。リモート参加可能な EXPO や展示会には積極的に参加して情報収集していく。 5）新しいネットの脅威や、ネット社会の新たな潮流を理解して情報倫理教育に反映できるように、情報モラルやセキュリティのセミナーや講習会に参加して情報収集を行う。リモート参加可能で有用なウェビナーや講習会には積極的に参加して情報収集する。また、情報モラル・セキュリティ教育のための Web コンテンツ利用や研修会等を検討し、教職員向けに実施する。

項　　目	内　　容
今年度の活動計画 （目標・課題） (Plan)	1）学生がソーシャルメディアの特徴を自覚し、正しく利用できるよう啓発活動を行う。 （1）入学前配布パンフレット（ソーシャルメディアの利用に関して）の効果についてアンケート調査を行う。結果を参考にして、必要があれば内容を更新して、次年度の入学生にパンフレットを送付する。

	（2）新入生向けにソーシャルメディアを正しく活用できるよう啓発教育を行う。 （3）在学生向けにソーシャルメディアを正しく活用できるよう啓発教育を行う。 2）学生の ICT 利用・情報管理・セキュリティに関する実態調査を実施して現状把握を行い、必要に応じて対策を講じる。 3）「2022 年度大学運営に関する基本方針」に沿って、ICT 関連項目への協力を行う。 4）教育向け ICT の情報収集や普及啓発を行う。 5）情報モラル・セキュリティに関する情報を収集し、教職員向けの研修会を実施する。
活動内容 (Do)	1）の活動内容は以下のとおりである。 （1）入学前配布パンプレットの周知度や理解度を学生実態調査の中で調査し、結果を参考にして、パンフレット内容の検討を行った。入学生への送付物に同梱して配布できるよう、入学前配布パンフレットの作成を進めた。 （2）新入生ガイダンスにおいて、カスペルスキー製作の「セキュリティとモラルのガイドブック」を配布し、情報倫理の説明、及びソーシャルメディアの使用上の留意点について説明を行った。また、後期には、SNS ガイダンスの時間を設けて、情報倫理の動画コンテンツを視聴してもらうことで啓発を図った。 （3）在学生に対しても新入生と同様に、前期ガイダンスの中で（栄養 4 年・編入 4 年のみ別日に実施）、ソーシャルメディアの使用上の留意点について説明を行った。加えて、情報倫理の動画コンテンツを用いて教育を行った。また、後期には、空きコマで SNS ガイダンスを開催し（両学科 4 年生のみ後期ガイダンスの中で実施）、情報倫理の動画コンテンツを視聴してもらうことで啓発を図った。 2）新入生及び在学生に対して、学生の ICT 利用・情報管理・セキュリティに関する実態調査を行った。なお、今年度より在学生は Forms による Web アンケート方式による調査とした。 3）ActLearn2 に替わる電子教科書ビューアー（EDX Unix Text）を全教職員に利用できるよう準備を進めた。 4）教育向け ICT の普及啓発の一環として、教育用電子カルテ（Medi-EYE）の導入を進めた。 5）日本データパシフィック社のクラウドサービスを利用して、e-learning 形式で受講する「教職員のための情報倫理とセキュリティ」研修を実施した。
活動内容の評価 (Check)	1）の活動内容の評価は以下のとおりである。 （1）入学前配布パンフレットに関する調査結果より、入学前に約 74%が、入学後も含めると約 97%が読んでいることがわかった。また、内容の理解については、「十分に理解できた」または「ある程度理解できた」と回答した割合は 65%だった（残りのほとんどは「どちらとも言えない」を選択）。これらの結果より、ほとんどの学生がこのパンフレットを目にしていること、また、昨年と比べると少し理解度は下がっているものの内容に大きな問題はないとの判断から様子を見ることとし、次年度も同様の内容でパンフレットを作成して配布することとした。 （2）新入生ガイダンスの中で 60 分かけて情報倫理とソーシャルメディアについての説明を行ったので、必要な内容はほぼ伝えることができた。また、後期に行った情報倫理教育では、両学科合わせて 167 名が出席しており、出席率は非常に良い結果であった。 （3）在学生は、前期ガイダンスの中で約 60 分かけて情報倫理とソーシャルメディアについての説明と動画上映を行ったので、必要な内容はほぼ伝えることができた。なお、前期ガイダンスの中で実施したため出席率は良かった（9 割程度、栄養 4 年・編入 4 年は少し低かった）。

	また、後期に行った情報倫理教育においては、必修の授業と授業の空きコマで実施した学年の出席率は良かったが（8 割以上）、選択の科目や授業間でないコマで実施した学年の出席率は非常に悪かった（2 割以下）。後期ガイダンスで実施した両学科の 4 年生の出席率は非常に良かった（9 割以上）。 ２）上記の新入生及び在学生の前期ガイダンス時に、新入生には紙の調査票を配布し、在学生には QR コードを提示して Web アンケート方式で実施した。回答率は全体で約 80%となり、昨年より 8%増加した。今年度はほとんどの学年の調査を前期ガイダンス内で実施できたことが回答率増加につながったと思われる。加えて、Web アンケート方式で実施した在学生において回答率の大幅な低下は見られなかった。 今回の実態調査によって明らかになった学生の現状や課題などの主な結果は次のとおりである。 ・ PC の所有率（4 月時点）は 1 年の看護が 82%・栄養が 78%、2 年の看護が 100%・栄養が 100%、3 年の看護が 97%・栄養が 100%、4 年の看護が 98%・栄養が 84%であった。入学前に PC を用意する必要があるという注意事項が新入生全員に伝わっていないようである。 ・ SNS の利用形態（どのサービスを使用しているか）については、全国的な平均とほぼ同じであり、昨年度と比較しても大きな違いはなかった。 ・ 個人情報の管理が全体的に甘いように見受けられる。例えば、「地下鉄、バス、レストラン等公共の場で話さない」を選択している割合は約 5 割以下。 ・ 「札幌保健医療大学ソーシャルメディアガイドライン」と「Office365 を利用した情報ネットワークのガイドライン」を読んだことがない在学生の割合がまだまだ多かった（約 36～66%）。ただし、栄養の 4 年を除いて、昨年よりもその割合は微減している。看護：2 年(約 80%→64%)， 3 年(約 55%→51%)， 4 年(約 78%→57%)； 栄養：2 年(約 69%→46%)，3 年(約 55%→48%)，4 年(約 36%→60%)． ３）当初は、電子教科書ビューワー（ActLearn2）を全教職員が無料で利用できるという話であったが、新しい電子教科書ビューワー（EDX Unix Text）の利用には電子教科書の購入が必須であるという話に変わったため、本委員会の予算で全教職員に電子教科書を購入して、EDX Unix Text の導入を進めた。しかし、丸善雄松堂の対応が遅く、未だに利用出来る状況に至っていない。ペーパレス化等へ向けた EDX Unix Text の活用は次年度への課題とする。 ４）教育用電子カルテ（Medi-EYE）の「成人（急性期・慢性期）」と「基礎」領域の製品を購入したが、納品が年度末となったため、現在は導入を進めている段階である。教育用電子カルテ（Medi-EYE）の活用も次年度の課題とする。 ５）11～12 月の約 2 カ月間かけて「教職員のための情報倫理とセキュリティ」研修を実施し、全体で約 7 割の受講があった。部署ごとの受講率で見ると、看護教員は 9 割と高い受講率であったが、栄養教員と事務職員はともに 6 割程度と伸びなかった。また、受講者の約 9 割が最後に修了テストを受けており、平均点は 69.1 点だった。部署による得点の差はほとんどなかった。
次年度への課題・改善方策（Action）	１）学生がソーシャルメディアの特徴を自覚し、正しく利用できるよう啓発活動を継続的に行う。 （１）作成したソーシャルメディアに関する入学前配布パンフレットについて、きちんと読んでいるか、内容を理解できているかを引き続き調査し、必要に応じて内容をアップデートする。 （２）新入生ガイダンスでは、内容が少し古くなっているため使用する教材の刷新を検討する。また、後期に実施する情報倫理教育については、後期ガイダンス内での実施が出席者の確保につながるため、できる限

	り後期ガイダンスへ組み込んでもらえるよう要請する。 （3）前期ガイダンス内での実施が高い出席率となるため、できる限り前期ガイダンスへ組み込んでもらえるよう要請する。また、後期に実施する情報倫理教育についても、できる限り後期ガイダンスへ組み込んでもらえるよう要請する。 2）学生の ICT 利用・情報管理・セキュリティに関する実態調査を行い、本学学生の状況と課題を明らかにして、委員会の施策に反映していく。なるべく高い回答率を維持するために、次年度も前期ガイダンス内で実態調査を行う。なお、本年度の結果を受けて、新入生についても Forms を利用した Web アンケート方式を用いる。新入生については、Office365 を利用する準備等が必要となるため、総務課の協力得て、情報関連オリエンテーションの時間で実施する。 また、今回の調査結果を受けて、個人情報の管理の甘さについては、情報倫理教育で関連する動画コンテンツ等を使用して考え方を導く。そして、「札幌保健医療大学ソーシャルメディアガイドライン」と「Office365 を利用した情報ネットワークのガイドライン」の読了率については、少しずつ改善しているため、現在の施策（入学前配布パンフレットやガイダンスでの周知等）を続けて様子を見る。 3）電子教科書ビューワー（EDX Unix Text）を教職員が利用出来るよう手続きを行う。これまで使用したことがない教職員が活用できるようにサポートを行い、教員が授業で利用するために必要となる知識を提供する。 4）新しく登場してくる教育向けの技術や機器、サービスを本委員会がフォローできるように、教育向け ICT の情報収集や普及啓発を行う。 また、教育用電子カルテ（Medi-EYE）を教員が利用出来るよう環境を整備する。看護教員と協力して、授業等での活用方法を検討していく。 5）新しいネットの脅威や、ネット社会の新たな潮流を理解して情報倫理教育に反映できるように、情報モラルやセキュリティのセミナーや講習会に参加して情報収集を行う。また、教職員の情報モラル・セキュリティのリテラシーを高めるための情報発信を行っていく。

2022 年度　委員会等活動報告書

委員会等	地域連携委員会
作 成 者	齋藤　早香枝

項　　目	内　　容
【前年度】 次年度への 課題・改善方策 (Problem)	1）新型コロナウイルス感染症が発生する前に行われていた、札幌市及び東区との協定に基づいた五者連携事業及び中沼西地区の夏祭りの再開に応じた地域への貢献の他、コロナ禍における事業の可能性の模索を続け、地域貢献の可能性を広げる。 　また、学生の参加を促し、ボランティア活動の中心を担うサークルとの連携をはかり、地域連携のボランティア活動をサポートする。 2）公開講座に関しては、満足度調査の結果を踏まえ、とくに資料の配布や説明を行うとともに、本学の二学科体制の特徴を活かした内容の充実に努める。

項　　目	内　　容
今年度の活動計画 （目標・課題） (Plan)	1）以下の活動を行った。 （1）新型コロナウイルス感染症が発生する前に行われていた、札幌市及び東区との協定に基づいた五者連携事業及び中沼西地区の夏祭りの再開に応じた地域への貢献 （2）事業の推進にあたりボランティア活動の中心を担うサークルとの連携をはかり、学生のボランティア活動をサポートし、継続的な活動に繋げる。 2）公開講座の実施 　感染対策を行ったうえで、紀伊国屋札幌本店インナーガーデンでの公開講座を年 2 回実施する。また、二学科体制の特性を活かした内容を検討する。
活　動　内　容 (Do)	1）（1）札幌市及び東区との協定に基づいた五者連携事業及び中沼西地区の夏祭りについて 　新型コロナウイルス感染症の流行は続いていたが、以下の活動が再開され参加した。 　①「ひがしく健康・スポーツまつり」への参加 　　10 月 16 日（日）につどーむで、時間帯を短縮（午前のみ）し飲食を提供しない形で、3 年ぶりに「ひがしく健康・スポーツまつり」が開催された。本学は、高齢者の栄養状態のチェック及び運動器の衰えをチェックし、予防のための啓発を目的とした「ロコモ＆栄養チェック」を企画、占有ブースにて実施した。教員 7 名、ボランティア学生 40 名が参加した。 　　内容は、以下のとおりである。 　　・体組成計での体脂肪率、肥満度、筋肉量の測定 　　・簡易栄養状態評価表による栄養状態の評価 　　・質問紙でのロコモチェック 　　・立ち上がりテストでのロコモチェック 　　・歩幅（2 ステップ）でのロコモチェック 　　・健康相談 　　健康相談に関しては、新型コロナウイルス感染症がまだ流行している時期であるため、短時間で行えるよう、一般参加者自身が見て自分の結果を判断できる資料を作成し活用した。

	②「健康づくりパネル展」への参加 「東区健康フェスティバル」に代わり昨年から実施されている「健康づくりパネル展」が 2023 年 1 月 16 日～1 月 20 日の 5 日間、東区民センターで開催された。本学からは、看護技術向上研究会が作成した「減塩」に関するパネルを出展した。 （2）学生のボランティア活動のサポートについて 「ひがしく健康・スポーツまつり」の学生ボランティアを募ったところ、看護学科の看護技術向上研究会と栄養学科の食育サークル、及び「特別総合科目」の履修生合わせて 40 名の学生参加があった。3 年ぶりの開催であり、事前に学内で教員からオリエンテーションを行い、当日と同様のセッティングで予行練習を実施した。当日は、それぞれ役割分担し、交代でボランティア活動に従事した。 健康づくりパネル展」は、東区から指定されたテーマに基づき、看護技術向上研究会に参加を依頼した。パネルの内容については、1 名の委員が担当し助言相談にのるなど学生をサポートした。 3）公開講座の実施 6 月と 10 月、公開講座を以下の内容で実施した。 【札幌保健医療大学　第 13 回公開講座】 ・開催日：6 月 25 日（土） ・時　間：14:00～15:30 ・場　所：紀伊國屋書店札幌本店　1F インナーガーデン ・定　員：40 名 ・テーマ：「コロナ禍を通して見る健康生活」 +演目とパネラー: 「コロナに負けない免疫力強化法」 札幌保健医療大学　学長　小林清一 「家族で囲む食卓コミュニケーションのすすめ」 札幌保健医療大学保健医療学部栄養学科　教授　百々瀬いづみ 【札幌保健医療大学　第 14 回公開講座】 ・開催日：10 月 22 日（土） ・時　間：14:00～15:30 ・場　所：紀伊國屋書店札幌本店　1F インナーガーデン ・定　員：40 名 ・テーマ：「心を育む暮らしと食事」 +演目とパネラー: 「うつ病を予防する生活習慣」 札幌保健医療大学保健医療学部看護学科　准教授　原田由香 「身近な食べ物がもたらす心身の健やかさ」 札幌保健医療大学保健医療学部　学部長　教授　荒川義人 周知活動は、大学 HP、道民カレッジ、町内会への回覧板、進学相談会やオープンキャンパスでのビラの配布などを行った。また、第 14 回は、北海道新聞へ掲載（無料）することができた。 また、両日とも資料の配布を行っている。 今年は、「特別総合科目」の授業枠として 6 月は 15 名、10 月は 10 名の参加を認めた。
活動内容の評価 （Check）	1）に関わる活動内容の評価は以下のとおりである。 （1）「ひがしく健康・スポーツまつり」は、72 名（男性 27 名、女性 45 名）の参加があった。参加者で一番多い年代は 70 代で、全体の 40%を占めた。また、全体の 70%が 50～70 代であった。 アンケートからは、8 割の参加者が、自分の栄養状態や運動機能、体の状態が「よくわかった」と答えており、「だいたいわかった」を含める

	とほぼ全員が肯定的に答えていた。また今回参加し、「今後食事や運動について何らかの取り組みが必要と思ったか」という問いに、「思う」と答えた参加者は 78%で、「少し思った」を加えると、97%が今後の運動などに意識が向いた結果となった。 新型コロナウイルス感染症の流行前は、すべてのチェックの最後に、健康相談と称し教員から結果についての説明の機会を設けていたが、今回は対面での時間を短くするため、参加者自らが自分で結果を判断できる資料を作成し、その資料の見方を説明することを中心に関わった。実施にあたって混乱はなく、アンケート結果からも自分の状態の理解につながっており、その方法で不都合はなかったと考える。 「健康づくりパネル展」は、「減塩」に関して、注意喚起を促すポスターを作成し、東区区民センター1 階ロビーに掲示された。大学・学校からは、本学の他、天使大学、札幌大谷大学、北海道スポーツ専門学校からの参加もあり、ポスターだけではなくリーフレットの作成をした大学もあった。 今年度は、五者連携事業はコロナ禍で中止となっていたものが少しずつ再開される中、それらに応じることを活動の中心に置くこととした。3 年ぶりの「ひがしく健康・スポーツまつり」を問題なく終えたことは意味があり、今後の継続に繋がると考える。また、次年度は内容をパネル展に変えていた「東区健康フェスティバル」や中沼地区の夏祭りが再開される可能性が高いと推測される。参加に向けた準備をする必要があると考える。 （２）3 年間、地域連携委員会主催の地域貢献活動参加ができなかった看護技術向上研究会と食育サークルサークルであったが、再開に向けて積極的な参加があった。また多くの特別総合科目履修の学生の参加があった。ほとんどの学生が 1 年生であり、また上級生も経験がなかったため、はじめのころは、参加者への声かけなどで受け身的な部分も見られたが、次第に慣れ、安全に配慮してロコモチェック等を行えるようになっていった。「健康づくりパネル展」も学生が作成し、展示することができ、五者連携事業の二つの活動は、コロナ禍で活動できなかった学生が地域貢献活動を再開するよい機会となった。経験者が後輩に繋げ地域貢献活動を継続していく一歩が踏み出せたと考える。 ２）第 13 回公開講座は、30 名（一般参加者 16 名、特別総合科目履修学生 14 名）、第 14 回公開講座は 45 名（一般参加者 35 名、特別総合科目履修生 10 名）の参加があった。 第 13 回のアンケートの回収率は全体で 90%、一般参加者で 81.3%であった。一般参加者の男女比は変わらず、年代では 70 代が最も多く 37.5%を占め、50 代以上が 76.9%と中高年の参加が多かった。 「本講座をなにで知ったか」という問いでは、道民カレッジや大学からの案内、知人、書店に来て知った、ポスター、HP などオープンキャンパスを除く各項目に数名ずつの回答があり、さまざまな方法で認知していることがうかがえた。 本学の公開講座が初めてという人は 69.2%であったが、複数回参加している方も数名おり、3 回目の参加という方が 1 名いた。内容の満足度では、学生も含め 85.2%が「満足」と答え、1 名を除き「満足」「やや満足」と答えていた。全体の満足度は高かったと考える。否定的な意見としては、街頭演説がうるさかったというものがあった。 第 14 回のアンケートは回収率 100%で、一般参加者の男女比は、女性 8 割、男性 2 割であった。最も多い年代は 70 代で 37%、次いで 50 代、60 代と続き、50 代以上が 71%を占め、中高年の参加が多かった。 「本講座をなにで知ったか」という問いでは、14 名 40%の参加者が「北海道新聞」と答えており、道新の掲載の効果がみられた。次は、書店に来店してという人と知人からというのが、7 名ずつ（各 20%）であり、大学からの案内が 5 名、大学 HP からが 3 名であった。

	本学の公開講座ははじめてという人が 80%であったが、複数回参加者も数名おり、4 回参加という方が 1 名いた。数は多くはないが、リピーターの存在があった。内容の満足度では、一般参加者の 77%が「満足」と答え、「やや満足」を含めると 100%の方が満足している形となった。自由記述で資料がわかりやすいとあり、資料配布の成果があった。また、今後に活かせる内容という意見が見られている。また、13 回と同様に街頭演説で聞き取りにくい場合があったという指摘が複数みられた。これは、会場をインナーガーデンにしてから毎回出ている内容であり、日程を替えても解消が難しい。この問題に対し、会場を東区区民センター変更することを検討し、予算内で可能であることを確認の上進めることとした。会場の予約は開催の 2 カ月前であり、それまで確約が取れないという問題があったが、担当者との話から区民センターの複数の部屋が候補としてあげられ、場所が取れないことはないという感触を得ている。 また、今年度も看護学科、栄養学科で共通するテーマを検討し、演者を選考したが、それぞれの専門性があることからテーマや演者の選考が難しかった。今後、開催場所や参加者への周知・申し込み方法なども含め、公開講座の運営方法について検討する必要がある。
次年度への課題・改善方策 (Action)	1）以下のとおりとする。 （1）札幌市及び東区との協定に基づいた五者連携事業及び中沼西地区の夏祭りの再開に応じた地域への貢献。 （2）事業の推進にあたりボランティア活動の中心を担うサークルとの連携をはかり、学生のボランティア活動をサポートし、継続的な活動に繋げる。 2） 公開講座の実施 年 2 回の公開講座を実施する。その中で、参加者を増やす取り組みと、リピーターに繋がる内容の検討を行う。 また、会場を変えその運営方法（会場の確保、周知など）を評価する。

2022 年度　委員会等活動報告書

委員会等	教職課程委員会
作 成 者	加藤　隆

項　　目	内　　容
【前年度】 次年度への 課題・改善方策 (Problem)	1）新入生向け教職課程ガイダンスを魅力ある形で実施し、関心と意欲のある学生を引きつけるよう努める。 2）担当の教員が大幅に入れ替わった下で、新しい実施形態の栄養教育実習を含め、教職課程の科目を円滑に開講する。「履修カルテ」の書き方指導、「栄養教育実習」の事前ガイダンス、教採「対策」をそれぞれ実施する。 3）教職課程委員会を機敏に開催して運営する。 4）教員養成関係の行政動向に適切に対応し、かつ本学教職課程の体制維持と発展のための態勢をとる。

項　　目	内　　容
今年度の活動計画 （目標・課題） (Plan)	1）新入生を含む教職履修学生に教職課程ガイダンスを必要に応じて行い、意欲の喚起に努める。 2）栄養教育実習を含め、教職課程の科目を円滑に開講する。 （1）教職課程科目を円滑かつ工夫ある開講 （2）「履修カルテ」の書き方指導 （3）「栄養教育実習」の事前ガイダンス （4）教員採用試験（以下「教採」という。）「対策」の継続的な実施 3）教職課程委員会を機敏に開催する。 4）（1）教職課程行政への対応を原則的に行う （2）教職課程の非常勤講師も含めた教員体制の質的向上を図る
活　動　内　容 (Do)	1）新入生ガイダンスにおける教職課程ガイダンスは、新 4 年次生の応援を得て親密性のある雰囲気で行われた。また、2−4 年次の教職履修者に対するガイダンスについても講義の合間に行うなどの工夫をして必要に応じて設定した。今年度初めて、児童会館（8 名）や小学校（11 名）でのボランティアの機会を 2 年次 3 年次生に設け、子どもと触れ合う体験や意欲喚起を図った。 2）以下の活動を行った。 （1）教職科目担当者間（専任及び非常勤）の打ち合わせを多く設定し、本学教職課程の特徴や重点についての確認、及び情報の共有を図った。配置科目としては以下のとおり。 1 年次科目（教職概論、教育制度論、教育原理） 2 年次科目（教育課程論、教育方法論、道徳教育論、生徒指導論、特別活動・総合的学習指導論） 3 年次科目（教育心理学、教育相談論、特別支援教育概論） 4 年次科目（栄養教育実習事前・事後指導、栄養教育実習、教職実践演習） （2）「教職課程履修カルテ」の書き方について、1 年次生への全般的な指示のほかに、全学年に対して個別の改善指導を行った。 （3）「栄養教育実習」の事前ガイダンスは、2 月（定期試験終了後）に 3 年次履修生全員（10 名）に対して行い、Teams で今後も連絡・確認をとる体制とした。 （4）4 年次生を対象（5 名）に教採対策講座を実施した（1 次対策 4-6 月 22 コマ、2 次対策 7 月 8 コマ）また、3 年次生を対象（7 名）に、

	1 次対策 1-2 月 20 コマを行い、3 月も面接対策など 6 コマを予定している。 ３）教職課程委員会を以下のように開催した。北海道教採 1 次検査過去問題の活用について（4 月)、北海道私立大学・短期大学教職課程研究連絡協議会総会にみる他校動向の報告（7 月)、次年度の学外依頼講師の担当科目の調整・審議、非常勤講師確保の作業（8 月)、令和 4 年度教職課程認定等に関する事務担当者説明会の開催及び委員会予算について（11 月)、委員会活動の年間総括と報告書の準備（2 月） ４）以下の活動を行った。 （1）北海道教採 1 次検査過去問題、及び次年度教育実習の要望を、それぞれ行政機関や校長会と行った。 （2）教職課程の非常勤講師に対して本学教職課程の特徴や重点について説明し、情報の共有を図った。
活動内容の評価 （Check）	１）教職課程の履修学生数は、1 年次生 19 名、2 年次生 11 名、3 年次生 10 名、4 年次生 15 名となっている。毎年、30%前後の新入生が教職課程を履修している。課題は、学年が上がるにつれて栄養専門科目との兼ね合いで辞退者が出ることから、今年度はガイダンスの機会を増やすとともに、児童会館や小学校でのボランティアの機会を 2 年次 3 年次生に設け、子どもと触れ合う体験や意欲喚起を図ることで、履修数の維持に努めた。今後の履修者の継続動向を注視したい。 ２）活動内容の（1)、（2）に関しては、非常勤の科目担当者と直接及びメールなどでの確認や周知を行うことで情報の共有が深まった。（3)、（4）に関しては、特に効果的な教採対策を設定したことが改善点であった。1 次対策では、教職担当者によるウェブ教材シリーズの活用や栄養教育の過去問解説を 4-5 月で計画的に行った。また、2 次対策としては、学内担当者のみならず、教採試験に造詣のある講師を数コマ招くなどして面接の指導を 5-6 月に行うことができた。このような対策の結果、道内教員採用 2 名（小学校と高等学校)、教育委員会採用 1 名、道内期限付き栄養教諭 2 名を得ることができた。本学科のこれまでの教採合格者が 1 名であることを考えると、対策の効果はあったと捉えている。また、既卒者 1 名の教員採用も見られた。本委員会の意見として、3 年生まで広げた教採対策が必要との声があり、上記のように 3 年次生を対象の 1 次対策を今年 1 月から 3 月迄継続的に行い、教採受験希望者の意欲の喚起に努めた。 ３）教職課程委員会は課題の発生と諸条件の変動に応じ柔軟に運用された。 ４）4 月中旬に札幌市教委の採用試験担当者が来校し、教員採用検査の概要説明を該当学生向けに行った。非常に意味のある意見交換がなされ、このような行政機関との情報交流は不可欠であり、今後もそのような機会を継続したいと考えている。
次年度への 課題・改善方策 （Action）	１）新入生に向けた魅力ある教職課程ガイダンスを行うことで関心と意欲のある学生を引き付けるように努めるとともに、教職履修学生に対しては、教職課程ガイダンスを必要に応じて行い、意欲の喚起に努める。 ２）教職課程科目と正課外活動を円滑かつ効果的に実施する。 （1）教職課程科目を円滑かつ工夫ある開講とする。 （2）科目の学びをフィードバックする教職ボランティアを継続的に推進する。 （3）「栄養教育実習」の事前ガイダンスを効果的に実施する。 （4）教員採用試験対策の学年を超えて継続的に実施する。 ３）教職課程委員会を機敏に開催して運営する。 ４）教員養成関係の行政動向に適切に対応し、かつ本学教職課程の体制維持と発展のための態勢を整える。

2022 年度　委員会等活動報告書

委員会等	看護学科　実習運営部会
作 成 者	木津　由美子

項　　目	内　　容
【前年度】 次年度への 課題・改善方策 (Problem)	１）実習水準確保のための対策 （１）実習施設との連携体制の維持継続 ①2023 年度実習協議会の実施方法の検討 ②2022 年度実習指導者研修会の実施方法の検討 ③2022 年度の臨地実習について実習施設との調整 ④2023 年度版の臨地実習共通要項の見直し・作成 ⑤2023 年度版の指導の手引きの見直し・作成 ⑥2022 年度の重複実習施設の担当者の確定と調整方法の検討 （２）実習開始前準備の効果的なオリエンテーションの工夫 ①各学年実習全体オリエンテーションの内容の検討 ②個人情報保護に関するオリエンテーションの内容の検討 ③体調管理と感染予防の行動に関するオリエンテーションの検討 （３）学生にとって安全で効果的な教員配置計画の履行 ①指導の手引きに基づくガイダンスの実施 ②非常勤指導員の確保 ２）事故防止・個人情報保護に対する対策の評価・検討 （１）インシデント・アクシデント発生時の報告書の作成と情報共有の検討 （２）年間に発生したインシデント・アクシデントの状況・要因分析と報告 （３）インシデント・アクシデント発生防止の対策の検討 ３）実習に支障をきたさない効果的な「抗体価検査結果」の取り扱い ４）新型コロナウイルス感染症の感染拡大による影響に対応

項　　目	内　　容
今年度の活動計画 （目標・課題） (Plan)	１）実習水準確保のための対策 （１）実習施設との連携体制の維持継続 ①2023 年度実習協議会の実施方法の検討 ②2022 年度実習指導者研修会の実施方法の検討 ③2022 年度の臨地実習について実習施設との調整 ④2023 年度版の臨地実習共通要項の見直し・作成 ⑤2023 年度版の指導の手引きの見直し・作成 ⑥2023 年度の重複実習施設の担当者の確定と調整方法の検討 （２）実習開始前準備の効果的なオリエンテーションの工夫 ①各学年実習全体オリエンテーションの内容の検討 ②個人情報保護に関するオリエンテーションの内容の検討 ③体調管理と感染予防の行動に関するオリエンテーションの検討 （３）学生にとって安全で効果的な教員配置計画の履行 ①指導の手引きに基づくガイダンスの実施 ②非常勤指導員の確保 ２）事故防止・個人情報保護に対する対策の評価・検討 （１）インシデント・アクシデント発生時の報告書の作成と情報共有の検討

	（2）年間に発生したインシデント・アクシデントの状況・要因分析と報告 （3）インシデント・アクシデント発生防止の対策の検討 3）実習に支障をきたさない効果的な「抗体価検査結果」の取り扱い 新型コロナウイルス感染症の感染拡大による影響に対応
活　動　内　容 （Do）	1）実習水準確保のための対策 （1）実習施設との連携体制の維持継続のために実習運営部会として担った役割は以下のとおりである。 ① 2023 年度実習協議会の実施方法の検討・企画運営 実習協議会は、実習協議会 WG を立ち上げて企画運営を担当している。新型コロナウイルス感染症の拡大状況を見据えて 2023 年 3 月 9 日に開催予定で Zoom の使用によるオンラインで実施した。参加状況は、本学専任教員と非常勤指導員に加え、実習施設側から 78 名の参加があった。なお開催直後に音声に問題が発生するという課題が残った。参加者アンケートの回答は現在集計中である。 ② 2022 年度実習指導者研修会の実施方法の検討・企画運営 例年 11 月に実施しており、今年度は昨年度同様にオンライン開催で、2022 年 11 月 10 日（金）13:00～15:00 の間で Zoom を用いて実施した。テーマは「新カリキュラムにおける実習の特徴と学生の実習の実態」とし、実習運営部会長と針金学科長の講演とグループワークを行った。臨地実習指導に携わっている実習指導者 30 名、非常勤指導員 2 名、本学看護学科教員 24 名の総数 56 名の参加で、コロナ禍での各実習施設での取り組みや学生の傾向を知ることができよかったと高評価を得た。 ③ 2022 年度の臨地実習について実習施設との新型コロナウイルス感染症対応の調整 コロナ禍での実習の受入れは、3 年目となり実習施設側も現場での実習の重要性を認識しており、感染対策に則り実習を行うという調整を行い、できるだけ臨地での実習ができるように配慮しての実習展開であった。また、実習施設からは学内実習に対して指導者のメッセージや動画撮影、紙上事例への助言、オンラインカンファレンスなど協力が得られた。 学内実習では、教室や実習室の確保を領域の要望を集約し教員と学生に周知をした。 ④ 2023 年度版の臨地実習共通要項の見直し・作成 2023 年度臨地実習に向け「臨地実習共通要項」の見直しを行った。2022 年度からは大学の新型コロナウイルス感染症対策ハンドブックは、共通要項には含めない方針としており、2023 年度も同様考え方で作成をした。2023 年度の変更点は、新カリキュラムと旧カリキュラムの両方の教育内容を含め、教育内容以外の実習での必要な約束事項は共通として構成をした。新型コロナウイルス感染症関連は、新型コロナウイルス感染症の扱いが変更となることから必要時は、別冊で対応をすることにした。 ⑤ 2023 年度版の指導の手引きの見直し・作成 2023 年度用として「指導の手引き」を見直したが、大きな変更はなく使用する。 ⑥ 2023 年度の重複実習施設の担当者の確定と調整 領域で重複している実習施設は、担当者を決め調整内容の共有は継続した実施している。 （2）実習開始前準備の効果的なオリエンテーションの工夫 ① 3.4 年次の実習全体オリエンテーションの実施 4 月最初の時点では、実習施設で実習をする予定であったことから、3・4 年次の全体オリエンテーションを 4 月のガイダンスに実施した。

	全体オリエンテーションの際に新型コロナウイルス感染状況によっては急きょ学内実習に切り替わる可能性があることも周知をした。 実習施設での受入れができず学内実習へ変更となった際は、各領域で学内実習のオリエンテーションを実施した。 ② 個人情報保護に関するオリエンテーションの実施 3・4年次の全体オリエンテーション時に、臨地実習共通要項に基づき看護学生としての個人情報保護の重要性と必要性について説明をした。また実習記録の取扱いの注意事項も合わせて説明を行った。 1・2年次生には、看護基礎実習Ⅰ・Ⅱの全体オリエンテーションで情報の取扱い方について注意事項とともにクイズ形式で考えさせる工夫をした。 ③ 体調管理の重要性と感染予防の行動に関するオリエンテーションの強化 新型コロナウイルス感染症拡大が続き、実習施設での当日の体調チェックや行動履歴の確認は継続しており、体調が悪い場合は、実習施設には行かないように指導し、実習施設側と学生の状況の共有を図った。また体調がよくなり実習をする場合は、PCR検査の結果陰性であることの確認を求められ大学の費用負担で実施した。 学生もコロナ禍で３年目を迎えるため、感染管理について基本的な事項が守られていた。 （３）学生にとって安全で効果的な教員配置計画の履行 ① 指導の手引きに基づくガイダンスの実施 各領域で実習指導を行う非常勤指導員に対して、指導の手引きに基づく実習指導ガイダンスを例年同様に実施した。 ② 非常勤指導員の確保 各領域で実習指導に必要な非常勤指導員の確保に努めた。非常勤指導員の確保をする方法として、領域間で非常勤指導員の情報交換を行い指導可能な教員を紹介するなど協力連携をした。 ２）事故防止・個人情報保護に対する対策の評価・検討 （１）インシデント・アクシデント発生時の報告書の作成と情報共有 今年度からインシデント・アクシデント分析WGを立ち上げ、WGでインシデント・アクシデントの状況分析を行い、毎月の実習運営部会で報告し、年間の状況について実習協議会で資料を作成し報告した。今年度から分析Pm-SHELLモデルを用いて要因分析を行った。 また教員との情報共有を図るためにTeamsを活用し、迅速版事故報告書は教員が情報を確認できるように整備した。 （２）年間に発生したインシデント・アクシデントの発生状況・要因の分析と報告 2022年度のインシデント発生件数は14件で、3年生の成人看護実習Ⅰが3件、4年生の在宅看護実習3件であった。今回基礎看護実習での発生は0件で、他の実習で1～2件の発生があった。発生時期は、6月が6件と最も多く、8月3件、9月3件であった。6月は実習開始時期であること、8・9月は夏季休暇明けの時期で実習開始時期や再開時期に発生予防に向けて対応策の必要性が明確となった。 発生状況は、対象への影響はなく「レベル0」で個人情報に関するものが7件と最も多かった。学内実習の際に机内や学修した場所へのメモやファイルの置忘れが多く、確認不足が要因となっていた。要因分析はPm-SHELLモデル行ったが、教員全体でモデルの共通理解をもとに有効活用できるように学習会開催を検討する必要性が課題となった。 報告は、例年同様に実習運営部会内で領域内の実習で起こったインシデント・アクシデントの発生状況について報告を行い、部会の委員

	から各領域へ情報共有を図るプロセスは今後も進めて行く。また年度末に開催する実習協議会で発生件数などをまとめ報告書を作成し、実習施設と大学での情報の共有も継続する。 （3）インシデント・アクシデント発生防止の対策の実施 個人情報の管理については、実習全体オリエンテーションで実施しているが、学生によっては実習に行くまでの期間が空いてしまう場合があるため、実習開始当日に改めて説明を行い発生予防に努める。また発生しやすい時間帯や場所など発生しやすい傾向について具体的に伝え、学生間でも確認しあうように教員が促すなど対応を行う。 インシデント報告書については、当事者の発生要因とする報告が多く、再発予防の検討まで至らない場合があった。今後は、Pm-SHELL モデルを有効に活用し当事者以外の要因を多角的に分析していく。またインシデント発生状況について学科全体で情報共有することは継続をする。 3）実習に支障をきたさない効果的な「抗体価検査結果」の取り扱い 例年同様に大学で「医療従事者のためのワクチンガイドライン」を基にワクチン接種を進めており、それに応じて、1 年生には入学後に母子健康手帳のコピーを提出してもらっている。ワクチン接種対象の選定は、ガイドラインに沿ったフローシートを用い健康管理室が主体で行っている。実習運営部会では、個人の抗体価検査結果、ワクチン接種の記録等のコピーを「臨地実習共通要項」の裏表紙に貼付するようにし、必要に応じ学生がいつでも自分の状態を提示できるようにしている。これについては継続して実施をする。 4）新型コロナウイルス感染症の感染拡大による影響に対応 昨年度と同様に実習施設から実習受入れ見合わせとなった領域は学内実習へと変更した。学内実習は、昨年度の実績を踏まえ、紙上事例での看護展開・シミュレーションを用いながら臨地と同様に学生に考えさせる方法など工夫を行った。臨地での実習は、実習施設から様々な協力を得て、感染対策の一環として Web による実習を一部取り入れ、臨地実習・臨地実習＋学内実習・学内実習とバリエーションが多岐になったが今年度の実習は終了できた。体調不良で欠席した学生が実習する際には、PCR 検査陰性の確認を求める施設もあり大学の危機管理委員会や総務課と調整を図りながら PCR 検査の実施や学生の健康管理の徹底を図った。
活動内容の評価 （Check）	1）実習水準確保のための対策 （1）実習施設との連携体制の維持継続 ① 2023 年度実習協議会の実施方法の検討・企画運営 今年度実施した Zoom によるオンライン開催時に音声が聞きづらいなど問題が発生したことから、次年度もオンライン開催する場合の不測の事態について対応できるように対策を立てて臨む。開催について参加者からのアンケート結果は、「開催日時・開催時間」（93.5%）、「開催方法：オンライン開催」（90.1%）、「実施内容」（91.8%）の 3 項目で良かったという回答が 90%以上であった。また、少数から開催時期の検討の意見があった。本学は現在、次年度の実習について前年度末に実施しており、実習施設側の担当者が変更となる場合もあり、該年度に領域ごとに改めて調整から始まる現状から実施時期について当該実習開始の 4 月実施が望ましい。現在は旧カリと新カリが混在しているため、新カリでの実習に完全移行するタイミングで年度内開催となるよう検討していく。 ② 2022 年度実習指導者研修会の実施方法の検討・企画運営 この研修会は、実習施設と本学との教育について共有できる貴重な機会となっている。例年 11 月に開催しているが、本学の行事や臨地実習中であり、実習施設側と教員の時間的負担もあることから、2023 年度以降の開催時期を検討する。

	③ 2022 年度の臨地実習について実習施設との新型コロナウイルス感染症対応の調整 2023 年 5 月 8 日から新型コロナウイルス感染症がインフルエンザを同様の 5 類へ変更するため、4 月以降で実習施設側と詳細な打合せを行う必要がある。当面は臨地実習の場合と学内実習の場合の２つの方法での実習準備を行い、また学生の実習に臨む姿勢として、健康管理の徹底を教員と学生に周知をしていく。 ④ 2023 年度版の臨地実習共通要項の見直し・作成 2024 年度臨地実習に向け「臨地実習共通要項」の見直しを行い、変更した内容については、実習を通しながら修正の必要性を検討していく。 ⑤ 2023 年度版の指導の手引きの見直し・作成 2023 年度用として「指導の手引き」を見直したが、大きな変更はなく使用していくことになるが、必要に応じて修正をする。本学での指導が初めてとなる非常勤指導員には、本学の教育理念、方針等を理解してもらうように活用を図る。 ⑥ 2022 年度の重複実習施設の担当者の確定と調整 重複施設に関しては、担当を決め「重複施設の調整内容フォーマット」情報を記載し、情報共有は図られたことから、次年度以降も継続して実施する。 （２）実習開始前準備の効果的なオリエンテーションの工夫 ① 3.4 年次の実習全体オリエンテーションの実施 3･4 年次の全体オリエンテーション時に説明する内容については毎年吟味をしており、新型コロナウイルス感染症が 5 類へ変更することを踏まえ、学生の実習前の感染対策での注意事項や実際の健康管理や行動について具体的に説明し体調管理の重要性と感染予防行動の指導を強化する必要があると考える。 ② 個人情報保護に関するオリエンテーションの実施 実習オリエンテーション時に個人情報保護に関する事項は時間を多めにとって行って実施することは継続する。インシデント発生事案に個人情報関連が多い現状を学生に説明し、学生個々人が必要性を認識できるように指導を強化していく必要がある。 ③ 体調管理の重要性と感染予防の行動に関するオリエンテーションの強化 新型コロナウイルス感染症が 5 類へと変更となるため、実習施設側と実習受入れのための学生の体調管理について調整を行う。 （３）学生にとって安全で効果的な教員配置計画の履行 ① 指導の手引きに基づくガイダンスの実施 新規採用の非常勤指導員も加わることが予測される。本学の教育と指導の重要性について、「指導の手引き」をもとにガイダンスを行い、教員・非常勤指導員一丸となって実習教育を行う。 ② 非常勤指導員の確保 各領域で実習指導に必要な非常勤指導員の確保に努めていく。非常勤指導員の確保にあたり、本学ホームページを利用して公募するなど学生の教育指導の充実を図っていく。 ２）事故防止・個人情報保護に対する対策の評価・検討 （１）インシデント・アクシデント発生時の報告書の作成と情報共有 実習オリエンテーション時実施している「臨地実習共通要項」の実習における危機管理に関する説明を今後も継続をしていく。 （２）年間に発生したインシデント・アクシデントの発生状況・要因の分析と報告 Pm-SHELL モデル行ったが､教員全体でモデルの共通理解をもとに有効活用できるようにインシデント WG が中心となり、学習会開催を検討する。教員がモデルの共通理解をしてインシデント・アクシデント

	発生予防に取り組む。 （3）インシデント・アクシデント発生防止の対策の実施 今後も全体オリエンテーションで学生に説明を実施していく。それに加え、実習開始当日にも改めて説明を行い、学生のインシデント・アクシデント発生防止の意識向上を図る。また対策についてが、学科全体で検討をして取り組む。 3）実習に支障をきたさない効果的な「抗体価検査結果」の取り扱い 例年同様に継続して実施をする。 4）新型コロナウイルス感染症の感染拡大による影響に対応 新型コロナウイルス感染症が5類へ引き下げされるため、実習施設側と調整を図る。また実習施設の状況により受入れ制限があることを踏まえ、臨地実習計画と学内実習計画の両方の計画を準備し対応をする。また実習施設の受入れの詳細を確認し、大学の危機管理委員会や総務課と情報共有を図り学生の実習が円滑に進むように努める。次年度の課題を新型コロナウイルス感染症レベル引き下げによる実習の対応に変更する。
次年度への課題・改善方策 (Action)	1）実習水準確保のための対策 （1）実習施設との連携体制の維持継続 ① 実習協議会の実施方法の検討 ② 実習指導者研修会の実施方法の検討 ③ 臨地実習について実習施設との調整 ④ 臨地実習共通要項の見直し・作成 ⑤ 指導の手引きの見直し・作成 ⑥ 重複実習施設の担当者の確定と調整方法の検討 （2）実習開始前準備の効果的なオリエンテーションの工夫と実施 （3）学生にとって安全で効果的な教員配置計画の履行 2）事故防止・個人情報保護に対する対策の評価・検討 3）実習に支障をきたさない効果的な「抗体価検査結果」の取り扱い 4）新型コロナウイルス感染症のレベル引き下げによる実習の対応

2022 年度　委員会等活動報告書

委員会等	栄養学科　実習運営部会
作 成 者	山部　秀子

項　　目	内　　容
【前年度】 次年度への 課題・改善方策 (Problem)	1）本年度も昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症対応のために臨地実習を一部学内で行うなどの変更を余儀なくされた。そのため、来年度は、3 年次生、4 年次生ともに臨地実習を初めて学外で行うことになるため、学生が積極的で活動的な姿勢で実習に臨めるように指導することが必要である。 2）実習の事前指導において、学生が自己管理を徹底し、事故防止・個人情報保護に対する対策を行えるよう指導していくことが必要である。

項　　目	内　　容
今年度の活動計画 （目標・課題） (Plan)	1）初めて学外で臨む臨地実習を滞りなく実施し、かつ学生が積極性を身に着け、活動的な姿勢で臨めるために下記の内容を実施する。 （1）実習目的・内容から効果的な実習開始前準備を計画し、実施する。 （2）実習準備のために担当教員を中心としつつ、実習運営部会で連携し、学科全体で連携協力体制をとる。 （3）実習受け入れ施設の担当者との連携を十分はかり､学生が充実した実習ができるように準備を行う。 （4）実習後には実習報告会を行い、実習での学び、反省点などを共有し今後の学修に役立てる。 2）学生の自己管理の徹底と事故防止・個人情報保護に対する対策を行う。 （1）学内での講義・演習を工夫し、実習先の指導者、対象者（入所者・患者・地域住民・児童等）の特性に対応した事故防止と個人情報保護に対する学生の理解を深める。 （2）オリエンテーションにより自己管理の大切さを伝え､実習中の事故防止及び個人情報保護に関するインシデント・アクシデントを防ぐ。
活　動　内　容 (Do)	1）今年度は、概ね学外で臨地実習を行うことが出来たが、一部で新型コロナウイルス感染症関連事項（施設側の感染状況、学生の感染）により、実習時期の延期や、学内実習への切り替わりがあった。また腸管出血性大腸菌陽性のために、実習時期延期の学生もいた。実習時期の延期に伴い、事前指導や報告会の開催が当初予定よりも遅くなるなど、一部変更はあったものの、臨地実習へ臨むにあたっての事前指導や巡回指導等は、概ね計画どおり実施した。 （1）給食経営管理論実習Ⅱ(3 年次：高齢者施設)は 2 施設 4 名が実習延期となった。給食経営管理論実習Ⅲ・栄養教育実習(4 年次：小学校)は 2 施設 2 名が実習延期となった。臨床栄養学実習Ⅳ(4 年次：病院)は、2 施設 4 名が全日程学内実習となった。学内での実習となった臨床栄養学実習Ⅳでは、施設の実習指導者による対面・オンラインで講話や指導などを行った。１施設 2 名は、実習の一時中断、別日に不足分の実習を行った。その他は予定どおり実施できた。巡回指導については各施設の事情により、メール、電話、オンラインなど訪問指導以外の方法も取り入れながら実施した。臨床栄養学実習Ⅴ（４年次：病院)、公衆栄養学実習Ⅱ(4 年次：札幌市)については、予定どおり実施できた。

	（2）学科会議において実習の概要報告を行った。巡回指導については、各実習の担当者を中心に行ったが、一部、学科教員にも協力してもらいながら行った。 （3）実習事前準備では、事前課題等の内容を教員も把握し、学生が滞りなく準備を進められるよう指導した。また、実習終了後の報告会における発表も踏まえたまとめ等を行うよう指導した。その他、コロナ禍においての実習のため、学生の健康状態把握等の資料提出の有無について実習先の指導者と十分に連絡をとり、準備を進めた。 （4）各実習終了後の報告会では､他施設における実習での成果等について共有することで、学生の学修につなげるよう指導した。また、臨地実習を滞りなく実施するため、今年度初めて､「臨地実習担当者研修会及び意見交換会」を 2 月 23 日に開催し、10 名の実習指導担当者の出席があった。 2）学生の自己管理の徹底と、事故防止・個人情報保護に対する対策を行った。 （1）学内での総合演習Ⅰや､実習前オリエンテーション､栄養教育実習では「栄養教育実習事前・事後指導」等において、事故・過失などについて説明し、報告、連絡の大切さや指示に従うように指導した。 （2）個人情報の取り扱いについては､課題作成とも関連があることを含め、具体例を挙げて指導を行った。さらに実習施設への学生の個人情報についても必要最小限の情報のみを提供した。
活動内容の評価 （Check）	1）臨地実習へ臨むにあたり、学生各自が実習の目的、目標を明確にするための指導を行うことができた。 （1）総合演習Ⅰなどの事前指導を通して､臨地実習が管理栄養士（栄養教育実習では栄養教諭）にとってどのような意義を持つのか等について指導することで、学生は自覚をすることが出来た。 （2）実習運営部会の開催や学科会議において適宜実習の様子等について報告し、情報共有を図ることができた。また、学科教員にも巡回指導に協力してもらうなど、連携体制を作ることができた。 （3）現場で管理栄養士（栄養教育実習では栄養教諭）の仕事や責任について学び、管理栄養士（または栄養教諭）としての職務や多職種連携などを経験したことについて、多くの学びがあったことを学生が事後報告会等で発表しており、多くの学生は今回の実習の目的、目標を概ね達成できたと考える。一部の学生については、報告書の作成・提出期限を守れずに個別に指導をせざるを得ない学生もいたことから、来年度は、事前指導時に、実習後に行わなければならない事項について(報告作業までを含めて実習であること等)をもう少し時間をかけて行う必要がある。 （4）今年度初めて開催した｢臨地実習担当者研修会及び意見交換会｣では、今年度の実習の反省と今後の円滑な実習に向けて貴重な意見を伺うことができた。 2）学生の自己管理の徹底と、事故防止・個人情報保護に対する対策を行うことができた。 （1）指導の成果として、実習中に大きな事故等は無かった。 （2）個人情報の取り扱いについて、適切な対応が出来ていた。
次年度への 課題・改善方策 （Action）	1）昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症対応のために臨地実習を一部学内で行うなどの変更を余儀なくされたため、来年度も、急な実習時期・方法の変更等に対応できるよう、実習運営部会が連携して対応を考えながら、学生が積極的で活動的な姿勢で実習に臨めるように指導をすることが必要である。 2）実習の事前指導において、学生が自己管理を徹底し、事故防止・個人情報保護に対する対策を行えるよう指導していくことが必要である。

2022 年度　委員会等活動報告書

委員会等	看護学科カリキュラム専門部会
作 成 者	小島　悦子

項　　目	内　　容
【前年度】 次年度への 課題・改善方策 (Problem)	1）カリキュラム評価について （1)旧カリキュラムと新カリキュラムの評価の時期及び評価項目について検討し、新旧カリキュラムの評価を行う。 2）新カリキュラムの共通理解の推進について （1)新カリキュラムの共通理解に向けて、学習会を企画・運営する。

項　　目	内　　容
今年度の活動計画 （目標・課題） (Plan)	1）カリキュラムの評価方法を検討し、実施・評価する （1)旧カリキュラムと新カリキュラムの評価の時期及び評価項目について検討し、新旧カリキュラムの評価を行う。 2）新カリキュラムの共通理解に向けて学習会を実施する。 （1）新カリキュラムの共通理解に向けて、学習会を企画・運営する。
活　動　内　容 (Do)	1）カリキュラムの評価について （1)旧カリキュラムの評価について 学生満足度調査の内容と重複している評価項目等を削除するなど評価項目を見直し、例年どおり 4 年生に 12 月中旬に実施し、アンケートの集計結果について学科会議で資料を配布し、説明した。 （2)新カリキュラムの評価について 卒業時の看護技術 71 項目の到達度評価のための 4 年間使用できるフォーマットを作成し、1～3 年次は学担が、4 年次は総合領域の教員が各学年の Teams を作成し、評価を実施することとした。今年度は 2 月に 1 年次を対象に実施した。また、教育目標に対応した 1 年次のレベル目標を確認し、その到達度について 2023 度 4 月初旬に 2 年次を対象に実施するための準備を行った。 2）新カリキュラムの共通理解に向けた学習会の企画・運営について 看護学教育の点検・評価、改善・向上を図るために必要な知識の獲得を目指した「看護学教育の質向上に係る学習会」を 11 月～3 月に 3 回実施した。大日向教授が講師となり、1 回目「看護学教育の変遷、最近の動向と課題」、2 回目「Professionalism と看護教育」、3 回目「臨地実習の課題と展望」のテーマで開催した。また、領域横断的なカリキュラム理解を促し、自領域の授業内容・方法を検討する上での参考にするとともに、看護学科カリキュラムの内容・方法の見直しに繋げることを目的に、カリキュラム・コミュニケーション・ミーティングを 12 月～2 月に実施した。1・2 回目「領域別カリキュラムの概要」、3 回目「領域別看護技術演習の概要」、4 回目「領域別看護過程の概要」のテーマで開催した。
活動内容の評価 (Check)	1）カリキュラム評価について （1)旧カリキュラムの評価について 12 月中旬に 4 年次 103 名を対象にカリキュラム評価アンケートを実施し、87 名から回答を得た(回収率 80.6%)。ディプロマ・ポリシー（以下、DP という。）の達成度について「十分達成した」～「ほぼ達成した」の回答は、DP2～6 については 90%以上であったが、DP1「職業人として日本語及び英語の運用能力、ならびに情報リテラシーの基礎を身につけ、これらを用いて論理的な分析と思考・判断及び表現する

	能力を有している」は 75%、DP7「自己の看護能力の向上のために最新の知識・技術を学び続ける学修態度と、看護の課題を発見し課題を解決する能力を有している」は 84%であった。学修しやすい順序で科目が設定されているかについて「とてもそう思う」～「そう思う」と回答したのは 70%、1～4 年次の学修量配分の適切性については 48%、基礎教育科目や専門基礎科目の学修内容の満足ついては 74%だった。自由記載では、複数名から 2 年次後期の課題量の多さや 4 年次の実践総合演習や看護課題研究のスケジュールや方法を考えて欲しいという意見が出された。 　看護専門職者としてだけではなく社会の一員としての責任と役割を意識し行動することや、看護専門職者としての倫理的態度を有し、看護専門職者としての役割を果たすための基礎的能力を身につけることができたと捉え、自己の看護能力の向上のために学び続ける必要性意識し、課題に取り組む能力を身につけたと捉えたことが理解できた。しかし、看護職者として必要な情報を収集し、それらを系統的に分析、判断し、多職種と協働しながら的確な支援を展開するためには、DP1 の情報リテラシーの基礎を身につけ、論理的な分析と思考、判断、表現する能力は不可欠である。アンケート結果から、基礎教育科目の重要性と、基礎教育科目、専門基礎科目、専門科目の関係と、学修を積み上げることで確かな実践力を身につけることができることを伝える必要性が明らかになった。 　また、2 年次後期に各科目から課せられる課題の量、4 年次 12 月のスケジュールの過密さについての対応は課題である。 　今年度はアンケート調査を 12 月の看護課題研究発表会後に実施したため回収率が高くなったと考えられることから、次年度も学生達が一斉に集まる時期に実施する必要がある。DP について全員が達成できるよう、各授業において学修内容をもとに思考力や判断力の育成、課題発見や解決能力の育成に力を注ぐ必要がある。 自由記載を含め学科会議でアンケート結果・課題を共有する必要がある。 　学生がゆとりをもって学修に取り組めるように、各領域から学生に課している課題の内容や時期について全教員が把握し、課題の内容や提出時期の調整の必要性について意見が出された。4 年次の科目のスケジュールや方法については科目担当者間での検討・調整をしてもらうこととした。 （2）新カリキュラムの評価について 　1 年次生の看護技術到達度評価については現在集計中のため、集計結果が出次第、課題等を検討する。 　教育目標に対応した 1 年次生のレベル目標の評価については 2023 年度 4 月初旬に実施する予定のため、次年度は集計結果をもとに課題等を検討する必要がある。 2）新カリキュラムの共通理解に向けた学習会の企画・運営について 　看護学教育の質向上に係る学習会については、今後の教育や研究に「とても参考になった」～「参考になった」と全員が回答し、自由記載の中で看護教育や教員の役割についてあらためて考える機会となった等の記載があった。次年度も引き続き、看護学教育の点検・評価、改善・向上を図るために必要な知識を獲得するために、学習会を継続する必要がある。 　カリキュラム・コミュニケーション・ミーティングについては、今後の教育や研究に「とても参考になった」～「参考になった」とほぼ全員が回答し、自由記載の中で他領域の教育内容・方法についてあらためて理解し、課題を確認できる機会になった等の記載があった。次年度は引き続き実習に関する各領域のプレゼンを実施し、その後、演習、実習、看護過程の学修についてそれぞれグループ討議を行い、課

	題と改善策について話し合う必要がある。
次年度への課題・改善方策（Action）	1）カリキュラム評価について 2022年度に実施した評価結果から見えた課題の改善策として、各科目から学生に提示される課題を学科教員で共有し必要時は調整する。また4年次後期に配置されている科目の実施時期の調整を行う。2023年度の4年次生にもカリキュラム評価を実施し、課題についての改善策を検討する。 2023年度は、新カリ（2022年度入学生から）1・2年次生を対象としたカリキュラム評価を実施し、課題についての改善策を提案する 2）カリキュラムの共通理解に向けた学習会について 教員の教育力向上に向けて、看護学教育の質向上に係る学習会を継続する 領域横断的なカリキュラム理解を促し、各領域の授業内容・方法の検討、及び看護学科カリキュラムの内容・方法の見直しにつなげるために、カリキュラム・コミュニケーション・ミーティングを継続する

2022 年度　委員会等活動報告書

委員会等	栄養学科カリキュラム専門部会
作 成 者	山部　秀子

項　　目	内　　容
【前年度】 次年度への 課題・改善方策 (Problem)	1）新カリキュラム開始 2 年目となることから、引き続き、不都合な点等が無いか確認、評価し、必要に応じて、カリキュラム検討委員会へ案を（Action） 提出することが必要である。 2）2022 年度から新しくなるディプロマ・ポリシーと科目の関連や、カリキュラムマップについても随時、不具合が無いかの確認、評価が必要である。 3）2022 年度から、新設科目のうち「地域連携ケア論Ⅰ～Ⅳ」、「特別総合科目」「栄養サポートチーム論」の 6 科目が看護学科との合同科目になるため、看護学科と連携しながら滞りなく両学科合同科目として開講できるよう準備し、開講後には、不都合な点が無いか確認、評価していく。

項　　目	内　　容
今年度の活動計画 （目標・課題） (Plan)	1）新カリキュラム開始から 2 年目となったことから、滞りなく新規科目がスタートし、不都合な点等が無かったかを確認、評価し、必要に応じて、カリキュラム検討委員会へ案を提出する 2）2022 年度から看護学科に合わせて改訂したディプロマ・ポリシーと科目の関連や、カリキュラムマップについても随時、不具合が無いかの確認、評価を行う。 3）新設科目のうち、2022 年度から「地域連携ケア論Ⅰ」、「特別総合科目」の 2 科目が、2023 年度以降は、「地域連携ケア論Ⅱ～Ⅳ」、「栄養サポートチーム論」が看護学科との合同科目になるため、看護学科と連携しながら、2022 年度開始の 2 科目が滞りなく開講できたかを確認、評価するとともに、2023 年度以降からの合同開講 4 科目についても滞りなく開講できるように準備する。
活　動　内　容 (Do)	1）新カリキュラム 2 年目について、前期終了時点で不都合な点等が無いかを学科教員から意見聴取しながら確認を行った。開講時期の変更や、他の科目との内容の重複についてなど、複数の教員から意見が寄せられたため、3 月に学科全教員による意見交換会を開催して、新カリキュラムの授業内容、開講時期、関連科目との関係などについて話し合い、課題の有無について点検を行った。話し合った内容は来年度、科目配置表に表し、CAP 制や授業効果などを確認しながら、より具体的な検証を行う必要があることを確認した。 2）ディプロマ・ポリシーと科目の関連、カリキュラムマップについても確認を行い、現行の内容においては問題はないが、上記１）と合わせて、再度、検討が必要であることを確認した。 3）新設された看護学科と合同科目については、不都合な点など、大きな問題が無くスタートしたことを確認した。
活動内容の評価 (Check)	1）新カリキュラム 2 年目も滞りなくスタートでき、特に不都合な点等は見つかってはいないことから、現段階では、栄養学科の新カリキュラムは順調に進行している旨、カリキュラム検討委員会へ報告した。履修モデル 3 コースについては、「コース選択」を申請する必要性はなく、あくまでも履修モデルであるということが、十分理解できていない学生がいるということが、履修相談時の情報として学担から伝えられたことよ

	り、学生の理解が深まるよう丁寧に履修指導していくことが必要である。また新カリキュラムについては、活動内容の箇所に記載したとおり、引き続き意見交換会を定例で開催して課題の有無を精査していくことの必要性が確認できた。 2）ディプロマ・ポリシーと科目との関連についても、特に不都合等は無かったが、引き続き確認していくことが必要である。 3）新設科目のうち、2022 年度から看護学科と合同開講となった「地域連携ケア論Ⅰ」、「特別総合科目」は、担当教員の連携等により、特に不都合な点等は無く、学生の課題の取り組み状況などを見ても、意欲的に取り組んでいる学生が多く、授業の実施全般に関する学生からの不満や要望なども特になく、滞りなく開講ができた。2023 年度以降に合同開講になる「地域連携ケア論Ⅱ～Ⅳ」「栄養サポートチーム論」については、担当教員が一部交代することも踏まえ、より効果的な授業になるよう新旧担当教員を交えて、2023 年度以降に備えて準備を進めているところである。
次年度への課題・改善方策（Action）	1）新カリキュラム開始 3 年目、看護学科との合同科目開始から 2 年目となることから、引き続き、不都合な点等が無いか確認、評価し、必要に応じて、カリキュラム検討委員会へ案を提出することが必要である。 2）ディプロマ・ポリシーと科目の関連や、カリキュラムマップについても随時、不具合が無いかの確認、評価が必要である。 3）2023 年度以降に看護学科との合同科目として新設される「地域連携ケア論Ⅱ～Ⅳ」、「栄養サポートチーム論」について、看護学科と連携しながら滞りなく両学科合同科目として開講できるよう準備し、開講後には、不都合な点が無いかを確認、評価していく。

2022 年度　委員会等活動報告書

委員会等	看護学科
作 成 者	針金 佳代子

項　　目	内　　容
【前年度】 次年度への 課題・改善方策 (Problem)	該当なし

項　　目	内　　容
今年度の活動計画 （目標・課題） (Plan)	１）学科において必要な情報を共有し、適時審議できるように、学科会議、学科教授会を定例で行い、必要時領域責任者会議を行う。 ２）実習室係を設置し、看護学教育を展開する際に重要な演習・実習を円滑に進めるために必要物品を含めた実習室の環境を整備する。
活　動　内　容 (Do)	看護学科には、会議としては学科会議、領域責任者会議、学科教授会が、また部会、係として実習運営部会、カリキュラム専門部会、実習室係が設置されている。実習運営部会、カリキュラム専門部会に関しては、昨年同様、委員会報告に独立した形で報告される(該当箇所を参照)。 １）会議 （１）学科会議：毎月教授会の翌週の水曜日に開催した。各委員会、領域、部会・係、学担等から挙げられた審議事項や報告事項が出され、教育運営が円滑に行われることを目的にほぼ全員参加で実施した。 （２）領域責任者会議：領域間に共通した実務的な課題について検討するために年間 2 回実施した。議題は、学科教授会設置に関して、次年度の嘱託職員への協力依頼の調整などであった。 （３）学科教授会：本会議は、学科の人事・組織的な運営、学生指導に関する課題などについて情報の共有を行い審議した。学科会議の前週の月曜日に設定し、議題がある場合の開催とし、計 7 回実施した。看護学教育評価にかかわるカリキュラム関連の学習会の実施に関する内容、人事、入試方法、学生への指導体制、教員養成講習会の受け入れなど、多様な課題を審議した。課題によっては、プロパー教授で運営した。その審議結果の多くは、学科会議で報告された。 ２）実習室係 目的：看護教育の中心である実習教育が円滑、かつ効果的に実施できるように、学内の実習室の環境を整え、学生が看護専門職としての自覚をもち、看護技術を習得することができるための整備を行う。 役割：・各実習室の使用に関するガイドラインを作成し学生に指導 ・各実習室使用の予約に関する体制を学務課の協力を得て整備 ・演習にて使用する共通物品の管理（発注、保管、使用状況確認） ・その他実習室に関する事項 組織：各実習科目の代表者 1 名から構成された合計 8 名（リーダー1 名）であり年間 4 回実施した。
活動内容の評価 (Check)	１）会議 （１）学科会議：審議や報告を受けて、円滑な教育運営ができていた。このことからも、会議は有効に機能していると判断している。事前に会議次第を送信することで、議題に対する理解を図ることができていた。自由に質問や意見がいえる環境になりつつあるが、発言者が固定

	化している傾向がある。さらに意見の言いやすい環境づくりが課題である。 （2）領域責任者会議：実務的な各領域間の調整のため開かれた。各領域の抱える課題を共通認識し合い、協力し合いながら課題に向き合えた。 （3）学科教授会：教育の質向上のため、さまざまな課題について意義ある検討ができた。議題によってはプロパー教授のみで運営したが、合理的であった。 2）実習室係 ・学生へのアンケートの結果から、今年度は新型コロナウイルス感染症の影響した昨年と比較し実習室の利用者が増加し、概ね希望どおりの学修ができていた。週末における使用希望もあり、実習室での自己学修に対する学生の認識の向上がみられた。 ・実習室使用ガイド：学生は概ね活用していたが、Teams 上で提示していることが周知されていない傾向もある。新型コロナウイルス感染症の対応緩和に呼応してガイドブックを見直す機会である。 ・実習室使用記録：感染症者の減少を受けて、使用状況に関しては各実習室前の実習室使用記入表に直接書き込む方法に戻す。 ・共用消耗品：使用実績数は使用予定数を大幅に少なかったため消耗品の不足はなかった。次年度は使用実績より定数を増加する。 ・クリーニング：概ね計画どおり実施できた。
次年度への課題・改善方策（Action）	1）学科会議前週の学科教授会にて審議した内容を学科科教授会で報告・審議したため、会議自体は円滑に進められ、実習のすすめ方、学生の情報については共有できたが、教授会報告については各領域で行っているため、大学組織としての情報の共有が不十分であったことから、大学組織としての情報、学科における領域・学生の情報を適時報告し、共有することをさらに強化する必要がある。 2）実習室係の活動によって、実習室で円滑に学生は自己学修をすすめることができているが、学科独自に設置した係であり、大学組織には位置づけられていない。また自己学修については各領域で実施される演習に基づくものであり、実習の準備学修と捉えると、大学組織に位置づけられている実習運営部会の活動のひとつとして位置づけることが適切と判断し、実習室係を解消する。

2022 年度　委員会等活動報告書

委員会等	栄養学科
作 成 者	山部秀子

項　　目	内　　容
【前年度】 次年度への 課題・改善方策 (Problem)	該当なし

項　　目	内　　容
今年度の活動計画 （目標・課題） (Plan)	今年度より活動状況報告を実施することとなった。栄養学科として文書として計画されているものはないが、以下の点が課題と考えられる。 １）国家試験対策の充実、合格率アップを目指す ２）就職先のさらなる開拓を行う ３）現行カリキュラムの見直しを検討する ４）学科会議（及び学科内教授会）の円滑な運営を行う
活　動　内　容 (Do)	１）及び２）キャリア開発委員会主導のもと、学担とも連携し、国家試験合格及び就職支援に向けて、現在、どのような課題があるか、どのような対策を講じていけるかを話し合いながら、学科教員への提案、意見聴取を進めているところである。 ３）栄養学科の新カリキュラムが運行して 2 年経過したことから、カリキュラム全体の見直しをかけ、科目間の連携方法や開講時期について意見交換をおこない、よりよいカリキュラム進行を計っている。 ４）学科会議は、月 1 回実施し（本年度 11 回)、教務事項、キャリア開発事項、入試事項等について検討した。学担が把握する学生事項について共有し、学生支援につなげた。本年度は、毎月第 1 火曜日の昼休みを利用し、なるべく短時間で会議が終了するように計画実施した。学科内教授会は 2 回実施し、人事案件について審議した。
活動内容の評価 (Check)	１）及び２）キャリア開発委員会と連携しあいながら、ガイダンスや模試、対策講座を企画し、円滑に行うことができた。 ３）新カリキュラムの科目間の連携方法や開講時期について意見交換を行い、科目担当教員が抱える問題点を共有した。それらを、踏まえて、来年度に、科目配置表に表し CAP 制や、関連科目の内容の重なりや国家試験出題基準との関連などを踏まえたカリキュラムの見直し検討が必要であるということをまとめた資料作りができた。 ４）学科会議は、昼休み内の短時間（実質 30 分間程度）で実施したため、審議事項では、話し合いの時間が足りない印象があり、互いが時間を気にして、教員全員が十分意見を出し切れなかったような不満が互いに残ったという感想が教員から聞かれた。
次 年 度 へ の 課題・改善方策 (Action)	１）管理栄養士国家試験対策についてキャリア開発委員会主導のもと、学担と連携を取りながら、学生自らのやる気を引き出せるようにサポートする。 ２）キャリア開発委員会と連携し合いながら、就職先の更なる開拓に取り組んでいく。 ３）完成年度を迎えた後の次のカリキュラム改正（2025 年度以降）に向けた検討を進めていく。

	４）学科会議は適切な時間の確保による円滑な運営を目指す。

2022 年度　委員会等活動報告書

委員会等	看護学科 学年担任（1 年次）
作 成 者	齋藤　早香枝

項　　目	内　　容
【前年度】 次年度への 課題・改善方策 (Problem)	該当なし

項　　目	内　　容
今年度の活動計画 （目標・課題） (Plan)	1）大学生活におけるルールやシステムを理解し、大学生としての自覚をもって学生生活を送ることができるように支援する。 2）授業や大学行事などを通して、主体的に自律して学修する力や、専門職業人を目指す者として自らを振り返り、責任ある態度を身につけることができるように支援する。
活　動　内　容 (Do)	1）以下の活動を行った。 （1）ガイダンス及び全体への注意喚起・指導の実施 1 年次生に対する学担ガイダンスを以下の日程で行った。 ① 4 月新入生ガイダンス：4 月 7 日（木） 担任との顔合わせ、大学祭実行委員とクラス委員の選出等 ② 前期末ガイダンス：8 月 24 日（水） 前期の振り返りと夏休みの過ごし方（注意事項）等 ③ 後期ガイダンス：9 月 30 日（木） 自己目標の見直し、学修習慣の確認、生活面での留意事項、後期行事（三職種講演会、大学祭）の参加の促し ④ 冬休み明けガイダンス：1 月 12 日（木） 後期定期試験の準備、欠席に関する注意喚起、盗難対策等 ⑤ 学年末ガイダンス：2 月 24 日（金） 1 年間の振り返りの促し、春休みの過ごし方等 上記の他、授業の出欠の不正（欠席者が学友に、授業で示された出欠の Forms をメールで送信してもらう依頼をしていた）に対し、問題が発生した際にタイミングよく全体に向けて注意喚起を行う機会を持った。 （2）履修相談の対応 教務委員会が主催する履修相談で、学生の履修相談に応じた。 （3）個別面談の実施 4 月下旬～5 月中旬にかけてと 1 月中の年 2 回、学生と学担との面談の機会を持った。1 回目の面談時には、学生個々の状況を把握するために、個別面接記録の記載・提出を行った。また、今年度から始まったポートフォリオのゴールシートを記載してもらい、目標をもった大学生活に繋がるよう共有した。2 回目、1 月に行われた面談では、前期の成績、実習に関してや生活面・健康面の確認とサポートが行われた。また、提出されたポートフォリオを確認し、残りの期間、何を努力していくか学生の考えを共有した。また、ポートフォリオに何も綴られていない学生には、何を入れていったらよいかを助言し 2 年次以降の活用に繋げられるようにした。

	定期面談の他、必要に応じて個別面談を行い、個々の学生の学修をサポートし、大学生活やアルバイト、体調、経済面での悩み等の相談対応を行った。 （4）学担会議 学担会議を適宜開催し、学年の課題などを話し合った。また、緊急な場合（重要性が高くないもの）は、メールで審議し対応した。 必要時、学生情報を学担や学科で共有、あるいは学科長へ報告し、困難を抱える学生のサポートを学科全体で行える体制とした。 2）以下の活動を行った。 （1）主体的学修の促し 毎回のガイダンス時に学修習慣を身につけるよう動機づけを行ってきた。また、授業を欠席しないという大学生としての基本的学修姿勢や生活面での注意事項を伝え、人間力形成につながる行動の促しを行ってきた。 （2）ポートフォリオの作成に関するサポートと活用 2022 年度から導入されたポートフォリオに関して､新入生ガイダンスでの学科長からの説明後、ゴールシートに記載・提出してもらい、面談時に活用した。また、後期ガイダンス時と冬休み明けのガイダンス時に、前期と 12 月末での自己目標の評価を記載してもらい提出してもらった。また、同時に、自己目標の到達度と残された期間で努力したいことなどを Forms で報告してもらった（自己目標の到達度調査)。面談の際にはポートフォリオを提出してもらい、活用するようにした。 （3）特別総合科目担当者としての活動 新カリキュラムにおいて 2022 年度から開講された「特別総合科目」で科目担当となり、学生自らが保健・医療・福祉に関連する課外活動に積極的に参加し、看護職者としての専門科目を履修する際の基盤づくりとなるようサポートを行った。具体的には、活動をうまく進められていない学生向けに集会を企画し、情報交換をする機会を設ける、ボランティア活動の場を提供する、計画的に 30 時間の活動ができるように随時相談し、活動の促しを行った。
活動内容の評価 （Check）	1）に関わる活動内容の評価は以下のとおりである。 （1）ガイダンスへの学生の出席率は高く欠席者は数名であり、みな、集中して聞いていた。 出席に関する不正行為を防ぐため緊急に全体に注意喚起する機会も持ったが、その後不正の依頼があって困るということはなくなり、タイムリーに行えたのはよかったと考える。 （2）履修相談では、新しく開設された特別総合科目についての質問が多くみられた。選択に悩む学生には、授業内容、評価などはシラバスを見ることを伝え、疑問に答え履修の自己決定ができるようサポートした。結果新入生全員、期日までに履修登録がなされた。 （3）個別面談の実施 4 月下旬～5 月中旬にかけて行った面談では、学生は概ね大学生活に慣れてきたようすがうかがえた。一方で、学業の不安を抱く学生も多く、Teams を使った事前課題の入手方法などがわからないまま授業を受けているケースもあった。またガイダンスを欠席すると、メールの受信などもできない状態が続き、キャッチアップするまで時間がかかる状況があることがわかった。新入生ガイダンス欠席者に対して、事務局と連携し、必要時個別に説明等の機会が必要と考える。 悩みや課題を抱えている学生には、各担任が定期面談の他複数回の面談を行ってはきたが、2 名の学生が進路再考で退学し、1 名が進路再考で退学を視野に入れた休学となった。また、3 名の学生が必修科目の単位未収得で留年となっている。進路再考の各学生は早い段階からその意志を表明しているケースが主であった。留年者に関しては、

	今後も個別に学修支援を行っていく。 （4）学担会議 学担会議は 4 回開催し、それ以外でもメール審議を 4 度行い、クラス運営での課題や学生の情報共有に努めた。 学科で今年度から初めて取り組むことになったポートフォリオの活用状況や特別総合科目の履修状況などを共有し、ポートフォリオが特別総合科目の学生のファイルに留まっている、特別総合科目の活動がうまく進められない学生が多い等の課題に対する対応を検討した。 （検討した結果の活動は、活動内容のそれぞれの項目に記載） 2）関わる活動内容の評価は以下のとおりである。 （1）主体的学修の促し ガイダンスのたびに、学修習慣をつけることを動機づけてきた。また、授業をしっかり聞くこと、休まないことなど大学生としての基本的学修姿勢について幾度となく話してきたが、特定の授業での欠席が目立つ状態は続き、基本的な学修習慣が身についていない学生もいる。一方で、ガイダンスと同時期に取った自己目標の到達度調査では、「試験に向けて復習を行う」「授業をしっかり受ける」といった内容が多く書かれており、行動に繋げようとする学生の存在もみられた。 （2）ポートフォリオの作成に関するサポートと活用 高校時代にポートフォリオを経験している学生は、開始当初に自己の記録に繋がるものを入れていたが、それが継続されるケースは少なく、多くは特別総合科目を履修している学生が活動内容を綴るにとどまっていた。個別面談の機会が年 2 回であるため、途中での内容の共有や指導が難しかったため、後期ガイダンス時（10 月）と冬休み明け（12 月末時点の評価）の 2 回、ゴールシートにある自己評価を記載し提出することを促し、シート返却時の指導に繋げた。また Forms で、到達度と今後努力していきたいことを入力して提出してもらった（自己目標の到達度調査）結果、上記調査の回答率は、10 月は 53.6%、12 月末が 67.8%で、自己目標の到達度をパーセントで尋ねた結果では、10 月が平均 51.2%、12 月末が平均 58.6%であった。10 月の時点では、到達度が 10%台という低い数字で回答した学生が 3 名いたが、12 月末にはいなくなり、全体に自己目標の到達度があがっていることが明らかとなった。また、残りの期間に努力することに対しても、学修面で努力するという内容の他、初めての実習からの学びに触れて、看護職を目指す学生としての自己の成長につなげる内容を記述する学生も多くみられた。この過程は、学生が自分の目標を見直す機会となり、また今後に向けて努力することを意識化することに繋がったと考える。 学年末ガイダンスでは、「大学生 1 年の振り返り」のシートを渡し、春休み期間に、「1 年を振り返って感じた自分の成長と課題」「2 年次に努力したいこと」「自分が目指す看護師・保健師像」を整理してもらうこととし、2 年次の指導に活かすようにした。 （3）特別総合科目担当者としての活動 課外活動を見つける点で学生間の個人差が大きい状況があり、また履修を途中で辞める学生も多かった。30 時間 15 コマの活動も、10 コマ分（2/3 以上）行えばいいという考えの学生も多くみられ修正を要した。また終盤に授業枠に繋がるいくつかの企画を用意しても参加者は少なく、参加を予定していながら当日欠席する学生もかなりいた。学担がこの科目の学修支援に費やす割合も多く、活動の場の提供含め学科全体で検討する必要があると考える。
次年度への課題・改善方策（Action）	1）専門科目が増え課題が多くなる 2 年次であるため学修意欲を維持し、学修を積み上げていけるよう継続的に支援する。 2）ポートフォリオを活用し学生それぞれが自己の成長を捉え、自分の強みを見出せるよう支援する。

	３）専門職業人を目指すものとして、自らを振り返り、自己の課題に向き合えるよう支援する。

2022 年度　委員会等活動報告書

委員会等	看護学科 学年担任（2 年次）
作 成 者	河崎和子

項　　目	内　　容
【前年度】 次年度への 課題・改善方策 (Problem)	1）大学生として自覚を持ち学生生活を送るための支援 （1）コロナ禍による大学生活におけるルールについて、十分に理解、対応できていない学生もいることから学期ごとにガイダンスを実施し、引き続き対策の強化を図る。 （2）新型コロナウイルス感染症の拡大によって遠隔授業が多かったことから、学生間の交流がまだ浅い。今度、感染状況を見ながら、孤立した学生がでないように、学生の関係構築への促進として、交流会開催をしていく。 2）主体的に自律して学修する力を養うための支援 （1）基本的な学修習慣がついていない学生や学修方法がわからない学生も少数いることから、成績や講義態度の情報を共有しながら、主体的に自立した学修が行えるよう継続的に支援していく。 （2）ポートフォリオの導入後、学生それぞれが成長を捉えられるように今後、活用状況の把握と活用の促進をしていく。 3）学年担任教員会議の開催 定期的に学年担任教員会議を開催し、担当学生の状況について報告し、学担教員間で情報の共有を図りながら学生へ支援する。 4）その他 2 年次生は、看護基礎実習Ⅱ開始前にグローアップセレモニーが 11 月に予定されている。学生は、ポートフォリオ導入により、自己の看護師像を少しずつイメージしてきている。11 月には、セレモニーの目的を理解し、実習に向けた心構えができるように働きかけるとともに学生自身、自己の看護師像がより明確になるように支援していく。

項　　目	内　　容
今年度の活動計画 （目標・課題） (Plan)	1）大学生として自覚を持ち学生生活を送るための支援 （1）コロナ禍による大学生活におけるルールについて、十分に理解、対応できていない学生もいることから学期ごとにガイダンスを実施し、引き続き対策の強化を図る。 （2）新型コロナウイルス感染症の拡大によって遠隔授業が多かったことから、学生間の交流がまだ浅い。今後、感染状況を見ながら、孤立した学生がでないように、学生の関係構築への促進として、交流会開催をしていく。 1）主体的に自律して学修する力を養うための支援 （1）基本的な学修習慣がついていない学生や学修方法がわからない学生も少数いる。そのため、成績や講義態度の情報を共有しながら、主体的に自立した学修が行えるよう継続的に支援していく。 （2）ポートフォリオの導入後、学生それぞれが成長を捉えられるように今後、活用状況の把握と活用の促進をしていく。 2）学年担任教員会議の開催 定期的に学年担任教員会議を開催し、担当学生の状況について報告し、学担教員間で情報の共有を図りながら学生へ支援する。 3）その他

	（1）2 年次生は、看護基礎実習Ⅱ開始前にグローアップセレモニーが 11 月に予定されている。学生は、ポートフォリオ導入により、自己の看護師像を少しずつイメージしてきている。11 月には、セレモニーの目的を理解し、実習に向けた心構えができるように働きかけるとともに学生自身、自己の看護師像がより明確になるように支援していく。 （2）国家試験対策 4 か年計画に則り学修支援をする。
活　動　内　容 （Do）	1）大学生として自覚を持ち学生生活を送るための支援 （1）個別面談及び体調不良時の指導と支援 前期に個別面談を実施し、学修状況や健康状態、大学生活におけるルールで不明な点等に関して確認を行った。学年全体への周知が必要な場合には、teams や学担ガイダンスを活用した。 （2）学生間の関係性の構築の促進支援 学生交流を図り、関係性の構築を促進するため、2022 年度夏季期間に交流会開催を計画していたが、日程検討直前で新型コロナウイルス感染者が増加してきたことから、中止とした。 また、特定の学生間での交流からなかなか交流が広がらないため、他学生との交流を図る目的で学年内において座席変更を検討していたが、大学全体で講義室の座席を自由化に変更されたことで座席変更はしなかった。 2）主体的に自律して学修する力を養うための支援 （1）基本的な学修習慣がついていない学生や学修方法がわからない学生は継続的に担当教員が関り、他の学担教員と情報を共有しながら、主体的に自立した学修が行えるよう支援した。看護基礎実習Ⅱ開始前にグローアップセレモニーを実施し、目標とする看護師像を明確にすることができた。 （2）ポートフォリオの導入後、学期末ごとに学生自身が自己を振り返り、自己評価後、教員と面談を実施した。 3）学年担任教員会議の開催 定期的に学年担任教員会議を開催し、担当学生の状況について報告し、学担教員間で情報の共有を図りながら学生へ支援した。また、定期試験の結果や学生の講義出席状況、健康状態など変化があった際に随時、メールやオンラインで会議を実施して、情報共有、検討に努めた。 4）その他 （1）グローアップセレモニーの準備や取り組みは、学生の主体性を促す目的から、各学担クラスのクラス委員やグローアップセレモニー委員を中心に準備を進めた。特に決意表明のデザイン決めやポスター作製は委員の意見をもとに積極的に活動をし、学担や学務課の協力を得ながら作成した。 （2）国家試験低学年模試の結果を受けて、学修のすすめ方について個別指導を行った。
活動内容の評価 （Check）	1）大学生として自覚を持ち学生生活を送るための支援 （1）個別面談及び体調不良時の指導と支援 個別面談を学担 4 名で分担し、4−5 月に実施した。その他、学修や健康状態に関する相談は随時、チャットやオンライン面談なども活用しながらタイミングを逃さず実施した。前期の個別面談では、学修状況や健康状態、大学生活におけるルールで不明な点等に関して確認を行い、必要な支援を実施した。全体周知は Teams や学担ガイダンスを活用することで効率よく実施できた。 大学内での生活を通し、学担からの指導も受けながら次第にコロナ禍による大学生活におけるルールについて理解し、順守できるようになった。 （2）学生間の関係性の構築の促進支援 新型コロナウイルスの感染状況により、2022 年度予定していた交流会は中止とした。大学全体で講義室の座席を自由化したことから学生

	間の交流も幾分拡大した様子がある。また、委員を中心に主体的に学生が中心となりグローアップセレモニーに向けた決意表明や準備をすることにより、学年全体の一体感が強くなり、「みんなで実習を乗り越えよう」という団結力が見られた。今後、新型コロナウイルス感染状況や時間割の状況により、可能であれば交流会開催を検討していく。 2）主体的に自律して学修する力を養うための支援 基本的な学修習慣がついていない学生や学修方法がわからない学生は担当教員が継続的に支援をすることで少しずつではあるが自分なりの学修方法を身に着けてきている。 ポートフォリオの導入後、学期末ごとに自己評価をすることで自らの成長や課題、自己の傾向を感じ取りながら、次の目標設定を考える機会となっていた。 3）学年担任教員会議の開催 定期的に学年担任教員会議を開催し、担当学生の状況について報告し、学担教員間で情報の共有を図りながら学生へ支援した。また、定期試験の結果や学生の講義出席状況、健康状態など変化があった際に随時、メールやオンラインで会議を実施して、情報共有、検討に努めることで学担間の連携はとれている。 4）その他 本学では今年度初めて 2 年生に低学年国家試験の模試が実施された。1 月実施であったが、多くの学生は課題学修に追われ、事前に学修できずに受験していた。そのため、100 点満点の低学年国家試験模試は 50 点以上が 20 名程度であった。引き続き学修支援をしていく必要がある。また、3 年次は通年での実習が始まることから健康に関する自己管理も強化する必要がある。
次年度への課題・改善方策 (Action)	1）大学生として自覚を持ち学生生活を送るための支援 （1）コロナ禍による大学生活におけるルールについて、5 月 8 日より体制が変わることから再度、ルールを共有し、大学生としての自覚を持ち学生生活が送れるように支援する。 （2）感染状況を見ながら、孤立した学生がでないように、学生の関係性をみながら、必要時、学生間の交流促進として交流会開催を検討していく。 2）主体的に自律して学修する力を養うための支援 （1）基本的な学修習慣がついていない学生や学修方法がわからない学生も少数いることから、成績や講義態度の情報を共有しながら、主体的に自立した学修が行えるよう継続的に支援していく。 （2）ポートフォリオの導入後､学生それぞれが成長を捉えられるように今後、活用状況の把握と活用の促進をしていく。 3）学年担任教員会議の開催 定期的に学年担任教員会議を開催し、担当学生の状況について報告し、学担教員間で情報の共有を図りながら学生へ支援する。学生が相談しやすい環境及び雰囲気づくりを継続していく。 4）国家試験に向けた学修支援 3 年次の国家試験模試を念頭に日ごろから学修習慣をつけ、実習での学修を自らの知識として定着できるように主体的に学修できるように支援する。

2022 年度　委員会等活動報告書

委員会等	看護学科 学年担任（3 年次）
作 成 者	近藤　明代

項　　目	内　　容
【前年度】 次年度への 課題・改善方策 (Problem)	1）大学生としての自覚を持ち、自主的に学修する姿勢を獲得できるような支援 （1）挨拶、連絡、相談、報告等の基本的な姿勢について引き続き伝える。 （2）課題を抱えた学生については、必要時に個別支援を繰り返し行い、自分の姿勢を振り返ることができるようなかかわりを行う。 （3）3 年次は専門領域の実習等、学生にとっては負担が大きくなる 1 年であるため、学生の状況を他の教員から得ながら、学生の状況に合わせた支援を行う。 （4）学生が、常に目標達成に向けて必要な学修であることを意識し、学生間での情報交換を通して解決できる様な人間関係を構築する。 （5）学生が目標達成のために何をすべきなのかを考えることのできる情報を提供する。 2）学年担任教員会議を開催し、担当学生の状況について報告し、学担教員間で共有を図りながら学生に支援する。

項　　目	内　　容
今年度の活動計画 （目標・課題） (Plan)	1）大学生としての自覚を持ち、自主的に学修する姿勢を獲得できる。 （1）挨拶、連絡、相談、報告等の基本的な姿勢について繰り返し伝える。 （2）課題を抱えた学生については、必要時個別支援を繰り返し行い、自分の姿勢を振り返ることができるようなかかわりを行う。 （3）他教員からも学生の状況に関する情報を得ながら、学生の状況に合わせた支援を行う。 （4）目標達成に向けて必要な学修を常に意識し学修に取り組むことを伝える。 （5）学生間で学び合うことのできる人間関係を構築することの必要性を繰り返し伝える。 （6）目標達成に向けて必要な情報を提供する。 2）学年担任会議を開催し担当学生の状況について報告し、学担教員間で共有を図りながら学生を支援する。
活　動　内　容 (Do)	1）（1）～（2）の内容を学担ガイダンスや個別支援、他の教員や学生相談室、健康管理室の協力を得ながら実施した。 （1）前期、後期の初めに担当学生との面談を実施し、前期は領域実習の際に求められる学生としての姿勢（挨拶、連絡、相談、報告等）について伝え、行動を促した。 （2）課題を抱えた学生､特に前年度履修した科目の単位を取得できなかった学生や休学中の学生に定期的に連絡をとり状況を確認し、学業の継続や進路についての相談に対応した。 ・メンタルの課題を抱え休学 1 名（2023 年度も休学） ・進路再考のため休学 1 名（2023 年 3 月で退学） ・単位修得できず留年 8 名（うち 2 名は前期休学） （3）実習指導教員や科目担当教員からも履修状況や健康面の情報を得、

	また関係部署（学生相談室、健康管理室）と連絡をとりながら支援を行った。 （4）学担ガイダンス、個別面談の際には常に、自分の目標を明確にすること、国家試験合格に向けて計画的に学修することの必要性を伝えた。また、就職に関する情報収集を行うことを伝えた。 （5）学担ガイダンスでは常に、友人に対する配慮、他者が不快に思う行動はしないこと等、人間関係の構築における配慮について繰り返し伝えた。友人関係に配慮が必要な学生には個別面談を繰り返し行い、他の教員の協力も得ながら、授業・実習におけるグループ編成における配慮をした。 （6）現段階での学生の目標を国家試験合格、就職決定と考え、目標に向けた学修の必要性を伝え、キャリア開発委員会からの情報を周知した。また、進学希望者を対象に 4 年次生からの助言をもらう機会を設けた。 2）学年担任会議を開催、またはメール・電話等で担当学生の状況を適宜共有した。必要な情報（メンタルの課題でフォローしている学生、休学・退学等学籍異動をした学生、履修上の課題を抱えた学生等）を学科会議で報告し、他の教員とも共有した。また、学生の課題に応じて複数の学担で面談を行い、状況確認と指導を行った。
活動内容の評価 （Check）	1）（1）～（6） 前期の個別面談では、長期にわたる領域実習への心配や不安が多く語られていた。不安を抱えながらも多くの学生が真剣に実習に取り組んでいたが、事前学修が不十分であり課題達成に時間がかかる傾向があることを実習担当教員から報告を受けた。今年度の 3 年次生は入学時から新型コロナウイルス感染症の影響を受け、リモート中心の授業であり、行動制限を強いられた生活を送ってきたことから、体力面での心配があった。実際、後半の実習で体調不良のために欠席する学生が多いことが報告されていた。また実習に対する不安や実習における指導によって精神的に不安定になった学生も複数名いた。学生相談室や健康管理室の協力を得ながら支援を行った。現在状態は落ち着いているが、4 年次も引き続き配慮をしていく予定である。 今年度の 3 年次生は、1 年次からクラス内での人間関係に課題を抱えている学年であり、クラス全体へ人間関係の指導と個別面談をしながらサポートしてきた。学科長を始め学科教員の協力を得ながら、グループワーク、実習グループ編成における配慮を受け、学業を継続している。 学修状況については個人差が大きいが、後期面談時には国家試験を意識した話がされている。また、学年末には「国家試験勉強を始めた」「インターンシップに行く」「病院見学会に申し込んだ」「進学を希望しているので、その準備のため先輩の話を聞きたい」等の声が聞かれている。 2）学年担任間で学生の状況について共有し、必要時は複数の教員で対応できた。休学中の学生や履修上の課題を抱え、次年度も 2, 3 年次生である学生もいるため、引き続き支援を行う。
次年度への課題・改善方策 （Action）	1）次年度も 2、3 年次生の学生に対しては、引き続き学修面や精神面、進路に関する支援を行う。 2）4 年次のゼミ担当教員が決定した後、新学担に必要な情報を提供しながら必要時には支援する。

2022 年度　委員会等活動報告書

委員会等	栄養学科 学年担任(1 年次)
作 成 者	百々瀬　いづみ

項　　目	内　　容
【前年度】 次年度への 課題・改善方策 (Problem)	該当なし

項　　目	内　　容
今年度の活動計画 （目標・課題） (Plan)	１）学生が大学生活に慣れ、円滑に学生生活を送れるように支援する。 ２）学生が自律して学修できるよう支援する。 ３）個々の学生の状況は、個人面談等により把握し、必要な場合には保護者と連絡・連携を取りながら支援を行う。
活　動　内　容 (Do)	１）新入生ガイダンスにおいて、大学生活や学修面等で不安や質問があれば、学担がいつでも相談にのることを伝えた。前期（5～6 月）、後期（10 月）の定期に学担との個別面談を行うほか、随時、対面やチャット、メール、電話等により、不安や悩み事等、必要に応じた学生の支援や相談を行った。 ２）新入生ガイダンスの一環である履修相談では、個人の履修登録内容の確認や履修を悩んでいる科目に関して助言などを行った。学生の学修状況については、科目担当教員、学務課、健康管理室、学生相談室からの情報等によって、学生に助言、指導、支援を行った。 ３）欠席が続く学生や、休・退学の悩みが生じた学生に対しては、個別面談をした後、保護者への連絡及び情報共有を行い支援した。
活動内容の評価 （Check）	１）学担が担当していた科目では、授業の態度や出席状況を把握することができ、学担間や科目担当教員との情報共有に努め、適時、面談や助言、支援等を行うことができた。 ２）学修状況については、コロナ禍の影響もあり、欠席が重なる学生も数名いたが、科目担当教員、学務課、健康管理室、学生相談室から早期に情報提供を得て大多数の学生は、1 年次の学修を収めることができた。 ３）進路変更のため、1 名が休学、４名が退学（復学者 1 名含む）を選択した。休学者は前期の後半から進路に迷いが生じ、欠席が続き後期から大学に来ることが出来なくなった。現在も進路を模索中で、休学の継続を選択した。退学者 4 名のうち、1 名は入学式後から大学生活に不安を感じ、間もなく退学し、3 名は前期途中から、進路に迷いが生じ学業の継続が難しくなり、後期からの退学を選択した。これらの学生については、何度も面談をし、助言、支援を行ったが、休学又は退学の気持ちを変えることはできず、時間をかけて保護者とも話し合いをした結果、学生の意思を尊重した選択に至ることとなった。
次 年 度 へ の 課題・改善方策 (Action)	１）個別面談等により、学生の生活状況及び学修状況を確認し、学生生活が円滑に行えるように引き続き支援する必要がある。 ２）学修支援が必要な学生については、早期に対応できるよう、科目担当教員、学務課、健康管理室、学生相談室と連携して学修状況把握に努め、支援体制を整えることが必要である。 ３）学生個々の状況把握については、適時、迅速に、保護者と連携を取りながら、支援を続けることが必要である。

2022 年度　委員会等活動報告書

委員会等	栄養学科 学年担任（2 年次）
作 成 者	坂本　恵

項　　目	内　　容
【前年度】 次年度への 課題・改善方策 (Problem)	1）個別面談などにより、学生の生活状況、及び学修状況を確認し学生生活が円滑に行えるように引き続き支援する必要がある。 2）学修支援が必要な学生については早期に対応できることが重要なため、個別面談は勿論、学務課、担当教員などと連携して学修状況を把握し、支援体制を整えることが必要である。 3）学生の個々の状況は個人面談などで把握しながら、保護者とも連携をとり、支援を続けることが必要である。

項　　目	内　　容
今年度の活動計画 （目標・課題） (Plan)	1）個別面談などにより、学生の生活状況、及び学修状況を確認し学生生活が円滑に行えるように支援する。 2）学生が自立して学修し、卒業及び管理栄養士国家資格取得へと繋がるよう、個別面談は勿論、学務課、科目担当教員などと連携し継続的な支援をする。 3）休学中の学生、休学・退学を希望する学生については、個別の面談や、保護者との連携をとりながら支援する。
活　動　内　容 (Do)	1）前期ガイダンスにおいて、大学生活や学修面などで不安や相談などがあれば、いつでも面談を行う事を伝えた。履修登録内容については、学年担任が確認を行い登録漏れのないよう指導した。個別面談は前期（5～7 月）、後期（11～2 月）に実施した。前期面談では、11 月に行われるグローアップセレモニーに向けた準備として、決意表明と前期の目標を記載した用紙を持参するように周知し、学生生活、学修面、健康面での心配事などについて確認し必要に応じて助言・指導を行った。後期面談では 3 年生への進級要件と臨地実習の先修条件の確認を行った。また、就職、学修への不安や友人関係、健康上の問題などについて把握、確認し助言・指導を行った。学生の健康面などについては必要に応じ学科会議で報告した。なお、長期休暇の前には、ガイダンスを行い休暇中の過ごし方、国家試験勉強の早期取り組みの重要性などについて指導を行った。 2）1 年生の必修科目に不認定のある学生については、履修登録前に個別面談を行い、今後の履修計画について助言、指導などを行った。2 年生前期に 3 年生で行われる臨地実習の先修条件になっている科目を修得できなかった学生に対しては、後期ガイダンス後に今後の履修計画などについて個別に面談を行った。前期・後期を通して発熱などにより授業を欠席した学生に対し、状況を把握するため、Teams のチャットやメール、電話などにより連絡し確認した。学生の学修状況（欠席、課題など）については科目担当教員、学務課、学生相談室の情報などによって学生に助言、指導を行った。授業中の私語や居眠りなどに対して該当科目担当教員から連絡を受けたため、Teams のクラスチームから注意喚起を行うと共に面談時にも指導した。 11 月に行われたグローアップセレモニーに向けた準備では、学生が自主性をもって決意表明ができるよう、学生代表者を中心に活動した。学生代表者は、学生から集めた決意表明文を貼るパネルのデザインを担当しパネル作成に携わった。また、宣誓代表者に対する宣誓文の指導を行

	った。 ３）休学中の学生、休学を希望する学生については、個別に学生の面談、保護者との面談を行った。体調の不調を訴える学生については健康管理室、学生相談室の利用を勧めた。面談は学生の状況にあわせて対面、電話、オンラインなどで複数回行った。休学、退学を希望する学生もいたが、個別の面談、保護者との面談によって連携をとり支援などを行った。また、必要に応じて学科長に報告した。
活動内容の評価 （Check）	１）個別面談を行うことで、学修への不安や友人関係、健康上の問題などについて把握、確認、支援を行うことができた。また、Teams のチャットやメールを通してコミュニケーションを図り学生を支援、指導することが出来たが、今後も継続していく必要がある。 ２）1 年生の必修科目に不認定科目のある学生と 3 年生で行われる臨地実習の先修条件となっている 2 年生前期科目を不認定になった学生に対して、今後の履修計画などについて助言、指導を行うことができた。 前期・後期を通して発熱などにより授業を欠席した学生も数名いたが、学務課、健康管理室などから早期に情報を得て、支援、指導の結果、2 年次の学修を収めることができた。 11 月に行われたグローアップセレモニーの準備は全員参加で行うことができ、自主性をもって決意表明できたと評価できる。しかし、式典当日の参加状況は、57 名中 45 名であった。12 名の欠席者の理由は体調不良によるものが殆どであったが無断欠席した学生も数名いたため、欠席時の連絡など基本的なことが身についていない学生の存在も明らかになった。そのため、基本的なことについて指導を強化していく必要性がある。 ３）進路検討のため休学していた学生 4 名のうち、2 名は進路変更のため退学、2 名は進路再考のため休学を延長することになった。退学の 2 名のうち 1 名は進学先が決定し、1 名は家業（農業）を手伝いながら今後の進路を検討していくとのことである。本人だけでなく保護者とも相談し、面談を繰り返しながらサポートを続け十分相談し時間をかけたことにより、学生の意思を取り入れることが出来た結果であると考える。休学者に対しては今後も保護者と連携をとりながら面談を継続し復学に向けて支援していく必要がある。
次年度への 課題・改善方策 （Action）	１）個別面談などにより、学生の生活状況、及び学修状況を確認し学生生活が円滑に行えるように支援する必要がある。特に、3 年次からは専門科目数の増加や臨地実習が開始されるため、引き続き支援する必要がある。 ２）学生が自立して学修し、卒業及び国家資格取得へと繋がるように支援が必要な学生に対して、個別面談は勿論、学務課、科目担当教員などと連携して学修や生活状況を把握し継続的に支援していくことが必要である。 ３）休学中の学生などに対しては、面談、メール等により個人の状況を把握しながら、保護者とも連携を取り、支援を続けることが必要である。

2022 年度　委員会等活動報告書

委員会等	栄養学科 学年担任（3 年次）
作 成 者	金高 有里

項　　目	内　　容
【前年度】 次年度への 課題・改善方策 (Problem)	1）個別面談などにより、学生の生活状況、及び学修状況を確認し学生生活が円滑に行えるように支援する必要がある。特に 3 年次からは専門科目数の増加や臨地実習が開始されるため、必要に応じて支援する。 2）学修支援が必要な学生については早期に対応できることが重要なため、個別面談は勿論、学務課、担当教員などが連携して学修状況を把握し、支援体制を整えることが必要である。 3）休学中の学生は、メール等により個人の状況を把握しながら、保護者とも連携を取り、復学へ向けた支援を続けることが必要である。

項　　目	内　　容
今年度の活動計画 （目標・課題） (Plan)	1）今年度の活動計画は以下のとおりである。 （1）個人面談などにより、対人関係や友人関係、学外の活動や希望する進路、アルバイトの種類や頻度等及び学業への影響等についての状況を把握する。 （2）（1）で把握した内容を踏まえて、円滑な学生生活や学修及び進路に関する助言や指導を個別に行う。 2）、3）学生生活や学修状況、大学生活に不安を抱えている学生や、環境、身体的・精神的な不安を抱えている学生に対して、保護者や学生相談室、健康管理室と連携して対応する。
活　動　内　容 (Do)	1）については、以下のとおりとする。 （1）各学担による面談を 2 回（前期・後期）対面で行った。 面談では、下記項目について確認した。 フェイスシートの更新、学修時間や日常生活、健康状態やサークル、ボランティア活動、臨地実習、卒業研究の選択状況、卒業後の方向性、単位取得状況、国家試験への取り組み状況、その他。 （2）学年全体の団結を図り、学生の主体性を重んじて企業と連携した学外活動の支援を行った。また、夏季休暇期間中、有志の学生を対象に教員による国家試験対策講座を行った。 2）、3）授業での出席状況等に問題が見られた学生への対応として、適宜保護者とも連絡を取り、状況を確認した。それを踏まえて今後の対応について支援を行った。
活動内容の評価 (Check)	1）管理栄養士国家試験へ向けた勉強を開始している学生が見られるようになったが、クラス全体としての意識はまだ高まっていないようであった。そこで、活動の支援を行いつつ、ガイダンスや面談を通して、将来の方向性を決めていく時期であること、卒業後をイメージして国家試験勉強に取り組んでいくことの重要性を伝えた。これにより、進路や国家試験を意識するが増え、全体的な意識も高まりつつある様子が見えた。 1）、2）、3）各担任教員が、個々の担当学生及び学年全体で気になった事柄について意見交換を行い、問題の共有や学生への対応について教員間でフォローし合うなど、連携して取り組むことができた。 2）、3）個別対応の結果、本人の状況にあった支援を継続的に行うことで、学業や大学生活への不安を減らすことができ、個々の抱える問題解

	決に至った。
次年度への課題・改善方策（Action）	1）面談を通した生活及び学修状況の把握を継続する。 3年次に行ってきた学生の主体性を重んじた活動や学年全体の団結の傾向を大切にして、4年次における国家試験や卒業に向けた前向きな意志につなげていく。 2）臨時実習や就職活動、国家試験対策などに対して、キャリア委員やチューター教員とも連携して適宜助言・指導を行う。 3）大学生活に不安を抱えている学生や、環境、身体的・精神的な不安を抱える学生に対しては、個別対応を実施し、必要に応じて保護者や健康管理室、学生相談室と連携する。

2022 年度　委員会等活動報告書

委員会等	栄養学科 学年担任(4 年次)
作 成 者	岡本智子

項　　目	内　　容
【前年度】 次年度への 課題・改善方策 (Problem)	1）4 年次生としての自覚を持ち、主体的に臨地実習や国家試験勉強に向かうよう、面談やガイダンス等を通して働きかけていく必要がある。 2）編入生が加わったが、遠隔授業も多かったことから学年全体で交流を得る機会が少なかったため、仲間意識が持てるクラスづくりがさらに必要である。

項　　目	内　　容
今年度の活動計画 （目標・課題） (Plan)	1）時期に応じたガイダンスを実施する。 2）学担面談を計画的に実施する。 3）国家試験を意識した仲間づくりができるよう、学生との対話を企画する。 4）国家試験合格までの目標に対して自分自身を振りかえることができるツールを用いて、現状とのギャップを確認していく。
活　動　内　容 (Do)	1） ガイダンス（4 月、8 月、11 月、2 月、3 月）は大学 4 年次の学修及び生活のあり方について指導を行った。 2） 各学担による面談（前期 5 月、後期 10 月）を対面で行った。面談では下記について確認した。 ・フェイスシートの更新 ・学修時間や日常生活の把握 ・健康状態やサークル、ボランティア活動の把握 ・臨地実習、卒業研究の選択状況 ・卒業後の方向性、単位取得状況の把握シート更新。 ・国家試験への取り組み状況 1）学生の国家試験委員の選出と国試勉強の取り組みを検討した。 2）国家試験合格までの具体的な行動計画を「行動宣言シート」等に書き出し、廊下に掲示することで国家試験に向かう意識をさらに高めていくことを試みた。
活動内容の評価 (Check)	1）4 年次の 1 年間は授業だけではなく、臨地実習、国家試験準備、就職活動と同時にこなしていくことが多くなるため、ガイダンスでは、時期に応じての取り組むべき内容とその心構えを伝えていくことができた。 2）38 名を 3 名の学担で分けて行った個別面談は、ガイダンスで伝えたことの個別のフォローアップでもある。学担は、国家試験対応で遅れている学生については学修支援のチューターとの連携を、また就職支援についても進路支援課と連携を取りながら足並みを揃える形で学生支援ができたと考える。 3）国家試験委員とのミーティングを 2 回実施し、意識の向上や仲間づくりのため具体的に学生から意見を出し合う形を取った。特に編入生やグループに溶け込めていない学生にはその効果が伺えた。※ 4）「行動宣言シート」は宣言が時期に応じて新たな宣言で更新され、その行動がより具体的になっていく学生も見受けられた。 最後の 3 月のガイダンス時には「大学にお別れの会」を企画し、1 年間の振り返りと次へ進むための行動宣言を行った。引っ越し等のため参加できなかった学生以外は全員参加できた。栄養学科教員も参加した。

	学生は、1年生からの思い出も語っていたが、一番多かった言葉は「本学の学生で良かった」「仲間や友達に助けてもらったから頑張れた」という言葉であった。 　今年度は時期に応じた4年次としての意識づけ、仲間づくりという点で活動をしてきた。昨年とは違い、これらのことが功を奏し、学生は精神的な不安が解消し前向きに取り組むことができたと考える。
次年度への課題・改善方策 (Action)	なし

2022 年度　委員会等活動報告書

委員会等	事務局
作 成 者	久保　則雄

項　　目	内　　容
【前年度】 次年度への 課題・改善方策 (Problem)	1）教授会、評議会については学校教育法の趣旨に則り、円滑な運営を継続していく必要がある。また、教授会においては、学外委員の業務調査で指摘された効率的な開催（臨時の開催回数の削減）を実践する必要がある。 2）大学事務局の 3 課体制での安定的な事務運営を継続するとともに、新型コロナウイルス感染症での授業方法の変更について、遅滞なく対応できる体制作りが必要となる。また、大学院が設置された後の事務局体制も継続して検討する必要がある。 3）第 3 回目の新型コロナワクチンの大学拠点（職域）接種の実施が予想される。接種の対象者は学生（本学及び専門学校）、教職員、地域住民となるが、感染による重症化予防及び地域貢献の観点から遅滞なく進める必要がある。 4）大学院設置認可に向けた文部科学省からの補正申請等に遅滞なく、対応する必要がある。 5）学内の諸課題解決のための迅速な対応を図るために、学長、学部長、学科長、事務局長等の情報共有、更なる教職協働体制の確立が必要である。

項　　目	内　　容
今年度の活動計画 （目標・課題） (Plan)	1）評議会、教授会及び運営会議の適正な開催について （1）評議会 大学の運営のための重要事項等について、学長が決定を行うにあたり意見を述べる最高機関として設置し、学園副理事長、学長、学部長、図書館長、次期学長（評議会規程第 6 条該当）事務局長で構成する。開催は原則月 1 回とする。 （2）教授会 学校教育法第 93 条に規定されている学部の学生の入学、卒業、学位の授与について、学長が決定を行うにあたり意見を述べる機関並びに学部の教育研究に関する事項について、審議及び学長の求めに応じて意見を述べる機関として設置し、学長及び専任（任期制）の教授で構成する。また、構成員以外の出席者として、事務局長、副事務局長及び各課の課長相当者が陪席する。開催は原則月 1 回とする。 （3）運営会議 学長のもとに大学の教育・研究及び管理・運営を円滑に行うことを目的に、管理運営上必要な事項、評議会・教授会へ付議する案件等を協議する機関として設置し、学長、学部長、図書館長、教務部長、学生部長、学科長、事務局長、副事務局長、各課の課長相当者、さらに運営会議規程第 4 条該当として次期学長、法人本部長で構成する。開催は原則月 1 回とする。 2）事務局 3 課（総務課、学務課、進路支援課）体制の安定した運営及び各課の連携体制を構築する。さらに、大学院が開設された場合の業務の追加を考慮し、事務局への職員の増員及び事務分掌規程の見直しを行う。

	３）に関わる活動計画は以下のとおりとした。 （１）新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止対策を行い、学生の学修環境及び職場環境を整えるとともに、感染状況を注視しながら、危機管理委員会との連携を図る。 （２）予想される新型コロナワクチンの大学拠点接種（職域接種）を関係機関（国、北海道、接種実施医療機関等）との緊密な連携を図り、実施する。 ４）大学院開設に向けた補正申請に迅速に対応し、文部科学省から開設の認可を得る。 ５）必要に応じて執行部会議（学長、学部長、学科長、大日向教授、事務局長等）を開催する。 ６）大学院開設又はそれに関連する関係省庁からの調査等に対応できるように書類等の整備を行う。 ７）国から補助される私立大学等経常費補助金の増額を目指した取り組みを行う。
活　動　内　容 （Do）	１）評議会、教授会及び運営会議の適正な開催について （１）評議会 評議会規程に基づき定例で 11 回開催し、必要に応じての臨時の評議会を 2 回開催した。今年度の評議会も昨年同様、学園副理事長の出張等から、数回リモートによる開催を行った。また、学園監事及び学園監査室長の学外委員（以下「学外委員」という。）による今年度の学長の業務執行に係る調査（以下「業務調査」という。）が実施された。 （２）教授会 教授会規程に基づき定例で 11 回開催し、必要に応じて臨時の教授会を 6 回開催した。教授会の運営については、学外委員による業務調査が実施された。 （３）運営会議 運営会議規程に基づき定例で 11 回開催した。運営会議は協議機関として、教授会・評議会に提案・報告される議案の調整と運営会議のみで協議される事項に分けて運営されている。 ２）事務分掌規程に基づき、事務局では 3 課体制として安定的な運営を行うために 26 名（大学院設置準備室の顧問 1 名を含む）の職員体制とした。専任：非専任の割合は 58%：42%となった。 ３）以下の活動を行った。 （１）新型コロナウイルス感染症の感染防止対策については､危機管理委員会が中心となり､「新型コロナウイルス感染防止ハンドブック」を作成し、学生に感染防止対策（不織布マスクの着用、検温、手指の消毒、教室等の換気、三密の回避、黙食、ソーシャルディスタンス確保等の徹底）を周知するとともに、タイムリーに学生個人々に注意喚起のメール発信を行った （２）新型コロナワクチンの大学拠点接種（職域接種）は学生及び地域住民を対象に医療機関の協力の下 4 月 17 日（日）に行い、その他 4 回は学内の教職員で実施した。 ４）大学院設置に係る申請書については、3 月 18 日（金）に文部科学省宛提出し、5 月 26 日（木）に文部科学省から 8 点の審査意見が付された第一次審査結果が報告された。8 点の審査意見に対する対応を含めた補正申請書を 6 月 23 日（木）に文部科学省に提出した。 ５）執行部会議を不定期に４回開催し、教員組織、教員人事、規程の改正、新年度予算、学費改定等について議論を行った。 ６）大学院設置に係る文部科学省からの調査はなかったが、大学の設置母体である学校法人吉田学園に対して、管理運営の組織及びその活動状況、財務状況等について、10 月 28 日（金）に文部科学省の学校法人運営調査が行われた。 ７）国からの補助金である私立大学等経常費補助金の仕組みについて、教

	授会等で口頭説明するとともに、「私立大学等経常費補助金（以下「一般補助」という。）の概要説明について」の説明文書を作成し、11 月に全教職員に配付した。
活動内容の評価 （Check）	１）評議会、教授会及び運営会議の適正な開催について （１）評議会 評議会は教学側と経営側の構成員で組織されており、他大学ではあまり存在しない構成となっていますが、学外委員による業務調査において、適正に開催されているという評価があった。 （２）教授会 教授会は、学校教育法第 93 条に規定されている事項及び学長が定める学部の教育研究に関する事項について、意見を述べる機関として機能しており、評議会同様、学外委員による業務調査において、適正に開催されているという評価があった。 （３）運営会議 運営会議は、学長、学部長及び事務局で事前に運営会議の議案について調整のうえ、運営会議規程に基づき、教授会・評議会に提案・報告される議案の調整と運営会議のみで協議される事項に分けて運営されており、適正に開催されていると評価している。 ２）事務局の 3 課体制は、安定した運営体制を維持した。新型コロナウイルス感染症の影響による遠隔授業は実施されなかったため、昨年度の煩雑さはなかった。しかし、3 課の業務量の違いから、課間において業務のバランスが保てなかったことは反省となる。今後は、大学院に関する業務が追加となるため、各課の業務の見直しが必要となる。 ３）に関わる活動内容の評価は以下のとおりである。 （１）新型コロナウイルス感染症への対応は、11 回開催された危機管理委員会が中心となり行った。学生に対しては、タイムリーな基本的感染防止対策の指示のほか 4 号館玄関に毎日の本学の感染者数、濃厚接触者数のモニター表示を行い、視覚からも注意喚起を行った。総合的には感染者数は増加したが、クラスターは発生することなく大学が運営できたことは評価に値する。 （２）新型コロナワクチンの大学拠点接種（職域接種）は計 5 回の接種を行　い、本学学生 355 人、専門学校学生 111 人、学園教職員 82 人、学生の保護者 18 人、地域住民 214 人計 780 人となった。本学学生、地域住民への接種という本来の目的である拠点接種が実施できたことは評価できる。 ４）大学院の認可申請については補正申請を終え、8 月 31 日（水）付で文部科学大臣から認可が認められた。認可に当たっては 4 点の遵守事項が附帯事項として示され、設置計画履行状況報告書で遵守事項の改善状況を提出することとなった。4 点の遵守事項はあったものの、看護学と栄養学の能力を備えた人材の養成を目的する大学院設置は日本で最初のケースであり、十分評価に値する。 ５）執行部会議で議論した事項は運営会議、教授会で協議・審議され、実行に移された。執行部メンバーでの課題の把握・解決、情報共有ができた点は評価できるが、開催が不定期となり組織的な体制になっていなかったことは反省として残った。 ６）10 月 28 日（金）に文部科学省の学校法人運営調査が行われた。調査内容は、①面接調査（法人全般）、②学生インタビュー、③施設等調査、④面接調査（教学面）であり、理事長と学長に対する面接が主となった。調査結果は、2 点の法人運営に関するその他意見があり、来年 7 月までに改善状況報告書を提出するよう指示があった。 ７）11 月に全教職員に「私立大学等経常費補助金（一般補助）の概要説明について」の説明文書を配付したが、理解は十分得られていないため、FD 研修会等を利用し、詳細に補助金への理解を深める必要性を感じた。

次年度への課題・改善方策（Action）	1）教授会、評議会については、適正かつ円滑な運営を継続していく必要がある。教授会の報告事項には学科会議での報告で済む事項も含まれていると思われるので、検討する必要がある。さらに、学外委員による業務調査・評価を受ける必要がある。 2）事務局の3課体制による業務の業務量を把握し、業務の見直し・配置転換を図る必要がある。また、総務課に図書業務が位置付けられているという歪な状況になっているので、図書課の設置等を検討する必要がある。 3）学修環境整備（収容人数に伴う教室の整備、冷暖房機器の更新、外壁の補修、Wi-Fi の充実等々）の年度計画を策定し、資金計画を立てながら実施していく。 4）大学院の設置計画を申請書に沿って適正かつ円滑に運営する。 5）一般補助を可能な限り獲得できるように、教職が一体となって補助対象となっていない事項をクリアできるように努力する。 6）今後予想される会計検査院の監査に対応するため、一般補助を含めた補助金算出のエビデンスを作成・点検を行う。

2022 年度　委員会等活動報告書

委員会等	連携協定推進プロジェクト
作 成 者	千葉昌樹

項　　目	内　　容
【前年度】 次年度への 課題・改善方策 (Problem)	1）授業関連以外の活動について予算処置がなくプロジェクトとしての活動に制限がかかるため、プロジェクトとしての予算を確保する。 2）毎年メンバーが交代する中で継続的な活動を行うために事務局スタッフの担当者を配置してもらう。 3）トップチームとの関わりは学生の学びの充実や活動への満足度に繋がるものと考えられるため、今後もトップチームのサポートに学生が参加できるようにしていく。また、感染拡大が落ち着いた際には学生が選手から直接話しを聞くことの出来る機会をつくることが必要である。 4）U15 のサポートに関しては本学が練習場であり学生が関わり易い環境ではあるが、練習時間が遅い時間帯であるため、学生の関わり方について検討が必要である。 5）今年度から栄養サポートを開始した U18 に関しては、練習場が恵庭の北海道文教大学付属高校体育館と遠方であり、現地での指導等は難しい状況である。リモートによる栄養講座、栄養指導などの実施や定期的な体組成の測定や寮の食事の改善など必要なサポートはチームと調整・協力を行い実施する工夫が必要である。 6）論文投稿・学術発表ができるよう、今後もデータを収集・蓄積しスポーツ栄養の実践に役立つ知識・技術を今後の指導に役立つ仕組みを残してゆくことが必要である。 7）健康寿命延伸に向けた Lpasa（エルパサ・次世代型デイトレセンター）との協働による栄養・評価のサポート及びフレイルに対するサポートを推進する。 8）NPO 法人ニルスの会が対象としている地域に対する情報誌の作成などを行う。

項　　目	内　　容
今年度の活動計画 （目標・課題） (Plan)	1）授業関連も含めてプロジェクトにかかわる活動に関する予算について確認を行う。 2）事務局スタッフについて、中長期計画も視野に入れたプロジェクトの推進を図るために、配置について検討を行う。 3）トップチームへの栄養サポートは、昨年度に引き続き以下を実施する。 （1）試合後の食事提供の実施 （2）栄養講座の実施 （3）定期的な体組成の測定と栄養相談の実施。 4）レバンガU15チームへの栄養サポート活動予定を本プロジェクト栄養サポートチームメンバー(教員)が１，２年生を中心に授業後等に情報提供し希望者を募るなどを行う。また、これまでと同様にスポーツ栄養サークルへの協力を依頼する。 5）レバンガU18チームへの栄養サポートとして体組成の測定及び栄養相談を定期的に実施する。 6）学会における成果発表のためのデータ収集として BDHQ 食事調査、体組成測定、生活アンケートの実施を継続し、これまでの研究実績をさらに発展させる。

	7）医療法人社団豊成会と吉田学園との連携協定によるプロジェクトの活動を推進して、健康寿命延伸に向けたLpasa（エルパサ・次世代型デイトレセンター）との協働による栄養サポート及びフレイルに対するサポートを本学学生の教育に生かしてゆく方法を探る。 8）NPO 法人ニルスの会が対象としている地域に対する情報誌の作成など協力体制の整備を図る。
活　動　内　容 （Do）	1）授業関連も含めてプロジェクトにかかわる活動に関する予算について確認をした。 2）事務局スタッフについて、中長期計画も視野に入れたプロジェクトの推進を図るために、配置について、検討を行った。 3）トップチームへの栄養サポートとして実施した活動は以下のとおりである。 （1）試合後の食事提供を飲食店（スタンピーズカフェ＆ダイニングバー）の協力のもと、スポーツ栄養サークルの学生とともに行った（10～3月、22回）。 また､12月には学生考案のリカバリー食の提供及び試合会場での販売を行った。 （2）8月に教員による栄養セミナーをカミニシビレッジにて行ったが、夏休み期間であったため学生への周知が十分にできず学生の参加はなかった。 （3）体組成の測定を練習場にて毎月実施し結果に基づき当日中にフィードバックを行ったが、レバンガチームの感染予防規則に則り学生の参加は認められなかった。 4）レバンガU15チームのサポート活動として、スポーツ栄養チームメンバー(教員)の呼びかけに応じた学生と共に身長測定や栄養講座を行った。保護者への栄養相談に関しては、毎月 1～5 名程度の保護者との面談を行った（月1回）が、夜間19時～21時の間であるため学生の参加の調整はできなかった。栄養講座については、スポーツ栄養サークルの学生が中心となり「水分補給」をテーマに「オリジナルスポーツドリンク」を作る実習とミニ講義を行った。 5）レバンガU18チームへのサポート活動として、体組成の測定及び結果のフィードバックを練習場にて毎月実施した。また、大会の際にはスケジュールにあわせた栄養補給の方法について資料を作成し、オンラインで説明会を実施した。 6）学会での成果発表のためのデータ収集としてU15チームのBDHQ食事調査2回(4月、3月)、体組成測定2回(4月、3月)、生活アンケート2回(4 月、3 月)をこれまでと同様に継続し実施したが、食事管理講習会やその他の活動はコロナ禍で実際の活動に制限がかかり、研究発表には至らなかった。 7）連携協定の内容に基づきエルパサ（Lpasa 次世代型デイトレセンター）にスポットをあて話し合いを行った結果「InBodyを活用した評価に結びつけるサポートケア」を複数回実施予定であったが、コロナ禍により調整が難航し6月に一度実施することができ、利用者の5名のケアを行った。 8）NPO 法人ニルスの会が対象としている地域に対する情報誌の作成等について、大学の保健医療福祉に関する社会活動への参画や協働体験をする新たなカリキュラムでの整備を念頭に調整を図った。
活動内容の評価 （Check）	1）授業関連ですでに配賦されている予算について確認を行い、精査したが予算以前の問題が多く出てきた結果となり、予算化まではいかなかった。 2）事務局スタッフの配置については、コロナ禍でもあり協定を締結している団体との打合せ等が困難なことから、1）と同様、組織内での活動の必要性と継続の検討をしたのち事務局スタッフの検討が必要となった。

	３）TOP チームへの栄養サポート活動についての評価は以下のとおりである。 （１）お弁当提供においては 1 年生から 3 年生までの学生が参加し、リカバリー食の考案や販売、選手へのメッセージシールの作成等を通して学生の活動を充実させることが出来た。 （２）栄養講座は実施したが、学生の参加は実現できなかった。 （３）体組成の測定、フィードバックは定期的に実施することができたが、学生と共に行うことはできなかった。 ４）U15 へのサポートに関しては、栄養講座や身体計測等、学生を交えた活動を行うことが出来た。 ５）U18 へのサポートは、チームとの協力やオンラインの活用により、定期的な指導を行うことができ、前年度の課題を改善することができた。 ６）今年度はコロナ禍でもあったため、客体数が集まらなかったため研究発表には至らなかった。 ７）医療法人社団豊成会グループのエルパサ（Lpasa 次世代型デイトレセンター）の利用者の年齢・病気・介護度など様々に蓄積されたデータを分析し、「InBody を活用した評価に結びつけるサポートケア」を実施し、利用者やスタッフに高評価を得た。 （１）栄養サポート（臨床栄養学的見地） （２）フレイルに対するサポート ８）医療法人社団豊成会グループの NPO 法人ニルスの会における地域に対する情報誌の作成等について、新たなカリキュラムで展開することとした。
次年度への課題・改善方策（Action）	１）プロジェクトにかかわる活動に関する予算について確認を行う。 ２）事務局スタッフについて、中長期計画も視野に入れたプロジェクトの推進を図るために、配置について検討を行う。 ３）学生の学びの充実及び本学の広報活動に繋がるよう、トップチームへのサポート活動に学生の積極的参加を促す。 ４）U15 のサポート継続を図り、栄養・保健講座等について新型コロナウイルス感染状況に即して実施する。 ５）U18 のサポートについて定期的な指導を継続し、学生が関わる活動についてさらに検討を行う。 ６）論文投稿・学術発表についてデータの収集・蓄積を行い、スポーツ栄養及び高齢者への総合的サポートなど実践に役立つ知識・技術の研鑽を図る。 ７）医療法人社団豊成会との連携協定によるプロジェクトの推進を図る。

2022 年度　委員会等活動報告書

委員会等	カリキュラム検討委員会
作 成 者	近藤　明代

項　　目	内　　容
【前年度】 次年度への 課題・改善方策 (Problem)	1）現行カリキュラムにおける課題、改善に係る事項について、必要時検討する。 2）両学科の新カリキュラムの進行に伴い、両学科のカリキュラム専門部会の意見を踏まえながら、検討する必要がある課題に対しては、対応を検討し、大学評価委員会の意見を受けながら、教務委員会に審議事項として提案していく。

項　　目	内　　容
今年度の活動計画 （目標・課題） (Plan)	1）現行カリキュラムにおける課題、改善に係る事項について、必要時検討する。 2）両学科の新カリキュラムの進行に伴う検討課題に対して、大学評価委員会の意見を受けながら、教務委員会に審議事項として提案していく。
活　動　内　容 (Do)	1）現行カリキュラムにおける課題、改善に係る事項の確認。 2021 年度は栄養学科では新カリキュラムがスタートし、看護学科は 2022 年度にスタートとなったばかりであるが、現行カリキュラム（栄養学科は 2020 年度入学生まで、看護学科は 2021 年度入学生までのカリキュラム）における新たな課題については特に挙げられてはいない。 2）両学科の新カリキュラムの進行に伴う検討課題に対して、大学評価委員会の意見を受け、教務委員会に審議事項として提案。 両学科のカリキュラム専門部会からカリキュラム評価の関する進捗状況やカリキュラムに関する学習会の実施等の活動状況についての報告を行った。 看護学科の旧カリキュラムから新カリキュラムへの移行に伴う科目読替を検討した。
活動内容の評価 （Check）	1）現行カリキュラム(栄養学科は 2020 年度入学生まで､看護学科は 2021 年度入学生までのカリキュラム）における新たな課題、改善に係る事項の確認。 現行カリキュラムに関する新たな課題、改善に係る事項についての意見は出されなかったので、現在の対応でカリキュラムが進行していると判断した。 2）両学科の新カリキュラムの進行に伴う検討課題に対して、大学評価委員会の意見を受けながら、教務委員会に審議事項として提案する。 栄養学科の新カリキュラムは現段階では順調に進行しているとの報告がされていたが、3 コース制を浸透させていく必要性が報告されていた。2022 年度スタートの看護学科の新カリキュラムの 1 年目は旧カリキュラムと大きな違いはないことからも、現段階では改善が必要とされる課題はないと捉えた。新カリキュラムで改正した内容は 2 年次以降に展開される専門科目に関する内容が多いので､2023 年度以降のカリキュラムの進捗状況、学修状況を確認していきたい。 両学科のカリキュラム専門部会からの報告として、栄養学科からは、学生に 3 コース制について理解を促すこと、今後看護学科のカリキュラム評価案を基に、栄養学科においても評価案を検討することが挙げられていた。看護学科からは卒業生、就職先の施設を対象に調査を行い、カリキュラム評価を実施すること、新カリキュラムにおける学年ごとの目

	標を設定したことが報告された。 　看護学科の旧カリキュラムから新カリキュラムへの移行に伴う科目読替について看護学科カリキュラム専門部会から、読替の考え方と対応する新カリキュラムの科目を示した「科目読替表」が提案され、当委員会で検討し、大学評価委員会からは履修内容、時間数ともに学生の不利益にならないように履修指導をすることについての意見をもらい、教務委員会に審議事項として提案した。 　次年度は新カリキュラムが始まり、栄養学科は 3 年目、看護学科は 2 年目となる。新カリキュラムの課題を検討し、次期改正に向けた課題を明確にする準備を計画的に進める必要がある。
次年度への課題・改善方策（Action）	1）新カリキュラムの進捗状況を確認しつつ、教育課程の編成・実施上の課題を明らかにし、次期カリキュラム改正に向けた準備を開始する。 2）新カリキュラムで設定した新科目の評価に向けて、評価の内容と方法を検討する。

2022 年度　委員会等活動報告書

委員会等	公的研究費等不正防止委員会
作 成 者	安念 保昌

項　　目	内　　容
【前年度】 次年度への 課題・改善方策 (Problem)	1）公的研究費等の不正防止を推進するため、年１回の内部監査を継続して実施する。監査指摘事項（関係書類の適切な管理及びチェック体制の見直し）について、改善を図るよう関係部署等に働きかける。 2）不正防止の観点から必要に応じて主たる納入業者から誓約書を取得する。 3）不正防止啓発のため研修会等の実施を継続する。

項　　目	内　　容
今年度の活動計画 （目標・課題） (Plan)	1）公的研究費等の不正防止を推進するため委員長が指名した教職員による内部監査を実施する。 2）不正防止の観点から主たる納入業者から誓約書を取得する。 3）研修会を開催する等、不正防止の周知徹底及び意識の向上を図る取り組みを行う。
活　動　内　容 (Do)	1）公的研究費等の運用について、2021年度科学研究費12件を対象とした内部監査を2022年10月17日に実施した。委員長の指名により監査人は法人監査室 塚越淳英室長代理が務めた。監査の結果、申請書類、証憑等に修正箇所が散見され、また一部、修正印や決裁者の押印がみられない等の不備はあったものの概ね整備されていた。 2）公的研究費等で購入する物品等の納入業者からの誓約書は、文部科学省に提出する「『研究機関における公的研究費の管理・監査のガイドライン（実施基準）』に基づく『体制整備等自己評価チェックリスト」』」により隔年1回の提出を定めている。今年度は、継続納入業者6件及び新規納入業者5件、計11件に対し提出を求めた。 3）不正防止の啓発を目的とし、以下の活動を行った。 （1）科研費セミナー（オンデマンド開催、配信期間9月1日～30日）において、不正防止に関する内容を含めた科研費の申請についての研修を総務課と共催で実施した。 （2）研究倫理に対する意識向上を図るため、JST（国立研究開発法人科学技術振興機構）が制作した動画『「倫理の空白　理工学研究室」准教授編』及び資料「研究倫理に関する学習・教育目標の整理」をメールで配信（11月初旬）、自主研修を促した。 （3）これまで大学ホームページの「情報公開」セクションで「運営及び管理体制」や関連規程を公開しているのみであったが、「研究活動上の不正行為等防止への取り組み」のセクションを設け、公的研究費の運営及び管理体制、相談・告発窓口、関連規程を公開した他、不正防止にかかわるコンテンツやそのリンクを掲載し不正防止の周知を図った。
活動内容の評価 (Check)	1）公的研究費等として科研費12件を対象とした内部監査を実施、申請書類、証憑等は概ね整備されていると評価されたことは評価できる。 　しかし、申請書類の記載内容に修正箇所が散見されたこと、購入後もしくは発注後の申請もあることから関係書類の管理チェック体制の改善が必要である。また、申請書の手続きが「札幌保健医療大学個人研究費等取扱要領」と乖離しているのではないかとの指摘がなされたことから、公的研究費（科研費）の申請手続きについて見直しが必要

	と思われる。 ２）提出を求めた全納入業者（11件）から誓約書を取得したことは評価できる。 ３）以下のとおり評価する。 （１)公的研究費等の不正防止に関する研修を開催したことは評価できる。（視聴人数53名） （２)オープンアクセス教材を利用し自主研修を促したことは評価できる。 （３)大学ホームページで公開している情報の見直しを行い、よりアクセスしやすいページ構成に変更したこと、掲載内容を充実させ不正防止の周知を図ったことは評価できる。
次年度への課題・改善方策 (Action)	１）公的研究費等の不正防止を推進するため、年1 回の内部監査を継続して実施する。監査指摘事項（関係書類の適切な管理及びチェック体制の見直し、申請手続きの実際が「札幌保健医療大学個人研究費等取扱要領」と乖離していること）について、関係部署と連携して見直しを行い、改善を図るよう努める。 ２）不正防止の観点から必要に応じて主たる納入業者から誓約書を取得する。 ３）不正防止啓発のための研修会等の実施を継続する。JST制作動画等オープンアクセス教材の活用、大学ホームページの当該セクションの適宜更新を図る。

編集後記

2022 年度自己点検・評価報告書が完成しました。本報告書は、大学全体の運営に関わる 2 委員会（危機管理委員会、大学評価委員会）と大学の日常業務を司る常置 14 委員会、その他 16 部署の合計 32 委員会等の 2022 年度の活動を点検・評価し、報告書としてまとめたものです。

本年度の大学評価委員会において、次期機関別認証評価について、受審機関を大学基準協会とし、受審時期を 2025 年度とすることを決定しています。とくに 2019 年度以来、この外部認証評価受審に備え、経年変化の把握が容易となるように、各委員会等に対して、可能な限り基礎データを提出すること、また報告書に具体的な記載をすることをお願いした点は従来を踏襲しております。一方、2026 年度に看護学分野別評価を受審することも大学評価委員会において決定され、また、2021 年 5 月の教育職員免許法施行規則の改正に伴い、2022 年 4 月より教職課程の自己点検・評価の実施が義務化されました。本学教職課程委員会においても施行規則に則り、「教職課程　自己点検評価報告書」を作成しました。次年度以降の自己点検・評価委員会においては、この 2 種の動きとの連携のあり方をご検討いただくようにお願いします。

本報告書の作成にご協力いただきました多くの皆様に心からお礼申し上げ、編集後記とさせていただきます。

2022 年度自己点検・評価委員会
委員長　　荒　川　義　人

2022 年度　自己点検・評価委員会
委員長　　教　　授　荒川　義人
委　員　　教　　授　加藤　隆
　　教　　授　金髙　有里
　　教　　授　佐藤　郁恵
　　講　　師　本吉　明美
　　事務局長　久保　則雄
　　副事務局長　小野寺　貴洋
　　総務課長　小笠原　稿幸
　　（2022.4 月～6 月）
　　総務課長　戸尾　俊一
　　（2022.7 月～）
　　総務課主任　大友　理佐子